

Network Monitor

ユーザーガイド

バージョン R91

日本語

Agreement

The purchase and use of all Software and Services is subject to the Agreement as defined in Kaseya's "Click-Accept" EULATOS as updated from time to time by Kaseya at

http://www.kaseya.com/legal.aspx. If Customer does not agree with the Agreement, please do not install, use or purchase any Software and Services from Kaseya as continued use of the Software or Services indicates Customer's acceptance of the Agreement."

目次

Network Monitor 概要	
インストール	3
インストール前のチェックリスト	4
Network Monitor モジュールの要件	
サーバーのサイズ決定	
Network Monitor R91 の新しいインスタンスのインストール	
KNM スタンドアロンの KNM 統合への移行	6
構成のサマリー	9
管理インターフェース	11
	13
モニタリングビュー	
モニターツリー	
継承	
 階層リンク行	
リストビュー	16
ノードとユーザーの検索	
リストビューのコントロール	17
リストビューのフィルター処理	17
データビュー	
プロパティおよびコマンド	20
編集メニュー	20
ノードの移動	21
VSA の統合	
ナビゲーションパネルの概要	
Discovery との統合	
ゲートウェイノードとネットワーク検出	
ゲートウェイのインストール/アンインストール	
組織およびマシングループ	
ゲートウェイおよび資産の名前変更	
チケットのアクション	
ユーザー統合	29
Network Monitor VSA でのライセンス	
ゲートウェイ	31
ゲートウェイのコマンドとビュー	
[資産]タブ	
[モニター]タブ	
[マップ]タブ	34
[トップリスト]タブ	3636
[スケジュール]タブ	رد ده

[監査]タブ	39
· ゲートウェイの編集	39
[基本プロパティ]編集タブ - ゲートウェイ	40
[詳細]編集タブ - ゲートウェイ	40
[NOC]編集タブ	
サブグループ	
グループのコマンドとビュー	
・・・・・・・	
[基本プロパティ]編集タブ - サブグループ	
[詳細]編集タブ - グループ	
[タグ]編集タブ	
資産	
資産のコマンドとビュー	
[モニター]タブ	
[大態変化ログ]タブ	
「(水)忍を10 フリテン 資産の編集	
[基本ノロハティ]編業メフ - 資産[基本ノロハティ]編業メフ - 資産[詳細]編集タブ - 資産	
[評神]禰耒ダノ・貝産 依存関係のテスト	
後代国际のテスト	
モニター	
モニターのコマンドとビュー	
[サマリー]タブ	
[アクション]タブ	
[アラームのシミュレート]タブ	
モニターの追加	
事前構成モニターの追加	
モニターの編集	
基本編集タブ・モニター	
[詳細]編集タブ・モニター	
[アラームのフィルター処理]編集タブ - モニター	
[統計]編集タブ・モニター	
アラームメッセージ	
フォーマット変数	69
アラームの確認	71
レポート	72
レポートテンプレートの表示	
クイックレポートの表示	
カスタマイズされたレポートの表示	
レポートのEメール送信および公開	
スケジュールレポート	77
ナビゲーションパネルのリファレンス	79
ナビゲーションパネルの概要	
カスタマイズされたレポート	
レポートテンプレート	
レポートのプロパティ	
レハードツノHハノ1	04

レポートスタイル	
レポート情報	
レポートのデータタイプ	
グラフ	
データテーブル	88
ダウンタイムレポート	89
コメント	90
画像	91
トップリスト	
ナレッジベース項目	92
ナレッジベースのカテゴリー	94
ダッシュボード	95
資産メンテナンス	
	96
モニターメンテナンス	97
モニターメンテナンスの編集	98
ユーザー通知のスケジュール	
ユーザー作業スケジュールの編集	
スケジュールブロック	
Windows サービスリスト	
MIB Browser	
MIB オブジェクト	
カスタム MIB ファイルのコンパイル	
レコードマネージャログ	
Syslog のメッセージ	
システム管理者コンソール	
システムログ	
トラップメッセージ	
· ググ・グロップ マー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
[基本プロパティ]タブ	
[インターフェースオプション]タブ	
ューザー通知グループ	
ユーザーグループの新規作成	
カスタマイズされたデータタイプ	
グスノン・イスとものに データグイン 資産テンプレート	
<u> </u>	
ロノ設定NOC の設定	113
NOO の設定その他のシステム設定	
その他のラステム設定SMS 設定	
デフォルトのメッセージ	
) J 3 10 F 00 F 9 E - J	117
モニターのリファレンス	119
Active Directory モニター	
帯域使用率モニター	
CIM モニター	
Citrix サーバーモニター	125
CPU 使用率モニター	125
データベースサーバーモニター	126

データストア使用率	
DHCP クエリーモニター	
ディレクトリプロパティモニター	127
ディスク使用率モニター	129
DNS ルックアップモニター	130
環境モニター	130
イベントログモニター	131
Exchange サーバーモニター	131
ファイル変更モニター	132
FTP サーバーモニター	133
IMAP4 サーバーモニター	
JVM パフォーマンスモニター	
LDAP クエリーモニター	
ログファイルモニター	
Lua スクリプトモニター	
メールサーバーQOS モニター	137
メモリ使用率モニター	
MySQL モニター	
NNTP サーバーモニター	
Oracle モニター	140
Ping モニター	
POP3 サーバーモニター	
プロセスステータスモニター	_
Radius モニター	
Salesforce クエリーモニター	
SMTP サーバーモニター	
SNMP モニター	
SNMP トラップモニター	
SQL Server モニター	_
SSH2 スクリプトモニター	
SSH2 サーバーモニター	150
スワップファイル使用率モニター	
Syslog モニター	
TCP ポートスキャンモニター	152
Telnet サーバーモニター	
ターミナルサーバーモニター	
TFTP サーバーモニター	
転送速度モニター	153
VMware パフォーマンスモニター	
ウェブサーバーモニター	
Windows パフォーマンスモニター	
Windows サービスステータスモニター	
WMI クエリーモニター	157
アクションのリファレンス	159
イベントログのクリアアクション	
SSH2 アクションによるコマンドの実行	
Windows コマンドの実行アクション	

HTTP Get/Post アクション	161
リストのリセットアクション	
Lua スクリプトアクション	
メールの送信アクション	
PageGate 経由のメッセージ送信アクション	
SMS の送信アクション	
Wake-On-LAN パケット送信アクション	
SNMP セットアクション	
チケットのアクション	
Windows サービスコントロールアクション	
Wildows 9 CAID FI 707 70 J J	107
	400
スケジュール済みイベントのリファレンス	168
イベントログのクリアイベント	
SSH2/Telnet 経由のコマンド実行イベント	169
Windows コマンドの実行イベント	169
統計のエクスポートイベント	170
レポートの生成イベント	
HTTP GET/POST リクエストイベント	
Lua スクリプトイベント	
E メール送信イベント	
PageGate 経由のメッセージ送信イベント	
SMS 送信イベント	
Wake-On-LAN パケット送信イベント	
SNMP セットイベント	
モニタートリガーイベント	
Windows サービスコントロールイベント	
Wildows リーこスコンドロールリハンド	177
高度なトピック	179
<u> </u>	
Init.cfg のパラメータ	
バックアップおよびリストア	
Network Monitor のバックアップ	
構成の復元	
データ抽出のリファレンス	
dir	
monitor_graph	
monitor_status_listmonitor_statusstring	
monitor_statusstringmonitor_uptimestring	
device xml	
devicelist_xml	
user_status	
test_status	
version	189
UNIX システムのサポートファイル	
ODBC ドライバーの有効化	

Windows のトラブルシューティングとパフォーマンスモニタリング	195
Windows のモニタリングおよび認証のトラブルシューティング	196
Network Monitor サービスアカウントおよび権限の割り当て	196
Windows 認証を使用するモニター	197
イベントログモニター	197
サービスモニター	197
外部リソース	197
トラブルシューティング	198
アクセス拒否	
ネットワークパスが見つからない	
モニタリング対象資産のパフォーマンスに関する問題	199
RPC サーバーが利用不能	199
Windows パフォーマンスレジストリ	
KNM にリモートレジストリサービスへのアクセス権があることを確認する方法	200
モニタリング対象マシンのリモートレジストリサービスでのメモリリーク	201
カウンターのキャッシュ保存	201
Windows Management Instrumentation (WMI)	202
WMI がアカウントで有効であることの検証	
ファイアウォール設定の調整	
管理者以外のユーザーの追加	
WMI が機能していることの確認	
Microsoft WMI のトラブルシューティング記事のリスト	207
ユーティリティの参考情報	211
ユーティリティの概要	212
カスタム MIB ファイルのコンパイル	212
Lua	
Gizmo	
ダッシュボードマップエディタ	
マップエディタの起動	
マップイメージのインポート	
マップの構成	
マップノードの編集	
マップノードの追加	
オーガナイザツールの使用方法	
マップの公開	
帯域使用状況のビジュアル化	
帯域接続の作成	223
インデックス	225

Network Monitor 概要

Network Monitor は、広範なネットワーク資産のパフォーマンスと可用性を監視するためのウェブベースモニタリングソリューションです。**Network Monitor** のモニタリングは*エージェント不要*です。つまり、モニタリング対象マシンにソフトウェアやファイルをインストールしません。

Network Monitor は、40 種類を超えるモニタリング方法を装備しています。これらの方法は、Lua スクリプトを使用して拡張できます。高度な Network Monitor の機能には、アラームの複数レベルのエスカレーションや、サービスプロバイダーが最も関連度の高いアラームのみを受信するように アラームの依存関係を構成する機能が含まれます。次に示すように、一般的なオペレーティングシステムがすべてサポートされています。

- AIX (4.2 以降)
- CentOS
- Debian
- Fedora
- FreeBSD
- HP-UX
- 汎用 Linux
- OpenBSD
- OpenSUSE 10.2
- Red Hat Enterprise Server
- Solaris
- Ubuntu
- Windows

用語と概念

- **資産** 資産とは、*IP 番号またはホスト名によって解決可能な*コンピュータやその他の種類のネットワークデバイスを指します。資産には、その資産に関連付けられたすべてのモニターに共通の設定が含まれます。
- **モニタ**ー・モニターは、資産で特定の機能をテストします。多くのモニターには、レポート用にさまざまな統計データを収集する機能があります。モニターテストが指定した回数連続して失敗すると、モニターはアラーム状態になり、一連のアクションが実行されます。
- **サブグループ** サブグループとは、Network Monitor のモニターツリー内にある他のノードの "コンテナノード"です。通常、サブグループは論理的なビジネスユニットを表します。
- **アクション** モニターでテストが連続して失敗すると、1つ以上のアクションを実行できます。モニターが*アラーム*状態から回復すると、一連のリカバリアクションを実行できます。
- **資産テンプレート** 資産テンプレートは、モニターセットを資産に割り当てるために使用します。資産が資産テンプレートにリンクされると、資産テンプレートに加えた変更は関連付けられているすべての資産に反映されます。
- ユーザーグループ Network Monitor ユーザーグループとは、通知先として設定可能な、または通知先として利用可能になるようにスケジュール可能な VSA ユーザーの集合です。1 つのユーザーグループに Network Monitor の各資産が割り当てられます。モニターがアラーム状態になると、通常は通知が資産のユーザーグループに送信されます。

■ 資格情報 - 資格情報とは、リソースへのアクセスを認証するユーザー名とパスワードです。 Network Monitor は、残りの VSA とは別に資格情報を保存します。Network Monitor の資格情報は、モニター、アクション、およびイベントが動作を実行するときに適切なリソースへのアクセス権を得るために使用されます。

ステータスアイコン

モニターは常に特定の状態になっています。Network Monitor インターフェースでは、この状態がさまざまな色で表されます。資産またはネットワークは、それに属する*いずれか 1 つのモニターがレポートした最も重要な状態*を表示します。重要度の高い順にアイコンを示します。

- - モニターが非アクティブです。
- - 資産とネットワークのみに使用されます。資産またはネットワーク内のすべてのモニターが非アクティブですが、資産またはネットワーク自体はアクティブです。
- - モニターがアラーム状態になりました。
- 📒 モニターがテストで1回以上失敗しましたが、アラーム状態にはなっていません。
- モニターが良好な状態です。

追加のガイドライン:

- 非アクティブ以外の状態はすべて、アクティブな状態です。
- アクティブなモニターはその資産をテストします。
- ■ある資産の一部またはすべてのモニターを非アクティブにしても、資産は非アクティブには なりません。
- あるネットワークの一部またはすべての資産を非アクティブにしても、その親ネットワークは 非アクティブにはなりません。
- 資産を非アクティブにすると、その資産に属するモニターが *すべて*非アクティブになります。
- ネットワークを非アクティブにすると、そのネットワークに属するモニターが*すべて*非アクティブになります。

よく使用されるその他のアイコン

項目のプロパティを表示し、編集可能です。

② - 資産またはモニターがテンプレートから継承されていることを示します。テンプレートから 継承されたモニターを直接編集することはできません。

✔ - 資産またはモニターがメンテナンス状態で、現在監視されていないことを示します。

气 - 項目のリストを表示します。

項目のビューを表示します。

注:「システム要件」 『http://help.kaseya.com/WebHelp/EN/VSA/9010000/reqs/index.asp#home.htm を見て 』を参照してください。

チャプター 1

インストール

この章で

インストール前のチェックリスト	4
Network Monitor モジュールの要件	
サーバーのサイズ決定	
Network Monitor R91 の新しいインスタンスのインストール	
KNM スタンドアロンの KNM 統合への移行	_
構成のサマリー	

インストール前のチェックリスト

Network Monitor をインストールする前に、次に示すインストール前のチェックリストを完了することが推奨されます。

- 1. サーバーのサイズ決定 『4ページ』に記載された推奨事項を参照し、Network Monitor がネットワーク上の資産数を監視するために必要なメモリを見積もります。Network Monitor サーバーのホストシステムに、Network Monitor を実行するための十分な空きメモリを確保します。
- 2. Network Monitor サーバーのホストシステムが、すべてのソフトウェアおよびハードウェアの要件 『4ページ』 を満たしていることを確認します。
- 3. GSM 電話を使用する場合は、GSM 電話をインストールし、ターミナルプログラムの標準 ATコマンドに正しく応答することを確認します。

このチェックリストを完了したら、Network Monitor をインストールできます。

Network Monitor モジュールの要件

Network Monitor R91 サーバーのホストシステム

- 最新のサービスパックを備えた Windows Server 2003、2008、2008 R2、2012、2012 R2
- Network Monitor should use TCP/IP port 1433 to connect to your SQL Server instance
- Microsoft .Net Framework 4.5 以降

ダッシュボードマップエディタのユーティリティ

■ Microsoft .Net Framework 4.0 以降

サーバーのサイズ決定

Network Monitor の推奨最小要件は監視対象の資産数に応じて異なり、1 つの資産につき 10 個のモニターを使用すると仮定しています。

注: Network Monitor の**資産**は一意の IP アドレスをもちます。モニターとは、その資産の単一のテストまたは測定基準です。たとえば、1 つの IP アドレスで表される Windows マシンは、多数のモニターをもつ場合があり、各モニターはそのマシンについてそれぞれ異なるパフォーマンス測定基準に関するデータを返します。

資産数 100 までの最小要件

- 1 GHz の CPU
- 2 GB のメモリ
- 5 GB の空きディスクスペース (1)

資産数 250 までの最小要件

- 2 GHz の CPU
- 2 GB のメモリ
- 10 GB の空きディスクスペース (1)

資産数 500 までの最小要件 (3)

- 2 GHz 超のデュアルコア CPU
- 4GBのメモリ
- 15 GB の空きディスクスペース ^{(1) (2)}

資産数 1000 までの最小要件(3)

- Intel 2 GHz クアッドコア CPU
- 4GBのメモリ
- 25 GB の空きディスクスペース ^{(1) (2)}

資産数 1500 までの最小要件 (3)

- Intel 2 GHz クアッドコア CPU
- 4 GB のメモリ
- 40 GB の空きディスクスペース ^{(1) (2)}

注記

- 1 ディスク使用量は、通常のインストール環境で記載の資産数とモニター数に基づく年間使用量です。
- ² レポート生成で最高のパフォーマンスを実現するには、4 GB 以上の RAM を搭載した 1+0 RAID アレイに Network Monitor をインストールすることが推奨されます。
- ³ 専用マシンで Network Monitor を実行することが推奨されます。

Network Monitor R91 の新しいインスタンスのインストール

Network Monitor R91 は、VSA との統合アドオンモジュールとしてのみ実行されます。

Network Monitor R91 アドオンモジュールをオンプレミス環境の既存の VSA R91 に追加するには、次の手順に従います。

- 1. Network Monitor R91 をアドオンモジュールとしてインストールできるように、使用している VSA ライセンスの更新を依頼するサポートリクエストを送信 『https://helpdesk.kaseya.com/home を見て 』 します。
- 2. Kaseya Server をホストしているシステムで **Kaseya Server Setup** 『 http://help.kaseya.com/webhelp/JA/VSA/9010000/install/index.asp#home.htm を見て 』を実行します。[スタート] > [すべてのプログラム] > [Kaseya] > [Kinstall]をクリックします。
- 3. Kaseya Server Setup インストールウィザードの手順 6. 自分の Kaseya ライセンスコードの入力 『http://help.kaseya.com/webhelp/JA/VSA/9010000/install/index.asp#10338.htm を見て 』で、新しいライセンスコードをそのまま使用するか、再入力して[次へ]をクリックします。
- 4. VSA のインストールまたはアップグレードを完了します。
- 5. VSA のインスタンスにログオンし、Network Monitor モジュールに移動します。

KNM スタンドアロンの KNM 統合へ の移行

移行プロセスの理解

Network Monitor スタンドアロンから VSA 統合 **Network Monitor** にデータを移行することは、2 つのデータセット間のマッピングプロセスです。

マッピングプロセスの目標は、スタンドアロン構成の各資産を検索し、VSA構成の対応資産にマッピングすることです。これにより、各資産およびそのしきい値、レポート、アクション、スケジュールおよび履歴データについて定義されたモニタリング構成が保存されます。

このマッピングプロセスを正常に実行するには、元のスタンドアロン構成で各ゲートウェイに1つのネットワーク、さらに各資産に1つのデバイス(デバイスと資産MACアドレスは同じ)が必要です。

KNM 構成の準備

- KNM v5 (Build 9977) のバージョンが最新であることを確認してください。
- ライセンスが、現在スタンドアロンに存在するデバイス台数に対応していることを確認してください。
- すべての不要なゲートウェイとデバイスを削除します。
- リモートネットワーク上の Windows マシンからすべてのゲートウェイをアンインストールします。
 - ゲートウェイをホストしている各 Windows マシンで、Windows の[プログラムの追加/削除]を使って、ゲートウェイをアンインストールします。それがない場合は、コマンドボックスで nmservice.exe -u を使ってゲートウェイをアンインストールします。次に、KNMインストールディレクトリを削除して、残りのファイルを削除します。
 - ▶ ローカルゲートウェイの場合、ローカルゲートウェイディレクトリに移動してから、nmservicelg.exe -u と入力します。
 - 移行後は、エージェントを使ってゲートウェイをインストールおよびアンインストールします。
- すべてのログファイルを C:\kaseya\knm\logs ディレクトリにアーカイブしてから、そのログファイルを削除します。
- すべてのオペレータ(KNM ユーザー)を、VSA へのアクセス権がないスタンドアロンから削除します。

廃止された機能および変更された機能

- 自動ログインが廃止されました。
- Network Monitor は、init.cfg ファイルの WEBSERVER_CERT パラメータによって指定される SSL 証明書の使用を停止しました。Network Monitor は、引き続き SSL 証明書の使用をサポートしますが、VSA インストールの一部として構成されます。詳細については、SSL 証明書を使用する 『http://help.kaseya.com/webhelp/JA/VSA/9010000/install/index.asp#18015.htm を見て 』を参照してください。
- すべての構成データは、VSA を使って SQL Server に移行されます。

VSA R91 インストール前

- 1. 必要な変更を加え、構成をクリーンアップします。
- 2. KNM フォルダ構造全体を安全な場所にコピーします。

- 3. コントロールパネルを使って、Kaseya Network Monitor に対してアンインストーラを実行します。
- 4. ステップ 2 で作成した KNM フォルダを%KASEYA_HOME%\knm にコピーします。KASEYA_HOME は、KInstall が VSA をインストールする対象フォルダです。
- 5. Windows Services コンソールを表示します。KInstall を実行する前に、[アクション] > [更新]を クリックして、すべての KNM サービスが本当になくなったことを確認します。

VSA R91 インストール後

- nmservice.exe プロセスが実行中である必要があります。ksubscribers データベースには、 KNM という新しいネームスペースがあります。
- 出力されたログファイル kaseya\knm\logs\fbmigrator_log.txt で SQL Server 変換をチェックします。
- VSA 内で統合ネットワークモニターモジュールを初めて起動する際、モジュールは*同期モード*で実行されます。**同期モード**では、既存の VSA 資産が移行済みの KNM デバイスデータにマッピングされます。インターフェイスにはマッピングされた資産と、組織、ネットワークおよびマシングループなど、関連するエンティティのみが表示されます。**同期ステータス**の進捗状況は、ブラウザの右側にあるプロパティペインで見ることができます。



KNMは、100%同期を達成したら自動的に再起動しますが、100%同期が達成できない場合、ユーザーは下記の vsa-set-sync-complete コンソールコマンドを実行することにより、同期モードを手動で終了してサービスを再起動できます。

FAQ

マイユーザーはどうなりますか?

■ 同じ名前の場合は、VSA のユーザーと同期されます。変換を実行する前に、VSA または KNM で必要な調整を行ってください。

100%同期を達成できないのですが、どの資産が同期されていないかは分かりますか?

■ はい。同期モードでは、[グループセットなし]と呼ばれる、同期されていない資産を表示する 組織/グループ選択機能に、追加オプションがあります。



マッピングされていない資産があった場合、どうしたらよいですか?

■ Discovery がネットワークで資産を発見したことを確認する必要があります。資産が未発見の ネットワークに所属する場合、エージェントプローブをインストールして、ネットワークをス キャンしてください。

100%同期を達成する必要はありますか?

■ いいえ、どれを移行してどれを残すかは選択できます。構成に満足している場合、システム管理コマンドラインを使っていつでも同期を終了することができます。

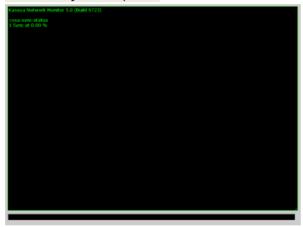
同期状況はインターフェイスのどこかに表示されますか?

■ はい。KNM ノードのプロパティペインに表示されます。



この操作で使用できるコンソールコマンドは何ですか?

- vsa-sync-status テナント当たりのパーセントでステータスを表示します。
- vsa-set-sync-complete 同期成功後に KNM を再起動します。



構成のサマリー

Network Monitor R91 を初めて使用する場合、製品を評価するには、次の順序で構成することが推奨されます。各手順には、その手順の実行方法に関する詳細な説明へのリンクがあります。

- 1. 「インストール前のチェックリスト」 『4ページ』、「サーバーのサイズ決定」 『4ページ』 および「Network Monitor モジュールの要件」 『4ページ』 の各トピックを参照してください。
- 2. **Network Monitor R91 の新しいインスタンスのインストール** 『5 ページ 』に記載された手順を実行します。
- 3. VSA にログオンします 『http://help.kaseya.com/webhelp/JA/VSA/9010000/index.asp#264.htm を見て 』。
- 4. このマニュアルの「 **お使いになる前に**」 『13ページ 』 セクションを読んで、モジュールの ユーザーインターフェースを理解します。
- 5. ネットワーク検出 『24ページ』を実行します。
- 6. 検出したネットワークに、ゲートウェイをインストール 『26ページ』 します。
- 7. 選択した資産に**事前構成モニターを追加** 『63 ページ 』 します。
- 8. モニター閾値の設定を変更して、モニターのテストを強制的に失敗させます。これにより、**ア ラーム状態の遷移** 『56ページ』を確認できます。
- 9. モニターでテストが連続して失敗したときに実行される**アクション** 『59ページ』 を定義します。
- 10.**アラームのシミュレート** 『62ページ』 レポートを作成してモニターをテストし、アラームが 意図どおりに構成されていることを確認します。

チャプター 2

管理インターフェース

この章で

開始する	13
VSA の統合	22
ゲートウェイ	31
サブグループ	44
資産	49
モニター レポート	56
レポート	72

開始する

このセクションで

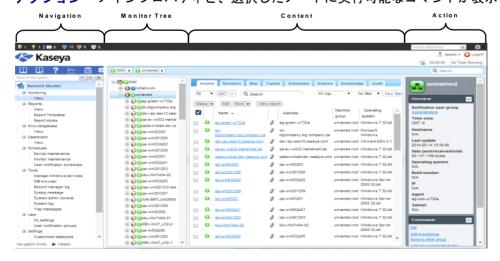
モニタリングビュー	13
モニターツリー	14
継承	
 階層リンク行	
リストビュー	16
· ノードとユーザーの検索	
リストビューのコントロール	
リストビューのフィルター処理	17
データビュー	19
プロパティおよびコマンド	20
編集メニュー	20
ノードの移動	21

モニタリングビュー

Network Monitor > [モニタリング] > [ビュー]

Network Monitor > [モニタリング] > [**ビュー**]で表示されるビューは、**Network Monitor** でよく使用するビューです。選択すると、画面全体が 4 つのパネルに分かれて表示されます。

- **ナビゲーション** ナビゲーションパネルで VSA > Network Monitor > [モニタリング] > [**表示**]項目を選択すると、他の 3 つのパネルを表示します。ナビゲーションパネル内の他の項目からは、**モジュールレベルの設定と他のビュー** 『22 ページ 』にアクセスできます。
- **モニターツリー** 操作するグループ、ゲートウェイ、資産、またはモニターを選択します。
- **コンテンツ** リストビュー、データビュー、またはタブ付きプロパティシートとして、ユーザーコンテンツと設定 *(資産、モニター、またはマップ)* が表示されます。
- アクション・メインプロパティと、選択したノードに実行可能なコマンドが表示されます。



モニターツリー

モニターツリーには、Network Monitor で管理するすべてのグループ、ゲートウェイ、資産、およびモニターが整理して表示されます。ツリーを使用すると、資産やモニターを即座に参照できます

- ゲートウェイ ゲートウェイは、同じサブネットを共有する資産をモニターします。Network Monitor の標準インストールの場合、ローカルゲートウェイが 1 つのみで、これは Network Monitor サーバーのインストール先のネットワークです。
- **サブグループ** モニターツリーで他のノードをグループ化するために使用されます。サブグループは、ネットワーク上の物理資産に対応しません。会社や部門などの論理ビジネスユニット、またはネットワーク内の資産セットを表します。
 - ▶ 特定のノードが複数の親の子になることはできません。これは、サブグループノードも同様です。
 - ▶ サブグループは、さらに下位のサブグループをもつことができます。
 - サブグループは、ゲートウェイの下にのみ追加できます。
- **資産** IP アドレスをもつものすべて。これには、コンピュータ、ルーター、スイッチ、モバイルデバイス、プリンター、ファイアウォールなどが含まれます。
- **モニター** モニターは資産で特定のテストを実行し、結果をサーバーに返します。資産は、複数のモニターをもつことができます。



継承

特定のノードプロパティは、下位レベルのノードに**継承**できます。この設計上の強化点は、他のほぼすべての構成に影響を与えます。継承を使用すると、モニターツリーの上位ノードに変更を加えるだけで、構成の変更を数千、数百もの資産やモニターに簡単に伝達できます。



いずれのノードについても、継承された設定を使用するか、それをオーバーライドするかを選択できます。たとえば、次のイメージは上位ノードから継承された設定を示します。多種多様なプロパティタイプについて、Network Monitor のユーザーインターフェース全体で同じ規則が使用されています。継承された設定をオーバーライドすると、変更内容を継承するすべての下位ノードが影響を受けます。継承は、サポートするプロパティのすべてで、デフォルトで有効になっています。



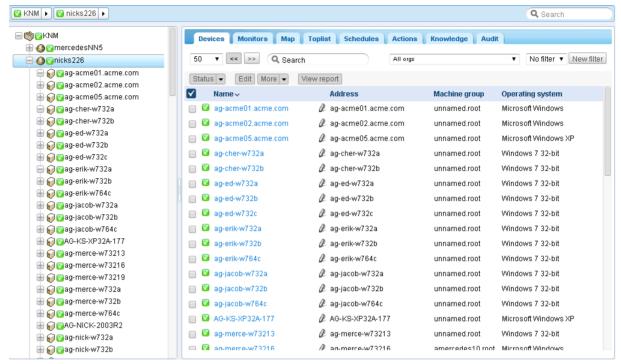
階層リンク行

モニターツリーの上部にある階層リンク行には、ツリー内で現在選択しているノードが表示されます。階層リンク行の任意のノードをクリックすると、モニターツリー内のそのノードに移動します。現在選択しているノードのいずれかの子ノードを選択することもできます。



リストビュー

タブ付きの中央パネルには、モニターツリー内で選択したノードのコンテンツが表示されます。選択したノードがグループ、ゲートウェイ、または資産の場合、次のようなリストが表示されます。



そのグループまたはゲートウェイに属する資産とモニターをすべて表示できます。例:

- [**資産**]タブには、階層内で選択したノードに属する*資産*がすべて表示されます。
- [モニター]タブには、階層内で選択したノードに属する*モニター*がすべて表示されます。

ノードとユーザーの検索

右上隅に、[検索]編集ボックスが表示されます。文字列を入力すると、入力した文字列に一致するすべてのグループ、ゲートウェイ、および資産の各ノードがモニターツリーから検索されます。Enterキーは押さないでください。編集ボックスの下にノードリストが表示されるまで待ってから、表示するノードを1つ選択します。

- ノードの[説明]フィールドに入力したテキストが、検索対象に含まれます。
- ユーザーとユーザーグループの名前と説明が、検索対象に含まれます。

■ 通常、リストビューには同様の[検索]編集ボックスが表示され、フィルター処理によりリストビューの表示項目を制限できます。



リストビューのコントロール

各リストビューのリストの上部には、リスト内の複数のノードに適用できるボタンのセットがあります。また、前後のページに移動したり、**リストビューをフィルター処理** 『17ページ』 したりすることができます。列ヘッダーをクリックすると、その列を基準にしてリストがソートされます。



リストビューのフィルター処理

検索によるリストビューのフィルター処理

[検索]フィールドを使用すると、リストビューをフィルター処理できます。検索対象のデータは、選択したリストビューによって異なります。

[資産]タブ	名前、説明、アドレス、およびマシングループ名
[モニター]タブ	名前、資産名、マシングループ名
[スケジュール]タブ	イベント/スケジュールの説明
[ナレッジ]タブ	項目ID、項目タイトル
[監査]タブ	メッセージテキスト
[モニター]タブ	モニター名、タイプ <i>(例: CPU 使用率)</i>
[ナレッジ]タブ	項目ID、項目タイトル
[監査]タブ	メッセージテキスト
[状態変化]タブ	メッセージテキスト

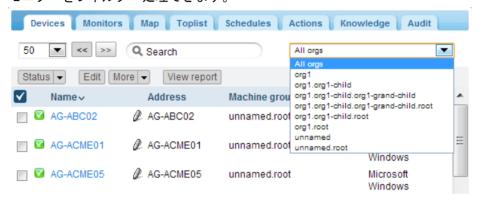
管理インターフェース

ナレッジベースのカテゴ リーを選択した場合	項目	項目 ID、項目タイトル
	監査	メッセージテキスト

リストビューのマシングループおよび組織別のフィルター処理

Network Monitor モジュールで[**資産**]タブまたは[**モニター**]タブが表示されるノードでは、組織およびマシングループ別にフィルター処理できます。

- 追加のドロップダウンリストには、デフォルト値の「すべての組織」が表示されます。
- [すべての組織]ドロップダウンリストから任意の項目を選択すると、その値を使用して資産や モニターをフィルター処理できます。



- 表示できるのは、現在のネットワーク内で検出された資産が属する組織とマシングループのみです。
- モニターツリー内で別のゲートウェイをクリックすると、通常、別の組織とマシングループのセットが表示されます。
- 表示される組織とマシングループのリストは、選択した VSA のスコープ 『 http://help.kaseya.com/webhelp/JA/VSA/9010000/index.asp#4578.htm を見て 』によって制限されます。
- フィルター処理によって、**モニターツリー** 『26ページ』 内の資産表示が影響を受けることはありません。

複数の条件によるリストビューのフィルター処理

[**資産**]タブと[**モニター**]タブのリストビューは、*複数の条件*を使用してフィルター処理できます。フィルターには、次のタイプがあります。

- 資産プロパティ
- 資産ステータス
- 資産テンプレート 資産またはモニターは、資産テンプレートと関連付けられることも、関連付けられていないこともあります。
- システムのタイプ::
- タグ
- 論理式

条件フィルターについて、次のアクションを実行できます。

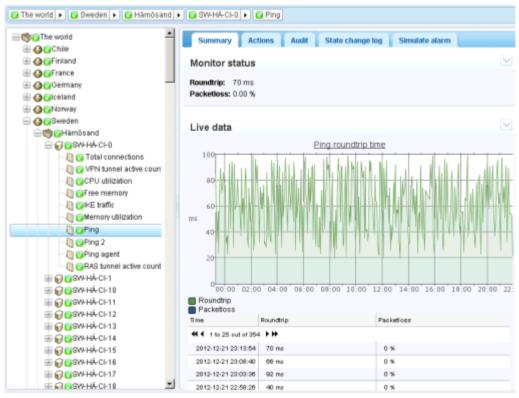
- 新規フィルター 新しい条件フィルターを追加します。
- フィルターのクリア リストビューから条件フィルターをクリアします。
- フィルターの編集 保存済みの条件フィルターを編集用に表示します。
- フィルターの保存 条件フィルターの変更内容を保存します。
- **編集のキャンセル** 条件フィルターの編集上の変更をキャンセルします。

■ フィルターの削除 - 条件フィルターを削除します。



データビュー

モニターツリーから選択したノードがモニターの場合、[**サマリー**]タブにはモニターが返したデータが表示されます。



プロパティおよびコマンド

グループ、ゲートウェイ、資産、またはモニターを選択すると、特定のプロパティとコマンドが右 側のパネルに表示されます。

サブグループを選択した ときによく使用されるコ マンドには、次のものが あります。

- 編集
- サブグループの追



サブグループコマンド ゲートウェイコマンド 資産コマンド

ゲートウェイを選択した ときによく使用されるコ マンドには、次のものが あります。

- 編集
- サブグループの追



資産を選択したときによ く使用されるコマンドに は、次のものがあります

- 編集
- 新しいモニターの 追加



モニターコマンド

モニターを選択したとき によく使用されるコマン ドには、次のものがあり ます。

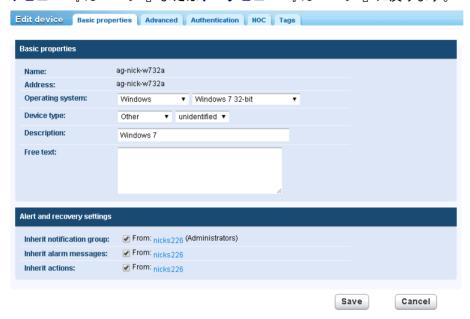
- 編集
- すぐにテスト



編集メニュー

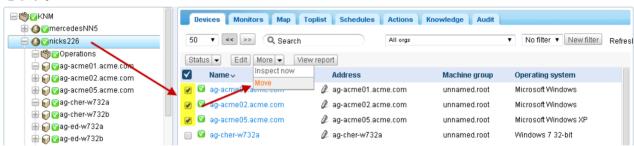
選択したノードの[編集]コマンドをクリックすると、通常はタブ付きのプロパティシートセットが表 示されます。多くのフィールドの上にカーソルを置くと、フィールドの説明をもつツールチップバ ルーンが右側に表示されます。

[**保存**]または[キャンセル]のボタンをクリックすると、編集メニューが閉じ、選択したノードのリストビュー 『16 ページ 』またはデータビュー 『19 ページ 』に戻ります。



ノードの移動

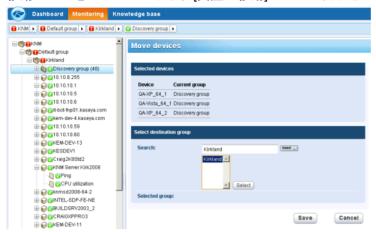
モニターツリーのあるブランチを別のブランチに移動することで、モニターツリーを再構成する方法を説明します。資産の移動は、*同一ゲートウェイノード内の*サブグループ間でのみ行うことができます。



- 1. ゲートウェイまたはグループノードを選択します。
- 2. 移動する資産をリストビューから選択します。

管理インターフェース

3. 移動ボタンをクリックします。[資産の移動]ページが表示されます。



- 4. [検索]編集ボックスに、移動先のノードに一致するテキストを入力します。可能性のあるノードのドロップダウンリストが表示されます。
- 5. ドロップダウンリストから移動先のノードをクリックします。
- 6. [選択]ボタンをクリックします。移動先のノードが[選択したグループ]フィールドに表示されます。
- 7. [保存]をクリックします。ノードがモニターツリーの新しい場所に移動します。

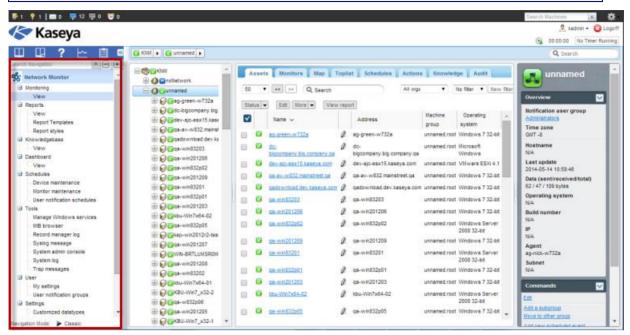
注: また、[選択]ボタンをクリックして、移動先のノードを参照することもできます。

VSA の統合

ナビゲーションパネルの概要

Network Monitor のナビゲーションパネルにはコンテンツのさまざまなビューがあり、モジュールレベルで設定を構成できます。

注: ナビゲーションパネルは、Network Monitor の旧スタンドアロンリリースの"Kメニュー"に代わる機能です。



各機能の詳細については、本ドキュメントの「ナビゲーションパネルのリファレンス」 『79ページ』を参照してください。次の表に、ナビゲーションパネルの各オプションの簡単な説明を示します。

機能 説明

[モニタリング] > **[ビュー**] 『13 ペ **[モニタリング]ビュー** 『13 ページ 』を選択します。

[レポート] > **[ビュー**] 『82ページ 選択したノードセットにバインドされるカスタムレポートを設定します。

レポート・テンプレート 『83 ペ 任意のノードセットに適用可能なレポートテンプレートを構成します。 ージ 』

レポートスタイル 『84ページ 』 レポート、レポートテンプレート、およびカスタムレポートの全体的な外観を構成します。

[ナレッジベース] > **[ビュー**] 『92 [ナレッジベース]ビューを選択します。 ページ 』

[ダッシュボード] > **[ビュー**] 『95 [ダッシュボード]ビューを選択します。 ページ 』

資産メンテナンス 『96ページ』 資産メンテナンスのスケジュールを構成します。

モニターメンテナンス 『97ペー モニターメンテナンスのスケジュールを構成します。 ジ 』

ユーザー通知のスケジュール 『 Network Monitor ユーザー作業スケジュールを構成します。 98 ページ 』

Windows サービスの管理 『100 [Windows サービスの管理]ビューを選択します。 ページ 』

MIB **ブラウザ** 『101 ページ 』 [MIB ブラウザ]ビューを選択します。

レコードマネージャログ 『104 レコードマネージャログを選択します。

管理インターフェース

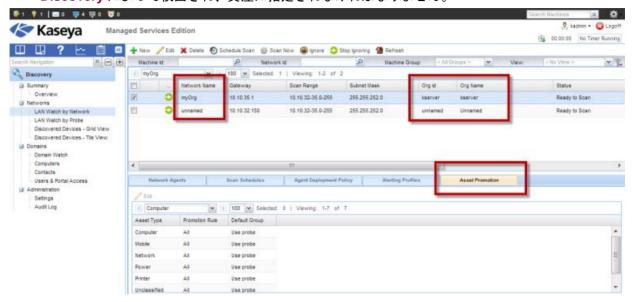
ページ 』	
Syslog のメッセージ 『105ページ』	[Syslog のメッセージ]ビューを選択します。
システム管理者コンソール 『 106ページ』	[システム管理者コンソール]ビューを選択します。
システムログ 『108ページ』	Kaseya Network Monitor サービスによって作成されたログエントリーを表示します。
トラップメッセージ 『108 ページ 』	[SNMP トラップメッセージ]ビューを選択します。
マイ設定 『109ページ』	[マイ設定の編集]ビューを選択します。
ユーザー通知グループ 『109 ペ ージ 』	ユーザーグループを管理します。その該資産に割り当てられた通知ユー ザーグループのすべてのメンバーに資産通知が送信されます。
カスタマイズされたデータタイプ 『110ページ』	モニターで使用される、汎用データを格納可能なカスタマイズされたデ ータタイプを作成します。
資産テンプレート 『111 ページ 』	資産に適用可能なモニターセットを 1 段階のステップで構成します。
ログ設定 『112ページ』	Network Monitor のログポリシーを設定します。
NOC 構成 『113 ページ 』	カスタマイズされた NOC <i>(Network Operations Center)</i> のビューを作成します。
その他のシステム設定 『113 ペ ージ 』	警報やその他のイベントの追加設定を行います。
SMS 『114ページ 』	SMS メッセージ文字列を設定します。

Discovery との統合

Network Monitor は、ネットワーク検出を実行するために Discovery モジュールを使用します。 Discovery では、1 台のネットワークマシンに単一のエージェントをインストールするだけで、そのネットワーク上のその他すべてのデバイスを検出できます。ネットワークが検出されると、[ネットワーク別 LAN ウォッチ 『http://help.kaseya.com/webhelp/JA/KDIS/9010000/index.asp#10627.htm を見て 』] ページに表示されます (FOAAS-SEE)。

■ エージェントを初めて操作する場合は、『**エージェント構成および配置** 『 http://help.kaseya.com/webhelp/JA/VSA/9010000/JA_agentdeployment_R91.pdf#zoom=70&navpanes=0 を見て 『 クイックスタートガイド』を参照してください。

■ Network Monitor では、Network Monitor モジュール内での管理デバイス (資産) の手動の追加または削除をサポートしていません。Network Monitor でデバイスを操作するには、デバイスが Discovery によって検出され、資産に指定されなければなりません。



ネットワーク検出

- 1. Discovery の[サマリー] > [ネットワーク別 LAN ウォッチ 『 http://help.kaseya.com/webhelp/JA/KDIS/9010000/index.asp#10627.htm を見て 』]ページに移動します。
- 2. 上側のパネルでネットワーク行を選択し、[編集]をクリックします。
- 3. 覚えやすいネットワーク名を入力します。
- 4. IP スキャン範囲を指定するか、デフォルト値をそのまま使用します。
- 5. このネットワークに関連する組織を選択します。

注: この割り当てによって、ネットワークを**スコープ**『
http://help.kaseya.com/webhelp/JA/VSA/9010000/index.asp#4578.htm を見て 』に含めることも、除外することもできます。VSA ユーザーログインで使用しているスコープによって、Discovery でのネットワークの表示、および Network Monitor での対応するゲートウェイノードの表示が可能かどうかが決まります。この割り当ては、検出された資産に割り当てられた組織およびマシングループに影響しません。

6. 編集した項目を保存します。ただし、スキャンはまだ開始しないでください。

資産プロモーション

検出されたデバイスのうち、VSAで管理するとユーザーが指定したものを"資産"と呼びます。この資産は、検出後に資産と共に操作する組織やマシングループと関連付ける必要があります。エージェント資産は、エージェントのインストール時に組織およびマシングループに関連付けられます。エージェント以外のデバイスを"資産"としてマークすることを、*資産の昇格*と呼びます。Network Monitor が監視するのは、*資産*のみです。

Discovery は、[資産の昇格]タブでデバイスから資産への昇格を自動化します。デフォルトでは、検出されたすべてのデバイスに、ネットワーク上でデバイスのスキャンに使用されたエージェントプローブと同じ組織とマシングループが割り当てられます。資産の種類に基づいて、検出されたデバイスを異なる組織やマシングループに割り当てることもできます。

スキャニング

[すぐにスキャンする]をクリックすると、選択したネットワーク上でデバイスの検出が即座に開始されます。また、[スキャンのスケジュール]ボタンをクリックして、デバイスの検出を再発でスケジュールすることもできます。

スキャンの開始直後に Network Monitor モジュールに移動すると、モニターツリー 『26 ページ』 に資産が表示され始めます。

ゲートウェイノードとネットワーク検出

ゲートウェイノード

Discovery によって検出された各ネットワークは、モニターツリーの最上位の KNM ノードの下にゲートウェイノードとして表示されます。 Discovery で検出されたネットワークと Network Monitor に表示されるゲートウェイノードは、1 対 1 で対応しています。 VSA の Network Monitor モジュールでゲートウェイノードを削除することはできません。

Discovery でネットワーク名を変更すると、**Network Monitor** モジュールでゲートウェイノードの名前も変更されます。

各ゲートウェイノードを展開すると、ネットワークで検出された資産が表示され、資産としてマークされます。資産リストには、エージェントがインストールされたコンピュータとデバイス、およびエージェントがインストールされておらず、**資産に昇格した** 『24 ページ 』コンピュータとデバイスが表示されます。



サブグループの手動追加

サブグループをゲートウェイノードに追加できます。ゲートウェイノードの上にグループを追加することはできません。 ネットワーク検出スキャンを繰り返しても、再検出された資産が割り当て 先のサブグループの外に移動することはありません。

資産の移動

資産の移動は、*同一ゲートウェイノード内の*サブグループ間でのみ行うことができます。

ゲートウェイのインストール/アンインスト ール

ゲートウェイは、ゲートウェイと同じネットワークに接続している資産からモニタリングデータを収集します。次に、ゲートウェイはそのモニタリングデータをNetwork Monitor サーバーに転送し

ます。

ゲートウェイがインストールされるのは、Discovery モジュールを使用して検出されたネットワーク 『24ページ』に属するエージェントマシンです。ネットワーク上のその他すべての資産をエージェントがないままにすることができます。エージェントがなくとも Network Monitor によって監視できます。エージェントマシンは、モニタリングデータの収集と Network Monitor サーバーへの中継に必要な追加ゲートウェイソフトウェアをホストします。

ゲートウェイのインストール

ゲートウェイノード用にゲートウェイをインストールしていない場合、青のマアイコンが表示され、ネットワーク内の資産に接続を作成できないことを示します。ゲートウェイをインストールするには次の手順に従います。

- 1. モニターツリーから*ゲートウェイノード*を選択します。
- 2. [ゲートウェイのインストール]コマンドをクリックします。



- 3. [**設定**]タブで**エージェントを選択**します。選択したネットワークから Windows ベースのエージェントマシンを選択し、そのマシンにゲートウェイをインストールします。
- 4. [認証]タブをクリックし、ゲートウェイのインストールが可能な Windows 資格情報を入力します。
- 5. [保存]をクリックし、ゲートウェイのインストールを開始します。

1分以内に青のアイコンがすべて緑になります。これは、すべての資産が接続可能で、データを Network Monitor モジュールサーバーに返信できることを示します。これで、資産にモニターを追加 『62ページ』 したり、事前構成モニターを追加 『63ページ』 したりすることができます。

ゲートウェイのアンインストール

同一ネットワークの場合、あるエージェントマシンでゲートウェイをアンインストールし、別のエージェントマシンに再インストールできます。ゲートウェイをアンインストールしても、そのゲートウェイノードに属する資産やモニターはアンインストールされません。同一ネットワーク上の別のエージェントマシンにゲートウェイを再インストールすると、資産とモニターが再度接続して、データを返すことができます。

組織およびマシングループ

組織およびマシングループは、VSAで管理するすべての"資産"の整理に使用される VSA 内の論理的な"コンテナ"です。資産とは、管理対象として選択した任意のマシンまたは資産です。VSA 内では、任意の資産を、組織とマシングループの任意の組み合わせに割り当てることができます。

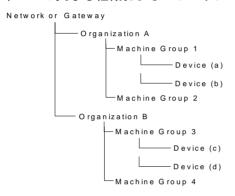
標準の VSA 階層 *(ネットワーク、組織、マシングループ、および管理資産)*は、次のように **Network Monitor** モジュールにマッピングされます。

Discovery	Network Monitor
ネットワーク	> ゲートウェイ

組織/マシングループ	→	組織およびマシングループ別に、資産リストおよびモニターリストをフィルター 処理します。
		ゲートウェイノードの下にサブグループ を作成します。
管理資産 (マシンまたは資産)	→	資産
		モニター - Network Monitor 内での追加

ネットワーク階層

各ネットワークには、複数の組織を含めることができます。たとえば、異なる2つの会社の2つのチームが、拡張されたプロジェクトについて同じネットワークを共有できます。この場合、VSAには、2つの異なる組織およびマシングループの資産を含む1つのネットワークが表示されます。



注:マシングループと組織は、**Network Monitor** で**リスト表示のフィルター処理 『17** ページ **』**に使用できます。

ゲートウェイおよび資産の名前変更

Network Monitor モジュール内で、ゲートウェイや、検出され**資産に昇格した** 『24ページ』 資産の名前を変更することはできません。これらのノードを編集するときに、それぞれの名前は表示専用であることが分かります。Network Monitor に表示される資産のアドレスも同様に表示専用です。Network Monitor に表示されるゲートウェイノードと資産ノードの名前を変更するには、次の場所に移動します。

ネットワーク

- ゲートウェイに対応するネットワークの名前を変更するには、Discovery > [ネットワーク別 LAN ウォッチ] 『http://help.kaseya.com/webhelp/JA/KDIS/9010000/index.asp#10627.htm を見て 』 > [編集]ダイアログを使用します。
- この[編集]ダイアログで、ネットワークに割り当てられた組織を変更することもできます。

検出された資産

検出された*エージェントがない*資産の名前を変更するには、次のコマンドを使用します。

- Discovery > [検出されたデバイス・グリッドビュー] 『
 http://help.kaseya.com/webhelp/JA/KDIS/9010000/index.asp#10619.htm を見て 』 > [資産の名前変更]
- Discovery > [検出されたデバイス・タイルビュー] 『 http://help.kaseya.com/webhelp/JA/KDIS/9010000/index.asp#10620.htm を見て 』 > [資産の名前変更]

エージェントがなく、資産に昇格した資産に割り当てられた組織およびマシングループを変更する

には、次のコマンドを使用します。

■ [監査] >[**資産の表示**] 『http://help.kaseya.com/webhelp/JA/VSA/9010000/index.asp#10649.htm を見て 』 > [グループの変更]

検出されたエージェントのないデバイスは、Network Monitor のモニターツリーから削除できます。エージェントのないデバイスを"降格"するには、次のコマンドを使用します。これは、VSA 全体でそれらのデバイスを管理しないことを示します。

■ [監査] > [資産の表示] 『http://help.kaseya.com/webhelp/JA/VSA/9010000/index.asp#10649.htm を見て 』 > [資産をデバイスに降格]

チケットのアクション

チケットのアクションは、Network Monitor が監視している資産のアラームカウントによってトリガーされたときにチケットを作成します。デフォルトでは、**チケット**のアクションは KNM グループノードのすべての資産に継承されます。アラームカウントは1に設定されます。

注: チケットの作成は、Service Desk が VSA 内で**アクティブ** 『 http://help.kaseya.com/webhelp/JA/KSD/9010000/index.asp#5478.htm を見て 』になっていたかどうかに応じて、**チケット発行**モジュールまたは Service Desk で行われます。

パラメータ

- アラームの数 このアクションをトリガーしたアラームの数 『59ページ』。
- ユーザー チケットのアクションに対するデフォルトのVSAユーザーを選択します。これは、 他のVSAユーザーが割り当てられていない場合に、作成されたチケットに割り当てられるVSA ユーザーです。

ユーザー統合

Network Monitor のユーザーのログオンを作成するには、[システム] > [ユーザー] 『http://help.kaseya.com/webhelp/JA/VSA/9010000/index.asp#4576.htm を見て 』を使用します。

- Network Monitor 内でのノードアクセスを管理するには、[システム] > [スコープ] 『 http://help.kaseya.com/webhelp/JA/VSA/9010000/index.asp#4578.htm を見て 』を使用します。ノードへのアクセスは、そのノードに関連付けられた組織/マシングループ、および使用しているスコープに応じて異なります。
- Network Monitor 機能 *(ナビゲーションパネルの項目など)* へのアクセスを管理するには、[システム] > [ユーザーの役割] 『http://help.kaseya.com/webhelp/JA/VSA/9010000/index.asp#4577.htm を見て 』を使用します。
- 各 VSA ユーザーは、指定の E メールアドレスで定義されます。各ユーザーは、[システム] > [プリファレンス] 『http://help.kaseya.com/webhelp/JA/VSA/9010000/index.asp#503.htm を見て 』で自分の E メールアドレスを更新できます。

注: 詳細については、『**ユーザー管理** 『

http://help.kaseya.com/webhelp/JA/VSA/9010000/JA_useradmin_R91.pdf#zoom=70&navpanes=0 を見て 』クイックスタートガイド』を参照してください。

ユーザー通知グループ

Network Monitor によって使用されるユーザーグループは、**ユーザーグループリスト**『109ページ』で管理されます。**Network Monitor** ユーザーグループは、VSA ユーザーで構成されます。

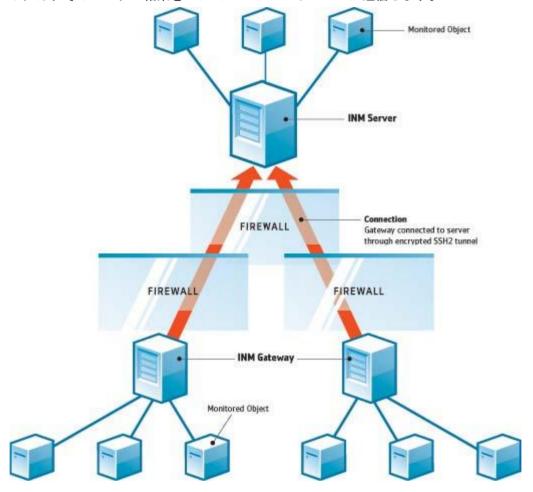
Network Monitor の資産通知は、資産の[基本プロパティ 『52 ページ 』]タブの[ユーザー通知グループ]設定を使用して資産に割り当てられたユーザーグループのすべてのメンバーに送信されます。

Network Monitor VSA でのライセンス

Network Monitor で使用されているライセンスおよび利用可能なライセンスは、[VSA] > [システム] > [ライセンスマネージャ] 『http://help.kaseya.com/webhelp/JA/VSA/9010000/index.asp#2924.htm を見て 』 ページに表示されます。Network Monitor を使用して監視されるエージェントのない資産 (マシンまたはデバイス) の 1 つにつき、エージェントライセンスが 1 つ使用されます。エージェントがインストール済みのマシンまたはモバイルデバイスは、Network Monitor によって監視される場合でも追加のエージェントライセンスを使用しません。その資産のモニター数にかかわらず、1 つの資産に使用されるエージェントライセンス数は 1 つです。

ゲートウェイ

Network Monitor は、*複数のネットワーク*でサーバー、ルーター、その他のタイプの資産のモニターをサポートします。ゲートウェイは、サーバーのローカルネットワーク、および Network Monitor で管理される各リモートネットワークにインストールされます。資産は、同じネットワークを共有しているゲートウェイによってモニターされます。各ゲートウェイ(ローカルおよびリモート)は、そのモニター結果を Network Monitor サーバーに返信します。



Network Monitor サーバー

Network Monitor サーバーにはデータベースと、すべてのゲートウェイから返されるすべてのデータを統合表示する管理インターフェースがあります。リモートゲートウェイ資産の管理方法は、ローカルゲートウェイの場合とまったく同じです。これにより、Network Monitor の構成と管理が非常に簡単になります。このプロセスはすべて、ユーザーに対して透過的です。

Network Monitor ゲートウェイ

ゲートウェイは、サーバーからのリクエストに応じて動作します。小さいキャッシュファイルを除いて、ゲートウェイは構成や統計データをローカルに保存しません。すべてのデータは即座にサーバーに送信されます。ゲートウェイはエージェントマシンにインストールする必要があります。

サーバーとゲートウェイの通信

ゲートウェイとサーバーとの間で、データは常にゲートウェイからサーバーに送信されます。この

ソリューションの背景にある考え方は、サーバーよりもゲートウェイの配置数が多いため、管理者は通信を許可するためにサーバーのファイアウォールで1つのポートのみを開くだけでよいということです。

何らかの理由でゲートウェイがサーバーに接続できない場合、サーバーの待機中にゲートウェイは テスト結果と統計のバッファリングを開始します。このバッファリング時間は、ゲートウェイごと に構成できます。

セキュリティとデータの整合性は、最新の通信プロトコル SSH2 を使用して実現されます。SSH2 プロトコルは、公開キーアルゴリズムを使用してデータを暗号化し、介入者攻撃から接続を保護します。この方式は、VPN ソフトウェアがインターネット上で安全なトンネルを確立する場合と同じです。

時間の同期

Network Monitor は、タイムゾーンの時差を自動的に調整します。管理者は、ゲートウェイのクロックを Network Monitor サーバーのクロックに同期させる必要があります。NTP (Network Time Protocol) などの時間同期サービスを使用して、サーバーとゲートウェイを同期させることが推奨されます。サーバーとゲートウェイ間の時間同期に失敗すると、アラーム生成と統計の保存で予期しない結果が発生する可能性があります。

ゲートウェイノード

ゲートウェイノードは、モニターツリー上に特殊なノードとして表示されます。ゲートウェイの表示、コマンド、およびプロパティは**サブグループ** 『46ページ 』と似ています。ゲートウェイノードには、ネットワーク上にインストールされたゲートウェイ管理用の特殊な追加の**プロパティとコマンド** 『32ページ』 があります。

このセクションで

ゲートウェイのコマンドとビュー	32
ゲートウェイの編集	39

ゲートウェイのコマンドとビュー

コマンド

次に示すコマンドは、ゲートウェイノードの選択時に、上部のビュータブが選択されているかどう かにかかわらず表示されます。

- 編集 ゲートウェイのプロパティ 『46ページ』を編集します。
- サブグループの追加 子ノードとして新しいサブグループ 『46ページ』を作成します。
- 他のグループに移動・選択したゲートウェイを別のグループに移動します。
- **グループの削除** 現在選択しているゲートウェイノードを削除します。子ノードがあるグループは削除できません。
- **資産の追加** 資産を手動で追加します。資産名、IP アドレス、エージェント、マシングループ および資産タイプを指定する必要があります。
- 新規にスケジュールされたイベントの追加 スケジュールされた 『37 ページ 』 イベントを追加します。
- レポートの作成 レポート 『72ページ』を作成します。

- **ゲートウェイの配置** エージェントマシンに**ゲートウェイをインストール** 『26ページ』 します。
- ゲートウェイのアンインストール・エージェントが前にインストールしたゲートウェイをアンインストールしても、そのゲートウェイとアンインストールしても、そのゲートウェイノードに属する資産やモニターはアンインストールされません。別のエージェントマシンにゲートウェイを再インストールすると、資産とモニターが再度接続して、データを返すことができます。

表示

ゲートウェイとグループには、同じビューのセットが使用されます。

- 「資産1タブ 『33ページ』 このタブは、ゲートウェイおよびグループで表示されます。
- [モニター]タブ 『34ページ 』 このタブは、グループ、ゲートウェイ、および資産で表示されます。
- 「マップ]タブ 『34ページ 』 このタブは、ゲートウェイおよびグループで表示されます。
- [トップリスト]タブ 『36ページ 』 このタブは、ゲートウェイ、グループ、および資産で表示されます。
- [スケジュール]タブ 『37 ページ 』 このタブは、ゲートウェイおよびグループで表示されます。
- [**アクション]タブ** 『59 ページ 』 このタブは、グループ、ゲートウェイ、資産、およびモニターで表示されます。
- [ナレッジ]タブ 『39 ページ 』 このタブは、ゲートウェイ、グループ、および資産で表示されます。
- [**監査]タブ** 『39 ページ 』 このタブは、グループ、ゲートウェイ、資産、およびモニターで表示されます。

[資産]タブ

このタブは、ゲートウェイ、およびサブグループで表示されます。

[**資産**]タブには、このノードに属する複数レベルの資産がすべて表示されます。

アクション

次に示すアクションを、1つ以上の資産を選択したときにリストビューの上部で選択できます。

- ステータス
 - ▶ アクティブ化 選択した資産およびその資産に割り当てられたすべてのモニターをアクティブにします。
 - ▶ 非アクティブ化 選択した資産およびその資産に割り当てられたすべてのモニターを非アクティブにします。
- **編集** 選択した資産を編集します。*複数の資産を選択した場合、それらの資産が共有するプロパティのみを編集します。*
- その他
 - ▶ 移動 選択した資産およびその資産に割り当てられたすべてのモニターを、サブグループに移動します。
 - ▶ すぐに検査 複数の資産を検査し、その資産に適切な事前定義モニター 『63ページ』を 決定します。資産の資格情報または構成を変更した場合、[すぐに検査]を実行できます。[すぐに検査]を実行した後、各資産の[新規モニターの追加]をクリックすると、事前定義モニターのリストが表示されます。
- レポートの表示 選択した資産のレポート 『72 ページ 』を生成します。

テーブルの列

- 名前 資産の名前。
- **アドレス** ネットワーク名または IP アドレス。
- マシングループ Discovery で検出された資産に割り当てられたマシングループ。
- オペレーティングシステム 資産のシステムタイプ。

[モニター]タブ

このタブは、ゲートウェイ、サブグループ、および資産で表示されます。

[モニター]タブには、このノードに属する複数レベルのモニターがすべて表示されます。

アクション

次に示すアクションを、1つ以上のモニターを選択したときにリストビューの上部で選択できます。

- ステータス
 - ▶ アラームの確認 選択したモニターのアラームを確認 『71ページ』 します。
 - ▶ アクティブ化 選択したモニターをアクティブにします。
 - ▶ 非アクティブ化 選択したモニターを非アクティブにします。
- 削除・選択したモニターを削除します。
- **編集** 選択したモニターを編集します。*複数のモニターを選択した場合、それらのモニターが 共有するプロパティのみを編集します。*
- **すぐにテスト** 選択したモニターをすぐにテストします。
- レポートの表示 選択した資産のレポート 『72 ページ 』 を生成します。

テーブルの列

- 名前 モニターの名前。モニターの名前をクリックすると、そのノードに移動します。
- 資産・資産の名前。資産の名前をクリックすると、そのノードに移動します。
- **タイプ** モニターのタイプ 『119ページ』。
- **ステータス** 最新のテストによって返された値。

[マップ]タブ

このタブは、グループ、およびゲートウェイで表示されます。

マップ対応ノードを選択したときに、[マップ]タブに大型のマップが表示されます。

- 大型のマップは、現在選択しているノードのマップ対応*子ノード*のすべての場所を含むように 自動的にサイズが調整されます。
- マップの場所のアイコンをクリックすると、モニターツリーのそのノードに移動します。アイコンが*同じ場所の*複数の子ノードを表す場合、子ノードのリストが表示されます。子ノードをクリックすると、モニターツリーのそのノードに移動します。

小型のマップ

ページ右下隅の小型マップには、現在選択しているノードの場所が表示されます。

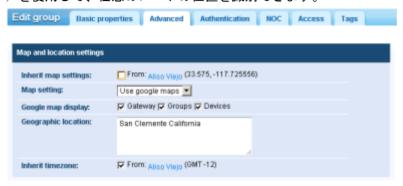
継承

ゲートウェイ、サブグループ、および資産は、マップ上の位置と現地のタイムゾーンに関連付けることができます。下位ノードは、親ノードから地理的位置を継承できます。たとえば、ゲートウェイまたはサブグループの位置を1つの建物に設定すると、同じ建物内のすべての資産の位置と現地

のタイムゾーンを効率的に設定できます。

構成

通常、マップ設定はノードの[**詳細**]タブで構成できます。**Network Monitor** は Google Maps の API と統合されています。つまり、*場所の名前*または 10 進数表記の *GPS 座標 (-33.469048, -70.642007 など)* を使用して、任意のノードの位置を識別できます。



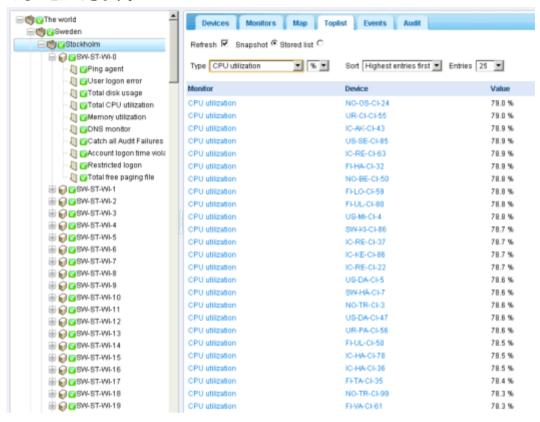
マップおよび場所の設定

- マップ設定を継承する チェックした場合、親ノードからマップ設定 『34ページ』が継承され、他の3つのマップオプションは表示されません。独自のマップ設定を指定するには、チェックを解除します。
 - ▶ マップ設定 Google Map を使用します。これは現時点で利用可能な唯一のオプションです。
 - ➤ Google Map 表示 次のオプションをチェックすると、ゲートウェイ、グループ、および資産をマップ上に表示するかどうかが決定されます。
 - ▶ 地域 地名か、または小数点表記で GPS 座標 (-33.469048, -70.642007 など) を入力します。
- **タイムゾーン** 資産のローカル時刻でモニターにリアルタイムチャートが表示されます。
 - > **タイムゾーンを継承する** チェックマークを付けると、親ノードからタイムゾーン設定 を継承します。独自のタイムゾーン設定を指定するには、チェックを解除します。

[トップリスト]タブ

このタブは、ゲートウェイ、サブグループ、および資産で表示されます。

[トップリスト]タブには、*同じタイプのモニター*について複数の資産が返した値が表示されます。その値はリアルタイムで継続的に更新されます。これにより、値を比較してパフォーマンスが低下したモニターを特定できます。トップリストには複数の資産が必要なので、[トップリスト]タブが表示されるのはゲートウェイとサブグループのみです。トップリストには、レポート 『91 ページ 』も含めることができます。



アクション

- 更新 チェックした場合、ページが更新されます。
- 次のいずれかを選択します。
 - ▶ スナップショット [スナップショット]のトップリストには、リスト内の各モニターの最新値が表示されます。
 - ▶ 保存済みリスト [保存済みリスト]のトップリストには、選択した日次、週次、月次の期間におけるモニター値の最小、最大、平均が表示されます。
- **ロード** [**保存済みリスト**]を選択した場合にのみ表示されます。選択したトップリストを表示します。
- 比較用にロード 2 つのトップリストを比較します。
 - 1. *1 つ目の*トップリストを選択し、[ロード]をクリックします。
 - 2. 同じタイプの2つ目のトップリストを選択し、[比較用にロード]をクリックします。

1 つ目のトップリストが左側に表示されます。2 つ目のトップリストが右側に表示されます。これで、2 つのトップリスト間で特定のモニターのモニタリング対象プロパティがどのように変化したかを確認できます。

次の[ソート]オプションを使用できるのは、2つのトップリストを比較する場合に限られます。

- 変化大の上位項目 順位の上下の変化が大きいエントリー。
- ▶ 順位の上昇数が大の上位項目 順位の上昇が大きいエントリー。
- ▶ 順位の下降数が大の上位項目 順位の下降が大きいエントリー。
- **タイプ** トップリストのデータタイプと測定単位。
 - ➤ CPU 使用率
 - ▶ ディスク使用率
 - ▶ 空きディスクスペース
 - ▶ 帯域使用率
 - ▶ Ping ラウンドトリップ時間
 - ➤ Ping パケット損失
 - ▶ 空きメモリ
 - ▶ スワップ使用率
 - ▶ ウェブページの取得時間
- データ
 - ▶ サンプルの最小値
 - ▶ サンプルの最大値
 - ▶ 期間の平均値
- ソート
 - ▶ エントリーの小さい順
 - ▶ エントリーの大きい順
- **エントリー** 表示するエントリー数。

テーブルの列

- 資産 資産の名前。資産の名前をクリックすると、そのノードに移動します。
- モニター モニターの名前。モニターの名前をクリックすると、そのモニターに移動します。
- 値 最新のテストによって返された値。

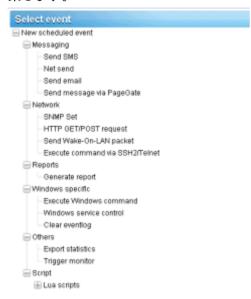
[スケジュール]タブ

このタブは、ゲートウェイ、およびサブグループで表示されます。

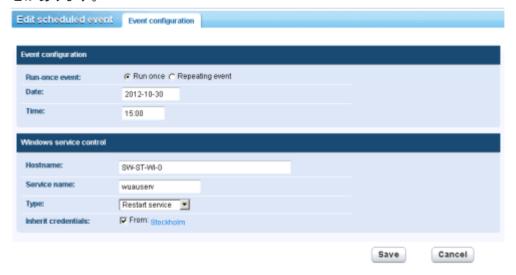
[スケジュール]タブでは、モニターがアクションをトリガーするまで待つのではなく、指定日時にアクションが実行されるようにスケジュールします。イベントは、1回限りまたは繰り返し実行されるようにスケジュールできます。

注:イベントは継承されません。任意のグループまたはゲートウェイについて、任意のホストの任意のイベントをスケジュールできます。セキュリティ上の理由から、*セキュリティイベントの使用は、対象資産のゲートウェイノードまたはサブグループから行ってください。*これによって、それらの資産に対してスケジュールされたイベントを表示できるのは、資産を表示できる権限をもつユーザーに限定されます。

任意のゲートウェイまたはサブグループの[スケジュール]タブをクリックします。前にスケジュールしたイベントがタブに表示されます。[スケジュールイベントの追加]コマンドをクリックします。イベントアクションのリストが表示されます 『168ページ』。いずれかをクリックしてイベントを編集します。



選択したイベントアクションの種類に応じて、構成の詳細は異なります。ホストを指定する場合は、DNSホスト名またはIPアドレスを入力します。対象資産の親グループまたはゲートウェイからイベントをスケジュールすると、適切な資格情報が必要な場合にその資格情報を取得しやすくなることがあります。



スケジュール中

すべてのイベントに同じスケジュールオプションがあります。

一度実行イベント

- 日付 日付を入力します。
- 時間 時刻を入力します。

繰り返しイベント

- **アクティブな期間** イベントが繰り返し実行される日付範囲を指定します。YYYY-MM-DD のフォーマットで範囲を指定します。これらのフィールドを空白にすると、イベントが常に繰り返されます。
- 曜日 曜日をチェックすると、選択した曜日にのみイベントが繰り返されます。
- 時刻 イベントを毎日繰り返す時刻と分。フォーマットは HH: MM, HH: MM, ...です。
- **月の末日** チェックした場合、イベントが毎月の末日に繰り返されます。
- **月の指定日** チェックした場合、イベントが月の指定日に繰り返されます。複数の日付を指定 する場合はコンマで区切ります。

[ナレッジ]タブ

このタブは、ゲートウェイ、サブグループ、および資産で表示されます。

[ナレッジ]タブには、そのノードに割り当てられたナレッジベースの項目リストが表示されます。

アクション

- **項目の関連付け** 選択した項目を、選択したグループと資産に割り当てます。
- 項目の関連解除 選択した項目の割り当てを、選択したグループと資産から解除します。

関連トピック

- ナレッジベース項目 『92ページ』
- ナレッジベースのカテゴリー 『94 ページ』

[監査]タブ

このタブは、ゲートウェイ、サブグループ、資産、およびモニターで表示されます。

[監査]タブは、モニターツリーの各ノードに表示されます。ログエントリーには、現在のノードで Network Monitor ユーザーによって実行されたすべての構成アクションが記述されます。

注: 検索では大文字と小文字が区別されます。



ゲートウェイの編集

(選択したゲートウェイ) > [編集]

[ゲートウェイの編集]ページでは、ゲートウェイノードのプロパティを構成します。ゲートウェイノードは、サブグループ 『46ページ 』と同じプロパティを数多く共有します。ゲートウェイノードには、ネットワーク上にインストールされたゲートウェイ管理用の特殊な追加のプロパティとコマンド 『32ページ』 があります。

■ [基本プロパティ]タブ 『40 ページ 』 - ゲートウェイ、サブグループ、および資産には、[基本 プロパティ]編集タブが表示されます。

- **[詳細]タブ** 『40 ページ 』 ゲートウェイ、サブグループ、資産、およびモニターには、**[詳細]** 編集タブが表示されます。
- [認証]タブ 『42 ページ 』 この編集タブは、ゲートウェイ、サブグループ、および資産で表示されます。
- [NOC]**タブ** 『43ページ 』 この編集タブは、ゲートウェイ、サブグループ、および資産で表示されます。

[基本プロパティ]編集タブ - ゲートウェイ

ゲートウェイ、サブグループ、および資産には、[基本プロパティ]編集タブが表示されます。

基本プロパティ

- 名前 ゲートウェイの名前を入力します。
- 説明 ゲートウェイの詳細な説明。

警報とリカバリの設定

- 通知グループの継承 このノードの通知グループを設定します。ゲートウェイ、サブグループ、および資産ノードに対して、デフォルト通知メッセージのの送信先となるユーザーグループをオーバーライドできます。モニターノードは、その親資産ノードによって指定される通知グループを使用するため、オーバーライドすることはできません。
- **アラームメッセージの継承** このノードの**アラームメッセージ** 『68 ページ 』のフォーマットを設定します。
- **アクションの継承** チェックした場合、継承したアクションおよび継承したリカバリアクションがこのノードの[**アクション** 『59ページ』]タブに表示されます。

[詳細]編集タブ・ゲートウェイ

ゲートウェイ、サブグループ、資産、およびモニターには、[詳細]編集タブが表示されます。

マップおよび場所の設定

- マップ設定を継承する チェックした場合、親ノードからマップ設定 『34ページ』 が継承され、他の3つのマップオプションは表示されません。独自のマップ設定を指定するには、チェックを解除します。
 - ▶ マップ設定 Google Map を使用します。これは現時点で利用可能な唯一のオプションです。
 - ➤ Google Map 表示 次のオプションをチェックすると、ゲートウェイ、グループ、および資産をマップ上に表示するかどうかが決定されます。
 - ▶ 地域 地名か、または小数点表記で GPS 座標 (-33.469048, -70.642007 など) を入力します。
- **タイムゾーン** 資産のローカル時刻でモニターにリアルタイムチャートが表示されます。
- **タイムゾーンを継承する** チェックマークを付けると、親ノードからタイムゾーン設定を継承します。独自のタイムゾーン設定を指定するには、チェックを解除します。

グループの依存関係の設定

■ **依存関係モニターの選択/選択したモニター** - **[依存関係モニターの選択**]リストに表示するモニター名のテキストを入力します。リストからモニターを1つ以上選択し、**[追加]**ボタンをクリックして、**[選択したモニター**]リストにモニターを追加します。また、**[選択]**ボタンをクリックし

て、ターゲットのモニターを参照することもできます。モニターを削除するには、選択して[**削除**]ボタンをクリックします。

Syslog メッセージの受信

- Syslog サーバー チェックした場合、ゲートウェイのネットワークで傍受した Syslog メッセージをサーバーに転送できます。チェックした場合、傍受された Syslog メッセージは、Network Monitor > [ツール] > [Syslog メッセージ] 『105 ページ 』ページに表示されます。
- ポート デフォルト値は 514 です。

SNMP トラップの受信

- SNMPトラップ・チェックした場合、ゲートウェイのネットワークから受信した SNMPトラップメッセージをサーバーに転送できます。SNMPトラップ 『147ページ 』モニターを使用するには、このチェックボックスをチェックする必要があります。チェックした場合、受信されたトラップメッセージは、Network Monitor [ツール] > [トラップメッセージ] 『108ページ 』ページに表示されます。選択したメッセージに基づいて、SNMPトラップモニターを[Syslogメッセージのリスト]ページから直接作成できます。
- IP トラップレシーバーのホスト名または IP 番号。
- ポート・トラップレシーバーがリスンするポート番号。
- コミュニティフィルター SNMP トラップコミュニティ文字列。
- **エージェントIP範囲フィルター** IP アドレス別に SNMP トラップメッセージの転送をフィルター ー処理します。

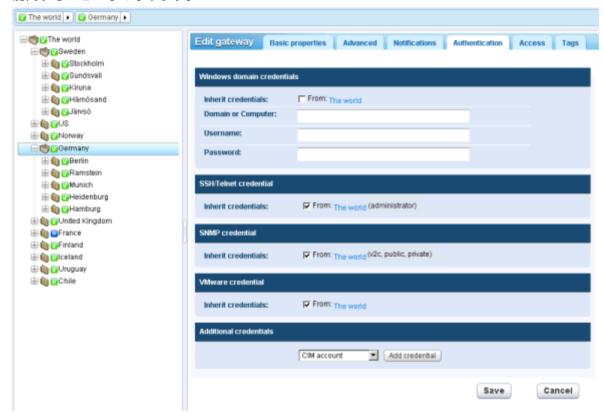
その他の設定

- MIB を同期する チェックした場合、Network Monitor はこのゲートウェイを、サーバーに追加した MIB ファイルで自動更新します。
- **通知グループ** ゲートウェイが適切なタイミングで接続しない場合にEメール通知を受け取る グループ。
- **自動更新を無効にする** チェックした場合、自動更新が無効になります。チェックしない場合 、このゲートウェイはサーバーの更新時に最新バージョンの **Network Monitor** で自動更新され ます。

[認証]編集タブ

この編集タブは、ゲートウェイ、サブグループ、または資産で表示されます。

[認証]編集タブには、ネットワーク資産へのアクセスの認証に Network Monitor が使用する資格情報が保存されます。資格情報の管理には、*継承を使用*します。つまり、モニターツリーの 1 つのゲートウェイまたはサブグループの資格情報を設定すると、子の資産とモニターのすべてがその資格情報を使用できます。また、その資格情報を、ツリー内の他のブランチに設定された他の資格情報と混同することがなくなります。



いずれかのタイプの認証について、[資格情報の継承]がチェックされている場合、上位のノードから 資格情報が継承されます。チェックボックスのチェックが解除されている場合は、そのタイプの認 証用の資格情報を入力します。この資格情報は、このノード、およびこのタイプの認証を継承する すべての下位ノードで使用されます。指定した資格情報の名前が上位ノードの名前の横に括弧付き で表示されない場合、その資格情報は上位ノードで定義されていません。

認証には、次のタイプがあります。

- Windows ドメイン資格情報 Windows のローカルまたはドメインの資格情報を指定します。[ドメインまたはコンピューター]フィールドを空白にするか、または「localhost」と入力してローカルホストの資格情報を入力します。Windows 認証を使用する 『197 ページ 』複数のモニターに適用されます。
- SSH Telnet 資格情報 SSH および Telnet の資格情報を指定します。
- SNMP資格情報 SNMP資格情報を指定します。必要なパラメータは、資産への接続に使用する SNMP のバージョンによって異なります。
 - ➤ SNMP v1 または SNMP2c リードコミュニティ名とライトコミュニティ名を入力します。
 - ➤ SNMP v3 認証が必要な場合
 - ✓ SNMPv3 コンテキスト ID オプション。返されるデータを制限するために、資産の

SNMP エージェントによって指定される 1 つ以上のコンテキスト ID に一致する文字列。

- ✓ 認証方法 認証に使用されるアルゴリズム (なし、HCMA-MD5、またはHCMA-SHA1)。
- ✓ SNMPv3 ユーザー名 リモート資産で SNMP エージェントへのアクセスに使用する SNMP マネージャの名前。
- ✓ SNMPv3パスフレーズ パスワードに似た一連の単語。
- ✓ **SNMPv3 暗号化** プライバシーを保証するためにデータの暗号化に使用するアルゴリズム (なし、DES、または AES-128)。
- ✓ SNMPv3 暗号化キー データ暗号化に使用する文字列。
- VMware 資格情報 VMware 資格情報を指定します。
- 追加の資格情報 次の資格情報を追加できます。

CIM アカウント
Exchange アカウント
FTP アカウント
HTTP アカウント
IMAP アカウント
LDAP アカウント
MySQL アカウント
ODBC アカウント
Oracle アカウント
POP3 アカウント
RADIUS アカウント
SQL Server アカウント

[NOC]編集タブ

この編集タブは、グループ、ゲートウェイ、または資産で表示されます。

[NOC]編集タブでは、グループ、ゲートウェイ、または資産ノードを NOC ビューに割り当てます。 Network Operation Center (NOC) ウィジェットはコンパクトな全画面表示の情報ビューで、ネットワークと資産の集合のステータスが表示されます。このウィジェットは通常、専用モニターに表示されます。

NOC ビューには、グループ、ゲートウェイ、および資産のステータスが階層別にマトリクス形式で表示されます。すべてのグループ、ゲートウェイ、および資産のリストが縦に表示され、横には各モニターのステータスが表示されます。左側の大きな色付きの四角で全体的なステータスが表示されます。



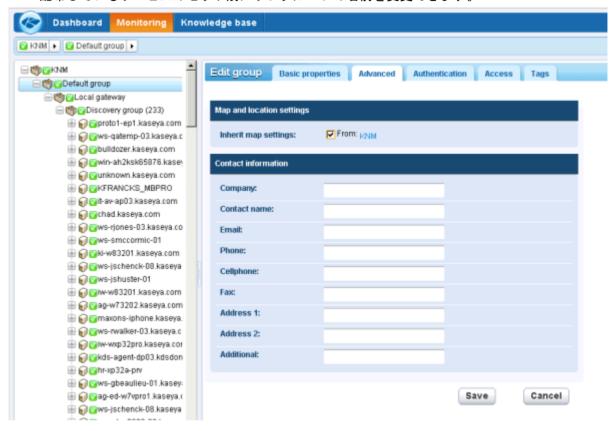
NOC ビューおよび NOC ウィジェットの設定

- 1. Network Monitor の[設定] > **[NOC 設定**] 『113 ページ 』 ページで NOC ビューを 1 つ以上定義します。
- 2. [編集] > [NOC]タブを使用して、ゲートウェイノードまたはサブグループノードを1つ以上のNOC ビューに割り当てる必要があります。
- 3. [ダッシュボード] > [ウィジェットの追加] > [NOC ウィジェット]を選択します。
- 4. ウィジェットタイトルバーの右側にある☑アイコンを選択し、次の設定を構成します。
 - ▶ タイトル ダッシュボードの NOC ウィジェットに表示されるタイトル。
 - 選択 デフォルトの Group NOC、または NOC ビューを表示するために作成したその他の NOC ビューを選択します。

サブグループ

サブグループとは、モニターツリーの*ゲートウェイの下*にある他のノードをグループ化するために 使用する"コンテナ"ノードです。

■ **論理ビジネスユニット** - サブグループは、論理的なビジネスユニットを表すことができます。 ビジネスユニットの名前を表すようにするには、サブグループの名前を変更します。任意のサ ブグループを**編集**するには、[**詳細**]タブをクリックします。サブグループが表すビジネスユニ ットには、連絡先情報を入力できます。現場で資産の操作や作業が必要な場合、必要な連絡先 情報を表示するにはモニターツリー内で資産に最も近い親を表示します。 ■ 特殊なサービス要件 - 資産が明白にビジネスユニットを表していない場合でも、1 つのサブネット内の資産セットに特殊なサービスを配布しなければならないことがあります。それらの資産を区別する最も簡単な方法は、資産をグループ化することです。この場合、部門名別または配布しているサービスのセット別にサブグループの名前を変更できます。



サブグループ別の継承

サブグループの機能は、整理とラベル付けの他にもあります。サブグループの編集項目として、警報設定、認証、アクセス、マップ場所など多数のプロパティがあります。サブグループを編集することにより、継承を使用するサブグループの子資産すべてのプロパティを設定できます。継承の対象として、ネスト型のサブグループ、資産、およびモニターが含まれます。

サブグループ別に管理する資産を整理して継承機能を使用すると、資産を個別に構成するよりも時間を大幅に短縮できます。

ルートノード

最上位のノードは"スーパー"グループノードであり、そのデフォルト名は KNM です。ルートノードのグループプロパティセットは、作成するサブグループと同様に下位ノードが*継承*可能です。ルートノードの設定は、*モニターツリーの他の各ノード*が継承可能です。

このセクションで

グループのコマンドとビュー	. 46
サブグループの追加/編集	. 46

グループのコマンドとビュー

コマンド

次に示すコマンドは、グループノードの選択時に、上部のタブが選択されているかどうかにかかわらず表示されます。

- 編集 グループのプロパティ 『46 ページ 』を編集します。
- サブグループの追加 子ノードとして新しいサブグループ 『46ページ』を作成します。
- 他のグループに移動・現在選択しているグループを別のグループに移動します。
- **グループの削除** 現在選択しているグループを削除します。
- **資産の追加** 資産を手動で追加します。資産名、IP アドレス、エージェント、マシングループ および資産タイプを指定する必要があります。
- 新規にスケジュールされたイベントの追加 スケジュールされた 『37 ページ 』 イベントを追加します。
- レポートの作成 レポート 『72 ページ 』 を作成します。

表示

ゲートウェイとグループには、同じビューのセットが使用されます。

- 「資産」タブ 『33ページ』 このタブは、グループおよびゲートウェイで表示されます。
- [モニター]タブ 『34ページ 』 このタブは、ゲートウェイ、グループ、および資産で表示されます。
- 「マップ]タブ 『34ページ 』 このタブは、グループおよびゲートウェイで表示されます。
- [トップリスト]タブ 『36ページ 』 このタブは、ゲートウェイ、グループ、および資産で表示されます。
- [スケジュール]タブ 『37ページ 』 このタブは、グループおよびゲートウェイで表示されます。
- [**アクション]タブ** 『59ページ 』 このタブは、ゲートウェイ、グループ、資産、およびモニターで表示されます。
- [ナレッジ]タブ 『39ページ 』 このタブは、ゲートウェイ、グループ、および資産で表示されます。
- [**監査]タブ** 『39 ページ 』 このタブは、ゲートウェイ、グループ、資産、およびモニターで表示されます。

サブグループの追加/編集

(選択したサブグループまたはゲートウェイ) > [サブグループの追加]

(選択したサブグループ) > [編集]

[**グループの編集**]ページでは、サブグループノードのプロパティを構成します。サブグループは"コンテナ"ノードであるため、プロパティの多くは下位ノードによって継承される場合にのみ使用できます。

- **[基本プロパティ]タブ** 『47ページ 』 ゲートウェイ、サブグループ、および資産には、**[基本プロパティ**]編集タブが表示されます。
- **[詳細]タブ** 『47ページ 』 サブグループ、ゲートウェイ、資産、およびモニターには、**[詳細]** 編集タブが表示されます。
- [認証]タブ 『42ページ 』 この編集タブは、サブグループ、ゲートウェイ、または資産で表示されます。

- [NOC]タブ 『43ページ 』 この編集タブは、サブグループ、ゲートウェイ、または資産で表示されます。
- 「タグ)タブ 『48ページ』 この編集タブは、サブグループおよび資産で表示されます。

[基本プロパティ]編集タブ - サブグループ

ゲートウェイ、サブグループ、および資産には、[基本プロパティ]編集タブが表示されます。

基本プロパティ

- **名前** サブグループの名前を入力します。多くの場合、サブグループは顧客の論理ビジネスユニットに対応します。
- 説明 サブグループの詳細な説明。

警報とリカバリの設定

- 通知グループの継承 このノードの通知グループを設定します。ゲートウェイ、サブグループ、および資産ノードに対して、デフォルト通知メッセージのの送信先となるユーザーグループをオーバーライドできます。モニターノードは、その親資産ノードによって指定される通知グループを使用するため、オーバーライドすることはできません。
- **アラームメッセージの継承** このノードの**アラームメッセージ** 『68 ページ 』のフォーマットを設定します。
- **アクションの継承** チェックした場合、継承したアクションおよび継承したリカバリアクションがこのノードの[**アクション** 『59ページ』]タブに表示されます。

「詳細編集タブ・グループ

グループ、ゲートウェイ、資産、およびモニターには、[詳細]編集タブが表示されます。

マップおよび場所の設定

- マップ設定を継承する チェックした場合、親ノードからマップ設定 『34ページ』が継承され、他の3つのマップオプションは表示されません。独自のマップ設定を指定するには、チェックを解除します。
 - > マップ設定 Google Map を使用します。これは現時点で利用可能な唯一のオプションです。
 - ➤ Google Map 表示 次のオプションをチェックすると、ゲートウェイ、グループ、および資産をマップ上に表示するかどうかが決定されます。
 - ▶ 地域 地名か、または小数点表記で GPS 座標 (-33.469048, -70.642007 など) を入力します。
- タイムゾーン 資産のローカル時刻でモニターにリアルタイムチャートが表示されます。
 - ▶ タイムゾーンを継承する チェックマークを付けると、親ノードからタイムゾーン設定を継承します。独自のタイムゾーン設定を指定するには、チェックを解除します。

連絡先情報

グループが表すビジネスユニットの連絡先情報を入力します。現場で資産の操作や作業が必要な場合、必要な連絡先情報を表示するにはモニターツリー内で資産に最も近い親を表示します。

- 会社
- 連絡先名
- Eメール
- 電話

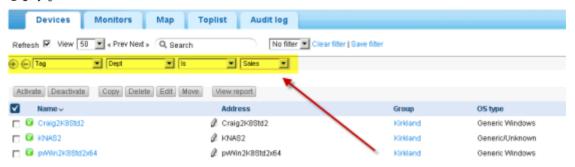
- 携帯電話
- ファックス
- アドレス1
- アドレス 2
- 追加

[タグ]編集タブ

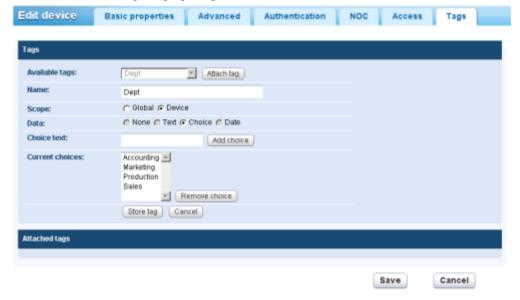
この編集タブは、サブグループおよび資産で表示されます。

[**タグ**]編集タブでは、ユーザー定義タグの作成、編集、および割り当てができます。タグを作成するには、[タグ]タブが表示されるノードを使用します。その後、タグの割り当てスコープに一致するノードにタグを割り当てることができます。

たとえば、資産が所属する部門別に資産を分類できます。DEPT タグを作成し、複数の値を指定できます(営業、経理、マーケティング、開発、製造、流通など)。これにより、割り当てたタグを使用して、ビューのリストをフィルター処理したり、レポートしたりできます。例を次のイメージに示します。



たとえば、タグを作成してモニターツリーのノードに割り当てるには、サブグループまたは資産を 選択します。次に、[**編集**]、[**タグ**]タブの順にクリックします。



1 つのタグには 2 種類の**スコープ**があります。スコープにより、そのタグを使用できる他のタイプの ノードが決まります。

グローバル - すべてのタイプのレコードがそのタグを使用できます。

■ **資産**または**グループ** - 資産ノードを選択済みの場合、他の資産のみがタグを使用できます。サブグループノードを選択済みの場合、他のサブグループのみがタグを使用できます。

また、ユーザーがタグをノードに割り当てるときに必要なタグの**データ**エントリーのタイプを指定する必要があります。

- なし データは不要です。たとえば、InMaintenance というタグを割り当てて、そのまま残すことができます。
- **テキスト** ユーザーは任意の種類の文字列を入力できます。たとえば、Note というタグを指定すると、ユーザーは任意の入力ができます。
- **選択** ユーザーはいずれかの固定値を選択します。たとえば、LicenseStatus タグには3つの 固定値(Licensed、Unlicensed、TrialEvaluation)のいずれかを設定できます。
- **日付** ユーザーは日付を選択します。たとえば、RepairDueDate というタグで資産の予定修理日を表すことができます。

タグの削除

■ 割り当てたタグの横にある赤い X をクリックすると、割り当てが削除されます。

資産

Network Monitor は、*資産*を監視します。**資産**とは、IP番号またはホスト名を使用してアクセス可能なコンピュータやその他の種類のネットワークデバイスを指します。Network Monitor で管理する各資産は、モニターツリー内に個別のノードとして表示されます。資産の親ノードは、ゲートウェイまたはサブグループです。資産ノードを選択すると、その資産に割り当てられたすべてのモニターのリストが表示されます。

注: Network Monitor では、Network Monitor モジュール内での資産の手動の追加または削除をサポートしていません。資産を Network Monitor で操作するには、Discovery によって検出 『24 ページ 』 されなければなりません。



資産のコマンドとビュー

コマンド

次に示すコマンドは、資産ノードの選択時に、上部のビュータブが選択されているかどうかにかかわらず表示されます。

■ 編集 - 資産のプロパティ 『51 ページ 』を編集します。

注: Network Monitor では、Network Monitor モジュール内での資産の手動の追加または削除をサポートしていません。資産を Network Monitor で操作するには、Discovery によって検出 『24 ページ 』されなければなりません。

- 新規モニターの追加 新しいモニター 『62 ページ 』 を資産に追加します。
- **資産の非アクティブ化** 資産を非アクティブにします。
- すぐに検査 資産を検査し、その資産に適切な事前定義モニター 『63ページ 』を決定します。資産の資格情報または構成を変更した場合、[すぐに検査]を実行できます。[すぐに検査]を実行した後、[新規モニターの追加]をクリックすると、事前定義モニターのリストが表示されます。
- テンプレートの適用 資産テンプレート 『55ページ』を適用します。
- **テンプレートとして保存** モニターセットを**資産テンプレート** 『55 ページ 』として保存します。
- レポートの作成 レポート 『72ページ』の表示、Eメール送信、または公開を行います。
- MIB ブラウザを開く SNMP でモニター可能な資産によりサポートされる OID のリストを表示します。OID を表示するには、資産で SNMP を有効にする必要があります。

表示

- [モニター]タブ 『50ページ 』 このタブは、ゲートウェイ、サブグループ、および資産で表示されます。
- [**アクション]タブ** 『59ページ 』 このタブは、ゲートウェイ、サブグループ、資産、および モニターで表示されます。
- **[ナレッジ]タブ** 『39ページ』 このタブは、ゲートウェイ、サブグループ、および資産で表示されます。
- [トップリスト]タブ 『36ページ 』 このタブは、ゲートウェイ、サブグループ、および資産で表示されます。
- [**監査]タブ** 『39 ページ 』 このタブは、ゲートウェイ、サブグループ、資産、およびモニター で表示されます。
- 「状態変化ログ」タブ 『51ページ 』 このタブは、資産およびモニターで表示されます。

[モニター]タブ

このタブは、ゲートウェイ、サブグループ、および資産で表示されます。

アクション

次に示すアクションを、1つ以上のモニターを選択したときにリストビューの上部で選択できます。

- **アラームの確認** 選択したモニターの**アラームを確認** 『71 ページ 』します。
- **アクティブ化** 選択したモニターをアクティブにします。

- **非アクティブ化** 選択したモニターを非アクティブにします。
- コピー 選択したモニターを、選択した資産に作成します。
- 削除・選択したモニターを削除します。
- **編集 選択したモニターを編集** 『64 ページ 』します。複数のモニターを選択した場合、それらのモニターが共有する標準モニタープロパティ 『66 ページ 』を編集します。
- レポートの表示 選択した資産のレポートを生成します。

テーブルの列

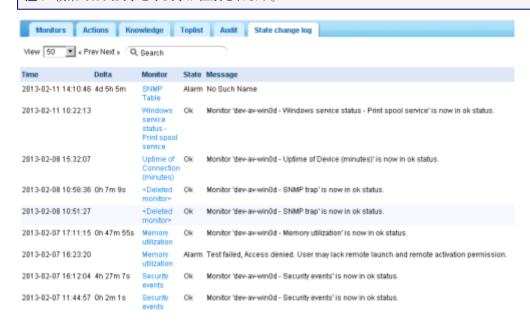
- **名前** モニターの名前。
- タイプ モニターのタイプ 『119ページ』。
- アラーム アラームカウント 『56ページ』。この列は、資産ノードのみに表示されます。
- **ステータス** モニターから返された最新の結果。
- ▼ 次のテスト 次回のテストの実行がスケジュールされた時刻。

「状態変化ログ\タブ

このタブは、資産およびモニターで表示されます。

[状態変化ログ]タブは、資産ノードまたはモニターノードを選択すると表示されます。このタブには、資産に割り当てられた各モニターの状態変化がリストされます。

注: 検索では大文字と小文字が区別されます。



資産の編集

〈選択した資産〉〉[編集]

[**資産の編集**]ページには、次のプロパティタブが表示されます。

- [基本プロパティ]タブ 『52 ページ 』 ゲートウェイ、サブグループ、および資産には、[基本 プロパティ]編集タブが表示されます。
- [詳細]タブ 『52ページ 』 ゲートウェイ、サブグループ、資産、およびモニターには、[詳細] 編集タブが表示されます。

- [認証]タブ 『42 ページ 』 この編集タブは、サブグループ、ゲートウェイ、および資産で表示されます。
- [NOC]タブ 『43ページ 』 この編集タブは、ゲートウェイ、サブグループ、および資産で表示されます。
- **[タグ]タブ** 『48 ページ 』 この編集タブは、ゲートウェイ、サブグループ、および資産で表示されます。

[基本プロパティ]編集タブ - 資産

ゲートウェイ、サブグループ、および資産には、[基本プロパティ]編集タブが表示されます。

基本プロパティ

- **名前** 資産の名前。このプロパティは **Discovery** モジュールで設定されます。
- **アドレス** 資産の DNS 名または IP アドレス。このプロパティは、**Discovery** モジュールを使用して資産が検出されると設定されます。
- オペレーティングシステム 資産のシステムタイプを選択します。オペレーティングシステム 『119 ページ 』により、この資産に追加可能なモニターのタイプが決まります。資産のシステムタイプが不明の場合、またはシステムタイプを参照できない場合は、[その他/不明]オプションを選択します。Windows パフォーマンスモニターが正しく動作するためには、正しいシステムタイプを指定することが不可欠です。
- **資産のタイプ** ハードウェア資産のタイプを分類します。参照目的のみです。
- 説明 [説明]フィールドを使用すると、資産の詳細を記述できます。たとえば、ハードウェアの種類や物理的な位置などです。
- **自由記入** [自由記入]フィールドを使用すると、資産に関するその他の情報を追加できます。 また、アラーム通知に含めることができます。

警報とリカバリの設定

- 通知グループの継承 このノードの通知グループを設定します。ゲートウェイ、サブグループ、および資産ノードに対して、デフォルト通知メッセージのの送信先となるユーザーグループをオーバーライドできます。モニターノードは、その親資産ノードによって指定される通知グループを使用するため、オーバーライドすることはできません。
- **アラームメッセージの継承** このノードの**アラームメッセージ** 『68 ページ 』のフォーマット を設定します。
- **アクションの継承** チェックした場合、継承したアクションおよび継承したリカバリアクションがこのノードの[**アクション** 『59ページ』]タブに表示されます。

[詳細]編集タブ - 資産

ゲートウェイ、サブグループ、資産、およびモニターには、「詳細】編集タブが表示されます。

詳細

- **アクティブ** チェックした場合、資産はアクティブとみなされます。アクティブな資産はモニターをテストします。このチェックボックスは、デフォルトでチェックされています。
- **SSH2 接続共有** チェックした場合、この資産の永続的 SSH2 接続を有効にします。通常、開いている接続は 1 つのみであり、この資産の SSH2 を使用してすべてのモニター間で接続が共有されます。SSH2 接続共有を無効にすると、SSH サーバーへのログオン数が増加しますが、接続で問題が発生している場合に役立ちます。

- **検査を有効にする** この資産で自動検査を有効にします。通常、Network Monitor はすべての 資産の資産インベントリを定期的に実行し、ハードウェアと接続資産を検出します。
- WMI を使用する 資産が Windows システムタイプの場合、資産の[WMI を使用する]チェックボックスをチェックすると、次のモニタータイプで WMI が使用されます。そのモニタータイプで問題が発生した場合は、チェックを解除してみてください。
 - ➤ WMI クエリモニター 『157 ページ 』 常に WMI を使用します。
 - ➤ Active Directory モニター 『121 ページ 』 常に WMI を使用します。
 - ▶ 帯域使用率モニター 『122 ページ 』
 - ▶ CPU 使用率モニター 『125 ページ 』
 - ▶ ディスク使用率モニター 『129ページ』
 - ▶ イベントログモニター 『131 ページ 』
 - ▶ メモリ使用率モニター 『138ページ』
 - ▶ スワップファイル使用率モニター 『150ページ』

注: 詳細については、「Windows Management Instrumentation (WMI)」 『202 ページ 』を参照してください。

マップおよび場所の設定

- マップ設定を継承する チェックした場合、親ノードからマップ設定 『34ページ』が継承され、他の3つのマップオプションは表示されません。独自のマップ設定を指定するには、チェックを解除します。
 - ▶ マップ設定 Google Map を使用します。これは現時点で利用可能な唯一のオプションです。
 - ➤ Google Map 表示 次のオプションをチェックすると、ゲートウェイ、グループ、および資産をマップ上に表示するかどうかが決定されます。
 - ▶ 地域 地名か、または小数点表記で GPS 座標 (-33.469048, -70.642007 など) を入力します。
- タイムゾーン 資産のローカル時刻でモニターにリアルタイムチャートが表示されます。
- **タイムゾーンを継承する** チェックマークを付けると、親ノードからタイムゾーン設定を継承します。独自のタイムゾーン設定を指定するには、チェックを解除します。

資産の依存関係の設定

- **依存関係の継承** この設定は、1つ以上の指定モニターで現在選択しているノードの**依存関係** 『54ページ』を決定します。チェックした場合、このノードは親ノードから依存関係を継承します。チェックしない場合、*モニターツリーの同一ゲートウェイ分岐内の*異なるモニターセットに基づいて依存関係を定義することも、またはモニターを指定せずに対象ノードに依存関係がないことを設定できます。
- 依存関係モニターの選択/選択したモニター [依存関係モニターの選択]リストに表示するモニター名のテキストを入力します。リストからモニターを1つ以上選択し、[追加]ボタンをクリックして、[選択したモニター]リストにモニターを追加します。また、[選択]ボタンをクリックして、ターゲットのモニターを参照することもできます。モニターを削除するには、選択して[削除]ボタンをクリックします。

簡易メンテナンス

次の設定により、1 つの資産のメンテナンス期間を簡単に指定できます。

注: Network Monitor > [スケジュール] > [資産メンテナンス] 『96 ページ 』を使用すると、複数の資産のメンテナンススケジュールを指定できます。

- **開始時刻**/ (終了時刻) この資産がメンテナンスのためにダウンする1日の時間範囲。
- 曜日 この資産がメンテナンスのためにダウンする曜日。
- メンテナンスモード メンテナンス中にテストを停止します。これは、メンテナンス期間中に 使用できる資産のみです。

依存関係のテスト

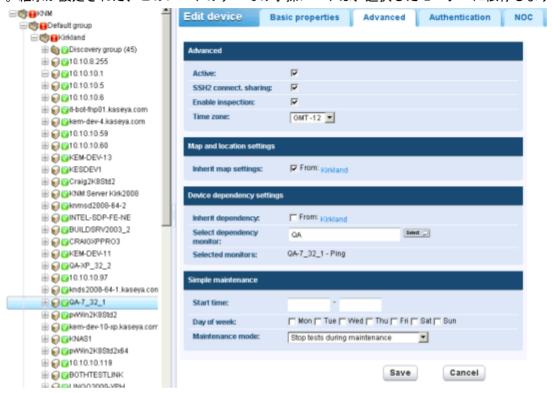
依存関係の構成には、資産ノードの『詳細 『52ページ』 1編集タブを使用します。

あるモニターの警報ステータスは、*同じゲートウェイに属する任意のメンバーノード*の警報ステータスに依存します。

単一ネットワークのルーターをモニターする場合を考えます。ルーターがダウンすると、そのルーターをテストするように設定したモニターは、最初に失敗状態、次にアラーム状態と正しく変化します。残念ながら、同一ネットワーク上のその他すべての資産はそのルーターに依存します。ルーターが接続に失敗すると、そのルーターに依存する資産も接続に失敗します。実際には 1 つの資産の問題でも、モニターツリーのブランチ全体がモニタリングエラーを報告します。この時点では、依存するそれらの資産は問題をわかりにくくしているだけです。依存関係を使用すると、1 つの重要なモニターのアラーム状態で問題を表すことができる場合に、Network Monitor が不要な一連の Γ ラーム状態をトリガーしないようにできます。

別の例として、1つの資産のすべてのモニターが Ping チェックモニターに依存するように構成した場合を考えます。資産へのネットワーク接続が失敗すると、Ping チェックのアラームが1つのみ作成されますが、その資産に割り当てられた他のすべてのモニターには作成されません。

任意のゲートウェイ、サブグループ、または資産のノードの[**編集**]をクリックし、[**詳細**]タブをクリックします。**資産の依存関係の設定**を使用して、このノードの依存先となるモニターを選択します。継承が設定された、このノードのすべての子孫ノードは、選択したモニターに依存します。



資産テンプレート

資産テンプレートの構成には、Network Monitor > [設定] > [資産テンプレート]を使用します。

数千もの資産について、一度に1つのモニターを構成するのは現実的ではありません。その代わりに、**資産テンプレート** 『111ページ』を使用して*モニターセット*を構成し、次に資産テンプレートを適切な資産に適用します。管理する資産の個々のタイプに資産テンプレートが必要です。

システムおよびカスタム資産テンプレート

多くの資産テンプレートには、Network Monitor が提供されています。適用はできますが、編集できません。また、必要なモニターで資産を構成してからテンプレートとして保存コマンドをクリックすることにより、独自のカスタム資産テンプレートを構成できます。

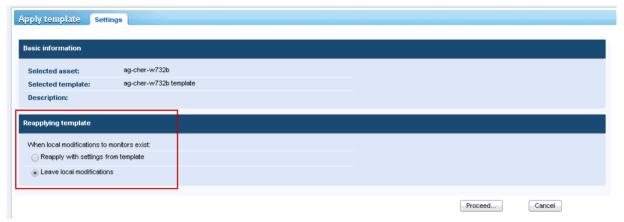
資産への資産テンプレートの適用

資産テンプレートの構成後、資産を選択し、[**テンプレートの適用**]オプションをクリックします。次に、資産テンプレートを選択します。資産テンプレート内のすべてのモニターが、選択した資産に割り当てられ、データを返し始めます。必要に応じて、資産テンプレートにより割り当てられたモニターの設定をカスタマイズできます。



資産テンプレートの再適用

モニターが割り当てられた後も、資産の*リンク*先は資産テンプレートのままです。*資産テンプレートの変更内容が、リンクされた資産に自動的に反映されることはありません。*変更したテンプレートを各資産にもう一度再適用する必要があります。変更したテンプレートを資産に再適用するときに、選択した資産で資産固有の設定をオーバーライドするか、資産固有の設定を変更せずに残すかを選択できます。



資産テンプレートのリンク解除

テンプレートから資産のリンクを解除することができます。資産テンプレートのリンクを解除しても、モニターは資産に割り当てられたままです。

モニター

モニターは、資産で特定の機能をテストします。多くのモニターには、レポート用にさまざまな統計データを収集する機能があります。モニターテストが指定した回数連続して失敗すると、モニターはアラーム状態になり、一連の**アクション** 『59ページ』 が実行されます。

各モニターの警報状態は、その他すべてのアクティブなモニターと共に、モニターツリーの最上位までレポートされます。管理対象のモニターが数千、数百とある場合、この機能によってエラーが発生しているモニターを簡単に特定できます。

アラーム状態の遷移

OK状態

通常の動作では、モニターが OK状態の場合、モニターツリー内のモニターの横に緑のステータス マイコンが表示されます。すべてのモニターが OK状態の場合には、モニターツリーが図のようになります。



失敗状態

モニターがテストに失敗すると*失敗*状態になり、モニターツリー内のモニターの横にオレンジのステータス■アイコンが表示されます。*失敗*状態は、OK状態よりも優先されます。この場合、■アイコンがモニターツリーの最上位までレポートされます。



アラームの状態

モニターがテストに失敗し続けると、最終的にアラーム状態になり、モニターツリー内のモニターの横に赤のステータス・アイコンが表示されます。モニターがアラーム状態になるために必要なテストの失敗回数 (アラームカウント) は、多くのモニターで 5 に設定されます。これはデフォルト値で、変更可能です。アラーム状態は失敗状態や OK状態よりも優先されるため、・アイコンがモニターツリーの最上位までレポートされます。



切断状態

ゲートウェイとサーバーとの接続が切断されると、特殊な□アイコンが表示されます。この場合、 ゲートウェイとすべての下位ノードはデータをサーバーに返すことができなくなります。



このセクションで

モニターのコマンドとビュー	58
モニターの追加	62
事前構成モニターの追加	
モニターの編集	
アラームメッセージ	68
フォーマット変数	69
アラームの確認	71

モニターのコマンドとビュー

コマンド

次に示すコマンドは、モニターノードの選択時に、上部のビュータブが選択されているかどうかに かかわらず表示されます。

- **編集** 資産のプロパティ 『51 ページ 』を編集します。
- **非アクティブ化** モニターを非アクティブにします。

- **コピー** モニターを、選択した資産にコピーします。
- 削除 モニターを削除します。
- レポートの作成 レポート 『72 ページ 』の表示、E メール送信、または公開を行います。
- **すぐにテスト** モニターをすぐにテストします。

表示

- **[サマリー]タブ** 『50ページ』 このタブは、モニターで表示されます。
- [**アクション]タブ** 『59 ページ 』 このタブは、ゲートウェイ、サブグループ、資産、および モニターで表示されます。
- **[監査]タブ** 『39ページ 』 このタブは、ゲートウェイ、サブグループ、資産、およびモニターで表示されます。
- [状態変化ログ]タブ 『51 ページ 』 このタブは、資産およびモニターで表示されます。
- **[アラームのシミュレート]タブ** 『62ページ』 このタブは、モニターで表示されます。

[サマリー]タブ

このタブは、モニターで表示されます。

アクティブなモニターの[**サマリー**]タブには、返された最新データが表示されます。通常、このビューには3つのセクションがあります。

- モニターステータス 最新の値と、*失敗*状態をトリガーする閾値が表示されます。
- **ライブデータ** モニターが返した最新のテスト値のグラフ。モニターの構成時にグラフの期間も設定されます。
- **モニターログ** モニターが返された各テスト値のログ。

[アクション]タブ

このタブは、ゲートウェイ、サブグループ、資産、およびモニターで表示されます。

[アクション]タブには、アクションのセットが表示されます。アクションは、直接または*継承*によって定義します。各アクションは、特定のアラームカウントに対応して実行されます。同じアラームカウントに対して複数のアクションを定義することができ、それが一般的です。

注: アラームカウントとアラーム状態は異なることに注意してください。任意のアラームカウントを使用して一連のアクションを実行できます。アラーム状態のカウントに一致している必要はありません。



デフォルトのチケットアクション

Network Monitor のインストール時に、チケットアクションが KNM のルートノードに追加されます。デフォルトでは、チケットアクションはモニターツリー内の他のすべてのノードに継承されます

。これによって、**チケット発行**モジュールまたは **Service Desk** モジュールでチケットの自動作成が可能になります。

リカバリアクション

アラーム状態の資産を修正するために管理者が介入しなければならないことがあります。また、資産が一時的にアラーム状態になった後、独自に回復することもあります。いずれの場合でも、モニターが回復すると、Network Monitor は一連の リカバリアクションを実行できます。リカバリアクションは、モニターが OK 状態に戻ると実行されます。 モニターが回復すると、アラームの数に関係なく、モニターの[アクション] タブに表示されたすべてのリカバリアクションが実行されます。

[アクション]タブへのアクションの追加

- 1. [アクション]タブの上部にある[アクションの追加]ボタンをクリックします。
- 2. 中央パネルの[新規アクションの追加]ツリーからアクションを選択します。
- 3. 右側のパネルで[アクションの追加]コマンドを選択します。
- 4. 選択したアクションについて**アクションのプロパティ**を編集します。選択可能な**アクションのリスト** 『159 ページ 』を示します。



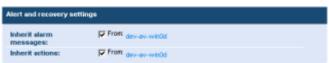
アクションおよびリカバリアクションの階層管理

すべてのノードには[**アクション**]タブがあります。[**アクション**]タブには、現在選択しているノードに適用されるすべての**アクション**および**リカバリアクション**が表示されます。[**継承元**]列には、すべての上位ノードから継承されるアクションが表示されます。現在選択しているノードに、アクションおよびリカバリアクションを追加できます。このタブにあるすべてのアクションおよびリカバリアクションは、アクションおよびリカバリアクションを継承するように設定されている子ノードに適用されます。



アクションおよびリカバリアクションの継承の無効化

現在選択しているノードについて、アクションおよびリカバリアクションの継承を無効にできます。*継承されたアクションおよびリカバリアクションを無効にすると、アクションおよびリカバリアクションを継承するように設定されている子ノードへの継承が無効になります。*[基本プロパティ]タブまたは[詳細]タブの編集モードでは、[警報およびリカバリの設定]セクションが表示されます。現在選択しているノードから、継承しているアクションおよびリカバリアクションをすべて削除するには、[アクションの継承]のチェックを解除します。この変更を保存した後、現在選択しているノードの[アクション]タブが再表示されます。継承されていたアクションとリカバリアクションが表示されなくなりました。



顧客固有のアクションおよびリカバリアクションの管理

アクションおよびリカバリアクションのセットをモニターツリーの"顧客"レベルで管理し、カスタマイズすると非常に便利です。たとえば、単一のネットワークを表すゲートウェイノードを使用して、顧客固有のアラームメッセージおよびアラームアクションを作成できます。これにより、これらの顧客設定が、モニターツリー内のそのゲートウェイノードより下にあるすべてのモニターに*継承*

可能になります。

ゲートウェイに対するアクション

ゲートウェイに割り当てられたモニターの場合、アクションの実行は少し異なります。次のアクションは常にサーバー側で実行されます。

- Eメールの送信
- SMS の送信
- Pagegate 経由のページング

その他すべてのアクションはゲートウェイ側で実行されます。

[アラームのシミュレート]タブ

このタブは、モニターで表示されます。

[アラームのシミュレート]タブでは、特定のモニターがアラーム状態になると発生するイベントを記載したレポートを生成します。Network Monitor におけるアラームのエスカレーションの仕組みをよりよく把握できるように、レポートにはエスカレーションの進行状況に関する詳細情報が記載されます。レポートに記載された時刻は、最初のアラーム生成時刻を基準にしています。

次に示すサンプルレポートは、デフォルトのアクションが割り当てられた空きディスクスペースモニターについて、アラームのシミュレート機能で生成されたものです。



注: システム管理者がすべてのアクションを無効にした場合、**アラームのシミュレート**機能は正しく動作しません。

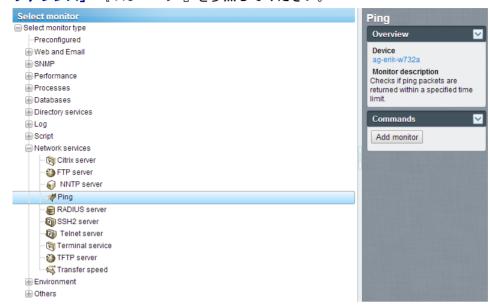
モニターの追加

〈選択した資産〉〉「新規モニターの追加」

モニターを資産に追加するには、次の手順に従います。

- 1. モニターツリーから資産ノードを選択します。
- 2. [新規モニターの追加]コマンドを選択します。

► モニタータイプ 『119ページ』 (40 種類以上。順次追加) のリストが表示されます。どのオペレーティングシステムがどのモニターをサポートするかについては、「モニターのリファレンス」 『119ページ』を参照してください。



- 3. カテゴリーとモニタータイプを選択します。
- 4. [モニターの追加]コマンドを選択します。
- 5. **モニターのプロパティタブを編集** 『64ページ』 して、モニターを構成します。

注:事前構成のモニターを追加 『63ページ』する方法は、さらに簡単です。

事前構成モニターの追加

Network Monitor は、資産に適切な事前構成モニターを決定できます。通常は、新しい資産が検出された直後に事前構成モニターを追加します。資産の資格情報または設定が変更された場合にもこの追加が推奨されます。

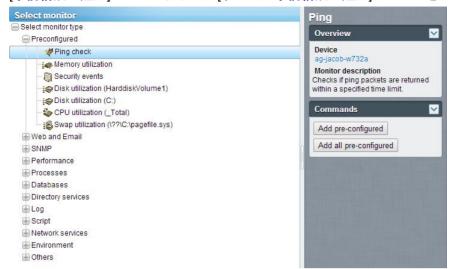
事前構成モニターを資産に追加するには、次の手順に従います。

1. 資産の[**すぐに検査**]コマンドをクリックします。検査が完了するまで待ちます。

注: [その他]**>[資産]タブ 『33** ページ **』**の[**すぐに検査**]オプションを使用すると、**複数の資産で同時 に**[*今すぐ検査*]を実行することもできます。

- 2. [新規モニターの追加]をクリックして、事前構成モニタータイプのリストを表示します。
- 3. リストの任意の事前構成モニタータイプをクリックします。

4. [事前構成の追加]コマンド、または[すべての事前構成の追加]コマンドをクリックします。



モニターの編集

<選択したモニター> > [編集]

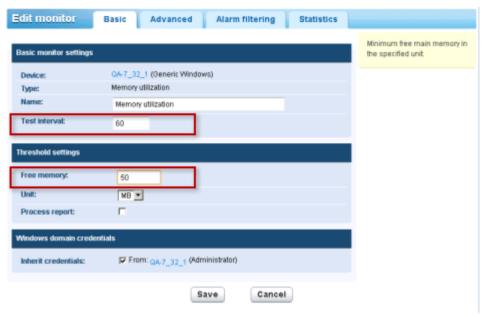
[モニターの編集]タブでは、資産に割り当てたモニターのプロパティを設定します。

- [基本]タブ 『66ページ』 この編集タブは、モニターで表示されます。
- **[詳細]タブ** 『66ページ 』 ゲートウェイ、サブグループ、資産、およびモニターには、**[詳細]** 編集タブが表示されます。
- [アラームのフィルター処理]タブ 『67ページ 』 この編集タブは、モニターで表示されます
- [統計]タブ 『68ページ』 この編集タブは、モニターで表示されます。

例

パフォーマンス>メモリ使用率モニターを選択した場合に設定可能なプロパティを調べます。

注: 多くのモニターには、次の*標準モニター設定*が表示されます。 *モニター固有の設定*については、「モニターのリファレンス」 『119 ページ 』を参照してください。



- [基本プロパティ]セクションの[テスト間隔]値は、*最初のアラームが生成されるまで*のテスト間 の経過時間を表します。
- [閾値の設定]セクションでは、ツールチップに表示されるように、このモニターに必要な最小の空きメモリを指定します。



■ [アラーム生成]の値は、アラームが生成される要件である、"テスト"の最小連続失敗回数です。

管理インターフェース

- [アラームのテスト間隔]の値は、*最初のアラームが生成されてからの*テスト間の経過時間です。通常、元のアラームにユーザーが応答する時間を確保するために、この間隔は[テスト間隔] の値よりもかなり大きくなります。
- 最初のアラームカウント後、連続でテストが失敗するたびにアラームカウントが 1 増加します
- **「アラーム状態の遷移」** 『56 ページ 』で説明しているように、次のように表示が変化します
 - ▶ 初めてモニターがテストに失敗すると、モニターツリー名のモニターの横に警告

 アイコンが表示されます。
 - テストの失敗回数 (アラームカウント) が[アラーム生成]フィールドの値に一致すると、モニターが アラーム状態になります。モニターツリー名のモニターの横にアラーム●アイコンが表示されます。
 - ▶ モニターのアラーム状態は、次のいずれかが発生するまで続きます。
 - ✓ その後継続された連続テストで、1回以上成功する。
 - ✓ ユーザーがアラームを確認する。アラームが確認されたということは、ユーザーが アラーム状態を認識し、対応中であることを意味します。
 - ✓ モニターが編集される。

基本編集タブ - モニター

この編集タブは、モニターで表示されます。

注: 多くのモニターには、次の*標準モニター設定*が表示されます。 *モニター固有の設定*については、「モニターのリファレンス」 『119 ページ 』を参照してください。

[基本]タブ

- 資産 資産の名前。
- **タイプ** モニターのタイプ。識別された**オペレーティングシステム** 『119 ページ 』 により、 資産に追加可能なモニターのタイプが決まります。
- **名前** モニターの一意の名前。デフォルトはモニタータイプ名です。
- **テスト間隔** 前回のテストが OKであった場合に待機する期間。通常、[**詳細**]タブの[アラーム テスト間隔]を使用して指定されるように、前回のテストが失敗した場合にこの間隔は長くなります。

[詳細]編集タブ・モニター

グループ、ゲートウェイ、資産、およびモニターには、[詳細]編集タブが表示されます。

注:多くのモニターには、次の*標準モニター設定*が表示されます。 *モニター固有の設定*については、「モニターのリファレンス」 『119 ページ 』 を参照してください。

警報の設定

- **アラーム生成** アラームが生成される要件である、"テスト"の最小*連続*失敗回数を指定します
- **アラームのテスト間隔** 最初のアラームが生成されてからのテスト間の経過時間を指定します。通常、元のアラームにユーザーが応答する時間を確保するために、この間隔は[基本]タブの[

テスト間隔]の値よりもかなり大きくなります。最初のアラームカウント後、連続でテストが失敗するたびにアラームカウントが1増加します。

■ **アクティブ** - チェックした場合、このモニターはアクティブです。モニターがアクティブではない場合、いずれのテストも実行されません。このチェックボックスは、デフォルトでチェックされています。

統計およびグラフの設定

- 統計を保存する・チェックした場合、収集されたデータはディスクに保存されます。
- **グラフの分解能** チャートに表示する期間。
- **チャンネルのグループ化** モニターが複数チャンネルのデータを返す場合、1 つのグラフに表示可能なデータのチャンネル数。これが主に役立つのは、異なる外部センサーの統計データを個別に保存する環境モニターなどのモニターです。

簡易メンテナンス

次の設定により、1 つのモニターのメンテナンス期間を簡単に指定できます。

注: Network Monitor > [スケジュール] > [モニターメンテナンス] 『97 ページ 』を使用すると、*複数の*モニターのメンテナンススケジュールを指定できます。

- 開始時刻/(終了時刻) このモニターがメンテナンスのためにダウンする1日の時間範囲。
- 曜日 このモニターがメンテナンスのためにダウンする曜日。
- **メンテナンスモード** メンテナンス中にテストを停止します。これは、メンテナンス期間中に利用可能な唯一のモードです。

警報とリカバリの設定

- **アラームメッセージの継承** このノードの**アラームメッセージ** 『68 ページ 』のフォーマットを設定します。
- **アクションの継承** チェックした場合、継承したアクションおよび継承したリカバリアクションがこのノードの[**アクション** 『59ページ』]タブに表示されます。

[アラームのフィルター処理]編集タブ・モニター

この編集タブは、モニターで表示されます。

注: 多くのモニターには、次の*標準モニター設定*が表示されます。 *モニター固有の設定*については、「モニターのリファレンス」 『119 ページ 』を参照してください。

このタブでは、モニターのアラームカテゴリーをフィルター処理で除外できます。たとえば、ネットワーク接続が不安定なためにモニターで偽の警報が発生している場合、[**ネットワークエラー**]のチェックを解除して、それらのエラーを無視します。デフォルトでは、すべてのエラータイプで警報が発生します。

- ネットワークエラー ネットワーク接続エラー条件で警告を発生します。
- **閾値エラー** モニター閾値エラー条件で警告を発生します。
- **その他のエラー** 未分類のエラー条件で警告を発します。

[統計]編集タブ - モニター

この編集タブは、モニターで表示されます。

注: 多くのモニターには、次の*標準モニター設定*が表示されます。 *モニター固有の設定*については、「モニターのリファレンス」 『119 ページ 』を参照してください。

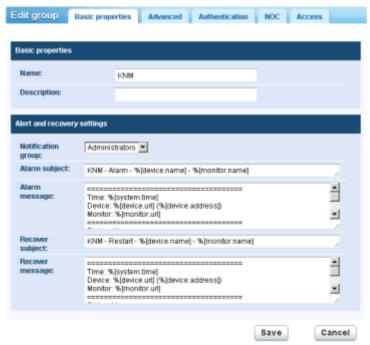
このタブには、モニターによって記録された各種の統計データの表示設定があります。チェックした場合、モニター情報ビューのリアルタイムグラフに指定データが表示されます。

アラームメッセージ

ゲートウェイ、サブグループ、資産、およびモニターにはアラームメッセージを指定できます。 アラームが連続でテストに失敗したときに実行可能な複数のアクションは、メッセージの送信です

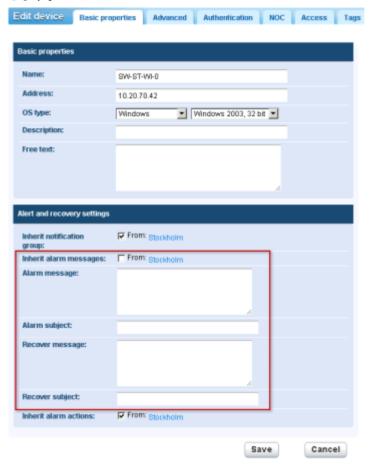


すべてのメッセージタイプに使用されるデフォルトのフォーマットは、モニターツリー最上位の*ルートノード(デフォルト名はKNM)*によって指定されます。その他すべての子ノードは、オーバーライドを選択しないかぎり、このメッセージフォーマットを*継承*します。アクションメッセージとリカバリアクションメッセージには、個別のフォーマットがあります。利用可能な**フォーマット変数** 『69ページ』のリストを参照してください。



継承されたデフォルトのフォーマットをオーバーライドするには、[基本プロパティ]タブまたは[詳

細]タブをクリックします。次に、[**アラームメッセージの継承**]チェックボックスのチェックを解除します。



フォーマット変数

Network Monitor では、すべての送信メッセージのテキストにフォーマット変数を含めることができます。フォーマット変数が解決されてから、メッセージが処理されて受信者に送信されます。これらのフォーマット変数の多くはコンテキストに依存します。たとえば、フォーマット変数 %[monitor.error]は、モニターアクションによってアラームがトリガーされたときにのみ解決されます。このフォーマット変数は、メールの送信スケジュールイベントで使用した場合には解決されません。

%[system.time]	現在の時刻
%[system.time_hour]	24 時間フォーマット
%[system.time_hour2]	12 時間フォーマット
%[system.time_minute]	分を含める
%[system.time_second]	秒を含める
%[system.date]	現在の日付
%[system.date_year]	現在の日付と西暦 4 桁の年
%[system.date_year2]	西暦年の下2桁

管理インターフェース

%[system.date_month]	01~12 までの月
%[system.date_day_of_month]	01~31 までの月の日
%[system.date_weekday]	0 - 日曜日、6 = 土曜日
%[system.date_day_of_year]	1~366 までの年の日
%[group.name]	グループ名
%[group.path]	グループの完全なパス
%[group.id]	グループの一意の ID
%[group.url]	グループへのリンク
%[group.kb_article_url]	現在のグループに関する項目へのリンク
%[group.company]	グループ/会社名
%[group.additional]	グループ/会社の追加行 1
%[group.additional]	グループ/会社の追加行 2
%[group.contact]	グループ/会社の連絡先名
%[group.email]	グループ/会社の E メール
%[group.phone]	グループ/会社の電話番号
%[group.cellphone]	グループ/会社の携帯電話番号
%[group.fax]	グループ/会社のファックス番号
%[group.address1]	グループ/会社の住所 1
%[group.address2]	グループ/会社の住所 2
%[asset.local_time]	資産のローカル時間
%[asset.name]	name
%[asset.id]	資産の一意の ID
%[asset.free_text]	
%[asset.address]	
%[asset.ip]	
%[asset.description]	
%[asset.notification_group]	
%[asset.mac]	
%[asset.url]	資産へのリンク
%[asset.kb_article_url]	現在の資産に関する項目へのリンク
%[monitor.name]	
%[monitor.id]	
%[monitor.error]	
%[monitor.error2]	
%[monitor.type]	
%[monitor.current_status]	
%[monitor.time_last_ok]	
%[monitor.time_last_ok_local_time]	
%[monitor.time_last_failed]	
%[monitor.time_last_failed_local_time]	

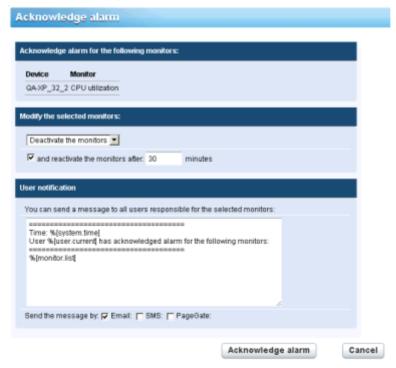
%[monitor.dependency_status]	
%[monitor.url]	
%[user.current]	ユーザー名 ([アラームの確認]で使用)
%[user.on_duty]	"勤務中"のユーザーの名前(ユーザー作業 スケジュールで定義)
%[user.distribution_list]	Eメールを受信するユーザーのリスト
%[system.charts]	モニターのリアルタイムグラフ
%[report.name]	
%[report.description]	
%[monitor.list]	確認されたモニター([アラームの確認] で使用)

アラームの確認

アラームを確認するには、ゲートウェイ、サブグループ、または資産ノードの[モニタービュー]タブの上部にある「確認」ボタンをクリックします。

ユーザーは、1つ以上のモニターのアラーム状態を確認し、アラームが調査中であることを他のユーザーに通知できます。アラームを確認するときには、ユーザーには2つの選択肢があります。

- アラームステータスのクリア アラーム状態をクリアし、モニターを OK状態に戻します。
- モニターの非アクティブ化 モニターを非アクティブにします。自動的に N 分後にモニターを 再びアクティブにするチェックボックスがあります。再びアクティブにするチェックボックス のチェックマークを解除するした場合、手動でアクティブにするまでモニターは非アクティブ のままになります。



確認通知のフォーマット

確認通知メッセージのフォーマットは、モニターッリーの下位に継承されません。その代わり、Network Monitor の[設定] > [SMS] > [デフォルトのメッセージ] 『117 ページ 』 タブを使用してデフォルトの通知フォーマットを指定し、すべてのノードに適用します。

注: 「フォーマット変数」 『**69**ページ 』のトピックには、確認通知メッセージに含めることができるフォーマット変数のリストがあります。

レポート

Network Monitor は、記録したモニターデータから統計レポートを生成できます。すべてのレポートは、設計要素 (グラフ、トップリスト、ダウンタイム情報、データテーブル、コメント、イメージなど) の 共通セットを使用して作成されます。レポート全体のスタイルと色の設定はスタイルテンプレートで制御されるため、最終的なレポートに、自社のカラースキームやロゴタイプを簡単に追加できます。

このセクションでは、さまざまなレポートの表示方法および公開方法について説明します。

レポートテンプレートの表示

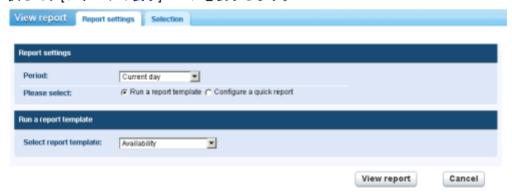
<ノードを選択> > [レポートの作成] > [ブラウザで表示]

[レポートの表示]ページでは、2種類のレポートを表示できます。

- レポートテンプレート
- クイックレポート

通常、*まず*グループ、資産、またはモニターを選択し、次に表示するレポートの種類を選択します

- 1. モニターツリーから任意のノードを選択します(通常はゲートウェイまたはサブグループ)。 ノードの種類に応じて、資産またはモニターが中央パネルにリストされます。
- 2. [レポートの表示]ボタンをクリックするか、[レポートの作成] > [ブラウザで表示]コマンドを選択して、[レポートの表示]ページを表示します。



レポートの設定

[レポートの表示]ページの[レポートの設定]タブには、3 つの初期オプションが表示されます。

- 期間 レポートの期間を選択します。
 - ▶ 本日、今週、今月、現四半期、今年

- ▶ 前日、前週、前月、前四半期、前年
- > ユーザー定義の期間
- ▶ オフセットの日数
- レポートテンプレートの実行 事前定義のレポートテンプレートのリストから選択します。 Network Monitor には、役に立つ設定済みのレポートテンプレートセットが付属しています。 設定済みのレポートテンプレートをカスタマイズすることも、独自のレポートテンプレートを 作成することもできます。レポートテンプレートでは、データおよび設計要素の種類が既に選 択されているため、実行するレポートテンプレートを選択するだけで済みます。
- **クイックレポートの構成** このオプションを選択する前に、特定のモニターを選択することが 推奨されます。モニターを選択した場合、デフォルトで**クイックレポート** 『73ページ』には 選択したモニターと互換性のある設計要素のセットが含まれます。このオプションを選択する 前にモニターを選択しない場合、各設計要素を手動で追加する必要があります。

選択

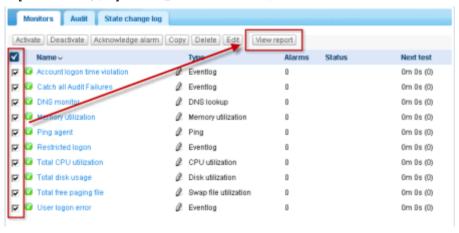
[レポートの表示]ページの[選択]タブでは、いずれかの種類のレポートに選択したゲートウェイまたはサブグループ、資産およびモニターのデフォルト選択をオーバーライドできます。

クイックレポートの表示

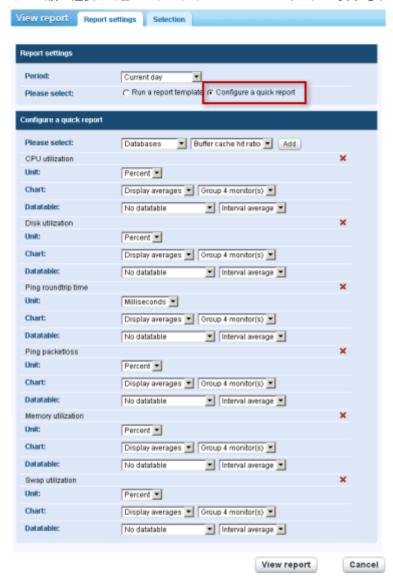
<ノードを選択>> <モニターを選択>> [レポートの表示]

資産に各種のモニターを割り当てた後、**クイックレポート**を実行して*各種のモニターから収集したデータを比較できます。*複数の資産を選択すると、同じモニタータイプのデータはグラフ上でグループ化されます。

クイックレポートを構成する最も簡単な方法は、1 つの資産の[モニター]タブのリスト表示から行うことです。[モニター]タブで、その資産のモニターをすべて選択します。モニターリストの上部にある[レポートの表示]ボタンをクリックします。



[**クイックレポートの構成**]オプションをオンにします。[レポート設定]タブには、一連の構成セクション (前に選択した各モニタータイプについて1つ以上) が表示されます。



ページの下部にある[レポートの表示]ボタンをクリックします。モニターデータは、[レポート設定] タブで構成したセクションごとにグラフのフォーマットで表示されます。

注: レポートを新しいタブまたはウィンドウに表示するには、Network Monitor > [ユーザー] > [マイ設定] > [インターフェースオプション]タブの[レポートの表示]ドロップダウンリストから[レポートを新規ウィンドウで開く]を選択します。

この同じページを使用して、次の操作も実行できます。

- [レポート設定]タブの上部にある[追加]ボタンをクリックして、新しいセクションを追加する。
- 別の期間を選択する。
- [**選択**]タブを使用して、複数のグループ、資産、およびモニターを選択する。

注: [レポートテンプレートの実行]オプションを選択して、選択した資産の事前定義レイアウトを使用してレポートを実行することもできます。

カスタマイズされたレポートの表示

カスタマイズされたレポートは、一定の内容をもつレポートを定義する場合に適しています。また、異なる期間のデータを含むレポートを作成する場合も、カスタマイズされたレポートを使用することが唯一の方法です。

カスタマイズされたレポートはレポートテンプレートと同様に設計できますが、*特定のグループ、 資産、およびモニターにバインドされます*。そのため、最初にモニターツリーからノードを選択すると、カスタマイズされたレポートは実行されません。*その代わり、カスタマイズされたレポート* の作成と実行を行うには、Network Monitor の> [レポート] > [カスタマイズされたレポート 『82 ページ』]を選択します。

注: カスタマイズされたレポートの設計と実行はレポートテンプレートによく似ているため、まず**レポートテンプレート『83**ページ』の構成に慣れることが推奨されます。カスタマイズされたレポートには、グループ、資産、およびモニターを指定する必要があるフィールドが追加されているだけです。

レポートのEメール送信および公開

<ノードの選択> > [レポートの作成] > [Eメール送信または公開]
Network Monitor > [レポート] > [レポートのカスタマイズ] > (アイコンをクリック)

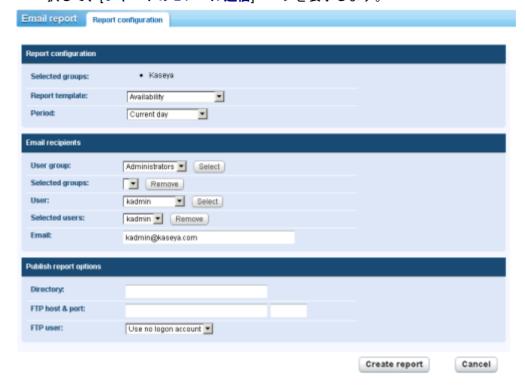
[レポートのEメール送信]ページでは、選択したレポートテンプレートまたはカスタマイズされたレポートをEメールの添付ファイルとして配布したり、ファイルの場所を設定したりすることができます。レポートを生成する前にプレビューすることはできません。

サブグループ、資産、またはモニターを最初に選択します。

1. モニターツリーから任意のノードを選択します(通常はサブグループ)。ノードの種類に応じて、資産またはモニターが中央パネルにリストされます。

管理インターフェース

2. [レポートの表示]ボタンをクリックするか、[レポート] > [E メール送信または公開]コマンドを選択して、[レポートの E メール送信]ページを表示します。



レポートの構成

- **選択したグループ** 選択したグループノードが表示されます。
- レポートテンプレート レポートテンプレートを選択します。
- 期間 レポートの期間を選択します。
 - ▶ 今日、今週、今月、現四半期、今年
 - ▶ 昨日、先週、先月、前四半期、前年
 - ▶ ユーザー定義の期間
 - ▶ オフセットの日数

Eメール受信者

- 資産の選択/選択した資産 資産名のいずれかの部分に一致するテキストを入力します。[資産の選択]リストから資産を1つ以上選択し、[追加]ボタンをクリックします。1つ以上のユーザーグループを選択したグループから削除するには、ユーザーグループを選択し、[削除]ボタンをクリックします。
- ユーザー/選択したユーザー [ユーザー]リストから VSA ユーザーを 1人以上選択し、[選択]ボタンをクリックします。1人以上のユーザーを[選択したユーザー]リストから削除するには、ユーザーを選択し、[削除]ボタンをクリックします。
- **Eメール** 個別の Eメールアドレスを受信者として指定します。複数のエントリーはコンマで 区切ります。

レポートの公開のオプション

レポートをEメールで送信する代わりに、ネットワーク上の場所に保存できます。

- **ディレクトリ** 生成されたレポートは、ネットワークフォルダで HTML ドキュメントとして公開されます。このフォルダのパスを指定します。ファイル名を指定するときに、次のフォーマット変数を含めることができます。
 - ➤ %[system.date] 現在の日付(フル)
 - ➤ %[system.date year] 現在の年
 - ➤ %[system.date month] 現在の月
 - ▶ %[system.date day of month] 月内の現在の日付
 - ➤ %[system.time] 現在の時刻(フル)
 - ➤ %[system.time hour] 現在の時
 - ➤ %[system.time_minute] 現在の分
 - ➤ %[system.time second] 現在の秒
- FTP のホストおよびポート 生成されたレポートは、FTP サーバー上で HTML ドキュメントとして公開されます。ホスト名とポート番号を指定します。デフォルト値は 21 です。
- FTP ユーザー FTP サーバーでの認証に使用するログオンアカウントを選択します。

スケジュールレポート

レポートの自動生成をスケジュールするには、スケジュール済みイベントの機能を使用します。スケジュール済みイベントの操作方法については、「スケジュール済みイベント」 『37ページ 』のセクションを参照してください。レポートの生成 『172ページ 』イベントの詳細については、「スケジュール済みイベントのリファレンス」セクションを参照してください。

チャプター 3

ナビゲーションパネルのリファレンス

Network Monitor のナビゲーションパネルには、モニターツリーのノードには関係しないモジュールの設定と機能があります。

この章で

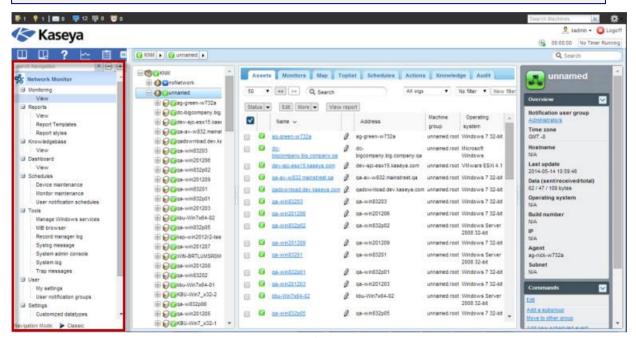
ナビゲーションパネルの概要	81
カスタマイズされたレポート	82
レポートテンプレート	83
ナレッジベース項目	92
ダッシュボード	
資産メンテナンス	96
モニターメンテナンス	97
ユーザー通知のスケジュール	
Windows サービスリスト	
MIB Browser	
レコードマネージャログ	104
Syslog のメッセージ	105
システム管理者コンソール	
システムログ	108
トラップメッセージ	108
マイ設定	109
ユーザー通知グループ	109
カスタマイズされたデータタイプ	
資産テンプレート	111
ログ設定	

NOC の設定	113
その他のシステム設定	
SMS 設定	114
デフォルトのメッセージ	

ナビゲーションパネルの概要

Network Monitor のナビゲーションパネルにはコンテンツのさまざまなビューがあり、モジュールレベルで設定を構成できます。

注: ナビゲーションパネルは、Network Monitor の旧スタンドアロンリリースの"Kメニュー"に代わる機能です。



各機能の詳細については、本ドキュメントの「ナビゲーションパネルのリファレンス」 『79ページ』を参照してください。次の表に、ナビゲーションパネルの各オプションの簡単な説明を示します。

機能 説明

[モニタリング] > **[ビュー**] 『13 ペ **[モニタリング]ビュー** 『13 ページ 』を選択します。

[レポート] > [**ビュー**] 『82 ページ 選択したノードセットにバインドされるカスタムレポートを設定します。

レポート・テンプレート 『83 ペ 任意のノードセットに適用可能なレポートテンプレートを構成します。 一ジ 』

レポートスタイル 『84ページ 』 レポート、レポートテンプレート、およびカスタムレポートの全体的な外観を構成します。

[ナレッジベース] > **[ビュー**] 『92 [ナレッジベース]ビューを選択します。 ページ 『

[ダッシュボード] > **[ビュー**] 『95 [ダッシュボード]ビューを選択します。 ページ 』

資産メンテナンス 『96ページ』 資産メンテナンスのスケジュールを構成します。

モニターメンテナンス 『97ペー モニターメンテナンスのスケジュールを構成します。 ジ 』

ユーザー通知のスケジュール 『 98ページ 』	Network Monitor ユーザー作業スケジュールを構成します。
Windows サービスの管理 『100 ページ 』	[Windows サービスの管理]ビューを選択します。
MIB ブラウザ 『101 ページ 』	[MIB ブラウザ]ビューを選択します。
レコードマネージャログ 『104 ページ 』	レコードマネージャログを選択します。
Syslog のメッセージ 『105 ページ』	[Syslog のメッセージ]ビューを選択します。
システム管理者コンソール 『 106ページ』	[システム管理者コンソール]ビューを選択します。
システムログ 『108ページ』	Kaseya Network Monitor サービスによって作成されたログエントリーを表示します。
トラップメッセージ 『108ページ』	[SNMP トラップメッセージ]ビューを選択します。
マイ設定 『109ページ』	[マイ設定の編集]ビューを選択します。
ユーザー通知グループ 『109 ペ ージ 』	ユーザーグループを管理します。その該資産に割り当てられた通知ユー ザーグループのすべてのメンバーに資産通知が送信されます。
カスタマイズされたデータタイプ 『110ページ』	モニターで使用される、汎用データを格納可能なカスタマイズされたデ ータタイプを作成します。
資産テンプレート 『111 ページ 』	資産に適用可能なモニターセットを 1 段階のステップで構成します。
ログ設定 『112ページ』	Network Monitor のログポリシーを設定します。
NOC 構成 『113 ページ 』	カスタマイズされた NOC <i>(Network Operations Center)</i> のビューを作成します。
その他のシステム設定 『113ペ ージ』	警報やその他のイベントの追加設定を行います。
SMS 『114ページ 』	SMS メッセージ文字列を設定します。

カスタマイズされたレポート

Network Monitor > [レポート] > [ビュー]

[カスタマイズされたレポート]ページでは、すべてのカスタマイズされたレポートを管理します。カスタマイズされたレポートは、一定の内容をもつレポートを定義する場合に適しています。また、異なる期間のデータを含むレポートを作成する場合も、カスタマイズされたレポートを使用することが唯一の方法です。カスタマイズされたレポートはレポートテンプレートと同様に設計できますが、特定のサブグループ、資産、およびモニターにバインドされます。そのため、最初にモニターツリーからノードを選択すると、カスタマイズされたレポートは実行されません。その代わり、カスタマイズされたレポートの作成と実行を行うには、Network Monitor > [レポート] > [ビュー]を選択します。

次の各サブトピックでは、**レポートテンプレート** 『83 ページ 』、およびカスタマイズされたレポートの両方について説明します。フィールドの中にはカスタマイズされたレポートにのみ適用されるものがあり、各トピックで説明します。

- レポートのプロパティ 『84 ページ』
- スタイルテンプレート 『84 ページ』
- レポート情報 『85ページ』
- レポートのデータタイプ 『86ページ』
- **グラフ** 『87 ページ 』
- **データテーブル** 『88 ページ』
- **ダウンタイムレポート** 『89 ページ』
- コメント 『90ページ』
- 画像 『91ページ』
- ▶ トップリスト 『91ページ』

アクション

- **削除** 選択したレポートを削除します。
- 新しくカスタマイズされたレポート *(または) で編集) -* レポートのプロパティ 『84ページ』 を編集します。
- *(詳細の編集)* **下線付きのレポート名** 『85 ページ 』をクリックすると、レポートの設計要素 リストの追加または編集ができます。
- *(レポートの表示)* 選択したカスタマイズされたレポートをブラウザに表示します。
- (Eメール送信または公開) [●] Eメールの添付ファイルとしてレポートを配布 『75ページ』 するか、レポートをネットワーク上の場所に保存します。

レポートテンプレート

Network Monitor > [レポート] > [レポートテンプレート]

[レポートテンプレート]ページでは、すべてのレポートテンプレートを管理します。レポートテンプレートには、事前定義のレイアウト、データオブジェクトおよび設計要素のセットが含まれます。レポートテンプレートはグローバルなものであり、任意の場所に適用できます。モニターツリー内の任意のノードを選択し、[レポートの作成] > [ブラウザに表示]コマンドをクリックして、選択したレポートテンプレートからレポートを生成できます。デフォルトで、選択したノードに含まれるすべての資産とモニターがレポートに含まれます。また、[レポートテンプレート]ページ自体から実行することもできます。

Network Monitor では、多数の事前定義レポートテンプレートが用意されています。設定済みのレポートテンプレートをカスタマイズすることも、独自のレポートテンプレートを作成することもできます。

次の各サブトピックでは、レポートテンプレート、および**カスタマイズされたレポート** 『82ページ』の両方について説明します。フィールドの中にはカスタマイズされたレポートにのみ適用されるものがあり、各トピックで説明します。

- レポートのプロパティ 『84 ページ』
- スタイルテンプレート 『84 ページ』
- レポート情報 『85ページ』
- レポートのデータタイプ 『86ページ』
- **グラフ** 『87 ページ 』
- **データテーブル** 『88 ページ』
- **ダウンタイムレポート** 『89 ページ 』

- コメント 『90ページ』
- 画像 『91ページ』
- トップリスト『91ページ』

アクション

- 削除 選択したレポートを削除します。
- 新規レポートテンプレート *(または) で編集) レ*ポートのプロパティ 『84 ページ 』を編集します。
- *(レポートの構成)* **下線付きのレポート名** 『85 ページ 』をクリックすると、レポートの設計 要素を構成できます。
- *(レポートの表示)* **選択したカスタマイズされたレポートをブラウザに表示します** 『72ページ』。
- (E メール送信または公開) ¹ E メールの添付ファイルとしてレポートを配布『75ページ』 するか、レポートをネットワーク上の場所に保存します。

レポートのプロパティ

Network Monitor > [レポート] > [レポートテンプレート] > (レポートテンプレートの アイコンをクリック)

Network Monitor [レポート] > [ビュー] > (カスタマイズされたレポートの⊄アイコンをクリック)

[**レポートのプロパティ**]ページでは、レポートテンプレートまたはカスタマイズされたレポートの基本プロパティを指定します。

- 名前 レポートの名前を入力します。名前はリストビューでレポートを表します。
- 説明 レポートとその機能の詳細な説明。
- レポートのカテゴリー レポートのカテゴリーを選択します。レポートは、ユーザーインターフェース全体でカテゴリー別にグループ化されます。
- スタイル・レポートのスタイルテンプレート 『84ページ』 を選択します。
- **お気に入り** チェックした場合、項目は現在のユーザーのお気に入りとしてマークされます。 現在のユーザーのお気に入り項目は、お気に入りウィジェットを使用してダッシュボードに表示できます。
- **表示設定** カスタマイズされたレポートにのみ適用されます。
 - プライベート 選択した場合、現在のユーザーのみがカスタマイズされたレポートをリストビューに表示できます。
 - ▶ システム管理者 選択した場合、自分とシステム管理者がカスタマイズされたレポートをリストビューに表示できます。

レポートスタイル

Network Monitor > [レポート] > [レポートスタイル]

スタイルテンプレートは、レポートの全体的な外観を制御します。スタイルテンプレートは、同じスタイルテンプレートを使用するすべてのレポートに共通の多数の異なる要素で構成されます。レポートテンプレート 『83ページ』 およびカスタマイズされたレポート 『82ページ』 の両方ともスタイルテンプレートを使用できます。

アクション

- **削除** 選択したスタイルテンプレートを削除します。
- **新しいスタイルテンプレート** (または で編集) スタイルテンプレートの追加または編集を行います。[色設定]タブは、編集モードでのみ表示されます。

基本プロパティ

- **名前** テンプレートの名前です。名前はリスト内でテンプレートを識別するために使用します
- 説明 スタイルテンプレートの詳細な説明。
- **ヘッダー** 生成されたすべてのテンプレートの上部にはヘッダーが表示されます。ヘッダーには、次のパラメータを含めることができます。
 - > %[system.time] 現在の時刻
- **フッター** 生成されたすべてのテンプレートの下部にはフッターが表示されます。フッターには、次のパラメータを含めることができます。
 - ➤ %[system.time] 現在の時刻
- **ロゴタイプ** このテンプレートを使用して生成されたすべてのレポートには、ロゴタイプなどのイメージを含めることができます。ロゴタイプのイメージは、KNM のホストマシンの KNM\reports\images\logo フォルダに保存する必要があります。
- **ロゴタイプの配置** ロゴタイプのイメージの位置を指定します。
- **デフォルト** このチェックボックスをチェックすると、このスタイルテンプレートが新しいレポートのデフォルトに設定されます。

色設定

すべての色は、16進数のRRGGBBの色フォーマットを使用して指定されます。

- **カラースキーム** 事前定義のカラースキームを選択します。独自のカラースキームをカスタマイズするには、[カスタム]を選択します。
- **背景 1 および 2** グラフの背景色を入力します。
- **グリッドカラー** グラフのグリッドの色を入力します。
- テキストの色 グラフのテキストおよび値の色を入力します。
- **ラインの色 1~8** グラフの各モニターの色を入力します。

レポート情報

Network Monitor > [レポート] > [レポートテンプレート] > (レポートテンプレート名をクリック)

Network Monitor > [レポート] > [ビュー] > (カスタマイズされたレポートの名前をクリック)

[レポート情報]ページでは、レポートテンプレートまたはカスタマイズされたレポートの詳細を定義します。レイアウト、設計要素、および使用するレポートのデータタイプ 『86ページ 』の定義が含まれます。

コマンド

- **編集** (または アイコンをクリック) 選択した項目を編集します。
- **コピー** 選択した項目をコピーします。

- 削除・選択した項目を削除します。
- 可用性の追加 可用性項目 『89ページ』 を追加します。
- **コメントの追加 コメント項目** 『90ページ』 を追加します。
- データテーブルの追加 データテーブル項目 『88ページ』 を追加します。
- **グラフの追加 グラフ項目** 『87ページ』 を追加します。グラフ項目のハイパーリンクをクリックし、グラフに含めるモニターを指定します。
- イメージの追加 イメージ項目 『91 ページ 』を追加します。
- トップリストの追加 トップリスト項目 『91ページ』を追加します。
- (** または**) 項目をリスト内の上下に移動します。

レポートのデータタイプ

レポートにグラフまたはデータテーブルを定義すると、次のデータタイプを選択できます。

• 可用性

資産のダウンタイムのレポート

モニターのダウンタイムのレポート

データベース

バッファキャッシュヒット率

SQLクエリーの値

環境

温度

湿度

湿り度

電圧電流

ファン速度

輝度

相対風量

スイッチ/ドライ接点

電力

• ファイルシステム

ディスク使用率

空きディスクスペース

ディレクトリのサイズ

ディレクトリのファイル数

スワップ使用率

ネットワーク

帯域使用率

帯域使用状況

Pingラウンドトリップ時間

Pingパケット損失

転送速度

未指定のSNMPデータ

未指定のSSHスクリプトデータ

接続

リクエスト

リクエスト/秒接続/秒

その他

未指定の**Lua**データ

待機時間

パーフォマンス

CPU使用率

ディスク使用率

空きディスクスペース

メモリ使用率

空きメモリ

スワップ使用率

未指定のWindowsパフォーマンスデータ

未指定のWMIデータ

未指定のVmwareパフォーマンスデータ

未指定のCIMパフォーマンスデータ

ユーザー定義

(なし)

• ウェブおよび E メール

メールラウンドトリップ時間 ウェブページ取得時間

グラフ

Network Monitor > [レポート] > [レポートテンプレート] > (レポートテンプレート名をクリック) > [グラフの追加]またはグラフ項目の (アイコンをクリック

Network Monitor > [レポート] > [ビュー] > (カスタマイズされたレポート名をクリック) > [グラフの追加]またはグラフ項目の(アイコンをクリック

グラフでは、指定期間に記録したモニターデータのグラフが表示されます。各グラフには、最大 8 個のモニターからのデータを含めることができます。各モニターは特定の色で色分けされます。色は、関連するスタイルテンプレート 『84 ページ 』で指定します。

基本プロパティ

- 期間 この項目の期間を指定します。カスタマイズされたレポートにのみ適用されます。
 - ▶ 本日、今週、今月、今四半期、今年度
 - ▶ 前日、前週、前月、前四半期、前年
 - ▶ ユーザー定義の期間
 - ▶ オフセットの日数

注: レポートテンプレートは、レポートテンプレートの実行期間を指定します。

- データタイプ レポートに含めるデータの種類 『86ページ』および測定単位を選択します。
- **ヘッダー** グラフのヘッダーテキストを指定します。ヘッダーには次のパラメータを含めルことができます。
 - ▶ %graph_type グラフにレポートのデータタイプを表示します。
- **フッター** グラフのフッターテキストを指定します。

詳細プロパティ

- データオプション 平均 (デフォルト)、最小、最大 指定した時点に記録サンプルが多数ある場合のデータの表示方法を定義します。ビジュアル表示のみに影響します。
- **個別モニター** チェックした場合、各モニターのグラフが個別に作成されます。
- **塗りつぶし** チェックした場合、グラフが塗りつぶされます。グラフに複数のモニターが含まれる場合は無視されます。
- **凡例** チェックした場合、グラフの下に判例が記載されます。この凡例には、グラフに含まれるすべてのモニターの参照情報や、期間全体の極値が含まれます。
- **データフィルター** 表示データの最小および最大範囲を指定できます。範囲外のデータは無視されます。
- **カスタムスケール** オプションで、Y 軸の特定範囲にグラフを制限します。通常、これはデータの種類によって自動的に制御されます。
- **グラフ寸法** グラフのイメージの寸法を指定します。デフォルト値は 1000 x 152 ピクセルです。

[レポートのカスタマイズ]のフィールドのみ

[レポートのカスタマイズ]では、グラフ項目の*ハイパーリンク*をクリックすると、[モニターリスト] ページが表示されます。グラフに含めるモニターを指定します。

- モニターの追加 [モニターをグラフに追加]ページを表示します。
 - モニターの選択/選択したモニター [モニターの選択]リストに表示するモニター名のテキストを入力します。リストからモニターを1つ以上選択し、[追加]ボタンをクリックして、[選択したモニター]リストにモニターを追加します。また、[選択]ボタンをクリックして、ターゲットのモニターを参照することもできます。モニターを削除するには、モニターを選択し、[削除]ボタンをクリックします。
 - ▶ 選択できるのは、グラフに指定された種類のデータを含むモニターのみです。
- **削除** 選択したモニターを削除します。
- (*** または***) 項目をリスト内の上下に移動します。

データテーブル

Network Monitor > [レポート] > [レポートテンプレート] > (レポートテンプレート名をクリック) > [データテーブルの追加]、またはデータテーブル項目の (アイコンをクリック

Network Monitor > [レポート] > [ビュー] > (カスタマイズされたレポートをクリック) > [データテーブルの追加]、またはデータテーブル項目の \triangle アイコンをクリック

データテーブルには、縦横のテーブルに表形式のデータを表示できます。これによって、読み取った値をテキスト形式で表示できます。行数または列数はレポート期間に応じて異なります。

データテーブルのプロパティ

- ヘッダー レポートの項目を説明するヘッダーテキスト。
- 資産の選択/選択した資産 [資産の選択]リストに表示する資産名のテキストを入力します。リストから資産を1つ以上選択し、[追加]ボタンをクリックして、[選択した資産]リストに資産を追加します。また、[選択]ボタンをクリックして、ターゲットの資産を参照することもできます。資産を削除するには、資産を選択し、[削除]ボタンをクリックします。 カスタマイズされたレポートにのみ適用されます。
- モニターの選択/選択したモニター [モニターの選択]リストに表示するモニター名のテキストを入力します。リストからモニターを1つ以上選択し、[追加]ボタンをクリックして、[選択し

たモニター]リストにモニターを追加します。また、[**選択**]ボタンをクリックして、ターゲットのモニターを参照することもできます。モニターを削除するには、モニターを選択し、[**削除**] ボタンをクリックします。 カスタマイズされたレポートにのみ適用されます。

- 期間 この項目の期間を指定します。カスタマイズされたレポートにのみ適用されます。
 - ▶ 本日、今週、今月、今四半期、今年度
 - ▶ 前日、前週、前月、前四半期、前年
 - ▶ ユーザー定義の期間
 - ▶ オフセットの日数

注: レポートテンプレートは、レポートテンプレートの実行期間を指定します。

- **分解能** 期間内でデータを収集する頻度。カスタマイズされたレポートにのみ適用されます。
- レイアウト 時間を左から右の横軸とする横組みレイアウトか、または時間を上から下の縦軸とする縦組みレイアウトを選択します。

データテーブルの構成

レポート内の1つのデータテーブルには、データテーブルの構成が1つ以上含まれます。データタイプとデータテーブルモードを選択した後、[追加]ボタンをクリックして構成を構成リストに追加します。構成を削除するには、リストから構成を選択し、[削除]ボタンをクリックします。

- データタイプ レポートに含めるデータの種類 『86ページ』 および測定単位を選択します。
- **■** データテーブルモード
 - スナップショット セルに最も近いデータサンプル。たとえば、日次レポートの14:59 および15:02 に2つのサンプルがある場合、15:00 のセルに表示されるデータは14:59 のサンプルです。
 - ▶ 期間の平均 各期間内のすべてのサンプルを平均し、その値を対応するセルで使用します
 - ▶ 最小 各期間内で最小のデータサンプル。
 - ▶ 最大 各期間内で最大のデータサンプル。

ダウンタイムレポート

ダウンタイムレポートの項目("*可用性*")には、選択した資産または個別モニターを 1 つ以上表示できます。また、ダウンタイムレポートは、時刻やモニターのタイプ別にフィルター処理することもできます。たとえば、Ping モニターのみを使用してダウンタイムを計算できます。

ダウンタイムレポートのプロパティ

すべての値は、レポート期間のパーセントとしてレポートされます。

- グループ/選択したグループ [グループ]リストに表示するグループ名のテキストを入力します。リストからグループを1つ以上選択し、[追加]ボタンをクリックして、[選択したグループ]リストにグループを追加します。また、[選択]ボタンをクリックし、ターゲットのグループを参照することもできます。グループを削除するには、グループを選択し、[削除]ボタンをクリックします。 カスタマイズされたレポートにのみ適用されます。
- 期間 この項目の期間を指定します。カスタマイズされたレポートにのみ適用されます。

- ▶ 本日、今週、今月、今四半期、今年度
- ▶ 前日、前週、前月、前四半期、前年
- ▶ ユーザー定義の期間
- ▶ オフセットの日数

注: レポートテンプレートは、レポートテンプレートの実行期間を指定します。

- ダウンタイムのレポート
 - ▶ 資産のダウンタイムのレポート 個々の資産、およびそのダウンタイムの割合を表示します。
 - ➤ モニターのダウンタイムのレポート 各資産の個々のモニター、およびそのダウンタイムの割合を表示します。
- **アップタイムのレポート** モニターが通常状態であった時間。
- **ダウンタイムのレポート** モニターがアラーム状態であった合計時間。
- 不明時間のレポート 不明時間とは、Network Monitor サービスが数時間停止していたなど、 Network Monitor がモニターの状態を検出しなかった時間です。このチェックボックスをチェックしない場合は、次のいずれかのオプションを選択します。
 - ▶ 不明時間をアップタイムに含める
 - ▶ 不明時間を不明時間のままにする
- **ダウンタイムのない資産とモニターをレポートに含める** チェックしない場合、ダウンタイム 問題のない資産はレポートから除外されます。

詳細プロパティ

- ダウンタイムの計算
 - ▶ 合計 レポートのダウンタイム値を合計します。
 - ▶ 平均 レポートのダウンタイムの平均値を計算します。
- 制限時間 ダウンタイムデータを毎日の時間範囲に制限します。
- **モニターの制限** ダウンタイムデータを、指定した**モニターの種類** 『119ページ』に制限します。

コメント

Network Monitor > [レポート] > [レポートテンプレート] > (レポートテンプレート名をクリック) > [コメントの追加]またはコメント項目の(アイコンをクリック)

Network Monitor > [レポート] > [ビュー] > (カスタマイズされたレポート名をクリック) > [コメントの追加]またはコメント項目の⊄アイコンをクリック

コメントを、レポートに記載することができます。また、コメントを使用すると、レポートを担当者に確認して署名してもらう場合の署名フィールドを含めることもできます。

- コメント・レポートに含めるコメントテキスト。
- フォントオプション コメントテキストのフォントサイズと位置揃え。
- **署名フィールド** チェックした場合、レポートに横線が表示され、その位置に署名を記入できます。

画像

Network Monitor > [レポート] > [レポートテンプレート] > (レポートテンプレート名をクリック) > [イメージの追加]またはイメージ項目の (アイコンをクリック

Network Monitor > [レポート] > [ビュー] > (カスタマイズされたレポート名をクリック) > [イメージの追加]またはイメージ項目の (アイコンをクリック

[レポートのイメージ]ページでは、レポートにカスタム画像を追加できます。サポートされるイメージファイルは、KNMのホストマシンの KNM\reports\images フォルダに保存する必要があります。 その後、このページでイメージを選択してレポートに表示できます。

- イメージ リストから目的のイメージを選択します。
- 配置 レポート内のイメージの位置を指定します。

トップリスト

Network Monitor > [レポート] > [レポートテンプレート] > (レポートテンプレート名をクリック) > [トップリストの追加]またはトップリスト項目の **(** アイコンをクリック

Network Monitor > [レポート] > [ビュー] > (カスタマイズされたレポート名をクリック) > [トップリストの追加]またはトップリスト項目の(アイコンをクリック

トップリストレポート項目を使用すると、レポートにトップリスト 『36 ページ 』を 1 つ以上挿入できます。

トップリストの構成

レポート内の1つのトップリスト項目には、トップリストの構成が1つ以上含まれます。**タイプ、ソートモード、エントリー**、およびデータの値を選択した後、[**追加**]ボタンをクリックして構成を構成リストに追加します。構成を削除するには、リストから構成を選択し、[**削除**]ボタンをクリックします。

- **ヘッダー** レポートの項目を説明するヘッダーテキスト。
- 期間 レポートに含める期間を選択します。
 - ▶ 今日
 - > 今週
 - > 今月
 - ▶ 昨日
 - ▶ 先週
 - ▶ 先月
- **タイプ** データのタイプを選択します。
 - ▶ 帯域使用状況
 - ▶ 帯域使用率
 - ➤ CPU 使用率
 - ▶ ディスク使用率
 - ▶ ファン谏度
 - ▶ 空きディスクスペース
 - ▶ 空きメモリ
 - ▶ 湿度
 - ▶ 輝度

- ▶ メモリ使用率
- ▶ Ping パケット損失
- ▶ Ping ラウンドトリップ時間
- ▶ 相対風量
- ▶ スワップ使用率
- ▶ 温度
- ▶ 転送速度
- ▶ ウェブページの取得時間
- ▶ 湿り度
- ソートモード
 - ▶ エントリーの小さい順
 - ▶ エントリーの大きい順
- **エントリー** 表示するエントリー数。
- データ
 - ▶ サンプルの最小値
 - ▶ サンプルの最大値
 - ▶ 期間の平均値
- **追加/選択済み/削除** トップリストの構成を追加するには、[**追加**]ボタンをクリックします。選択した構成が、[**選択済み**]リストに追加されます。構成を削除するには、構成を選択し、[**削除**] ボタンをクリックします。

[レポートテンプレート]のフィールドのみ

■ **選択項目でフィルター処理する** - チェックした場合、レポートにレポートテンプレートを表示するときに資産とモニターが選択されます。このチェックボックスはデフォルトでチェックされています。

[レポートのカスタマイズ]のフィールドのみ

次のフィールドは、カスタマイズされたレポートにのみ表示されます。

- グループ/選択したグループ [グループ]リストに表示するグループ名のテキストを入力します。リストからグループを1つ以上選択し、[追加]ボタンをクリックして、[選択したグループ]リストにグループを追加します。また、[選択]ボタンをクリックし、ターゲットのグループを参照することもできます。グループを削除するには、グループを選択し、[削除]ボタンをクリックします。
- **資産の選択/選択した資産** [**資産の選択**]リストに表示する資産名のテキストを入力します。リストから資産を 1 つ以上選択し、[**追加**]ボタンをクリックして、[**選択した資産**]リストに資産を追加します。また、[**選択**]ボタンをクリックして、ターゲットの資産を参照することもできます。資産を削除するには、資産を選択し、[**削除**]ボタンをクリックします。

ナレッジベース項目

Network Monitor > [ナレッジベース] > [ビュー]

[ナレッジベース]では、方法に関する項目の共有セットを作成し、任意のグループ、ゲートウェイ、 資産、またはモニターに割り当てることができます。これにより、資産のトラブルシューティング や管理に必要となる正確な参考資料に即座にアクセスできます。任意のグループ、ゲートウェイ、または資産ノードをクリックし、[ナレッジ 『39ページ 』]タブを選択して、そのノードに割り当てられたナレッジベース項目のリストを表示します。



関連トピック

- **「ナレッジ」タブ** 『39 ページ』
- ナレッジベースのカテゴリー 『94 ページ 』

[ビュー]タブ

- サマリー 項目を表示します。
- **関連付けたグループ**]- 現在の項目に関連付けたグループをリストします。現在の項目をグループや資産に関連付けたり、関連を解除したりすることができます。
- **関連付けた資産** 現在の項目に関連付けた資産をリストします。現在の項目をグループや資産 に関連付けたり、関連を解除したりすることができます。
- 監査タブ 項目を更新したユーザーのログを表示します。

コマンド

- 編集 選択した項目を編集します。
- **項目の関連付け** 現在の項目をグループや資産に関連付けます。
- 項目の印刷 現在の項目を印刷します。
- 削除 現在の項目を削除します。

[編集]タブ

■ [基本プロパティ]タブ - 項目のタイトルと本文を編集します。次のツールバーボタンを使用すると、特殊フォーマットをテキストに追加できます。



- より高度なツールバーボタンについて説明します。
 - ▶ 国 ソース 項目のフォーマットを制御する HTML タグを編集できます。
 - ▶ 🚨 テキストとイメージの表示をプレビューします。
 - ▶ Define Provided アプログラン Provided Pr
- 🍃 🐫 検索と置換。

- ▶ ② フォーマットを削除します。
- ▶ . テキストを URL、アンカーまたは要素 ID にリンクしたり、リンクを解除したりします。リンクがサポートされるのは同じ項目内のみです。
 - ✓ 名前付きのアンカー

 ■を項目テキスト内の場所に挿入します。次に、クリックしたときにこの名前付きアンカーの場所に移動するリンクを追加します。
 - ✓ ソース国アイコンを使用して HTML タグを表示し、ID 属性を要素に追加します。次に、クリックしたときにこの要素 ID に移動するリンクを追加します。
- ➤ - テーブルをカーソルの位置に挿入します。テーブルのプロパティには、行/列の数、 キャプション、罫線の太さ、ヘッダー、セルスペース、位置揃えが含まれます。
- ▶ = 幅のパーセントで水平線を挿入します。またはピクセルで固定幅を設定します。
- 🍃 😃 絵文字を挿入します。
- 🕨 🐠 記号を挿入します。
- ▶ = 改ページを挿入します。項目の印刷時に使用されます。
- [詳細]タブ
 - ▶ カテゴリーのリンク/リンクされたカテゴリー 明示的に項目を1つ以上のカテゴリーに リンクします。カテゴリーとは、他のカテゴリーやナレッジベース項目を含むナレッジベースフォルダです。カテゴリーをクリックすると、そのカテゴリーにリンクされたすべての項目がリストされます。
 - ▶ **関連項目の追加/関連項目** 項目を他の関連項目にリンクします。関連項目は、項目を表示しているときに右側のパネルにリストされます。

関連項目:

- ナレッジベースのカテゴリー 『94 ページ』
- **「ナレッジ」タブ** 『39 ページ』

ナレッジベースのカテゴリー

ナレッジベース**カテゴリー**とは、他のカテゴリーやナレッジベース項目を含むナレッジベースフォルダです。ナレッジベースツリー内のカテゴリーをクリックすると、そのカテゴリーの子孫項目、またはそのカテゴリーに*明示的にリンクされた*項目がすべて中央パネルにリストされます。 項目をカテゴリーに明示的にリンクするには、項目の編集時に[**詳細** 『92 ページ 』]編集タブを使用します

関連トピック

- ナレッジベース項目 『92ページ』
- [ナレッジ]タブ 『39ページ』

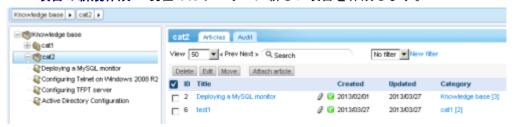
アクション

- 削除 選択した項目を削除します。
- **編集** 選択した1つ以上の項目を編集します。複数の項目を編集する場合、共有プロパティの みを編集できます。
- 移動 選択した項目をナレッジベースツリー内の別の位置に移動します。 これによって、項目とカテゴリーとの間の明示的なリンクが影響を受けることはありません。
- **項目の関連付け** 項目を選択したグループと資産に割り当てます。

コマンド

編集・選択した項目を編集します。

- **サブカテゴリーの追加** 現在のカテゴリーにサブカテゴリーを追加します。
- **カテゴリーの削除** 現在のカテゴリーを削除します。
- **項目の新規作成** 現在のカテゴリーに新しい項目を作成します。



[編集]タブ

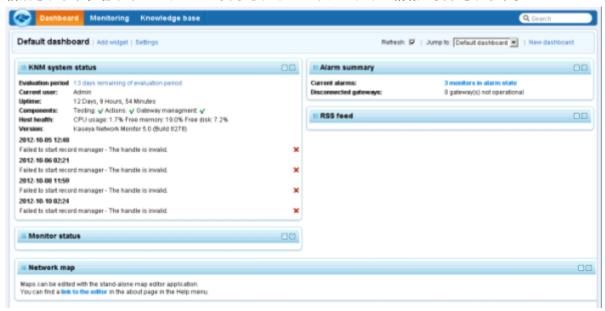
[基本プロパティ]タブ

- 名前 カテゴリーの名前。
- 説明 カテゴリーの 1 行の説明。

ダッシュボード

Network Monitor > 「ダッシュボード] > 「ビュー]

Network Monitor のダッシュボードはユーザーが構成可能なビューで、1 つ以上の *ウィジェット*から構成されます。各ウィジェットには異なるタイプのリアルタイム情報が表示されます。



Network Monitor には役に立つウィジェットが多数用意されています。これには以下のことが含まれます:

- ステータスウィジェット
 - ➤ モニターステータス
 - ▶ 資産ステータス

- ▶ サブグループのステータス
- ▶ ゲートウェイのステータス
- ▶ ユーザーのステータス
- ▶ システムのステータス
- ▶ アラームサマリー
- ➤ NOC ウィジェット
- マップウィジェット
 - ▶ ネットワークマップ
 - ▶ ネットワークマップ (小)
- その他のウィジェット
 - ▶ ウェブページ
 - ▶ ウェブページ (小)
 - ▶ お気に入り項目
 - ▶ ログエントリー
 - ▶ トップリスト
 - ▶ メモ帳
 - ➤ RSS フィード

[設定]をクリックすると、ダッシュボードの作成または編集ができます。[ウィジェットの追加]をクリックすると、ウィジェットがダッシュボードに追加されます。

資産メンテナンス

Network Monitor > [スケジュール] > [資産メンテナンス]

[資産メンテナンス]ページでは、*資産*の"ダウンタイム"メンテナンス期間をスケジュールします。スケジュールしたメンテナンス期間には、モニターはテストされません。メンテナンススケジュールは単一または繰り返しの期間に設定でき、柔軟性の高い多数のスケジューリングオプションを使用できます。

アクション

複数の行を選択するには、Shift キーを押しながらクリックします。

- **削除** 選択したスケジュールを削除します。
- (編集) -1行を編集するには、Дプロパティアイコンをクリックします。
- 新規スケジュール 新しいスケジュール 『96ページ』 を作成します。

資産メンテナンスの編集

Network Monitor > [スケジュール] > [資産メンテナンス] > [新規スケジュール]または[編集]

[資産メンテナンスの編集]ページでは、1 つのメンテナンススケジュールを指定し、*複数*の資産に適用できます。スケジュールは、単一の期間または繰り返しの期間に設定できます。

注: 1つの資産の簡単なメンテナンスは、資産ノードの[**詳細** 『52 ページ 』]タブで指定できます。

メンテナンスの設定

- **資産の選択** 編集ボックスに文字列を入力すると、その文字列に一致するすべての資産名がリストされます。次に、[**追加**]ボタンをクリックします。または、[**選択**]ボタンをクリックして資産を参照します。
- **選択した資産** 選択した資産がリストされます。項目を削除するには、リストから項目を選択し、[削除]をクリックします。
- 開始時間 メンテナンス期間を開始する時刻を指定します。
- メンテナンス期間 メンテナンス期間の長さ (単位: 時間、分) を指定します。
- **メンテナンスモード** メンテナンス中はテストを停止する。これは現時点でサポートされている唯一のモードです。
- 期限切れとなる チェックした場合、メンテナンス期間を過ぎるとメンテナンススケジュール が自動的に削除されます。
- 説明 メンテナンススケジュールの説明を入力します。
- スケジュールのタイプ
 - ▶ 単一のメンテナンス
 - ✓ **開始日** メンテナンススケジュールをアクティブにする日付を指定します。 YYYY-MM-DD のフォーマットで日付を指定します。

▶ 繰り返しメンテナンス

- ✓ アクティブな期間 メンテナンススケジュールがアクティブな日付範囲を指定します。YYYY-MM-DDのフォーマットで範囲を指定します。これらのフィールドを空白にすると、メンテナンススケジュールは常にアクティブです。
- ✓ 曜日 曜日をチェックすると、メンテナンススケジュールは選択した曜日にのみアクティブになります。
- ✓ **N日ごと** 指定した場合、メンテナンススケジュールは指定した開始日から N日ごとにアクティブになります。このオプションを使用するには、[**アクティブな期間**]フィールドに日付範囲を指定する必要があります。
- ✓ 月の末日 チェックした場合、メンテナンススケジュールは毎月の末日にアクティブになります。
- ✓ **月の指定日** チェックした場合、メンテナンススケジュールは月の指定日にアクティブになります。複数の日付を指定する場合はコンマで区切ります。

モニターメンテナンス

Network Monitor > [スケジュール] > [モニターメンテナンス]

[モニターメンテナンス]ページでは、モニターの"ダウンタイム"メンテナンス期間をスケジュールします。スケジュールしたメンテナンス期間には、モニターはテストされません。メンテナンススケジュールは単一または繰り返しの期間に設定でき、柔軟性の高い多数のスケジューリングオプションを使用できます。

アクション

複数の行を選択するには、Shift キーを押しながらクリックします。

- **削除** 選択したスケジュールを削除します。
- (編集) -1 行を編集するには、
 ②プロパティアイコンをクリックします。
- 新規スケジュール 新しいスケジュール 『98 ページ 』 を作成します。

モニターメンテナンスの編集

Network Monitor > [スケジュール] > [モニターメンテナンス] > [新規スケジュール]または[編集] [モニターメンテナンスの編集]ページでは、1 つのメンテナンススケジュールを指定し、*複数の*モニターに適用できます。スケジュールは、単一の期間または繰り返しの期間に設定できます。

注: 1つのモニターの簡単なメンテナンスは、モニターノードの[**詳細** 『66ページ』]タブで指定できます

メンテナンスの設定

- **資産の選択** 編集ボックスに文字列を入力すると、その文字列に一致するすべての資産名がリストされます。次に、[**追加**]ボタンをクリックします。または、[**選択**]ボタンをクリックして資産を参照します。
- **選択した資産** 選択した資産がリストされます。項目を削除するには、リストから項目を選択し、[削除]をクリックします。
- 開始時間 メンテナンス期間を開始する時刻を指定します。
- メンテナンス期間・メンテナンス期間の長さ(単位:時間、分)を指定します。
- **メンテナンスモード** メンテナンス中はテストを停止する。これは現時点でサポートされている唯一のモードです。
- 期限切れとなる チェックした場合、メンテナンス期間を過ぎるとメンテナンススケジュール が自動的に削除されます。
- 説明 メンテナンススケジュールの説明を入力します。
- スケジュールのタイプ
 - 単一のメンテナンス
 - ✓ **開始日** メンテナンススケジュールをアクティブにする日付を指定します。 YYYY-MM-DD のフォーマットで日付を指定します。

> 繰り返しメンテナンス

- ✓ **アクティブな期間** メンテナンススケジュールがアクティブな日付範囲を指定します。YYYY-MM-DDのフォーマットで範囲を指定します。これらのフィールドを空白にすると、メンテナンススケジュールは常にアクティブです。
- ✓ 曜日 曜日をチェックすると、メンテナンススケジュールは選択した曜日にのみアクティブになります。
- ✓ N日ごと 指定した場合、メンテナンススケジュールは指定した開始日からN日ごとにアクティブになります。このオプションを使用するには、[アクティブな期間]フィールドに日付範囲を指定する必要があります。
- ✓ 月の末日 チェックした場合、メンテナンススケジュールは毎月の末日にアクティブになります。
- ✓ **月の指定日** チェックした場合、メンテナンススケジュールは月の指定日にアクティブになります。複数の日付を指定する場合はコンマで区切ります。

ユーザー通知のスケジュール

Network Monitor > [スケジュール] > [ユーザー通知のスケジュール]

[**ユーザー作業スケジュール**]ページでは、*ユーザー*の*アクティブな*期間をスケジュールします。これ

により、勤務時間外のオペレータに不要な通知が送信されることがなくなります。

アクション

複数の行を選択するには、Shift キーを押しながらクリックします。

- **削除** 選択したユーザー作業スケジュールを削除します。
- (編集) 1 行を編集 『99 ページ 』するには、Дプロパティアイコンをクリックします。
- 新規スケジュール 新しいスケジュールを作成します。

関連トピック

- ユーザー作業スケジュールの編集 『99ページ』
- スケジュールブロック 『99 ページ 』

ユーザー作業スケジュールの編集

Network Monitor > [スケジュール] **>** [ユーザー通知スケジュール] **>** [新規スケジュール]または[編集]

[ユーザー作業スケジュールの編集]ページでは、1 つのユーザー作業スケジュールを指定します。[スケジュールブロック 『99ページ 』]ページで、スケジュールに関連付ける日数、時間数、およびユーザーを定義します。

スケジュールのプロパティ

- 名前 ユーザー作業スケジュールの名前。
- 説明 ユーザー作業スケジュールの詳細な説明。
- **アクティブ** ユーザー作業スケジュールがアクティブな期間の開始日と終了日。
- 期限切れとなる チェックした場合、アクティブな期間の終了後にスケジュールが Network Monitor からクリアされます。

スケジュールブロック

Network Monitor > [スケジュール] > [ユーザー通知のスケジュール] > >スケジュール名 <をクリック

ユーザーの作業スケジュール 『98ページ』は、ブロックおよびルールを使用して指定します。

- **ブロック** ユーザー作業スケジュールは1つ以上のブロックに分割されます。ブロックは、スケジュール内の短い期間を表します。ブロックを追加すると、ブロックシーケンスが作成されます。シーケンス内でブロックを上下に移動できます。ブロックシーケンスは、スケジュールのアクティブな開始日からアクティブな終了日まで*移動スケジュール*として定期的に繰り返されます。
- **ルール** ルールについて選択されたユーザーは、ルールが指定する期間中"アクティブ"になります。そのユーザーは、アクティブな期間中、通知を受信できます。各ブロックについてルールを1つ以上指定できます。ルールは互いに重なり合うことができ、異なるユーザーを指定できます。

例

- 1. 1か月間について、ユーザー作業スケジュールを作成します。
- 2. 期間を7日間とするブロックを1つ作成します。

3. この1つのブロックに、2つのルール *(平日ブロックと週末ブロック)* を作成します。各ルールに対して、適切な日数、時間数、およびユーザーを設定します。

コマンド

- **編集 ユーザー作業スケジュール** 『99ページ』 の名前、開始日、および終了日を編集します
- コピー 現在選択しているスケジュールをコピーし、スケジュールを新規作成します。
- 削除 現在選択しているスケジュールを削除します。

ブロックのアクション

- ブロックの追加 (または で編集) ブロックの追加または編集を行います。
 - ▶ 長さ ブロックの長さ(単位: 日)を入力します。たとえば、7を指定すると長さが7日間のブロックが1つ作成されます。
- **削除** 選択したブロックを削除します。

ルールのアクション

- ルールの編集 クリックすると次の項目を編集できます。
 - ▶ 曜日 ルールがアクティブになる曜日。
 - ▶ アクティブな期間 このルールがアクティブになる開始時刻とその終了時刻。
 - ▶ 選択可能なユーザー 選択できるユーザー。
 - ▶ 選択したユーザー 選択したユーザーは、このルールが指定する期間中アクティブであり、通知を受け取ることができます。
- **ルールの削除** 選択したルールを削除します。

Windows サービスリスト

Network Monitor > [ツール] > [Windowsサービスの管理]

Windows サービスリストから、Windows コンピュータで利用可能なサービスリストに直接アクセスできます。選択できる資産は、Windows コンピュータとして識別され、かつ **Windows 認証ログオンアカウント** 『42 ページ 』をもつ資産のみです

Windows サービスリストの表示

[資産の選択]フィールドにテキストを入力すると、入力したテキストに一致する資産の名前が表示されます。資産を1つ選択します。[更新]ボタンをクリックし、資産を[選択した資産]リストに追加します。また、「選択]ボタンをクリックし、ターゲットのグループを参照することもできます。

アクション

リストからサービスを1つ以上選択し、次のいずれかのアクションを実行します。

- **開始** 選択したサービスを開始します。
- 停止 選択したサービスを停止します。
- 再開 選択したサービスを再開します。
- **一時停止** 選択したサービスを一時停止します。一部のサービスは一時停止することができません。
- 続行 一時停止していたサービスの実行を再開します。

関連項目:

- Windows サービスコントロール 『167 ページ 』 *(アクション)*
- Windows サービスコントロール 『177 ページ 』 (スケジュール済みイベント)
- Windows サービスのステータス 『157 ページ 』 *(モニター)*

MIB Browser

Network Monitor > [ツール] > [MIBブラウザ]

(資産名) > 「MIBブラウザを開くココマンド

(資産名) > [新規モニターの追加] > [SNMP] > OID [...]

(資産名) > [新規モニターの追加] > [SNMPトラップ] > OIDを含める/除外するフィルター[...]

[MIB ブラウザ]ページには MIB ツリーが表示され、移動して OID 値 『101 ページ 』を選択できます。 このダイアログで OID 値の取得や選択を行うには、リモートの資産またはコンピュータの SNMP エ ージェントに MIB ブラウザが正常に接続可能である必要があります。

OID 値、およびそのリモート資産の対応する値を指定するには、5 つのフィルターフィールドを使用します。接続が正常に行われ、リモート資産が選択した OID に対応している場合、ツリー内の OID 項目をクリックすると OID 値が右上隅に表示されます。

- ホスト名 資産の名前。
- ポート デフォルト値は 161 です。
- ゲートウェイ 資産によって使用されるゲートウェイ。
- **SNMP バージョン** 資産の SNMP エージェントへの接続に使用する SNMP プロトコルのバージョン (v1、v2c、v3)。
- **リードコミュニティ** 接続先の資産に割り当てられた SNMP リードコミュニティ名。v1 および v2c を選択したときに表示されます。

注: このダイアログに表示される MIB ツリーを変更する方法については、「カスタム MIB ファイルのコンパイル」 『102 ページ 』を参照してください。

OID の選択

1. 左側のパネルに表示されているツリー内の任意の OID をクリックすると、右側のパネルにその OID のプロパティが表示されます。

注:OID値が返されるのは、資産への接続が確立され、かつ選択したOIDリクエストがその資産でサポートされている場合のみです。

2. [OID の選択]ボタンをクリックします。

MIBオブジェクト

SNMP 対応の各資産は、特定の SNMP リクエストセットにのみ応答します。各 SNMP リクエストは、オブジェクト ID *(OID)* によって一意に識別されます。たとえば、ifInOctets という OID は、数値ベースの OID .1.3.6.1.2.1.2.2.1.10 で表されます。ifInOctets に対応する文字ベースの OID は、.iso.org.dod.internet.mgmt.mib-2.interfaces.ifTable.ifEntry.ifInOctets です。

各デバイスメーカーは、製造した SNMP 対応デバイスによってサポートされる OID を MIB ファイル の形式で公開しているので、OID は一般的に MIB オブジェクトと呼ばれます。MIB ファイルは、Network Monitor などの"MIB 対応"アプリケーションにインポートできます。Network Monitor は、

ナビゲーションパネルのリファレンス

よく使用する多数の MIB オブジェクトが事前インストールされた状態で出荷されるため、通常、カスタム MIB ファイルのコンパイル 『102 ページ 』は、一般的に特別な MIB オブジェクトをもつデバイスにのみ必要です。

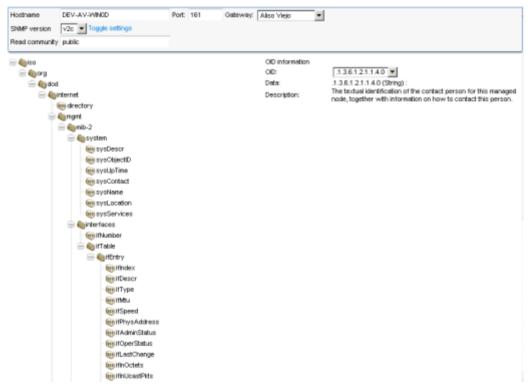
MIB ツリー

各メーカーは、デバイスで使用する MIB オブジェクトの ID を MIB ツリーに整理することで、その標準化を試みようとしてきました。たとえば、ルーターは同じ MIB オブジェクトを多数使用でき、特定の製品をサポートするために使用する特殊な MIB オブジェクトはほとんどありません。

Network Monitor は、MIB ブラウザに MIB ツリーを表示します。MIB ブラウザ次のいずれかのアクセス方法を使用して表示できます。

- Network Monitor > [ツール] > [MIB ブラウザ]
- <資産名> > [MIB ブラウザを開く]コマンド
- <資産名>>[新規モニターの追加]>[SNMP]>OID[...]
- <資産名>[新規モニターの追加] > [SNMP トラップ] > OID を含める/除外するフィルター[...]

サーバーにインストールした MIB ファイル 『102 ページ 』に基づいて、同じツリーが常に表示されます。MIB ブラウザのダイアログの例を示します。



カスタム MIB ファイルのコンパイル

MIB コンパイラを使用すると、テキスト MIB ファイルを **Network Monitor** が読み取り可能なバイナリフォーマットにコンパイルできます。MIB ファイルをコンパイルするには、MIB ファイルの仕組みに関する知識だけでなく、SNMP および **MIB オブジェクト** 『101 ページ 』の一般知識が必要です。MIB ファイルのベースとなるその他すべての基礎事項については、各種の RFC ドキュメントを参照してください。

注: Network Monitor が SNMP 資産への接続に使用するコミュニティ名、SNMP バージョン、およびポートは、資産ノードの[**認証** 『42ページ 』]タブで設定します。資産ノードは、親ノードからこの設定を継承できます。「インストール前のチェックリスト」 『4ページ 』を参照してください。

たとえば、CISCO®製品のMIBコンパイル順序は次のとおりです。

- 1. SNMPv2-SMI.mib
- 2. SNMPv2-TC.mib
- 3. SNMPv2-MTB.mib
- 4. RFC1213-MIB.mib
- 5. IF-MIB.mib
- 6. CISCO-SMI.mib
- 7. CISCO-PRODUCTS-MIB.mib
- 8. CISCO-TC.mib

この例にある最初の5ファイルは、大半の製品のMIBファイルに共通で、デフォルトのバイナリMIBファイル knm.mib に含まれています。

警告: これらすべてのファイルは、同時にコンパイルする必要があります。そうしない場合、シンボルが解決しないため MIB コンパイラでエラーが発生します。

デフォルトの KNM MIB ファイルの内容

インストールに含まれるデフォルトの knm.mib ファイルには、次の基本 OID (オブジェクト識別子) が格納されています。

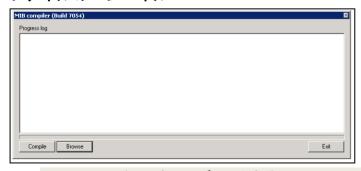
- iso.org.dod.internet.directory
- iso.org.dod.internet.mgmt
- iso.org.dod.internet.experimental
- iso.org.dod.internet.private
- iso.org.dod.internet.security

ファイルは、\<Kaseya インストールディレクトリ>\KNM\mibs ディレクトリにあります。

MIB コンパイラのダウンロードおよび実行

- 1. Network Monitor > [ツール] > [ユーティリティのダウンロード]ページに移動します。
- 2. [MIB コンパイラ]リンクをクリックし、ユーティリティをローカルマシンにダウンロードします。
- 3. ユーティリティを実行します。

MIB ファイルのコンパイル



1. <Kaseya インストールディレクトリ>\knm\mibcompiler.exe を起動します。

- 2. [ブラウズ]ボタンをクリックし、*.mib ファイルを1つ以上選択します。
 - Network Monitor ホストマシンの KNM\mibs フォルダにあるデフォルトの knm.mib ファイルを見つけ、ダブルクリックして選択します。
 - ▶ コンパイルに含める追加の*.mib ファイルを選択します。
- 3. [コンパイル]ボタンをクリックします。
- 4. コンパイルした*.dat ファイルの保存先を指定します。
- 5. [**ブラウズ**]ボタンをクリックし、コンパイルした*.dat ファイルを選択します。メインウィンドウにインタラクティブ MIB ツリーが表示されます。そのツリーを使用して異なる OID 間を移動できます。
- 6. コンパイルした*.dat ファイルを KNM\mibs フォルダに移動するか、コピーします。

レコードマネージャログ

Network Monitor > [ツール] > [レコードマネージャログ]

[レコードマネージャログ]ページには、Kaseya Record Manager サービスによって作成されたログエントリーが表示されます。このサービスは、Network Monitor のインストール時にインストールされます。レコードマネージャは、Network Monitor に統計ストレージ機能とクエリー機能を提供します。Kaseya Network Monitor サービスと同じサービスクラスをベースとしているため、インストール/アンインストールコマンドは共通です。

フォルダ

レコードマネージャには、rminit.cfg ファイルで指定される基本ディレクトリが1つあります。このディレクトリには、毎日用のフォルダと realtime という名前のフォルダが1つずつ含まれます。 realtime フォルダには、モニターごとに X 件のレコードが含まれ、簡易アクセスキャッシュの役割を果たします。このファイルは再構成できます。

rminit.cfg

レコードマネージャには、次のパラメータを含む rminit.cfg という名前の初期ファイルがあります。

Record manager configuration file bind_if= listen_port=3030 storage_path=rmstorage service_name=Kaseya Record Manager display name=Kaseya Record Manager

RPC

レコードマネージャは TCP/IP プロトコルを使用して、ポート 3030(デフォルト)で RPC を使用する Network Monitor と通信を行います。デフォルトでは、レコードマネージャは KNM と同じディレクトリにインストールされます。必要に応じて、レコードマネージャは別のマシンにもインストールできます。

KNMの init.cfg のパラメータは、インストールしたマシンを反映するように変更する必要があります。

RECORDMGR_HOST=host_name_or_ip
RECORDMGR PORT=3030

システム管理者コンソールの関連コマンド

コマンド	スイッチ	説明
ステータス	-recordmgr	レコードマネージャのステータスメッセージを出力します。
recordmgr-rebuild	YYYY-MM-DD(年-月-日)	指定日(2012-09-01 など)のファイルを再構成します。
recordmgr-rebuild	-all	すべての最終ファイルを再構成します。使用する場合は十分な注 意が必要です。この処理は完了するまで数時間かかります。その 間、レポートが正しい結果を提供しない場合があります。

Syslog のメッセージ

Network Monitor > [ツール] > [Syslogのメッセージ]

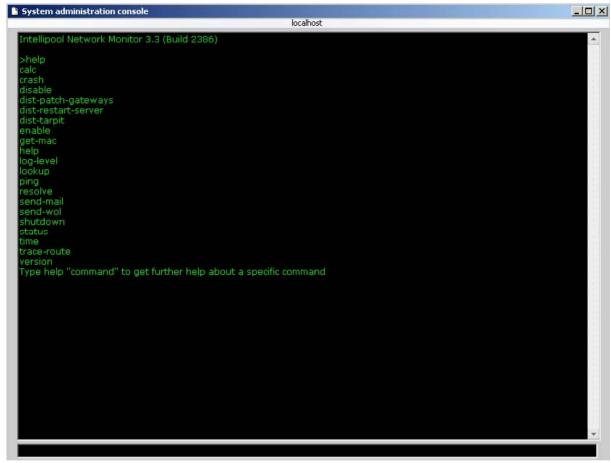
[最新 Syslog メッセージ 50 件]ページには、同じゲートウェイに属するすべての **Syslog**『151 ページ』 モニターが **Network Monitor** に送信した 50 件の最新 Syslog メッセージが表示されます。

Network Monitor > (選択したゲートウェイ) > [編集] > **[詳細]タブ** 『40 ページ 』の**[Syslog サーバー**]チェックボックスをチェックして、各ゲートウェイの Syslog メッセージ収集をアクティブにする必要があります。

システム管理者コンソール

Network Monitor > [ツール] > [システム管理者コンソール]

システム管理者コンソールの目的は、繰り返し発生するシステム管理タスクを簡単に実行できるようにすることです。インターフェースは、多くのシステム管理者がよく知っている標準的なコマンドラインインターフェース *(CLI)* です。コンソールにアクセスできるのは、システム管理者として設定されているユーザーのみです。



システム管理者コンソール

コマンド

■ calc - 簡単な計算用の組み込み計算機。使用例:

calc 41+1

- disable Network Monitor の特定の機能を無効にします。
 - ▶ -all リストに表示されたすべての機能を無効にします。
 - ▶ -testing テストを無効にします。
 - > -actions アクションの実行を無効にします。
 - > -statistics 統計の保存を無効にします。
 - ▶ -login 通常ユーザーのログオンを無効にし、システム管理者のログオンを許可します
- dist-patch-gateways パッチが必要なすべてのゲートウェイへのパッチ処理を開始します。

- dist-restart-server Network Monitor の分散テストサーバーを再起動します。
- dist-tarpit タールピットへの IP 番号の追加または削除を行います。タールピットは、総当たりログイン攻撃や DOS 攻撃からサーバーを保護します。
 - ▶ -block 指定 IP 番号をブロックします。
 - → -unblock 指定 IP 番号のブロックを解除します。
 - ▶ -list タールピット内のすべての IP 番号をリストします。
 - ▶ -blocktime デフォルトのブロック時間を設定します(単位:分)。デフォルト値は 20 です。

dist-tarpit -block 192.168.0.1

- enable Network Monitor の特定の機能を有効にします。
 - → -all リストに表示されたすべての機能を有効にします。
 - ➤ -testing テストを有効にします。
 - ➤ -actions アクションを有効にします。
 - → -statistics 統計の保存を有効にします。
 - ▶ -login 通常ユーザーのログインを有効にします。
- get-mac 特定の IP 番号の MAC アドレスを取得します。MAC アドレスを返す可能性があるのは、Network Monitor のホストマシンの LAN 上の IP のみです。

get-mac 192.168.42.1

- help コンソールの各種コマンドのヘルプ情報を表示します。「help <コマンド>」と 入力すると、そのコマンドのヘルプが表示されます。
- log-level ログレベルを調整します。**Network Monitor** の再起動時に、init.cfg ファイルで 指定したログレベルがデフォルトで設定されます。利用可能な値は 0、1、2 です。
- lookup DNS サーバーにドメイン情報を照会します。

lookup kaseya.com

- ping IP 番号またはホスト名を ping します。
- resolve ホスト名を IP 番号に解決します。

resolve www.kaseya.com

■ send-mail - Network Monitor に組み込みの E メールクライアントを使用して、指定アドレス に E メールを送信します。

send-mail myaddress@test.com , "Testing KNM" , "This is a test mail"

■ send-wol - 指定ホストに Wake on Lan パケットを送信します。

send-wol 192.168.42.1

- shutdown Network Monitor をシャットダウンし、未保存の設定をすべてディスクにフラッシュします。
- status 機能のステータス情報を表示します。
 - ▶ -thread Network Monitor で使用中の現在の合計スレッド数を表示します。
 - -threadpool スレッドプールの合計スレッド数を表示します。
 - -memory 現在の Network Monitor のメモリ使用状況を表示します。
 - ▶ -cpu 現在の Network Monitor の CPU 使用状況を表示します。
 - ▶ -handle 現在の Network Monitor のハンドラ使用状況を表示します。
 - > -feature Network Monitor の機能のステータスを表示します。
- time Network Monitor のホストマシンのローカル日時を出力します。
- trace-route 指定ホストへの追跡ルートを実行します。

■ version - Network Monitor のバージョンを出力します。新しいバージョンの Network Monitor が利用可能かどうかを確認するためにも使用できます。

version -check

システムログ

Network Monitor > [ツール] > [システムログ]

[システムログ]ページには、Kaseya Network Monitor サービスによって作成されたログエントリーが表示されます。主に、問題が発生したときに使用します。Init.cfg 『180ページ』 ファイルに LOG_LEVEL = 2 を設定すると、詳細なログを有効にできます。詳細なシステムログが別のテキストファイル(<Kaseya_Installation_Directory>\Logs\Services\KaseyaNetworkMonitor.log)に保存されます。

トラップメッセージ

Network Monitor > [ツール] > [トラップメッセージ]

[最新 SNMP トラップ 50 件]ページには、各ゲートウェイが受信した最新の SNMP トラップメッセージ が 50 件表示されます。このページでは、Network Monitor によって SNMP トラップメッセージが受信されていることを確認できます。このページに SNMP トラップメッセージが表示されていない場合、SNMP トラップ 『147 ページ 』モニターがその SNMP トラップメッセージに応答することはできません。また、このページでは、1 つ以上の資産に対して SNMP トラップモニターを作成することもできます。



アクション

- ゲートウェイから更新 ドロップダウンリストからゲートウェイを選択して[ゲートウェイから更新]をクリックすると、そのゲートウェイが受信した SNMP トラップメッセージのリストが表示されます。
- **モニターの作成** 受信した SNMP トラップメッセージに基づき、1 つ以上の資産に対して SNMP トラップ 『147 ページ 』 モニターを作成します。

マイ設定

Network Monitor > [ツール] > [マイ設定]

現在ログオンしているユーザーは、各自のユーザーレコードの基本設定を変更できます。各プロパティは次のタブに整理されています。

- [基本プロパティ]タブ 『109ページ』
- 「インターフェースオプション」タブ 『109 ページ 』

[基本プロパティ]タブ

Network Monitor > [ツール] > [マイ設定] > [基本プロパティ]タブ

基本プロパティ

- **ユーザーグループ** 現在ログオンしているユーザーが属するユーザーグループを表示します。
- API キー・ユーザーレコードに関連付けられた数値文字列で、サードパーティのユーティリティが Network Monitor サーバーに接続するときの認証に使用されます。[新規]ボタンをクリックすると、新しい文字列をランダムに生成できます。API キーは Gizmo 『215 ページ 』ユーティリティによって使用されます。
- SMS 番号 このユーザー向けの SMS 警報がこの SMS 電話番号に送信されます。

[インターフェースオプション]タブ

Network Monitor > [ツール] > [マイ設定] > [インターフェースオプション]タブ

インターフェースオプション

- 更新 管理インターフェースでのページの更新時間 (単位: 秒)を指定します。
- レポートの表示 [同じウィンドウにレポートを開く]、または[新規ウィンドウにレポートを開く]。
- **現在のノードに従う** チェックした場合、あるノードを選択したときに、開いている他のすべてのノードが閉じます。チェックを解除した場合、あるノードを選択したときに、他のすべてのノードは開いたままになります。

ユーザー通知グループ

Network Monitor > [ユーザー] > [ユーザー通知グループ]

ユーザーグループリストでは、ユーザーグループ通知を管理します。資産通知は、資産の[**基本プロパティ** 『52ページ』]タブで[ユーザー通知グループ]設定を使用し、資産に割り当てられたユーザーグループのすべてのメンバーに送信されます。

アクション

複数の行を選択するには、Shift キーを押しながらクリックします。表示レコードのリストをフィルター処理するには、検索ボックスに文字列を入力します。

- **削除** 選択したユーザーグループを削除します。
- *(編集)* 1 行を編集するには、**2**プロパティアイコンをクリックします。
- 新規グループ ユーザーグループの新規作成 『110 ページ 』。

ユーザーグループの新規作成

Network Monitor > [ユーザー] > [ユーザー通知グループ] > [新規グループ]または[編集] [ユーザーグループの編集]ページでは、ユーザーをユーザーグループに割り当てます。

ユーザーグループのプロパティ

- **名前** ユーザーグループの名前。分かりやすい名前にしてください。
- **説明** ユーザーグループの詳細な説明。

グループメンバー

- **ユーザー** VSA パーティション内で選択可能なすべてのユーザーがこのフィールドにリストされます。ユーザーをユーザーグループに追加するには、リストから選択し、[**選択**]ボタンをクリックします。
- **現在のメンバー** このユーザーグループに属しているすべてのユーザーをリストします。ユーザーをユーザーグループから削除するには、リストからユーザーを選択し、[**削除**]ボタンをクリックします。
- **グループマネージャ** [グループマネージャ]には、ユーザーグループのマネージャとして割り当てるユーザーを1人指定します。ユーザースケジュールを使用してユーザー作業時間をスケジュールするときに、他のユーザーを選択できない場合はグループマネージャがデフォルトの連絡先です。

カスタマイズされたデータタイプ

VSA > Network Monitor > [設定] > [カスタマイズされたデータタイプ]

[カスタマイズされたデータタイプ]ページでは、汎用データのソート機能をもつモニターで使用する、カスタマイズされたデータタイプを作成します。該当するモニターは次のとおりです。

- CIM パフォーマンスモニター
- データベースモニター (データベースサーバー、Oracle、MvSOL、SOL Server)
- Powershell スクリプトモニター
- SNMPモニター
- SSH2 スクリプトモニター
- VMware パフォーマンスモニター
- Windows パフォーマンスモニター
- WMIモニター

Network Monitor では、多種多様なデータタイプが事前定義されており、レポート作成とプレゼンテーションでこれらのデータタイプを処理する方法が認識されています。専用のデータを取り扱う場合など、独自のデータタイプを定義すると有効なことがあります。

基本プロパティ

- 名前 データタイプの名前。
- 説明 データタイプの説明を入力します。
- トップリスト チェックした場合、データタイプはトップリスト 『91 ページ 』レポート項目 の選択可能な項目として含まれます。

- **互換性のあるモニター** 対象データタイプと互換性のあるモニタータイプ。リストからモニタータイプを選択し、[**選択**]ボタンをクリックします。選択したリストから選択したモニタータイプを削除するには、モニタータイプを選択し、「削除」ボタンをクリックします。
- **保存済みの単位** データタイプに 1 つ以上の単位が使用される場合、モニターによって使用される基本単位を指定する必要があります。
- **互換単位** データタイプと共に含める単位をリストから選択して追加します。これは、レポート作成で専用のデータをさまざまな単位で表示するときに役立ちます。

プレゼンテーションの設定

- **小数部** このデータタイプの表示およびレポートに使用する小数点以下の桁数を入力します。
- クリッピング オプションで、このデータタイプについて取り出す上下限値を入力します。

資産テンプレート

Network Monitor > [設定] > [資産テンプレート]

[資産テンプレート]ページでは、資産と同様に、複数のモニターのプロパティを指定します。資産テンプレートは1つ以上の資産に適用されます。数千もの資産について、一度に1つのモニターを構成するのは現実的ではありません。その代わりに、事前定義済みの資産テンプレートを選択するか、独自に構成し、次に資産テンプレートを適切な資産に割り当てます。管理する資産の個々のタイプに資産テンプレートが必要です。詳細については、資産テンプレート 『55 ページ 』を参照してください。

アクション

- 編集 ハイパーリンクされた資産テンプレートを編集します 『111 ページ 』。資産選択時に テンプレートとして保存 『55 ページ 』コマンドを使って作成されたカスタム資産テンプレートにのみ適用されます。
- インポート 資産テンプレートを外部 XML ファイルからインポートします。
 - ➤ 資産テンプレート構成をある Network Monitor のインスタンスからエクスポートし、別の Network Monitor のインスタンスにインポートできます。これにより、Network Monitor ユーザーのコミュニティがモニタリングソリューションを共有できます。
 - ➤ Windows パフォーマンスモニターセットまたは SNMP セットは、VSA からエクスポートして、インポート時に資産テンプレート構成に変換できます。
- 削除 選択した資産テンプレートを削除します。

資産テンプレートの編集

Network Monitor > [設定] > [資産テンプレート]

[モニター構成]ページでは、資産テンプレート内のモニターのリストを構成します。

アクション

- 削除 選択したモニターを削除します。
- 新規モニター 新しいモニターを追加します。
- XML にエクスポート 資産テンプレートを外部 XML ファイルにエクスポートします。エクスポートされる資産テンプレートデータには、ユーザー名やパスワードなどの個人情報は含まれま

せん。エクスポートされるデータに含まれる情報はモニター構成用ですが、認証設定は除外されます。

- XML から更新 資産テンプレートを外部 XML ファイルから更新します。
- (*をクリックしてモニターを編集*) 資産テンプレート内のモニターは、リンクされていないモニターとほぼ同じプロパティを使用して定義されます。各モニターのプロパティについては、「モニターのリファレンス」 『119 ページ 』を参照してください。

ログ設定

VSA > Network Monitor > [設定] > [ログ設定]

[ログ設定]ページでは、Network Monitor のログポリシーを設定します。Network Monitor は、各種のシステムイベントに関する情報やその他のステータス情報を含むシステムログを継続的に書き込んでいます。ログ情報を各種サービスに送信するように、Network Monitor を構成することもできます。

ログポリシーを設定するには、次のタブを使用します。

- Windows イベントログ
- Syslog
- SNMPトラップ
- 保持

[Windows イベントログ]タブ

■ Windows イベントログ - チェックした場合、Network Monitor では Windows イベントログのログ情報が Application ログフォルダに保存されます。

[Syslog]タブ

- Syslog チェックした場合、Network Monitor からログ情報が syslog デーモンに送信されます。 syslog サーバーが稼働中のホストのアドレスとポート番号を指定します。Network Monitor syslog クライアントは、デフォルトで UDP プロトコルとポート 514 を使用します。
- Syslog サーバー ログ情報を受信する Syslog サーバーのアドレス。
- **Syslog ポート** Syslog サーバーのポート番号。

[SNMP トラップ]タブ

■ SNMP トラップ - チェックした場合、Network Monitor からすべてのログ情報が SNMP トラップとしてリモートトラップコンソールに送信されます。

注: Kaseya では、Network Monitor からトラップを受信するソフトウェアがインポート可能なカスタム MIB ファイルを作成しました。その MIB ファイルの名前は knm.mib で、\mibs ディレクトリにあります。

- トラップレシーバー トラップレシーバーのホスト名または IP 番号。
- トラップポート トラップレシーバーのリスン先のポート番号。
- コミュニティ SNMP トラップコミュニティ文字列。

注: ネットワークで SNMP トラップメッセージを*受信*するには、ゲートウェイノード 『39 ページ 』の[**詳細**]タブを使用してください。

保持

次の項目についてデータを保存する期間 (永久、月、四半期、年) を指定します。 $\frac{1}{1}$ 、四半期、および年の設定は、現在の日付からの日数(それぞれ 30 日、90 日、および 365 日)を表します。

- ログの保持
- レコードの保持
- トップリストの保持

NOCの設定

Network Monitor > [設定] > [NOC構成]

[NOC の設定]ページでは、カスタマイズされた NOC (Network Operations Center) のビューを作成します。通常、このビューは全画面表示されます。

NOC ビューの表示方法については、「[NOC]タブ」 『43ページ 』を参照してください。

[一般設定]タブ

■ NOC ビューモード - これは、すべての NOC ビューに影響を及ぼすグローバル設定です。[すべてのモニタータイプを表示]に設定した場合、すべてのモニタータイプが NOC マトリクスに表示されます。[利用不可のモニタータイプを表示しない]を選択した場合、NOC ビューが表示されるときに、特定の NOC ビュー構成に含まれるモニタータイプのみが表示されます。

[ビューの構成]タブ

このタブで NOC ビューを設定します。NOC ビューを新規作成するには、[新規ビュー]ボタンをクリックします。既存の NOC ビューを編集するには、リストからビューを選択し、[編集]ボタンをクリックします。NOC ビューの次のプロパティを設定できます。

- **ビューのタイトル** NOC ビューのタイトルであり、NOC ビューの上部に表示されます。
- **グループ別** NOC ビューにネットワーク、資産、資産とその後にモニター、のいずれを表示するかを指定します。
- **モニタータイプフィルター** モニタータイプを使用して、モニターの表示をフィルター処理します。

その他のシステム設定

Network Monitor > [設定] > [その他のシステム設定]

[**その他のシステム設定**]ページでは、次に示す各タブを使用して警報やその他のイベントの追加設定を行います。

- モニターのデフォルト設定
- 日付と週のフォーマット
- PageGate 統合
- その他の設定

モニターのデフォルト設定

このタブには、統計データのモニタリングと保存に関連するモニターパラメータのデフォルト設定があります。

- **テスト間隔** 新しいモニターのデフォルトのポーリング間隔。
- ▼ アラーム生成 新しいモニターのデフォルトのアラーム生成値。
- **アラームのテスト間隔** 新しいモニターのデフォルトのアラームのテスト間隔。
- Telnet プロンプト コンマで区切ってコマンドプロンプトを入力します。Network Monitor が Telnet サーバーにログを記録するときに、Network Monitor はコマンドプロンプトを知っている必要があります。
- Telnet ログインプロンプト コンマで区切ってログインプロンプトを入力します。Network Monitor が Telnet サーバーにログを記録するときに、Network Monitor はログインプロンプトを知っている必要があります。
- Telnet パスワードプロンプト コンマで区切ってパスワードプロンプトを入力します。 Network Monitor が Telnet サーバーにログを記録するときに、Network Monitor はパスワード プロンプトを知っている必要があります。

日付と週のフォーマット

このタブには、Network Monitor における日付と週のフォーマット設定があります。

- **日付フォーマット** 管理インターフェースおよび警報メッセージに日付を表示するときに、優先的に使用する日付フォーマットを指定します。
- **週フォーマット** 優先する週フォーマットを指定します。
- 週の番号付け ユーザーの地域で使用する週の番号付けの方法を指定します。

PageGate 統合

このタブには、**Network Monitor** での PageGate 統合の設定があります。PageGate とは、NotePage (http://www.notepage.net 『http://www.notepage.net』) が開発したページングゲートウェイアプリケーションです。

- インターフェース方式 PageGate ソフトウェアと通信するためのインターフェース方式を選択します。現在サポートされている方式は、GetAscii のみです。
- ポーリングディレクトリ GetAscii 方式に使用するポーリングディレクトリを指定します。 詳細については、PageGate ソフトウェアのドキュメントを参照してください。

SMS 設定

Network Monitor > [設定] > [SMS] > [SMS設定]

Network Monitor は、Network Monitor のホストマシンに接続されたモデムを経由して SMS を送信できます。モデムには、GSM 電話、または固定回線サービスプロバイダー経由で SMS の送信が可能なモデムを使用できます。[SMS 設定]タブでは、接続を有効にするために必要な論理設定を構成します。

- **GSM 電話ポート** 利用可能な COM ポートのリストから、電話への接続に使用するポートを選択します。
- ボーレート ボーレートは、Network Monitor がモデムに対して読み取りおよび書き込みを行う速度です。正しい値を指定するには、モデムのマニュアルを参照してください。適切な設定値が不明の場合は、2400 を設定することが推奨されます。*間違ったボーレートを選択すると、SMS メッセージの送信時に散発的なエラーが発生することがあります。*
- PIN コード オプションの PIN コードフィールド。一部の GSM 電話では、メッセージの送信前に Network Monitor から PIN コードを送信する必要があります。このフィールドに 4 桁の PIN コードを入力します。

モデムの構成

- 1. GSM モデムの接続先のシリアルポートを選択します。
- 2. ボーレートを選択します。デフォルト値は 9600 です。
- 3. (オプション) PIN コードを入力して SIM カードのロックを解除します。
- 4. [保存]ボタンをクリックして新しい設定を保存します。

ユーザーの電話番号

Network Monitor から SMS 通知を受信する各ユーザーには、次のいずれかを使用して SMS 電話番号を指定する必要があります。

■ Network Monitor [マイ設定] > [基本プロパティ]タブ 『109 ページ 』 > [SMS 番号]フィールド

テスト済みの SMS 資産

- Falcom Samba
- Falcom Swing
- Falcom Twist
- Nokia 30
- Zテキスト固定回線 SMS モデム

このリストの他に、ほぼすべてのモデム GSM 電話とモデムが機能します。資産はテキストモード SMS をサポートする必要があり、COM ポートに接続できる必要があります。資産は USB ポートに も接続できますが、Network Monitor から検出できるように、資産ドライバーは標準シリアルポートをエミュレートできる必要があります。

SMS モデムのインストールチェックリスト

資産は、Network Monitor のホストマシンのシリアルポートか、シリアルエミュレーション機能付きの USB ポートに接続する必要があります。

- 1. 電話ケーブルを Network Monitor のホストマシンに接続します。
- 2. お使いの電話のモデムドライバーをインストールします (必要に応じて)。
- 3. ターミナルプログラムを使用して電話に接続します。
- 4. 次のコマンドを入力して SMS の送信を確認します。
 - > ATZ
 - > KNM SMS TEST
 - CTRL-Z (キーを押す)
 - ➤ AT+CMGF=1
 - ➤ AT+CMGS="<PHONENUMBER>"
- 5. SMS が送信されるはずです。 <PHONENUMBER> を受信側の電話番号に置き換え、引用符を付けるのを忘れないでください(例: "0068455")。最終行で CTRL-Z キーを押す必要があります。
- 6. 電話が CMGS、送信 SMS の ID を示す番号の順に応答するはずです。
- 7. これで Network Monitor が電話を使用する準備が整いました。

CMS エラーコード

8	オペレーターが禁止を決定
10	呼び出し禁止
21	ショートメッセージの転送拒否
27	受信側がサービス停止

ナビゲーションパネルのリファレンス

28	未分類の登録者
29	機能の拒否
30	未知の登録者
38	ネットワーク障害
41	一時的なエラー
42	輻輳
47	リソース利用不可(未指定)
50	リクエストした機能が未登録
69	リクエストした機能が未実装
81	ショートメッセージ転送参照値が無効
95	メッセージが無効(未指定)
96	必須情報が無効
97	メッセージタイプが存在しないか未実装
98	メッセージがショートメッセージプロトコル状態と非互換
99	情報要素が存在しないか未実装
111	プロトコルエラー(未指定)
127	インターワーキング(未指定)
128	テレマティクスインターワーキングが未サポート
129	ショートメッセージタイプ 0 が未サポート
130	ショートメッセージを置換できない
143	未指定の TP-PID エラー
144	データ符号化方式(アルファベット)が未サポート
145	メッセージクラスが未サポート
159	未指定の TP-DCS エラー
160	コマンドを実行できない
161	コマンドが未サポート
175	未指定の TP コマンドエラー
176	TPDU が未サポート
192	SC ビジー状態
193	SC の登録なし
194	SC システムエラー
195	SME アドレスが無効
196	送信先で SME 禁止
197	SM 拒否-SM の複製
198	TP-VPF が未サポート
199	TP-VP が未サポート
208	D0 SIM SMS ストレージフル
209	SIM に SMS ストレージ機能なし
210	MS のエラー

211	メモリ容量超過
212	SIM アプリケーションツールキットがビジー状態
213	SIM データのダウンロードエラー
255	未指定のエラー原因
300	ME エラー
301	ME の SMS サービスが予約済み
302	不許可の動作
303	動作が未サポート
304	PDU モードパラメータが無効
305	テキストモードパラメータが無効
310	SIM が未挿入
311	SIM の PIN が必須
312	PH-SIM の PIN が必須
313	SIM エラー
314	SIM がビジー状態
315	SIM が正しくない
316	SIM PUK が必須
317	SIM PIN2 が必須
318	SIM PUK2 が必須
320	メモリエラー
321	メモリインデックスが無効
322	メモリがフル
330	未知の SMSC アドレス
331	ネットワークサービスなし
332	ネットワークタイムアウト
340	必須の+CNMA ACK がない
500	不明なエラー
512	ユーザーによる中止

デフォルトのメッセージ

Network Monitor > [設定] > [SMS] > [デフォルトのメッセージ]タブ

[デフォルトのメッセージ]ページでは、確認通知メッセージのデフォルトのフォーマットを設定します。 このフォーマットは、モニターツリーの下位に継承されません。

注: アラームメッセージ 『68ページ』のトピックには、確認通知メッセージに含めることができるフォーマット変数のリストがあります。

[レポートタイトル]行では、作成したレポートを受信者にEメールで送信するときのEメールタイトルのデフォルトフォーマットを指定します。

モニターのリファレンス

この章には、*モニター固有の設定*に関するリファレンスがあります。*標準のモニター設定*については、**「モニターの編集」** 『64ページ』 を参照してください。

オペレーティングシステム別のモニター

資産に追加可能なモニターの種類は、資産が示すオペレーティングシステムによって異なります。 通常、資産のオペレーティングシステムはネットワーク検出 『24ページ』中に識別されます。資 産が示すオペレーティングシステム 『52ページ』を手動で変更することができます。 次の表に、 各モニターでサポートされるオペレーティングシステムの種類を示します。

	Windows	Linux/Unix	VMW are	Cisco IOS ベ ース	その他/ 不明
アクティブディレクトリ 『 121ページ』	9				
帯域使用率 『122 ページ 』	9				
CIM モニター 『123 ページ 』		9	a		
Citrixサーバー 『125ページ』	9	9	a	9	9
CPU 使用率 『125 ページ 』	•	9	a	9	
データベースサーバー 『126 ページ 』	•	•	•	•	•
データストア使用率 『127 ページ 』			•		
DHCP クエリー 『127 ページ	9	9	•	•	9
ディレクトリのプロパティ 『127ページ 』	9				
ディスク使用率 『129 ページ	9	9	9	9	9
DNS ルックアップ 『130 ページ』	9	9	9	9	•

環境モニター『130ページ』	•	9	9	9	•
Eventlog 『131ページ』	•				
Exchange Server 『131 ページ	•				
ファイルの変更 『132 ページ』	•	•	9	•	•
FTP サーバー 『133 ページ 』	•	9	•	•	•
IMAP4 サーバー 『133 ページ』	•	•	•	•	•
JVM のパフォーマンス 『134 ページ 』	•	•			•
LDAP クエリー 『135 ページ	•	•	•	•	•
ログファイル『136ページ』	9	9	9	9	•
Lua スクリプト 『137 ページ	•	•	•	•	•
メールサーバーQOS 『137 ペ ージ 』	•	•	•	•	•
メモリ使用率『138ページ』	9	9	9	9	
MySQL 『139ページ』	•	9	•	9	•
NNTP サーバー 『140 ページ	•	•	•	•	•
Oracle 『140ページ』	9	•	9	9	•
Ping 『142ページ 』	9	•	•	•	•
POP3 サーバー 『143 ページ 』	•	•	•	•	•
プロセスのステータス 『143 ページ 』	•	•	•	•	
RADIUS サーバー 『143 ページ』	•	•	9	•	•
Salesforce クエリー 『145 ペ ージ 』	•	•	•	•	•
SMTP サーバー 『145 ページ	•	•	•	•	•
SNMP 『146ページ』	9	•	•	9	•
SNMPトラップ 『147ページ	•	•	•	•	•
SQL Server 『148ページ』	•				
SSH2 スクリプト 『149 ペー ジ 』	•	•	•	•	•
SSH2 サーバー 『150 ページ 』	•	•	9	•	•
スワップファイル使用率 『 150ページ』	•	•	•	•	

Syslog 『151ページ』	9	9	9	9	9
TCP ポートスキャン 『152 ページ 』	•	•	•	•	9
Telnet サーバー 『152 ページ	•	•	•	•	9
Terminal Service 『152 ページ	•	•	•	•	9
TFTPサーバー 『153ページ』	<u> </u>	9	9	9	9
転送速度 『153 ページ 』	<u> </u>	9	9	9	9
VMware のパフォーマンス 『 153 ページ 』			•		
ウェブサーバー 『155 ページ	•	•	•	•	•
Windows のパフォーマンス 『156 ページ 』	•				
Windows サービスのステータ ス 『157 ページ 』	•				
WMI クエリー 『157 ページ 』	9				

Active Directory モニター

Active Directory モニターは、レプリケーションの待機時間、ドメインコントローラの時間差、Kerberos 認証の検証など、Active Directory サーバーの重要な項目をモニターできます。

- システムのタイプ:Windows
- カテゴリー:ディレクトリサービス

注: ここでは、モニター固有の設定のみを説明しています。「標準モニター設定」 『66 ページ 』を参照してください。

モニターの前提条件

- 資産アドレスは、Active Directory (AD) のドメイン名でなければなりません(例: mydomain.local)。
- ログオンアカウントはドメインユーザーでなければなりません。
- DCOM を Active Directory モニタリング用に有効にする必要があります。
- Active Directory でテストを実行する KNM ゲートウェイマシン自体が、モニタリング対象 AD に属していなければなりません。
- 資産名はドメイン名でなければなりません。ドメインコントローラ (DC) のような資産名にすることはできません。その代わり AD 資産は割り当てられたすべての DC を列挙し、このリストからその特定の項目をモニターします。
- 資産に割り当てるWindowsアカウントは、Windowsドメインユーザーでなければなりません。
- 資産に割り当てる Windows ドメインユーザーアカウントには、モニタリング対象のすべての AD 資産への読み取りアクセス権が必要です。

モニターのリファレンス

- ドメインコントローラ共有のテストを正常にテストするには、資産に割り当てる Windows ドメインユーザーアカウントが管理者、パワーユーザー、プリントオペレータ、またはサーバーユーザーのいずれかのグループに属する必要があります。
- Kerberos 認証を正常にテストするには、資産に割り当てる Windows ドメインユーザーアカウントに SE TCB NAME (オペレーティングシステムの一部として機能)権限が必要です。
- グローバルカタログのテストを行うには、Kerberos 認証が成功しなければならないことがあります。

モニター固有のプロパティ

- **ログオンアカウント** ログオンアカウントには、Active Directory サーバーのテスト時に使用する資格情報が格納されます。このアカウントはドメインユーザーでなければなりません。それ以外の場合はテストが失敗します。
- **Kerberos 認証** チェックした場合、Active Directory が Kerberos 認証を正常に実行可能かどうかがテストされます。認証エラーが発生するとエラーレポートに書き込まれ、アラームが発生します。
- グローバルカタログ チェックした場合、グローバルカタログドメインコントローラが検出されるかどうかがテストされます。エラーが発生するとエラーレポートに書き込まれ、アラームが発生します。
- DNS で公開される DC チェックした場合、ドメインコントローラのサービス DNS SRV レコードが DNS("_ldap._tcp.DOMAIN."、"_kerberos._tcp.DOMAIN."、"_ldap._tcp.dc._msdcs.DOMAIN."、"_kerberos._tcp.dc._msdcs.DOMAIN."、"_ldap._tcp.Default-First-Site._sites.DOMAIN."など)で検出されるかどうかがテストされます。
- **レプリケーション** チェックした場合、前回のレプリケーション試行が成功したかどうかがテストされます。
- DC の最大時間差 ドメインコントローラ間の時間差(単位: 秒)を測定します。ドメインコントローラ間の時間差がこの値を上回ると、テストは失敗します。

LDAP クエリーオプション

オプションの LDAP クエリステートメントを実行し、比較演算を用いてその出力を事前定義の値と 比較できます。

- LDAP クエリー 実行する LDAP クエリー。
- 比較値 クエリー結果と比較する値。
- 値の型 データベースから取得した値と比較される値の型。
- 演算 返されたクエリー結果と比較値を評価し、テストの成功/失敗を判定する演算。

帯域使用率モニター

帯域使用率は、ネットワークインターフェース上の帯域をモニターします。この構成には、閾値を設定しても、しなくてもかまいません。Windows 資産では、帯域の測定方法として SNMP、WMI または Windows パフォーマンスカウンターを使用できます。その他すべてのタイプの資産では、SNMPの方法を使用します。帯域のモニタリングには SNMP を使用することを常に検討してください。WMI や Windows パフォーマンスカウンターに比べ、SNMP の方が高速かつリソース効率がよいからです。

■ WMI または Windows パフォーマンスカウンターの場合、モニタリング対象資産のレジストリの 読み取り権限を持つ Windows ユーザーが必要です。

- Windows パフォーマンスカウンターを使用する場合、モニタリング対象資産で"リモートレジストリ"サービスを有効にして、開始する必要があります。
- Windows マシンでこのモニタータイプに問題が発生した場合は、資産ノードの[**詳細** 『52ページ』]タブにある[WMI を使用する]チェックボックスのチェックを解除してみてください。
- Network Monitor が SNMP 資産への接続に使用するコミュニティ名、SNMP バージョン、およびポートは、資産ノードの[認証 『42ページ 』]タブで設定します。資産ノードは、親ノードからこの設定を継承できます。「インストール前のチェックリスト」 『4ページ 』を参照してください。
- システムのタイプ:: すべて
- カテゴリー:パーフォマンス

注: ここでは、モニター固有の設定のみを説明しています。「標準モニター設定」 『66ページ』を参照してください。

モニター固有のプロパティ

- **インターフェース名** モニタリング対象のインターフェースを選択します。
- インターフェース速度 手動でインターフェース速度を設定するためのオプションパラメータ。 ADSL ラインなどの低速で接続された NIC をモニターする場合に役立ちます。速度の入力単位は常に Kbps です。
- SNMP を強制する 資産で SNMP が検出されたかどうかを表示します。チェックした場合、資産が Windows システムタイプでも SNMP が使用されます。
- リンクステータスをチェックする チェックした場合、アップ/ダウンステータスをモニターします。SNMP の方法を使用する場合にのみ、[リンクステータスをチェックする]チェックボックスをチェックできます。
- **単位** 帯域使用率のデータの記録および表示に使用する単位。モニターの作成後、単位を変更することはできません。
- 閾値 選択した単位の上限閾値。
- **資格情報の継承** Windows ドメイン資格情報が必要な場合は指定します。チェックした場合、 継承されます。チェックしない場合、資産ノードの[認証 『42 ページ』]タブで資産に設定した Windows ドメイン資格情報がオーバーライドされます。

CIM モニター

CIM モニターは、CIM をサポートし、エージェントとプロバイダが構成された任意のハードウェアプラットフォームで、構成された CIM エージェント *(CIMOM)* を照会できます。CIMOM の構成方法については、ハードウェアのマニュアルを参照してください。

このモニターは、CIMOM(エージェント)の CIM パフォーマンスカウンターを照会し、得られた値を比較演算で値と比較できます。比較演算で false と評価されると、モニターはテストに失敗します。ホスト、データストア、メモリ、CPU などの多くのパフォーマンスカウンター資産をサポートします。

- システムのタイプ: Linux/UNIX、VMware
- カテゴリー:パーフォマンス

注: CIM モニタリングの概要については、Kaseya のナレッジベース 『https://helpdesk.kaseya.com/entries/35975757 を見て 』を参照してください。

注: ここでは、モニター固有の設定のみを説明しています。「標準モニター設定」 『66ページ』を参照してください。

接続の設定

■ セキュア HTTP (SSL) の使用 - SSL を使用してトラフィックを暗号化します(デフォルト)。

CIM モニターのプロパティ

- **ターゲットのネームスペース** デフォルト値は root/cimv2 です。お使いのシステムに固有のネームスペースについては、ハードウェアのマニュアルを参照してください。もう1つの共通ネームスペースは root/interop です。
- **クラス** クラスは選択したネームスペースに基づいて列挙されるため、異なるシステムではクラスの表示も大きく異なります。
- **プロパティ** モニターするプロパティのタイプ。プロパティは選択したクラスに基づいて列挙されます。
- インスタンス 選択したクラスに複数のインスタンスがある場合は、ここに列挙されます。
- **除数** 結果がこの値で除算されます。オプション。デフォルト値は1です。
- **データタイプ** テストでサンプリングされるデータの単位。データタイプを使用して、レポート内でこのタイプのモニターからのデータを、CPU 使用率などの他のモニターとグループ化できます。

閾値の設定

- **値の型** 返される値の型。
- 比較演算 返された結果と事前定義の比較値との評価に使用する演算。
- 比較値 ユーザー定義の比較値。有効な値は数値のみです。

CIM アカウント

資産タイプとして[その他/不明]を選択した場合、CIMOMに対して認証するにはここでアカウントを選択する必要があります。CIM ユーザーに少なくとも指定ネームスペースの読み取り権限があることを確認ください。

- **資格情報の継承** チェックした場合、資産から資格情報を継承します。チェックしない場合は、モニター固有の資格情報を入力します。
- ユーザー名/パスワード このモニターへのアクセス認証に使用する資格情報。
- ポート デフォルト値は 5989 (SSL) です。暗号化されていないトラフィックのデフォルトのポートは 5988 です。

参考情報およびリンク

CIM(Common Information Model)は、DMTF(Distributed Management Task Force)が定義して公開した標準です。WBEM(Web-Based Enterprise Management)などの他の標準は、実装の検出やアクセスに使用するプロトコルなどの CIM の実装を定義しています。

WMI (Windows Management Instrumentation) および SBLIM (Standards Based Linux Instrumentation Management) は、実装例です。その他に、SMI-S(Storage Management Initiative - Specification)、SMASH(Server Management Architecture for Server Hardware)、DASH(Desktop and mobile Architecture for System Hardware)があります。

- http://en.wikipedia.org/wiki/Common_Information_Model_(computing)
- http://en.wikipedia.org/wiki/Windows Management Instrumentation
- http://sourceforge.net/projects/sblim

- http://en.wikipedia.org/wiki/Storage_Management_Initiative_-_Specification
- http://dmtf.org/standards/smash
- http://dmtf.org/standards/dash
- http://h18006.www1.hp.com/storage/smis.html SMI-S 対応の HP ハードウェアのリスト。

Citrix サーバーモニター

Citrix サーバーモニターは、Citrix サーバーが接続試行に応答しているかどうかをチェックします。

- システムのタイプ:: すべて
- カテゴリー:ネットワークサービス

注: ここでは、モニター固有の設定のみを説明しています。「標準モニター設定」 『66ページ』を参照してください。

モニター固有のプロパティ

■ ポート番号 - Citrix サービスのポート番号。

CPU使用率モニター

資産の CPU 使用率をモニターし、指定の閾値を超えるとアラームをトリガーします。

- システムのタイプ:: その他/不明を除くすべて
- カテゴリー:パーフォマンス

Windows 資産では、CPU 使用率の測定方法として、*WMI* または *Windows パフォーマンスカウンタ* 一を使用できます。

- WMI または Windows パフォーマンスカウンターの場合、モニタリング対象資産のレジストリの 読み取り権限を持つ Windows ユーザーが必要です。
- Windows パフォーマンスカウンターを使用する場合、モニタリング対象資産で"リモートレジストリ"サービスを有効にして、開始する必要があります。

UNIX資産では、KNMはSSH2を用いてモニタリング対象資産に接続し、選択したオペレーティングシステムに固有のコマンドを実行します。UNIX資産に使用されるユーザーが、vmstatやmpstatなどの必要なコマンドを実行できることを確認してください。必要に応じて、特定の CPU やコアをモニターするmpstatユーティリティなど、使用しているシステム用のシステムツールをインストールしてください。そうしない場合、システム全体の負荷のみがモニターされます。

注: Windows マシンでこのモニタータイプに問題が発生した場合は、資産ノードの[**詳細** 『**52**ページ』] タブにある[**WMI を使用する**]チェックボックスのチェックを解除してみてください。

注: ここでは、モニター固有の設定のみを説明しています。「標準モニター設定」 『66 ページ 』を参照してください。

モニター固有のプロパティ

- **CPU の最大負荷** CPU の最大使用率 (単位: %)。
- CPU番号 ホスト上のCPU番号。通常、この値は関連資産から自動的に取得されます。リストを更新するには、[CPUの再スキャン]リンクをクリックします。

- **詳細エラーレポート**(Windows のみ) チェックした場合、CPU 使用率別に上位 5 つのプロセスが含まれます。
- **資格情報の継承** Windows ドメイン資格情報が必要な場合は指定します。チェックした場合、 継承されます。チェックしない場合、資産ノードの[**認証** 『42 ページ』]タブで資産に設定した Windows ドメイン資格情報がオーバーライドされます。

データベースサーバーモニター

データベースサーバーは、ODBC を使用するデータベースをモニターします。テストによって、ODBC データソースが開いてアクセス可能であることが検証されます。このモニターは SQL クエリーも実行し、結果を事前定義の値と比較できます。

- システムのタイプ:: すべて
- カテゴリー:データベース

注: ここでは、モニター固有の設定のみを説明しています。「標準モニター設定」 『66ページ』を参照してください。

[基本]タブ

ODBC モニターのプロパティ

- **データソース名** データベースへの接続に使用される ODBC データソースの名前。データソースは次の条件を満たす必要があります。
 - ターゲットマシンのゲートウェイノードのホストシステムで構成されていること。
 - ▶ ODBC DNS システムタイプのデータソースであること。
 - ▶ 32 ビットのデータソースであること。
 - ✓ 32 ビットのゲートウェイホストシステムの場合、 c:\Windows\System32\odbcad32.exe を実行してデータソースを構成します。
 - ✓ 64 ビットのゲートウェイホストシステムの場合、c:\Windows\SysWOW64\odbcad32.exe を実行してデータソースを構成します。
- SQL クエリー オプションで実行する SQL クエリー。

ODBC アカウント

■ **資格情報の継承** - チェックした場合、資産から資格情報を継承します。チェックしない場合は、モニター固有の資格情報を入力します。

注:このモニターについて、チェックボックスのチェックを解除し、モニター固有の資格情報を入力してください。

- ユーザー名/パスワード このモニターへのアクセス認証に使用する資格情報。
- **行がない場合は失敗** このチェックボックスをチェックした場合、クエリーが行を返さないと モニターがテストで失敗します。
- データタイプ 現在サポートされている唯一のオプションは[SQL クエリーの値]です。

閾値の設定

- 値の型 データベースから照会した値と比較する値の型。
- 比較演算 テストに成功するための、照会した値と比較値との関係を指定します。

■ 比較値 - クエリー結果と比較する値。

データストア使用率

データストア使用率は、VMware データストアの空きスペースをモニターし、資産上でモニター可能なデータストアを自動的に列挙します。

- システムのタイプ:: VMware
- カテゴリー:パーフォマンス

注: ここでは、モニター固有の設定のみを説明しています。「**標準モニター設定」 『66** ページ **』**を参照してください。

モニター固有のプロパティ

- データストア名 モニタリング対象のデータストアの名前。この名前は、資産の検査時に資産から自動的に取得されます。リストを更新するには、[サービスの再スキャン]リンクをクリックします。
- データストアの空きスペース データストアの最小空きスペース (次の項目で指定した単位)。
- 単位 テストで使用する単位を選択します。[データストアの最小空きスペース]の閾値はこの単位で表示されます。

DHCP クエリーモニター

DHCP クエリーモニターは、DHCP サーバーが IP アドレスをネットワーク内のクライアントにリース可能であるかどうかを検証します。テストが成功するためには、1 つ以上のアドレスが空いていなければなりません。

- システムのタイプ:: すべて
- カテゴリー:ディレクトリサービス

Network Monitor は、DHCP サーバーに IP アドレスをリクエストするために、**ゲートウェイホスト** に最初に取り付けられたネットワークカードの MAC アドレスを使用します。

- このモニターを使用する場合、Network Monitor のホストは、独自のネットワークインターフェースに DHCP を使用できません。ゲートウェイホストマシンが DHCP を使用している場合、結果として、ホストに割り当てられた IP アドレスを Network Monitor が解放する可能性があります。
- DHCP サーバーが、使用している **Network Monitor** サーバーとは異なるネットワークにある場合、そのネットワーク上にゲートウェイを配置するか、**Network Monitor** がインストールされているネットワーク上に DHCP 転送(UDP ヘルパー)を実装します。

注: ここでは、モニター固有の設定のみを説明しています。「標準モニター設定」 『66ページ』を参照してください。

ディレクトリプロパティモニター

ディレクトリプロパティモニターは、ファイル数、ディレクトリのサイズ、ディレクトリ内のファ

モニターのリファレンス

イルの相対サイズ変化および経過時間をテストできます。ワイルドカードを使用して、一致するファイルにテストの範囲を制限することができます。

- システムのタイプ:: Windows
- カテゴリー:その他

注: ここでは、モニター固有の設定のみを説明しています。「標準モニター設定」 『66 ページ 』を参照してください。

モニター固有のプロパティ

- **共有** 資産からの相対的な共有の名前。 *ファイルを指定する必要があります。*ワイルドカードのフォーマットオプションを使用できます。たとえば、\temp*.?xt です。。追加のフォーマットオプションについては、後述します。
- ファイルがない場合は OK このチェックボックスをチェックした場合、一致するファイルがないとモニターがテストに合格します。後続のテストをチェックすることなく、テストに合格します。
- **ログオンアカウント** 資産のデフォルトアカウントをオーバーライドするには、リストからアカウントを選択します。
- ファイルの最大数 テストに合格する、ディレクトリ内のファイルの最大数を入力します。空白にした場合、このテストがスキップされます。
- ファイルの最小数 テストに合格する、ディレクトリ内のファイルの最小数を入力します。空白にした場合、このテストがスキップされます。
- **最大エージ** ディレクトリ内の最も古いファイルの最大経過期間 (単位: 時間、分) を入力します。たとえば、HH:MM です。空白にした場合、このテストがスキップされます。
- **最新の最大エージ** ディレクトリ内の最も新しいファイルの最大経過期間を入力します。空白にした場合、このテストがスキップされます。
- 相対閾値 相対閾値テストでは、前回のテストから現在のテストまでの相対的な変化をテストできます。選択したオプションの評価結果が true の場合、テストは失敗します。
- **絶対閾値** 絶対閾値テストでは、絶対閾値(単位: MB)を基準にしてディレクトリのサイズをテストできます。演算で閾値が true と評価されると、テストに合格します。

パスフィールドのフォーマット変数

共有のパスを指定するときに、次のフォーマット変数を含めることができます。たとえば、フォーマット

\sharename*%[system.date_year]-%[system.date_month]-%[system.date_day_of_month]. log は、2013-01-15.log、2013-02-10.log、2013-03-06.log などのファイル名に一致します。

- %[system.time hour] 24 時間フォーマットの時刻(00~23)
- %[system.time hour2] 12 時間フォーマットの時刻(01~12)
- %[system.time minute] 10 進数の分(00~59)
- %[system.time_second] 10 進数の秒 (00~59)
- %[system.date year] 4桁の西暦年(10進数)
- %[system.date_year2] 西暦年の下2桁(10進数)
- %[system.date month] 10 進数の月 (01~12)
- %[system.date day of month] 月内の日(01~31、10進数)
- %[system.date day of year] 年内の日(001~366、10進数)
- %[system.date_weekday] 数字で表した曜日(0~6、日曜日が0)

ディスク使用率モニター

ディスク使用率は、ボリュームの空きスペースをモニターし、資産上でモニター可能なボリュームを自動的に列挙します。

Windows 資産では、ディスク使用率の測定方法として、WMIまたは Windows パフォーマンスカウンターを使用できます。

- WMI またはWindows パフォーマンスカウンターの場合、モニタリング対象資産のレジストリの 読み取り権限を持つ Windows ユーザーが必要です。
- Windows パフォーマンスカウンターを使用する場合、モニタリング対象資産で"リモートレジストリ"サービスを有効にして、開始する必要があります。
- ボリュームまたはドライブの代わりに Windows 共有をモニターする場合、資産に関連付けられた Windows ユーザーには共有名へのネットワーク読み取りアクセス権が必要です。

UNIX 資産では、KNM は SSH2 を用いてモニタリング対象資産に接続し、選択したオペレーティングシステムに固有のコマンドを実行します。UNIX 資産に使用されるユーザーが必要なコマンドを実行できることを確認してください。df がデフォルトのコマンドです。

- システムのタイプ:: その他/不明を除くすべて
- カテゴリー:パーフォマンス

注: Windows マシンでこのモニタータイプに問題が発生した場合は、資産ノードの[**詳細** 『52 ページ 』] タブにある[WMI を使用する]チェックボックスのチェックを解除してみてください。

注: ここでは、モニター固有の設定のみを説明しています。「標準モニター設定」 『66ページ』を参照してください。

モニター固有のプロパティ

- Windows 共有を使用する このオプションが表示されるのは、Windows システムタイプの資産のみです。
 - ➤ チェックした場合、モニターは SMB/CIFS ネットワークプロトコルを使用してディスク使用率を取得します。これを実行するには、C\$などの共有名を入力する必要があります。このオプションを有効にするときは、ファイルとプリンターの共有が資産で実行中であることを確認してください。このオプションを有効にすると、ディスク列挙はサポートされません。
 - ➤ チェックしない場合、モニターは Windows パフォーマンスレジストリを使用してディスク使用率の値を取得します。
- ボリューム名 モニタリング対象のディスクの名前。この名前は、資産の検査時に資産から自動的に取得されます。リストを更新するには、[ディスクボリュームの再スキャン]リンクをクリックします。[Windows 共有を使用する]をチェックした場合、リストの代わりにテキストフィールドが表示されます。
- 空きディスクスペース ディスクの最小空きスペース (次の項目で指定した単位)。
- 単位 テストで使用する単位を選択します。[空きディスクスペース]閾値はこの単位で表示されます。
- 資格情報の継承 Windows ドメイン資格情報が必要な場合は指定します。チェックした場合、 継承されます。チェックしない場合、資産ノードの[認証 『42 ページ』]タブで資産に設定した Windows ドメイン資格情報がオーバーライドされます。

DNS ルックアップモニター

DNS ルックアップモニターは、*資産で実行中の DNS サーバー*に接続し、指定アドレスを別のアドレスフォーマットに変換しようと試行します。入力するアドレスの形式は数字 *(255.255.255.255.255)* または名前(www.kaseya.com)のいずれでもかまいません。

- システムのタイプ:: すべて
- カテゴリー:ディレクトリサービス

逆引き DNS ルックアップをテストするには、KNM ホストまたはゲートウェイによって使用される DNS サーバーがその機能をサポートしていることを確認してください。テストを行うには、ping -a コマンドを使用します。

注: ここでは、モニター固有の設定のみを説明しています。「標準モニター設定」 『66ページ』を参照してください。

モニター固有のプロパティ

- **名前** 変換テストに使用するアドレス。一度に複数のアドレスをテストするには、このフィールドに入力するアドレスをセミコロンで区切ります。
- **すべて失敗** このオプションを選択すると、すべてのアドレスがルックアップに失敗したときに、エージェントが失敗の状態になることを示します。

環境モニター

環境モニターは、環境モニター用にハードウェアをモニターできます。AKCP、IT Watchdogs、AVTECH、Sensatronics などのさまざまなメーカーの各種ハードウェアがサポートされます。

- システムのタイプ:: すべて
- カテゴリー:環境

注: ここでは、モニター固有の設定のみを説明しています。「標準モニター設定」 『66 ページ 』を参照してください。

モニターの構成

環境モニターを新規作成するときに、まず資産のメーカーとモデルを選択する必要があります。モデルを選択すると、Network Monitor が自動的に資産設定を取得します。

モニター固有のプロパティ

- **温度単位** 閾値を指定する目的の温度単位。この単位は、対象モニターのリアルタイムグラフのビジュアル表示にも影響します。
- ポーリング方法 この設定は、資産からデータを照会するときのポーリング方法を示します。 通常、変更する必要はありません。
- ポート 資産からデータをポーリングするときのポート番号。通常、Network Monitor によって自動的に設定されます。

これらの一般設定の後、資産上の各センサーの設定を行うことができます。各センサーの設定は、前に行っている資産自体の構成方法に対応するグループに、論理的に編成されます。各センサーの[有効]ボックスをチェックして、各センサーを有効にする必要があります。閾値は不要で、センサーを統計情報の収集にのみ使用する場合は空白にすることができます。

イベントログモニター

イベントログモニターは、イベントログを読み取り、モニターのパラメータに一致するメッセージを検索します。現在のテストに含まれるのは、前のテスト後に作成されたイベントログエントリーのみです。

- システムのタイプ:: Windows
- カテゴリー:ログ

親資産の[**詳細**]タブで[**WMI を使用する**]がチェックされている場合、このモニターに WMI が使用されます。アプリケーションとサービスのログのイベントログをモニターするには、WMI のチェックを解除します。読み取り可能なログファイルの場合、WMI が制限されるためです。

[WMI を使用する]をチェックしない場合、イベントログの読み取りには Windows のバージョンに応じて 2 種類の API が使用されます。 Windows Vista/Server 2008 に使用される API は、Windows Server 2003 や Windows XP に使用される API とは異なります。

注: ここでは、モニター固有の設定のみを説明しています。「標準モニター設定」 『66ページ』を参照してください。

モニター固有のプロパティ

- イベントソース文字列 *(オプション)* イベントのソース。
- **コンピュータ** (オプション) ログエントリーを登録したコンピュータ。
- **イベントID** アラームのトリガーするイベントID 番号。複数の番号はコンマで区切ります。すべてのイベントID を含めるには、フィールドを空白にします。
- イベント ID フィルター フィルター処理により除外するイベントのイベント ID 番号。複数の番号はコンマで区切ります。
- **フィルターに含める** イベントレコードのメッセージテキストに文字列が1つ以上ある場合、 その他すべての条件が満たされていると仮定して、そのレコードはテストに含まれます。
- フィルターから除外する イベントレコードメッセージテキストに1つ以上の文字列がある場合、その他すべての条件が満たされていると仮定して、そのレコードはテストに含まれません
- イベントタイプ 検索対象のイベントのタイプ。代わりに[all]が選択されている場合、すべてのタイプのイベントがテストの対象になります。
- メッセージを含める チェックした場合、メッセージテキストがエラーレポートに含まれます
- イベントログ ログ名の事前定義リストを表示します。モニタリング対象のログを選択します。
- **代替イベントログ** 代替ログ名。検索するログの名前を入力します。この設定は、[イベントログ]設定をオーバーライドします。
- ログオンアカウント 資産に選択されたデフォルトのアカウントをオーバーライドします。

Exchange サーバーモニター

Exchange サーバーモニタータイプは、Microsoft Exchange 2007 サーバーの I/O 動作とメールキューのサイズをモニターできます。

■ システムのタイプ:: Windows

■ カテゴリー:ウェブおよびEメール

注: ここでは、モニター固有の設定のみを説明しています。「標準モニター設定」 『66 ページ 』を参照してください。

パフォーマンスのモニタリング

- ディスクの読み取り速度 (bps) 読み取り動作中にディスクから転送される最大速度。
- ディスクの書き込み速度(bps) 書き込み動作中にディスクに転送される最大速度。

キューのモニタリング

実行しないテストのフィールドを空白にします。

- **送信キューサイズ(メールボックス**) <mark>メールボックス</mark>の送信キュー内の最大許容メッセージ 数。
- **受信キューサイズ(メールボックス**) <mark>メールボックス</mark>の受信キュー内の最大許容メッセージ 数。
- 送信キューサイズ(パブリック) パブリックの送信キュー内の最大許容メッセージ数。
- **受信キューサイズ (パブリック)** パブリックの受信キュー内の最大許容メッセージ数。
- SMTP カテゴライザのキューの長さ 受信者の検証、ローカル/リモート配布のソート、配布リストの受信者の増加など、処理を待機可能な最大許容メッセージ数。このキュー内に待機中のメッセージが多数あることは、その他の Exchange コンポーネントまたは Active Directory にパフォーマンスの問題がある可能性を示します。
- 配布キューのメッセージ 配布キュー内の最大メッセージ数。

ファイル変更モニター

ファイル変更モニターは、ファイルのサイズ変更または変更日をチェックします。

- システムのタイプ:: その他/不明を除くすべて
- カテゴリー:その他

使用するユーザー資格情報に、モニタリング対象のファイルに対して少なくとも読み取り権限が設 定されていることを確認してください。

注: ここでは、モニター固有の設定のみを説明しています。「標準モニター設定」 『66ページ』を参照してください。

Windows 固有のプロパティ

■ ファイルのパス - ホスト名を含めて、UNC 表記法を使用するファイルの絶対パス。このパスにより、モニターを設定した資産とは異なる資産上にあるファイルをモニター対象にできます。例: \\myhost\c\$\test.txt

UNIX 固有のプロパティ

■ ファイルのパス - ホストからのファイルの相対パス。例: /home/robert/test.txt

モニター固有のプロパティ

■ **日付** - チェックした場合、前回のテスト以降にファイルが変更されるとアラームをトリガーします。

- **サイズの増大** チェックした場合、前回のテスト以降にファイルのサイズが増大するとアラームをトリガーします。
- **サイズの減少** チェックした場合、前回のテスト以降にファイルのサイズが減少するとアラームをトリガーします。
- **変更なし** チェックした場合、前回のテスト以降にファイルのサイズまたは日付に変更がないとアラームをトリガーします。

パスフィールドのフォーマット変数

パスを指定するときに、次のフォーマット変数を含めることができます。

- %[system.time hour] 24 時間フォーマットの時刻 (00~23)
- %[system.time hour2] 12 時間フォーマットの時刻 (01~12)
- %[system.time_minute] 10 進数の分(00~59)
- %[system.time_second] 10 進数の秒 (00~59)
- %[system.date year] 4桁の西暦年(10進数)
- %[system.date year2] 西暦年の下2桁(10進数)
- %[system.date_month] 10 進数の月 (01~12)
- %[system.date day of month] 月内の日(01~31、10進数)
- %[system.date day of year] 年内の日(001~366、10進数)
- %[system.date weekday] 数字で表した曜日(0~6、日曜日が0)

FTP サーバーモニター

FTP サーバーモニターは、FTP サーバーが新しい接続を受け入れるかどうかをチェックします。

- システムのタイプ:: すべて
- カテゴリー:ネットワークサービス

FTP サーバーモニターは、サービスの可用性をモニターできますが、ログオンも機能します。資産またはモニターの FTP アカウントを入力します。匿名のログオンが機能するかどうかをチェックする場合は、標準の"匿名"アカウントを使用します。多くの FTP サーバーは、任意の文字列やユーザーの E メールアドレスをパスワードとして受け入れます。

注: ここでは、モニター固有の設定のみを説明しています。「標準モニター設定」 『66ページ』を参照してください。

モニター固有のプロパティ

- **ログオンアカウント** FTP サーバーへのログオンに使用するアカウント。ログオンアカウント を選択しない場合、簡単なポートチェックが実行されます。
- ポート番号 FTP サーバーがリスンしているポート番号。

IMAP4 サーバーモニター

IMAP4 サーバーモニターは、ログオンしてメールボックスを選択できるかどうかをテストします。このテストでは、IMAP4 サーバーの認証およびストレージの部分が機能しているかどうかが検証されます。ユーザー名またはパスワードを指定しない場合、簡単な接続テストが実行されます。

■ システムのタイプ:: すべて

モニターのリファレンス

■ カテゴリー:ウェブおよびEメール

資産またはモニターに IMAP4 資格情報を追加し、そのログオンが機能することを確認します。

注: ここでは、モニター固有の設定のみを説明しています。「標準モニター設定」 『66ページ』を参照してください。

モニター固有のプロパティ

- ユーザー名/パスワード ログオンしてメールボックスをチェックするオプションの資格情報。
- **受信ボックス名** 資格情報が指定されている場合にチェックする受信ボックスの名前。
- **ポート番号** サーバーがリスンしているポート番号。

JVM パフォーマンスモニター

JVM パフォーマンスモニターは、JMX を使用して Java Bean オブジェクトとそのデータを照会します。このモニターは、比較演算を使用して、Java Bean 値を比較値と比較します。比較演算で false と評価されると、モニターはテストに失敗します。オプションで、2 つのパフォーマンスカウンターを照会して組み合わせてから、比較値と比較することができます。

- システムのタイプ:: Windows、Linux/UNIX、その他/不明
- カテゴリー:パーフォマンス

CPU の平均使用率のモニタリング

すべての Bean オブジェクトとそのデータは、次の設定の組み合わせを除いて、Java VM パフォーマンスデータのデータタイプを使用します。

- オブジェクト java.lang.type=OperatingSystem
- カウンター- ProcessCpuTime
- データタイプ CPU 使用率

この場合、CPU の平均使用率 (IConsole に表示される CPU 使用率に類似) は、ProcessCpuTime カウンターの 2 つのサンプルとその間の既知の時間遅延を取得して計算されます。オプションとして、データ(単位: %)が表示されます。

構成

- Java サーバーでは、JMX がアクティブであり、かつ LAN 経由でアクセスできる必要があります。
- Network Monitor ゲートウェイ(Network Monitor サーバーコンピュータのローカルゲートウェイを含む)には、32 ビットアプリケーション用の Oracle Java JDK(または少なくとも JRE)をインストールしておく必要があります。64 ビットの Java がインストールされている場合は、完全に削除するか、少なくとも PATH 環境変数から完全にクリアしてください。Java インストーラは、http://www.oracle.com/technetwork/java/javase/downloads/index.html 『http://www.oracle.com/technetwork/java/javase/downloads/index.html を見て』からダウンロードできます。
- ゲートウェイが x64 Windows を実行しており、32 ビットバージョンの Java JRE *(またはJDK)* がインストールされている場合は、[コントロールパネル] > [システム] > [システムの詳細設定] にアクセスし、次の文字列をシステムユーザーの PATH 環境変数に追加します。

;C:\Program Files (x86)\Java\jre7\bin;C:\Program Files
(x86)\Java\jre7\bin\client

- %JAVA_HOME%\bin\client フォルダ(%JAVA_HOME%は Java インストールフォルダ)に、重要なファイル JVM.DLL (JNI の Network Monitor インターフェースおよび最終的には Java VM) が格納されていることを確認します。
- ゲートウェイマシンを再起動し、設定がすべての実行中のアプリケーションとサービスに反映されていることを確認します。
- JDK がゲートウェイにインストールされている場合、JDK の bin フォルダの JConsole.exe (32 ビット) アプリケーションを実行して、JMX サーバーへの接続が利用可能であることを確認する必要があります。
- KNM の local_gateway サブフォルダなどのゲートウェイに、JAR ファイル jmx_connector.jar (KNM のインストールフォルダに格納) のゲートウェイ独自のコピーがあることを確認します。
- JVM パフォーマンスモニターを追加するときに、JVM アカウントがある場合はそのアカウントとポート設定を正しい値に設定します。次に、[再スキャン]リンクを選択します。[オブジェクト]、[カウンター]、および[インスタンス]の各リストボックスに利用可能な Bean とそのデータフィールドが入力されます。

モニター固有のプロパティ

注: ここでは、モニター固有の設定のみを説明しています。「標準モニター設定」 『66ページ』を参照してください。

- **オブジェクト/カウンター/インスタンス** テストするプライマリパフォーマンス Bean の名前。 列挙機能を使用して、各値を列挙できます。カウンターの一部のタイプでは、インスタンスフィールドが意図的に空白になります。[再スキャン]リンクをクリックすると、各値が更新されます。
- **オブジェクト/カウンター/インスタンス** オプション。セカンダリパフォーマンス Bean。列挙機能を使用して、各値を列挙できます。カウンターの一部のタイプでは、インスタンスフィールドが意図的に空白になります。
- **複合演算** 2 つのカウンターを照会するときに使用するオプションの演算。加算、減算、除算、乗算を使用して、2 つのカウンターの値から最終結果を求めることができます。
- 除数 比較前に、取得した値が除算される値。
- **データタイプ** テストでサンプリングされるデータの単位。データタイプを使用して、レポート内で同じ型を使用する他のモニターとデータをグループ化できます。
- **値の型** 取得した値と比較される値の型。
- 比較演算 比較で使用する演算
- **比較値** 計算で得られた値と比較する値。
- **資格情報の継承** JVM 資格情報が必要な場合は指定します。チェックした場合、資格情報が継承されます。チェックしない場合、資産ノードの[認証 『42ページ』]タブで資産に設定した JVM 資格情報がオーバーライドされます。
- ポート JVM サービスのポート番号。

LDAP クエリーモニター

LDAP クエリーモニターは、LDAP サーバーがディレクトリルックアップリクエストに応答しているかどうかをチェックします。

■ システムのタイプ:: すべて

■ カテゴリー:ディレクトリサービス

資産またはモニターで LDAP ユーザー資格情報を追加します。

注: ここでは、モニター固有の設定のみを説明しています。「標準モニター設定」 『66ページ』を参照してください。

モニター固有のプロパティ

- ユーザー名/パスワード ルックアップに使用する資格情報。資産のデフォルトアカウントをオーバーライドするには、リストからアカウントを選択します。
- **ドメイン名** ユーザー名を関連付けるドメインまたはワークグループの名前。
- ポート LDAP サーバーがリスンするポート番号。

ログファイルモニター

ログファイルモニターは、テキストファイルを読み取り、いずれかの指定文字列を含む追加行をチェックできます。このモニターは、指定の検索条件が満たされるとアラームを生成します。このモニターは、資産への接続にSMBを使用します。つまり、構成可能な資格情報はWindowsアカウントのみです。ターゲット OS が Samba を使用する Windows 以外の OS の場合でも、Windows アカウントを設定する必要があります。

- システムのタイプ:: すべて
- カテゴリー:ログ

注: ここでは、モニター固有の設定のみを説明しています。「標準モニター設定」 『66ページ』を参照してください。

モニター固有のプロパティ

- パス ホスト名を含む、ファイルの絶対パス。例: \\myhost\C\$\test.txt
- 検索文字列 検索対象の文字列。複数の文字列を検索できます。各文字列はコンマで区切ります。複数の文字列を入力した場合、テストでは文字列の論理 OR 演算が実行されます。
- **変更がない場合に警報** チェックした場合、前回のテスト以降にファイルが変更されていない場合にテストは失敗します。チェックした場合、検索文字列テストは実行されません。
- 再起動 チェックした場合、各テストのログファイルの最初でモニターが再起動します。
- **資格情報の継承** チェックした場合、資産から資格情報を継承します。チェックしない場合は、モニター固有の資格情報を入力します。
- ドメインまたはコンピュータ/ユーザー名/パスワード このモニターのアクセス認証に使用する資格情報。

パスフィールドのフォーマット変数

パスを指定するときに、次のフォーマット変数を含めることができます。

- %[system.time_hour] 24 時間フォーマットの時刻 (00~23)
- %[system.time hour2] 12 時間フォーマットの時刻(01~12)
- %[system.time minute] 10 進数の分(00~59)
- %[system.time second] 10 進数の秒 (00~59)
- %[system.date_year] 4桁の西暦年(10進数)
- %[system.date year2] 西暦年の下2桁(10進数)

- %[system.date month] 10 進数の月 (01~12)
- %[system.date day of month] 月内の日(01~31、10進数)
- %[system.date day of year] 年内の日(001~366、10進数)
- %[system.date weekday] 数字で表した曜日(0~6、日曜日が0)

Luaスクリプトモニター

Lua スクリプトモニターは、KNM のホストマシンの KNM\script フォルダから読み込まれた **Lua** 『 213 ページ 』 スクリプトを実行します。

- システムのタイプ:: すべて
- カテゴリー:スクリプト

注: ここでは、モニター固有の設定のみを説明しています。「標準モニター設定」 『66 ページ 』を参照してください。

モニター固有のプロパティ

- **スクリプト** リストからスクリプトを選択します。リストは、KNM のホストマシンの\script フォルダに格納されたスクリプトに基づきます。
- **引数** スクリプトに渡す引数。
- ログオンアカウント スクリプトが認証を要求する場合の Windows 認証のオプションの資格情報。資産のデフォルトアカウントをオーバーライドするには、リストからアカウントを選択します。
- **ログオンにアカウントを使用しない** Lua スクリプトに認証パラメータを渡し、テストの開始 前に **Network Monitor** が実行するデフォルトの認証をバイパスする場合、このチェックボック スをチェックします。

メールサーバーQOS モニター

メールサーバーQOS モニターは、メールサーバーの送受信機能をテストできます。ラウンドトリップ時間、送信時間、ログイン時間に関する統計が保存されます。

- システムのタイプ:: すべて
- カテゴリー:ウェブおよびEメール

注: ここでは、モニター固有の設定のみを説明しています。「標準モニター設定」 『66 ページ 』を参照してください。

モニター固有のプロパティ

- **Eメールのラウンドトリップタイムアウト** Eメールが POP3 サーバーに到着するまでのモニターの最大待機時間 (単位: 秒)。
- SMTP サーバー テストメールの送信先の SMTP サーバーのアドレス。
- **SMTP ポート** SMTP サーバーのポート番号。
- SMTP アカウント SMTP サーバーの認証に使用するオプションのアカウント。認証が不要な SMTP サーバーに対してアカウントを選択すると、テストは失敗します。不明の場合は空白に します。

- 発信元アドレス 送信 Eメールの[発信元]フィールドとして使用される Eメールアドレス。
- カスタム EHLO リモートEメールサーバーとの応答に使用するカスタム EHLO 文字列。対象モニターがゲートウェイに割り当てられている場合、指定する必要があります。
- POP3 サーバー 常に資産のアドレスです。
- **POP3 ポート** POP3 サーバーのポート番号。
- **Eメールアドレス** テストで使用する Eメールアドレス。Eメールアドレスが POP3 サーバー に存在し、かつ配布用に SMTP サーバーによって受け入れられる必要があります。各テスト後 にすべての Eメールがクリアされるため、この Eメールアカウントは **Network Monitor** 専用である必要があります。
- POP3 アカウント POP3 サーバーへのログオンに使用する資格情報。

メモリ使用率モニター

メモリ使用率モニターは空きメモリをテストし、指定の閾値を下回るか、資産が利用不可の場合に アラームをトリガーします。

- システムのタイプ:: その他/不明を除くすべて
- カテゴリー:パーフォマンス

Windows 資産では、メモリ使用率の測定方法として、*WMI* または *Windows パフォーマンスカウンター*を使用できます。

- WMI または Windows パフォーマンスカウンターの場合、モニタリング対象資産のレジストリの 読み取り権限を持つ Windows ユーザーが必要です。
- Windows パフォーマンスカウンターを使用する場合、モニタリング対象資産で"リモートレジストリ"サービスを有効にして、開始する必要があります。

UNIX 資産では、KNM はSSH2 を用いてモニタリング対象資産に接続し、選択したオペレーティングシステムに固有のコマンドを実行します。UNIX 資産に使用されるユーザーが必要なコマンドを実行できることを確認してください。free -m がデフォルトのコマンドです。場合によっては、資産にソフトウェアをインストールする必要があります。

注: Windows マシンでこのモニタータイプに問題が発生した場合は、資産ノードの**[詳細 『52**ページ **』]** タブにある**[WMI を使用する]**チェックボックスのチェックを解除してみてください。

注: ここでは、モニター固有の設定のみを説明しています。「標準モニター設定」 『66ページ』を参照してください。

モニター固有のプロパティ

- **空きメモリ** 必要な空きメモリの量。空きメモリがこの値を下回ると、モニターはテストに失敗します。
- 単位 テストする空きメモリの単位。空きメモリの閾値はこの単位で指定されます。
- **プロセスレポート** チェックした場合、アラームメッセージにプロセスのメモリ使用量が含まれます。
- **タスクマネージャ概算** チェックした場合、Windows タスクマネージャの値を概算する方法を 使用してメモリ使用率を計算します。チェックしない場合、従来の **Network Monitor** の方法を 使用します。
- **資格情報の継承** Windows ドメイン資格情報が必要な場合は指定します。チェックした場合、 継承されます。チェックしない場合、資産ノードの[認証 『42 ページ』]タブで資産に設定した Windows ドメイン資格情報がオーバーライドされます。

MySQL モニター

この MySQL モニタータイプは、MySQL データベースの重要な項目をモニターできます。

- システムのタイプ:: すべて
- カテゴリー:データベース

注: ここでは、モニター固有の設定のみを説明しています。「標準モニター設定」 『66ページ』を参照してください。

必要条件

MySQL Connector/C 『http://www.mysql.com/downloads/connector/c を見て 』または MySQL Workbench 『http://dev.mysql.com/downloads/tools/workbench/5.2.html を見て 』パッケージを、Network Monitor のサーバーまたはゲートウェイにインストールする必要があります。使用しているサーバーが 64 ビットの場合でも、32 ビットのクライアントをダウンロードし、インストールしてください。これは、Network Monitor が 32 ビットのアプリケーションで、32 ビットのドライバーが必要であるためです

インストール後、libMysql.dll のファイルパスが Windows システムパスに指定されていることを確認してください。このファイルパスは通常、管理者パッケージのインストール中に指定され、場合によってはサーバーの再起動が必要になります。変更を反映するには、Network Monitor nmservice.exe サービスを再起動する必要があります。Network Monitor がこの DLL ファイルにアクセスできない場合、MySQLモニターは失敗し、 libMysql.dll ファイルが見つからないというエラーメッセージが出力されます。

通常、使用している MySQL サーバーがローカルクエリーにのみ応答する場合、つまり、使用しているアプリケーションがデータベースと同じサーバーにある場合、次の簡単な手順に従って、MySQL データベースをモニターする KNM のアクセスを許可する必要があります。

- 使用している MySQL サーバーは、リモートホストからのリクエストに応答する必要があります。デフォルトのバインドアドレスは 127.0.0.1 なので、/etc/mysql/my.cnf の"bind-address" をサーバーの正しい IPアドレスに変更するか、サーバーのすべての IPアドレスをリスンするように、サーバーの bind_address 行の先頭に#を付けてコメントアウトする必要があります。
- デフォルトでは、データベースへの接続をクライアントに許可することはできません。クライアントにデータベースへの接続を許可するには、次の手順に従います。
 - 1. MvSQL サーバーに SSH 接続します。
 - 2. mysql -u root -p パスワードを入力します。
 - 3. 次のモニターを実行します。

use <database name>
GRANT ALL ON *.* to root@'<ip address of your KNM host/gateway>' IDENTIFIED
BY '<your root password>';
FLUSH PRIVILEGES;

モニター固有のプロパティ

データベースに接続し、構成済みのテストを実行するには、次のフィールドが必須です。

- **ログオンアカウント** ログオンアカウントには、MySQL データベースの認証時に使用する資格情報が格納されます。
- ポート・データベースサーバーがリスンするポート番号。
- **データベース名** 接続先のデータベースの名前。

パフォーマンスモニタリングのオプション

実行しないテストのフィールドを空白にします。

- **最大スレッド数** 実行中のスレッドの最大数を表す数値。実行中のスレッド数がこの値を超えると、モニターはテストに失敗します。
- レプリケーションの最大遅延 マスターとスレーブ間の最大時間差を表す値 (単位: 秒)。この値を超えると、モニターはテストに失敗します。
- **スロークエリーの最大数** スロークエリーとは、実行時間が平均時間よりも長く、かつデータ ベース構成に定義されている long_query_value 時間を超えたクエリーとして定義されていま す。スロークエリーの数がこの値を超えるとテストが失敗する閾値を数値で入力します。
- **オープンテーブルの最大数** 開いているテーブルの最大許容数を表す数値。
- **平均クエリー数/秒** 1 秒間に実行されるクエリーの最大許容数を表す数値。
- **最大ユーザー数** 同時にログオン可能なユーザーの最大数。

SQL クエリーオプション

オプションの SQL ステートメントを実行し、比較演算を用いてその出力を事前定義の値と比較できます。

- SQL クエリー オプションで実行する SQL クエリー。
- **行がない場合は失敗** このチェックボックスをチェックした場合、クエリーが行を返さないと モニターがテストで失敗します。
- 比較値 クエリー結果と比較する値。
- **値の型** データベースから取得した値と比較される値の型。
- 演算 返されたクエリー結果と比較値を評価し、テストの成功/失敗を判定する演算。

NNTP サーバーモニター

NNTP サーバーモニターは、NNTP(Network News Transport Protocol)サーバーに接続し、そのステータスをチェックします。

- システムのタイプ:: すべて
- カテゴリー:ネットワークサービス

注: ここでは、モニター固有の設定のみを説明しています。「標準モニター設定」 『66ページ』を参照してください。

モニター固有のプロパティ

ポート番号 - NNTP サーバーが使用するように構成されたポート番号。

Oracle モニター

この Oracle モニタータイプは、Oracle データベースの重要な項目をモニターできます。このモニターはネイティブの Oracle インターフェースを使用しますが、Network Monitor のホストマシンに ODBC ドライバーをインストールする必要はありません。

- システムのタイプ:: すべて
- カテゴリー:データベース

注: ここでは、モニター固有の設定のみを説明しています。「標準モニター設定」 『66ページ』を参照してください。

必要条件

Oracle データベースインストールクライアント 『

http://www.oracle.com/technetwork/database/features/instant-client/index-097480.html を見て 』を Network Monitor のサーバーまたはゲートウェイにインストールしてください。使用しているサーバーが 64 ビットの場合でも、32 ビットのクライアントをダウンロードし、インストールしてください。これ は、Network Monitor が 32 ビットのアプリケーションで、32 ビットのドライバーが必要であるためです。

インストール後、パッケージをインストールしたフォルダが Windows システムパスに設定されていることを確認してください。このために、サーバーの再起動が必要になる場合があります。システムパスを変更した後、Network Monitor サービスを再起動して変更を反映します。Network Monitor が必要な DLL ファイルにアクセスできない場合、Oracle モニターは失敗し、DLL ファイルが見つからないというエラーメッセージが出力されます。

Oracle アカウント

データベースに接続し、構成済みのテストを実行するには、次のフィールドが必須です。

- **資格情報の継承** チェックした場合、資産から資格情報を継承します。チェックしない場合は、モニター固有の資格情報を入力します。
- ユーザー名/パスワード このモニターへのアクセス認証に使用する資格情報。
- サービス名 tnsnames.ora ファイルに定義したサービスの名前。Network Monitor はこの情報を使用して Oracle データベースに接続します。
- ポート Oracle データベースサーバーがリスンするポート番号。

パフォーマンスモニタリングのオプション

- **オープンカーソルの最大数** 同時に開いているカーソルの最大数を表す数値。開いているカーソルの数がこの値を超えると、モニターはテストに失敗します。このテストを実行しない場合は、フィールドを空白にします。
- **長時間動作の閾値** 動作を実行可能な最大時間の値 (単位: 秒)。この時間を超えると、モニターはテストに失敗します。このテストを実行しない場合は、フィールドを空白にします。
- **バッファキャッシュヒット率** バッファキャッシュヒット率は、ディスクにアクセスせずに提供されたリクエスト合計数の割合(単位:%)を示します。値が大きいほどデータベースのパフォーマンスが優れています。この値を許容可能な最小値に設定します。ヒット率がこの値を下回ると、モニターはテストに失敗します。このテストを実行しない場合は、フィールドを空白にします。
- **ログオンの失敗回数** 1 日に失敗したログオンの最大許容数を表す数値。この値をテストするには、監査機能を有効にする必要があります。このテストを実行しない場合は、フィールドを空白にします。

テーブルスペースモニタリングのオプション

テーブルスペースはディスクに保存された物理ファイルと関連付けられ、各データベースはテーブルとインデックスのストレージ用の1つ以上のテーブルスペースに関連付けることができます。テーブルスペース使用率をモニターすることで、テーブルスペース内の残りの空きスペースが閾値を下回る前に警告を受け取ることができます。

■ **テーブルスペース使用率**(任意の値) - テーブルスペースの最大許容使用率を設定する閾値。 このフィールドは、データベース内のすべてのテーブルスペースに適用されます。後続のフィ ールドは、最大5つのテーブルスペースについて、このルールの例外の構成に使用できます。 このテストを実行しない場合は、フィールドを空白にします。

■ **テーブルスペース使用率**(1~5) - 特定のテーブルスペースの最大許容使用率の閾値。各フィールドはグローバルのテーブルスペース閾値をオーバーライドします。このテストを実行しない場合は、フィールドを空白にします。

SQLクエリーオプション

オプションの SQL ステートメントを実行し、比較演算を用いてその出力を事前定義の値と比較できます。

- SQL クエリー オプションで実行する SQL クエリー。
- **行がない場合は失敗** このチェックボックスをチェックした場合、クエリーが行を返さないと モニターがテストで失敗します。
- SYSDBA 特権 チェックした場合、資格情報を SYSDBA に昇格します。
- **値の型** データベースから取得した値と比較される値の型。
- 比較演算 返されたクエリー結果と比較値を評価し、テストの成功/失敗を判定する演算。
- 比較値 クエリー結果と比較する値。

Ping モニター

Ping モニターは、ICMP プロトコルを使用して事前定義の期間内に資産が ping パケットに応答することを検証します。このモニターは、テスト中にパケット損失とラウンドトリップ時間も計算できます。モニターがパケット損失レベルでトリガーするのは、ラウンドトリップ時間が指定範囲内にある場合に限られます。

注: pingプロトコルは、ネットワーク内の優先順位が非常に低いプロトコルの1つで、一部のホストはデフォルトで ping パケットに応答しません。

- システムのタイプ:: すべて
- カテゴリー:ネットワークサービス

注: ここでは、モニター固有の設定のみを説明しています。「標準モニター設定」 『66ページ』を参照してください。

モニター固有のプロパティ

- **タイムアウト** ping パケットがホストから戻るまでモニターが待機するラウンドトリップの最大時間 *(単位: ms)* 。
- パケット損失 ホストへの送信時に失われるパケットの最大数。送信される合計パケット数の割合(%)で指定します。
- **送信パケット数** 各テストに送信するパケット数。値を大きくするほど、パケット損失とラウンドトリップ時間の値がより正確になります。
- **トレースを含める** オプションを選択すると、アラームメッセージにトレースルートログを含めます。
- **最大ホップ数** アラーム状態の間に実行されるトレースルートホップの最大数。デフォルト値は 255 です。
- 代替 IP テストするセカンダリ IP。モニターは同一テストで代替 IP に ping を送信できます。

- パケットサイズ パケットで送信されるデータの合計サイズ。IP および ICMP ヘッダーサイズ (28 バイト) は含まれません。たとえば、1500 バイトの MTU をテストする場合は、ここに「1472」と入力します。
- **フラグメント化しない** 送信 ping パケットに"フラグメント化しない"オプションを設定します

POP3 サーバーモニター

POP3 サーバーモニターは、POP3 メールサーバーに接続し、サーバーへのログオンとメールチェックが可能であることを検証します。これによってメールボックスのステータスが影響を受けることはありません。この目的は、POP3 サーバーの POP3 認証とストレージシステムが機能していることの確認です。ユーザー名またはパスワードを指定しない場合、簡単な接続テストが実行されます。

- システムのタイプ:: すべて
- カテゴリー:ウェブおよびEメール

注: ここでは、モニター固有の設定のみを説明しています。「標準モニター設定」 『66ページ』を参照してください。

モニタ一固有のプロパティ

- ユーザー名/パスワード オプション。POP3 アカウントのユーザー名とパスワード。
- ポート番号 POP3 サーバーが使用するように構成されたポート番号。

プロセスステータスモニター

プロセスステータスモニターは、資産でプロセスが実行中であることを検証できます。

- システムのタイプ:: その他/不明を除くすべて
- カテゴリー:パーフォマンス

注: ここでは、モニター固有の設定のみを説明しています。「標準モニター設定」 『66ページ』を参照してください。

モニター固有のプロパティ

- プロセスの名前 モニタリング対象のプロセスの名前。
- **リストにないプロセス** リストにない場合でもモニターするプロセスの名前。通常、開始されていないサービスはリストに表示されません。
- **機能を反転する** このチェックボックスをチェックした場合、プロセスが実行中のときにモニターでテストが失敗します。
- ログオンアカウント 資産のデフォルトアカウントをオーバーライドするには、リストからアカウントを選択します。

Radius モニター

Radius サーバーモニターは、Radius サーバーのパフォーマンスをテストします。Radius は、ネット

モニターのリファレンス

ワークに接続するコンピュータの認証、アクセス、およびアカウンティングを行うネットワークプロトコルです。Radius は、ワイヤレスネットワークへのアクセスを提供するためによく使用されます。すべてのテストは、SNMP Get リクエストを使用して実行されます。使用している Radius サーバーがデフォルトで SNMP リクエストに応答するかどうか、またこの機能を構成する必要があるかどうかを調べるには、Radius サーバーのドキュメントを参照してください。

- KNM のホスト/ゲートウェイは、共有シークレットを使用して Radius サーバーと共に Radius クライアントとして設定する必要があります。
- 比較オプションを使用する場合は、Radius サーバーに有効な SNMP エージェントをインストールする必要もあります。

注: Network Monitor が SNMP 資産への接続に使用するコミュニティ名、SNMP バージョン、およびポートは、資産ノードの[**認証** 『42 ページ 』]タブで設定します。資産ノードは、親ノードからこの設定を継承できます。「インストール前のチェックリスト」 『4 ページ 』を参照してください。

- システムのタイプ:: すべて
- カテゴリー:ネットワークサービス

注: ここでは、モニター固有の設定のみを説明しています。「標準モニター設定」 『66ページ』を参照してください。

モニター固有のプロパティ

Radius サーバーに接続し、構成済みのテストを実行するには、次のフィールドが必須です。

- **シークレット** 認証のため Radius サーバーに送信されるすべてのパスワードの暗号化に使用される共有済みの秘密の言葉。
- **ログオンアカウント** ログオンアカウントには、Radius サーバーの認証時に使用する資格情報が格納されます。

パフォーマンスモニタリングのオプション

各テストは一定の期間内に実行されます。期間の表示単位は秒です。

- 無効の認証リクエストの最大数 後続のフィールドで定義された期間中に未知のアドレスから 受信したアクセスリクエストパケットの最高許容数。数値がこの値を超えるとテストは失敗し ます。このテストを実行しない場合は、フィールドを空白にします。
- **アカウンティングリクエストの最大数** 後続のフィールドで定義された期間中に未知のアドレスから受信したアカウンティングリクエストパケットの数。数値がこの値を超えるとテストは失敗します。このテストを実行しない場合は、フィールドを空白にします。
- **アクセス拒否の最大合計数** 後続のフィールドで定義された期間中に送信されたアクセス拒否 パケットの最大数。このテストを実行しない場合は、フィールドを空白にします。

比較のオプション

上記のテストのほかに、カスタマイズされた SNMP Get リクエストも実行できます。リクエストの結果は、比較演算を用いて事前定義の値と比較できます。

- Radius の比較用 OID 基本 Radius OID (.1.2.6.1.2.1.67 または.iso. org.dod.internet.mgmt.mib-2.radiusMIB)を基準にした相対 OID。テストことにリクエストして事前定義の値と比較できます。このテストを実行しない場合は、フィールドを空白にします。
- 比較値 クエリー結果と比較する値。
- 値の型 データベースから取得した値と比較される値の型。
- 演算 返されたクエリー結果と比較値を評価し、テストの成功/失敗を判定する演算。

Salesforce クエリーモニター

Salesforce クエリーサーバーは、Salesforce データベースをモニターします。Salesforce モニターは SQL クエリーを実行し、結果を事前定義の値と比較します。

- システムのタイプ:: Windows、Linux/UNIX、その他/不明
- カテゴリー:データベース

注: ここでは、モニター固有の設定のみを説明しています。「標準モニター設定」 『66 ページ 』を参照してください。

[基本]タブ

Salesforce モニターのプロパティ

■ **SQL クエリー** - 実行する **SQL** クエリー。

Salesforce アカウント

■ **資格情報の継承** - チェックした場合、資産から資格情報を継承します。チェックしない場合は、モニター固有の資格情報を入力します。

注: モニターについて、このチェックボックスのチェックマークを外し、モニター固有の資格情報を 入力します。

- **ユーザー名/パスワード** このモニターへのアクセス認証に使用する資格情報。
- **行がない場合は失敗** このチェックボックスをチェックした場合、クエリーが行を返さないと モニターがテストで失敗します。
- **データタイプ** 現在サポートされている唯一のオプションは[SOL クエリーの値]です。

閾値の設定

- **値の型** Salesforce データベースから照会した値と比較する値の型。
- 比較演算 テストに成功するための、照会した値と比較値との関係を指定します。
- 比較値 クエリーで得られた値と比較する値。
- 期間 空白にした場合、比較値がクエリーで得られた値と比較されます。[期間]の値を秒単位で入力すると、比較値は2つの連続する期間に照会された値の差と比較されます。

SMTP サーバーモニター

SMTP サーバーモニターは、SMTP サーバーに接続可能で、かつ SMTP サーバーが有効な戻りコードを返すことをチェックします。

- システムのタイプ:: すべて
- カテゴリー:ウェブおよびEメール

注: ここでは、モニター固有の設定のみを説明しています。「標準モニター設定」 『66ページ』を参照してください。

モニター固有のプロパティ

■ ポート - SMTP サーバーが使用するように構成されたポート番号。

SNMP モニター

SNMP モニターは、リモート SNMP エージェントから複数の資産識別子 *(OID)* を照会するための動 的ツールで、戻り値に基づいて計算を実行します。

注: Network Monitor が SNMP 資産への接続に使用するコミュニティ名、SNMP バージョン、およびポートは、資産ノードの[**認証** 『42 ページ 』]タブで設定します。資産ノードは、親ノードからこの設定を継承できます。「インストール前のチェックリスト」 『4 ページ 』を参照してください。

- システムのタイプ:: すべて
- カテゴリー: SNMP

注: ここでは、モニター固有の設定のみを説明しています。「標準モニター設定」 『66 ページ 』を参照してください。

モニター固有の設定

- OID1、2、3、... 番号付きの OID リストを指定します。
 - このモニターに OID を追加するには[OID の追加]、削除するには[OID の削除]をクリックします。
 - ➤ 名前付き OID を指定することも、数字のフォーマットで OID を指定することもできます。 名前付き OID を指定する場合、フィールドのフォーカスが外れると Network Monitor は自動的にその OID を数字のフォーマットに解決する処理を試行します。 Network Monitor は、現在コンパイルされている MIB を使用して、OID の数字フォーマットの検出を試行します。
 - ▶ OID フィールドの横にある[...]ボタンをクリックすると、MIB ブラウザのダイアログが表示され、リモート SNMP エージェントから資産識別子を選択できます。
 - ▶ MIB ブラウザに OID 番号が@string 付きで表示された場合、この文字列を OID の一部として使用できます。たとえば、ネットワーク接続のインデックス番号を指定する代わりに、OID フィールドに OID .1.3.6.1.2.1.2.2.1.16@Intel(R) PRO/1000 MT Network Connection を入力できます。
- 計算 資産識別子から照会された値を使用した計算。上のイメージの例では、インターフェースからネットワーク使用率を計算しています。
- **結果の変換** 結果を読み取り可能な文字列に変換します。このオプションを選択できるのは、 比較の値の型が文字列に設定されている場合に限られます。結果の変換機能を使用すると、非 記述型 OID 値を読み取り可能な文字列に変換できます。取得される OID 値は数値のままですが 、文字列として処理されます。

1511 1

Unknown(1), Alarm(2), Failed(3), Ok(4) 例 2

Unknown=1,Alarm=2,Failed=3,OK=4

値 1、2、3、4 はそれぞれ Unknown、Alarm、Failed、OK に変換されます。上の例は両方とも 有効な表記です。最終的に変換された文字列が、比較演算で使用されます。

■ **有効な値/最小/最大** - 指定の閾値を上回る/下回るすべての値を、モニターのフィルター処理により除外できます。

- **データタイプ** テストでサンプリングされるデータの単位。データタイプを使用して、レポート内で同じ型を使用する他のモニターとデータをグループ化できます。
- カウンターモード
 - ▶ 差 前回のテストと今回のテストの差を計算します。戻り値が徐々に増大している場合に 推奨されます。
 - ▶ 絶対値 返された絶対値を使用します。
- 値の型 取得した値と比較される値の型。
- 比較演算 比較で使用する演算
- 比較値 計算で得られた値と比較する値。

SNMP トラップモニター

SNMPトラップモニターは、リモートホストのSNMPモニターからトラップメッセージを受信します。このモニターが受信するのは、資産のIPアドレスから送信されるメッセージのみです。フィルター処理の最初のステップは、指定のエンタープライズ OID を使用して実行されます。その後のトラップの検査では、変数バインドフィルターが使用され、複数のルールを含めることができます。各ルールはすべてまとめて(AND 演算)、または個別に(OR 演算)評価されます。結果のトラップは失敗したテストをトリガーします。このモニターは、標準の一般的な SNMP v1 および v2c のトラップタイプをフィルター処理により除外できます。

各 OID フィールドは、MIB ブラウザ 『101 ページ 』から選択すると自動的に入力されます。MIB ブラウザを開くには、OID フィールドの右にあるボタンをクリックします。

次の項目を参照してください。

- システムのタイプ:: すべて
- カテゴリー : SNMP

注: ここでは、モニター固有の設定のみを説明しています。「標準モニター設定」 『66ページ』を参照してください。

[基本]タブ

- OID を含めるフィルター 1 つ以上の OID をコンマで区切って入力します。このモニターは、指定したエンタープライズ OID のアラームをトリガーします。
 - ➤ 名前付き OID を指定することも、数字のフォーマットで OID を指定することもできます。 名前付き OID を指定する場合、フィールドのフォーカスが外れると Network Monitor は自動的にその OID を数字のフォーマットに解決する処理を試行します。 Network Monitor は、現在コンパイルされている MIB を使用して、OID の数字フォーマットの検出を試行します。
 - ▶ OID フィールドの横にある[...]ボタンをクリックすると、MIB ブラウザのダイアログが表示され、リモート SNMP エージェントから資産識別子を選択できます。
 - ▶ MIB ブラウザに OID 番号が@string 付きで表示された場合、この文字列を OID の一部として使用できます。たとえば、ネットワーク接続のインデックス番号を指定する代わりに、OID フィールドに OID .1.3.6.1.2.1.2.2.1.16@Intel(R) PRO/1000 MT Network Connection を入力できます。
- OID を除外するフィルター 1 つ以上の OID をコンマで区切って入力します。このモニターは、 指定したエンタープライズ OID からのトラップを無視します。
- **コミュニティ** 使用する SNMP コミュニティ。

[変数バインドフィルター]タブ

- **すべての変数を含める** チェックした場合、アラームメッセージにトラップからのすべての変数バインドを含めます。チェックしない場合、*一致した*変数バインドのみが含まれます。
- **一致オプション** [すべて]を指定した場合、すべての変数バインドが一致する必要があります。[1 つ以上]を指定した場合、変数バインドが少なくとも 1 つ一致する必要があります。
- OID/値のペア トラップデータを評価するフィルタールール。トラップの OID の動的数値に基づいて比較演算を実行します。フィルタールールは一括または個別に評価できます。一致するトラップとみなされるには、演算結果が true と評価されなければなりません。

[トラップタイプフィルター]タブ

■ トラップタイプフィルター - テストに含めるトラップタイプ。

Coldstart
Warmstart
Link down
Link up
Authentication failed
EGP
Enterprise

SQL Server モニター

SQL Server モニタータイプは、Microsoft SQL Server データベースの重要な項目をモニターできます。このモニターはネイティブの SQL Server インターフェースを使用しますが、**Network Monitor** のホストマシンに ODBC ドライバーをインストールする必要はありません。

- システムのタイプ:: Windows
- カテゴリー:データベース

注: ここでは、モニター固有の設定のみを説明しています。「標準モニター設定」 『66ページ』を参照してください。

[基本]タブ

モニターの基本設定

データベースに接続し、構成済みのテストを実行するには、次のフィールドが必須です。

- **ログオンアカウント** ログオンアカウントには、SQL Server データベースの認証時に使用する資格情報が格納されます。
- インスタンス名 使用する SQL Server インスタンス名。
- **データベース名** 接続先のデータベースの名前。
- ポート・データベースサーバーがリスンするポート番号。デフォルトのポートは 1433 です。
- プロトコルのタイプ デフォルトのプロトコル、TCP/IP、名前付きパイプ、共有メモリ
- **データタイプ** SOL クエリーの値。これが、現在サポートされている唯一のオプションです。

パフォーマンスのモニタリング

注: 実行しないテストのフィールドを空白にします。

■ **最大ユーザー数** - 同時にログオン可能なユーザーの最大数。

- **バッファキャッシュヒット率** バッファキャッシュヒット率は、ディスクにアクセスせずに提供されたリクエスト合計数の割合 (単位: %)を示します。値が大きいほどデータベースのパフォーマンスが優れています。この値を許容可能な最小値に設定します。ヒット率がこの値を下回ると、モニターはテストに失敗します。
- レプリケーションの最大遅延 マスターとスレーブとの最大時間差を表す値(単位: 秒)。この時間を超えると、モニターはテストに失敗します。
- **SQL のコンパイル** 1 秒間に実行可能な SQL のコンパイルの最大数。この値を超えると、モニターはテストに失敗します。1 秒あたりの SQL のコンパイル数が多いと、CPU 使用率が高くなることがあります。

テーブルスペースモニタリングのオプション

注: 実行しないテストのフィールドを空白にします。

テーブルスペースはディスクに保存されている物理ファイルに関連付けられます。各データベースは、テーブルおよびインデックスの保存用に1つ以上のテーブルスペースと関連付けることができます。テーブルスペース使用率をモニターすることで、テーブルスペース内の残りの空きスペースが閾値を下回る前に警告を受け取ることができます。

- データベースディスク使用率 テーブルスペースの最大許容使用率を設定する閾値(単位:%)。このフィールドはデータベース内のすべてのテーブルスペースに適用され、後続のフィールドは、最大5つのテーブルスペースについて、このルールの例外の構成に使用できます。
- **テーブルスペース使用率/最大使用率**(1~5) 特定のテーブルスペースの最大許容使用率の閾値。各フィールドはグローバルのテーブルスペース閾値をオーバーライドします。

閾値の設定

オプションの SQL ステートメントを実行し、比較演算を用いてその出力を事前定義の値と比較できます。

- SQL クエリー オプションで実行する SQL クエリー。
- **行がない場合は失敗** このチェックボックスをチェックした場合、クエリーが行を返さないと モニターがテストで失敗します。
- **値の型** データベースから取得した値と比較される値の型。
- 比較演算 返されたクエリー結果と比較値を評価し、テストの成功/失敗を判定する演算。
- 比較値 クエリー結果と比較する値。

SQL Server アカウント

- **資格情報の継承** チェックした場合、資産から資格情報を継承します。チェックしない場合は、モニター固有の資格情報を入力します。
- ユーザー名/パスワード このモニターへのアクセス認証に使用する資格情報。

SSH2 スクリプトモニター

SSH2 スクリプトモニターは、SSH2 ホストでコマンドやスクリプトを実行し、比較の型を使用して戻り値を事前定義の文字列と比較できます。比較演算で false と評価されると、モニターでアラームが生成されます。

- システムのタイプ:: すべて
- カテゴリー:スクリプト

注: ここでは、モニター固有の設定のみを説明しています。「標準モニター設定」 『66 ページ 』を参照してください。

モニタ一固有のプロパティ

- **コマンド** ホストで実行するコマンド。コマンドは実行後に値を返す必要があります。
- **ログオンアカウント** 資産のデフォルトアカウントをオーバーライドするには、リストからアカウントを選択します。
- **データタイプ** スクリプトによって返されるデータの単位。データタイプを使用して、レポート内でこのタイプのモニターからのデータを、CPU 使用率などの他のモニターとグループ化できます。
- ポート・ポート番号。
- 比較値 返された結果と比較する値。
- 値の型 返される値の型。
- **演算** 結果を評価するときに使用する比較演算。戻り値と比較値との比較結果が false と評価される場合、モニターはテストに失敗します。

SSH2 サーバーモニター

SSH2 サーバーモニターは、SSH2 サーバーがユーザーログオン試行に応答していることを検証します。このモニターは古い SSH1.x プロトコルをサポートしていません。資格情報を省略すると、モニターは接続テストのみを実行します。

- システムのタイプ:: すべて
- カテゴリー:ネットワークサービス

注: ここでは、モニター固有の設定のみを説明しています。「標準モニター設定」 『66ページ』を参照してください。

モニター固有のプロパティ

- **ログオンアカウント** 資産のデフォルトアカウントをオーバーライドするには、リストからアカウントを選択します。
- ポート サーバーがリスンするポート番号。デフォルト値は 22 です。

スワップファイル使用率モニター

スワップファイル使用率は、資産のスワップスペース使用率をモニターします。

- システムのタイプ:: その他/不明を除くすべて
- カテゴリー:パーフォマンス

Windows 資産では、スワップファイル使用率の測定方法として、WMIまたは Windows パフォーマンスカウンターを使用できます。

- WMI または Windows パフォーマンスカウンターの場合、モニタリング対象資産のレジストリの 読み取り権限を持つ Windows ユーザーが必要です。
- Windows パフォーマンスカウンターを使用する場合、モニタリング対象資産で"リモートレジストリ"サービスを有効にして、開始する必要があります。

UNIX 資産では、KNM は SSH2 を用いてモニタリング対象資産に接続し、選択したオペレーティングシステムに固有のコマンドを実行します。UNIX 資産に使用されるユーザーが必要なコマンドを実行できることを確認してください。free -m がデフォルトのコマンドです。場合によっては、資産にソフトウェアをインストールする必要があります。

注: Windows マシンでこのモニタータイプに問題が発生した場合は、資産ノードの[**詳細** 『52 ページ 』] タブにある[WMI を使用する]チェックボックスのチェックを解除してみてください。

注: ここでは、モニター固有の設定のみを説明しています。「標準モニター設定」 『66 ページ 』を参照してください。

モニター固有のプロパティ

- **最大スワップ使用率** 最大閾値 (単位: %) を指定します。
- **スワップファイル名** モニタリング対象のスワップファイルの名前。[**スワップファイルの再 スキャン**]リンクをクリックするとリストが更新されます。
- **ログオンアカウント** 資産のデフォルトアカウントをオーバーライドするには、リストからアカウントを選択します。

Windows 固有のプロパティ

■ **詳細エラーレポート** - エラーレポートにすべてのプロセスとそのメモリ使用率をリストで表示します。

Syslog モニター

Syslog モニターは、1 つ以上の syslog ホストから Network Monitor に送信された Syslog メッセージ を先に受信できます。このモニターは、さまざまな種類のメッセージを受信するように構成できます。複数の Syslog モニターを各資産に追加して、さまざまな組み合わせのメッセージを受信できます。

- システムのタイプ:: すべて
- カテゴリー:ログ

必要条件

- Network Monitor > (選択したゲートウェイ) > [編集] > [詳細]タブ 『40ページ』の[Syslog サーバー]チェックボックスをチェックして、各ゲートウェイの Syslog メッセージ収集をアクティブにします。
- 受信した Syslog メッセージは、Network Monitor [ツール] > **[Syslog メッセージのリスト]** 『105 ページ 』ページに表示されます。

注: ここでは、モニター固有の設定のみを説明しています。「標準モニター設定」 『66ページ』を参照してください。

モニター固有のプロパティ

- **文字列を含める** これらの文字列のいずれかが含まれる場合、メッセージが含められます。複数の文字列はコンマで区切ります。
- **文字列を除外する** このフィールドで指定した文字列のいずれが含まれる場合、メッセージが 除外されます。複数の文字列はコンマで区切ります。

TCP ポートスキャンモニター

TCP ポートスキャンモニターは、指定ポートの開閉状態を検証します。デフォルトでは、指定ポートが開いているとアラームをトリガーします。[機能を反転する]をチェックした場合、指定ポートが閉じているとアラームをトリガーします。

- システムのタイプ:: すべて
- カテゴリー:その他

注: ここでは、モニター固有の設定のみを説明しています。「標準モニター設定」 『66ページ』を参照してください。

モニター固有のプロパティ

- **ポート番号の範囲** 指定ポートが開いているとアラームをトリガーします。ポート範囲には次のフォーマットを使用します。
 - ▶ 21-23 モニターはポート 21~23 をスキャンします。
 - ▶ 80,21-23 モニターはポート80、およびポート21~23をスキャンします。モニターでチェックできるポート数は最大100です。
- 機能を反転する チェックした場合、指定ポートが閉じているとアラームをトリガーします。

Telnet サーバーモニター

Telnet サーバーモニターは、Telnet サーバーが応答していることを検証します。

- システムのタイプ:: すべて
- カテゴリー:ネットワークサービス

注: ここでは、モニター固有の設定のみを説明しています。「標準モニター設定」 『66ページ』を参照してください。

モニター固有のプロパティ

■ ポート - Telnet サーバーが使用するように構成されたポート番号。デフォルト値は 23 です。

ターミナルサーバーモニター

ターミナルサーバーモニターは、新しいログオンセッションに応答します。

- システムのタイプ:: その他/不明を除くすべて
- カテゴリー:ネットワークサービス

注: ここでは、モニター固有の設定のみを説明しています。「標準モニター設定」 『66 ページ 』を参照してください。

モニター固有のプロパティ

■ **ポート** - ターミナルサーバーが使用するように構成されたポート番号。デフォルト値は 3389 です。

TFTP サーバーモニター

TFTP サーバーモニターは、TFTP サーバーが RRQ 動作に応答しているかどうかをテストします。このテストの目的は、TFTP サーバーが実行中であることの検証です。このモニターは、KNM というファイルのダウンロードを試行します。テストが成功するために、このファイルが存在している必要はありません。このモニターは、そのようなリクエストに対して TFTP サーバーが正しく応答していることのみをチェックします。

- システムのタイプ:: すべて
- カテゴリー:ネットワークサービス

注: ここでは、モニター固有の設定のみを説明しています。「標準モニター設定」 『66ページ』を参照してください。

モニター固有のプロパティ

■ ポート - TFTP サーバーが使用するように構成されたポート番号。デフォルト値は 69 です。

転送速度モニター

転送速度モニターは、**Network Monitor** と資産との間の転送速度を測定します。このテストでは、 資産で動作中の chargen.exe サーバーから指定データ量をダウンロードするまでに要する時間を測 定します。

- システムのタイプ:: すべて
- カテゴリー:ネットワークサービス

注: ここでは、モニター固有の設定のみを説明しています。「標準モニター設定」 『66 ページ 』を参照してください。

モニター固有のプロパティ

- 転送速度 選択した単位での最小転送速度。
- 単位 転送速度テストで記録される単位。リアルタイムグラフおよびレポートに表示されます
- **データのサイズ** テストで受信する合計データ量のサイズ (単位: KB)。
- **ポート番号** TFTP サーバーが使用するように構成されたポート番号。デフォルト値は 19 です

VMware パフォーマンスモニター

VMware パフォーマンスモニターは、VMware ホストまたは vCenter サーバーの VMware パフォーマンスカウンターを照会し、得られた値を比較演算で値と比較できます。比較演算で false と評価されると、モニターはテストに失敗します。False と評価されると、モニターはテストに失敗します。False と評価さ

モニターのリファレンス

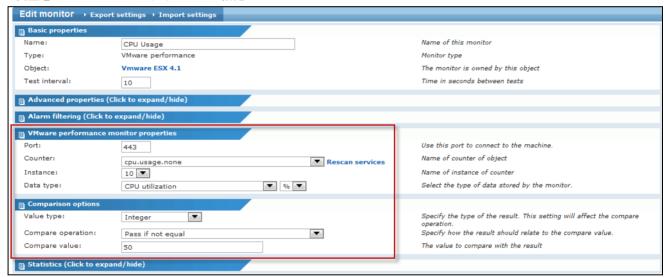
VMware ホストマシンに変更を加えることはありません。ホスト、データストア、バーチャルストアなどの多くのパフォーマンスカウンター資産をサポートします。ゲスト(仮想マシン)用のVMware カウンターはサポートされません。

- システムのタイプ:: VMware
- カテゴリー:パーフォマンス

注: ここでは、モニター固有の設定のみを説明しています。「標準モニター設定」 『66ページ』を参照してください。



資産をVMWare システムタイプとして指定



VMware パフォーマンスモニターのプロパティのページ

モニター固有のプロパティ

- **カウンター/インスタンス** テストするプライマリパフォーマンスカウンターの名前。カウンターの一部のタイプでは、インスタンスフィールドが意図的に空白になります。スキャンにより、表示される値が自動的に列挙されます。[再スキャン]リンクをクリックすると、各値が更新されます。
- データタイプ テストでサンプリングされるデータの単位。データタイプを使用して、レポート内でこのタイプのモニターからのデータを、CPU 使用率などの他のモニターとグループ化できます。
- 値の型 返される値の型。
- 比較演算 返された結果と事前定義の比較値との評価に使用する演算。
- **比較値** ユーザー定義の比較値。有効な値は数値のみです。

ウェブサーバーモニター

ウェブサーバーモニターは、ウェブサーバーをテストし、リクエストされたページのコンテンツを 検証します。リクエストされたページのコンテンツが前回のテストから変更されていないを検証し ます。ページ内の文字列を検索してリンクを検証します。

- システムのタイプ:: すべて
- カテゴリー:ネットワークサービス

注: ここでは、モニター固有の設定のみを説明しています。「標準モニター設定」 『66ページ』を参照してください。

[基本]タブ

URLおよびリクエストの設定

- URL ダウンロードするページの URL で、ウェブサーバーアドレスからの相対 URL です。指定 した URL により、ウェブサーバーモニターページのリンクセクションに表示されるリンクが決まります。
- **セキュア HTTP を使用する** このチェックボックスをチェックすると、モニターはセキュア HTTP (SSL) を使用して通信できます。
- ポート・ウェブサーバーへの接続に使用するポート番号。

閾値の設定

- 検索文字列 ページで検索する文字列。検出されない場合、テストは失敗します。
- ページ取得時間 閾値(単位: ms)。ページが閾値内に配信されない場合、テストは失敗します。
- **チェックサムの確認** このチェックボックスをチェックすると、モニターでページのチェック サム値が計算されます。チェックサム値が2回のテストで異なる場合、現在のテストは失敗します。*チェックサムをリセットするには、プロパティページを開いてモニターを保存します。*
- ログオンを実行する チェックした場合、次の HTTP アカウントセクションが表示されます。 指定された資格情報を使用してサーバーにログオンします。

HTTP アカウント

- **資格情報の継承** チェックした場合、資産から資格情報を継承します。チェックしない場合は、モニター固有の資格情報を入力します。
- ユーザー名/パスワード このモニターへのアクセス認証に使用する資格情報。
- ポート HTTP アカウントに接続するポート。

詳細タブ

ウェブサーバーモニターの詳細設定。

- **ユーザーエージェント** リクエストで送信するデフォルトのユーザーエージェント変数をオーバーライドします。
- カスタム Cookie Get リクエストと共に送信するオプションの Cookie。
- **カスタムホスト** 名前付きの基本仮想ホストをサポートするためのオプションのホストヘッダーフィールド。

モニターのリファレンス

- 共通名チェックを無視する チェックした場合、モニターはサーバー証明書の共通名を検証しません。このオプションが有効になるのは、モニターがセキュア HTTP を使用している場合に限られます。
- **日付チェックを無視する** チェックした場合、モニターはサーバー証明書の有効期限を検証しません。このオプションが有効になるのは、モニターがセキュア HTTP を使用している場合に限られます。
- **証明機関チェックを無視する** チェックした場合、モニターはサーバー証明書の証明機関を検証しません。このオプションが有効になるのは、モニターがセキュア HTTP を使用している場合に限られます。
- **証明書ストア** システム証明書ストアの名前。モニターからサーバーにクライアント証明書を 送信する場合にのみ使用します。
- **証明書のタイトル** システム証明書ストアで使用する証明書のタイトル行。モニターからサーバーにクライアント証明書を送信する場合にのみ使用します。
- **プロキシサーバー** オプションのプロキシサーバーのアドレス。
- **プロキシのポート** オプションのプロキシサーバーのポート。

Windows パフォーマンスモニター

Windows パフォーマンスモニターは、Windows パフォーマンスカウンターを照会し、比較演算を使用して比較値と比較します。比較演算で false と評価されると、モニターはテストに失敗します。オプションで、2つのパフォーマンスカウンターを照会して組み合わせてから、比較値と比較することができます。

- システムのタイプ:: Windows
- カテゴリー:パーフォマンス

注: ここでは、モニター固有の設定のみを説明しています。「標準モニター設定」 『66ページ』を参照してください。

モニター固有のプロパティ

- オブジェクト/カウンター/インスタンス テストするプライマリパフォーマンス資産の名前。 列挙機能を使用して、各値を列挙できます。カウンターの一部のタイプでは、インスタンスフィールドが意図的に空白になります。[再スキャン]リンクをクリックすると、各値が更新されます。
- **オブジェクト/カウンター/インスタンス** オプション。セカンダリパフォーマンス資産。列挙機能を使用して、各値を列挙できます。カウンターの一部のタイプでは、インスタンスフィールドが意図的に空白になります。
- **複合演算** 2 つのカウンターを照会するときに使用するオプションの演算。加算、減算、除算、乗算を使用して、2 つのカウンターの値から最終結果を求めることができます。
- 除数 比較前に、取得した値が除算される値。
- **データタイプ** テストでサンプリングされるデータの単位。データタイプを使用して、レポート内で同じ型を使用する他のモニターとデータをグループ化できます。
- 値の型 取得した値と比較される値の型。
- 比較演算 比較で使用する演算
- 比較値 計算で得られた値と比較する値。

■ **資格情報の継承** - Windows ドメイン資格情報が必要な場合は指定します。チェックした場合、 継承されます。チェックしない場合、資産ノードの[**認証** 『42 ページ』]タブで資産に設定した Windows ドメイン資格情報がオーバーライドされます。

Windows サービスステータスモニタ

Windows サービスステータスモニターは、Windows サービスが実行中であることをテストします。

- システムのタイプ:: Windows
- カテゴリー:パーフォマンス

注: ここでは、モニター固有の設定のみを説明しています。「標準モニター設定」 『66ページ』を参照してください。

モニター固有のプロパティ

- 利用可能のサービス・サービスの選択元のリスト。[選択]ボタンをクリックすると、選択したサービスがフィールドサービス名に追加されます。リストを更新するには、[サービスの再スキャン]リンクをクリックします。
- サービス名 モニタリング対象のサービスの名前。複数のサービスはコンマで区切ります。このモニターを Windows サービスコントロールアクション 『167 ページ 』と組み合わせると、1 つのサービスのみを選択できます。
- **機能を反転する** チェックした場合、リストに表示されたサービスのいずれかが実行中の場合、モニターはアラームをトリガーします。
- **資格情報の継承** Windows ドメイン資格情報が必要な場合は指定します。チェックした場合、 継承されます。チェックしない場合、資産ノードの[認証 『42 ページ 』]タブで資産に設定した Windows ドメイン資格情報がオーバーライドされます。

関連項目:

- Windows サービスコントロール 『177 ページ 』 (スケジュール済みイベント)
- Windows サービスコントロール 『167 ページ 』 *(アクション)*
- Windows サービスリスト 『100 ページ 』 (直接コントロール)

WMI クエリーモニター

WMI クエリーモニターを使用して、WQL クエリーを実行し、戻り値の条件付きテストを実行できます。このモニターはすべての標準 WQL クエリーを実行できますが、戻り値の比較は返されたデータの 1 つのフィールドに限定されます。

- システムのタイプ:: Windows
- カテゴリー:パーフォマンス

注: 「Windows Management Instrumentation」 『202 ページ 』を参照してください。

注: ここでは、モニター固有の設定のみを説明しています。「標準モニター設定」 『66ページ』を参照してください。

モニターのリファレンス

モニター固有のプロパティ

- **ネームスペース** クエリーを実行する対象のネームスペース。デフォルトのネームスペースは root\cimv2 です。
- WQL WQL クエリー。
- **値の名前** クエリーの実行時に取得する値の名前。複数の結果行が返される場合、結果セット の最初の行から値が取得されます。
- **データタイプ** テストでサンプリングされるデータの単位。データタイプを使用して、レポート内で同じ型を使用する他のモニターとデータをグループ化できます。
- 値の型 取得した値と比較される値の型。
- 比較演算 比較で使用する演算
- 比較値 計算で得られた値と比較する値。

チャプター 4

アクションのリファレンス

この章では、利用可能なすべてのアクションとそれぞれの設定について説明します。アクションは、**[アクション]タブ** 『59 ページ 』で使用します。

この章で

イベントログのクリアアクション	100
SSH2 アクションによるコマンドの実行	160
Windows コマンドの実行アクション	161
HTTP Get/Post アクション	161
リストのリセットアクション	163
Lua スクリプトアクション	163
メールの送信アクション	163
PageGate 経由のメッセージ送信アクション	164
SMS の送信アクション	165
Wake-On-LAN パケット送信アクション	166
SNMP セットアクション	166
チケットのアクション	167
Windows サービスコントロールアクション	

イベントログのクリアアクション

イベントログのクリアアクションは、指定した Windows ホスト上にあるイベントログをクリアします。

パラメータ

- アラームの数 このアクションをトリガーしたアラームの数 『59ページ』。
- 接続先 モニターホストまたは特定のホスト。 特定のホストの場合、ホスト名を入力します
- ホスト名 ホスト名、またはIPアドレス。資産のアドレスを使用する場合は、空白にします。
- **資格情報** モニターの資格情報、または保存済みの資格情報。
- **資格情報の継承** 保存済みの資格情報を選択した場合、[**資格情報の継承**]オプションが表示されます。チェックした場合、資産から資格情報を継承します。チェックしない場合は、アクション固有の資格情報を入力します。
- **ドメインまたはコンピュータ/ユーザー名/パスワード** このアクションのアクセス認証に使用する資格情報です。
- **ログ名** クリアするログの名前。例: Application。

SSH2 アクションによるコマンドの 実行

SSH2 アクションは、SSH2 サーバーでコマンドを実行します。オプションで、このアクションで Telnet プロトコルを代わりに使用するように構成できます。

パラメータ

- アラームの数 このアクションをトリガーしたアラームの数 『59ページ』。
- 接続先 モニターホストまたは特定のホスト。 特定のホストの場合、ホスト名を入力します
- ホスト名 ホスト名、またはIPアドレス。資産のアドレスを使用する場合は、空白にします。
- 接続のタイプ SSH、または Telnet。Telnet の場合は、Network Monitor の[設定] > [その他のシステム設定] 『113 ページ 』 > [モニターのデフォルト設定]タブで Telnet パラメータが正しく構成されていることを確認してください。

警告: Telnet は暗号化されず、ユーザー名/パスワードが平文テキストで送信される点に注意してください。

- **コマンド** 実行するコマンド。コマンドを指定するときに、次のフォーマット変数を含めることができます。
 - ➢ %[asset.name] 資産名
 - ▶ %[monitor.name] モニター名
 - ➢ %[asset.ip] 資産のアドレス
- ポート SSH2 サーバーがリスンするポート番号。
- **資格情報** モニターの資格情報、または保存済みの資格情報。

- **資格情報の継承** 保存済みの資格情報を選択した場合、[**資格情報の継承**]オプションが表示されます。チェックした場合、資産から資格情報を継承します。チェックしない場合は、アクション固有の資格情報を入力します。
- **ドメインまたはコンピュータ/ユーザー名/パスワード** このアクションのアクセス認証に使用する資格情報です。

Windows コマンドの実行アクション

Windows コマンドの実行アクションは、Network Monitor のホストマシンでコマンドを実行します。 コマンドはシステムユーザープロセスとして実行され、ユーザーの操作は不要です。

パラメータ

- アラームの数 このアクションをトリガーしたアラームの数 『59ページ』。
- **コマンド** 実行するコマンド。コマンドとは、KNM のルートディレクトリまたは Windows/System32 ディレクトリにある実行可能ファイルです。
- パラメータ 実行するコマンドに引数として渡される文字列。
- **資格情報** モニターの資格情報、または保存済みの資格情報。
- **資格情報の継承** 保存済みの資格情報を選択した場合、[**資格情報の継承**]オプションが表示されます。チェックした場合、資産から資格情報を継承します。チェックしない場合は、アクション固有の資格情報を入力します。
- **ドメインまたはコンピュータ/ユーザー名/パスワード** このアクションのアクセス認証に使用する資格情報です。

HTTP Get/Post アクション

HTTP Get/Post アクションは、HTTP Get または Post リクエストをウェブサーバーに送信します。

- **アラームの数** このアクションをトリガーした**アラームの数** 『59ページ』。
- 接続先 モニターホストまたは特定のホスト。特定のホストの場合、ホスト名を入力します
- ホスト名 ホスト名、またはIPアドレス。資産のアドレスを使用する場合は、空白にします。
- Get/Post リクエストをウェブサーバーに送信するときに使用するメソッド。
- URL URL は、資産の絶対 URL と相対 URL のいずれにすることもできます。
- SSL チェックした場合、SSL を使用します。通常、ウェブサーバーが SSL トラフィック用にリスンするのは、デフォルトの80とは異なるポートであることに注意してください。必要に応じて、このオプションを選択するときにポート番号を変更します。このアクションは、無効な共通名、期限切れの日付、または無効な証明機関をもつサーバー側の証明書を受け入れます。このボックスをチェックするとポート番号が443になり、チェックを解除するとポート番号が443になります。
- ポート ポート番号。デフォルト値は 80 です。
- パラメータ Post リクエストのみ。name=value のフォーマットを使用して、1行に1つずつパラメータを入力します。1つのパラメータに次のフォーマット変数 『69ページ』を含めることができます。

アクションのリファレンス

- ➤ %[system.time] 現在の時刻
- ➢ %[asset.name] 資産名
- ▶ %[asset.address] 資産のアドレス
- ➢ %[monitor.name] モニター名
- ➤ %[monitor.error] モニターエラーメッセージ
- ▶ %[monitor.error2] モニターエラーメッセージ (タイムスタンプなし)
- ➤ %[asset.description] 資産の説明
- ▶ %[group.name] グループ名
- %[group.contact] グループ連絡先
- 文字エンコード ISO-8859-1 または UTF-8。リクエストで使用されるエンコード。
- HTTP 認証 チェックした場合は、リクエストの認証に使用する資格情報を入力します。
- **資格情報** モニターの資格情報、または保存済みの資格情報。
- **資格情報の継承** 保存済みの資格情報を選択した場合、[**資格情報の継承**]オプションが表示されます。チェックした場合、資産から資格情報を継承します。チェックしない場合は、アクション固有の資格情報を入力します。
- **ドメインまたはコンピュータ/ユーザー名/パスワード** このアクションのアクセス認証に使用する資格情報です。
- プロキシの設定
 - プロキシサーバー プロキシサーバーのアドレス。
 - プロキシのポート プロキシサーバーのポート番号。

例:絶対 URL を使用する Get および Post リクエスト

この例では、Get リクエストまたは Post リクエストを使用して、変数と共にリクエストをウェブサーバーに送信する 2 とおりの方法を示します。

Get リクエスト

URL -http://www.yourserver.com/test.php?test1=1&test2=2

Post リクエスト

- URL -http://www.yourserver.com/test.php
- パラメータ
 - > test1=1
 - test2=2

例:相対 URL を使用する Get および Post リクエスト

この例では、Get リクエストまたは Post リクエストを使用して、変数と共にリクエストをウェブサーバーに送信する 2 とおりの方法を示します。URL は、アクションを呼び出す資産のアドレスの相対 URL です。

Get リクエスト

URL -test.php?test1=1&test2=2

Post リクエスト

- URL -test.php
- パラメータ

- test1=1
- test2=2

リストのリセットアクション

リストのリセットアクションを実行すると、リストの最初のアクションから再起動されます。リストのリセットアクションを使用して、*ループ*動作を実行できます。リストのリセットアクションをリカバリアクションとして使用することはできません。

Luaスクリプトアクション

Lua スクリプトアクションは Lua 『213ページ』スクリプトを実行し、アクションを呼び出すモニターの資産がこのスクリプトによってホストとして使用されます。Lua スクリプトアクションは、単純なスクリプトと高度なスクリプトの両方を実行できます。高度なスクリプトモデルを使用するスクリプトには、カスタム定義引数のセクションがありますが、ここでは説明しません。

パラメータ

- **アラームの数** このアクションをトリガーした**アラームの数** 『59ページ』。
- 作者 Lua スクリプトの作成者。
- **バージョン** Lua スクリプトのバージョン。
- 説明 Lua スクリプトの 1 行の概要。

注:Lua スクリプトをサポートするために必要な追加パラメータがここに表示されます。

- 証明書
 - ▶ 認証なし・他の資格情報の設定は不要です。
 - ▶ 指定の資格情報を API で使用する [アカウントタイプ]を[Windows ドメインのアカウント]、[SSH/Telnet のアカウント]、または[VMware のアカウント]に設定します。
 - ▶ Windows の権限を借用する ユーザーのログオンアカウントを使用します。
- **資格情報の継承** [指定の資格情報を API で使用する]または[Windows の権限を借用する]を選択すると、[**資格情報の継承**]オプションが表示されます。チェックした場合、資産から資格情報を継承します。チェックしない場合は、アクション固有の資格情報を入力します。
- **ドメインまたはコンピュータ/ユーザー名/パスワード** このアクションのアクセス認証に使用する資格情報です。

メールの送信アクション

メールの送信アクションは、Eメールを1人以上の受信者に送信します。指定フォーマット、またはモニターが継承したフォーマットを使用して、メッセージがフォーマットされます。

パラメータ

アラームの数 - このアクションをトリガーしたアラームの数 『59ページ』。

- **勤務中のユーザー** メッセージは勤務中のユーザーにのみ送信されます。勤務中とスケジュールされているユーザーがいない場合、メッセージは送信されません。
- **通知グループ** メッセージは、資産に割り当てられたユーザーグループのすべてのユーザーに 送信されます。
- **グループマネージャ** メッセージは、資産に割り当てられたユーザーグループのグループマネージャとして指定されたユーザーにのみ送信されます。ユーザーグループにグループマネージャが指定されていない場合、メッセージは送信されません。
- **特定のユーザーグループ** メッセージは、選択したユーザーグループに送信されます。このオプションを使用すると、アラームをエスカレートして、資産に割り当てられたユーザーグループ内のユーザー以外のユーザーを含めることができます。
- **特定の受信者** メッセージは、コンマで区切られた1つ以上のEメールアドレスに送信されます。
- **ショートメッセージ** チェックした場合、圧縮されたメッセージが送信されます。たとえば、メッセージが SMS ゲートウェイ経由で送信される場合です。このオプションを使用すると、メッセージのサイズを節約するために次の情報が削除されます。
 - ➤ %[asset.description] 資産の説明
 - ➤ %[user.distribution list] 配布リスト
 - » %[system.charts] リアルタイムグラフ
 - ▶ %[monitor.dependency status] 依存関係ツリーステータス
 - ➤ %[monitor.error] モニターエラーメッセージ
 - %[network.contact] ネットワーク連絡先

PageGate 経由のメッセージ送信アクション

PageGate アクション経由のメッセージ送信アクションは、メッセージを Pagegate ユーザーに送信します。指定フォーマット、またはモニターが継承したフォーマットを使用して、メッセージがフォーマットされます。

- **アラームの数** このアクションをトリガーした**アラームの数** 『59ページ』。
- **勤務中のユーザー** メッセージは勤務中のユーザーにのみ送信されます。勤務中とスケジュールされているユーザーがいない場合、メッセージは送信されません。
- **通知グループ** メッセージは、資産に割り当てられたユーザーグループのすべてのユーザーに 送信されます。
- **グループマネージャ** メッセージは、資産に割り当てられたユーザーグループのグループマネージャとして指定されたユーザーにのみ送信されます。ユーザーグループにグループマネージャが指定されていない場合、メッセージは送信されません。
- **特定のユーザーグループ** メッセージは、選択したユーザーグループに送信されます。このオプションを使用すると、アラームをエスカレートして、資産に割り当てられたユーザーグループ内のユーザー以外のユーザーを含めることができます。
- **特定の受信者** メッセージは、コンマで区切られた1つ以上のEメールアドレスに送信されます。

- **ショートメッセージ** チェックした場合、圧縮されたメッセージが送信されます。たとえば、メッセージが SMS ゲートウェイ経由で送信される場合です。このオプションを使用すると、メッセージのサイズを節約するために次の情報が削除されます。
 - > %[asset.description] 資産の説明
 - ➤ %[user.distribution list] 配布リスト
 - » %[system.charts] リアルタイムグラフ
 - %[monitor.dependency_status] 依存関係ツリーステータス
 - ➤ %[monitor.error] モニターエラーメッセージ
 - > %[network.contact] ネットワーク連絡先

SMS の送信アクション

SMS の送信アクションは、SMS を 1 人以上の受信者に送信します。指定フォーマット、またはモニターが継承したフォーマットを使用して、メッセージがフォーマットされます。メッセージテキストの最大文字数は 160 字です。上限を超えたテキストは、SMS を送信する前に切り捨てられます。このアクションを使用するには、SMS 設定 『114 ページ 』を構成する必要があります。

- **アラームの数** このアクションをトリガーした**アラームの数** 『59ページ』。
- **勤務中のユーザー** メッセージは勤務中のユーザーにのみ送信されます。勤務中とスケジュールされているユーザーがいない場合、メッセージは送信されません。
- **通知グループ** メッセージは、資産に割り当てられたユーザーグループのすべてのユーザーに 送信されます。
- **グループマネージャ** メッセージは、資産に割り当てられたユーザーグループのグループマネージャとして指定されたユーザーにのみ送信されます。ユーザーグループにグループマネージャが指定されていない場合、メッセージは送信されません。
- **特定のユーザーグループ** メッセージは、選択したユーザーグループに送信されます。このオプションを使用すると、アラームをエスカレートして、資産に割り当てられたユーザーグループ内のユーザー以外のユーザーを含めることができます。
- **特定の受信者** メッセージは、コンマで区切られた 1 つ以上の E メールアドレスに送信されます。
- ショートメッセージ チェックした場合、圧縮されたメッセージが送信されます。たとえば、メッセージが SMS ゲートウェイ経由で送信される場合です。このオプションを使用すると、メッセージのサイズを節約するために次の情報が削除されます。
 - > %[asset.description] 資産の説明
 - ▶ %[user.distribution_list] 配布リスト
 - ➤ %[system.charts] リアルタイムグラフ
 - %[monitor.dependency status] 依存関係ツリーステータス
 - ➤ %[monitor.error] モニターエラーメッセージ
 - %[network.contact] ネットワーク連絡先

Wake-On-LAN パケット送信アクショ

ン

Wake-On-LAN パケット送信アクション *(WOL)* は、WOL 標準に準拠したホストを起動できます。このアクションを使用できるかどうかを調べるには、ホストのドキュメントを参照してください。

注: このアクションは、WOL パケットの送信に使用するホストと同じブロードキャストドメインにあるホストのウェイクアップに制限されます。通常、資産は同じルーターを共有するすべての資産にメッセージをブロードキャストできます。ルーターはブロードキャストドメイン間の境界として機能します。LANには複数のルーターが含まれることがあり、各ルーターが別のブロードキャストドメインを表します。

パラメータ

- **アラームの数** このアクションをトリガーした**アラームの数** 『59ページ』。
- 接続先 モニターホストまたは特定のホスト。 特定のホストの場合、MAC アドレスを入力します。
- MAC アドレス WOL パケットの送信先インターフェースの MAC アドレス。MAC アドレスのフォーマットは AA-BB-CC-DD-EE-FF です。資産の MAC アドレスを使用する場合は、フィールドを空白にします。
- **間隔** 各パケット送信の間の待機時間 (単位: 秒単位)。パケットカウントが5で間隔が5に設定されている場合、5つのパケットが25秒間で送信されます。
- **パケットカウント** パケットの送信回数。ホストが確実に受信できるようにするには、1より 大きい値を設定します。

SNMPセットアクション

SNMP セットアクションを使用すると、リモート SNMP エージェントの資産識別子の値(OID)を変更できます。

注: Network Monitor が SNMP 資産への接続に使用するコミュニティ名、SNMP バージョン、およびポートは、資産ノードの[認証 『42ページ』] タブで設定します。資産ノードは、親ノードからこの設定を継承できます。「インストール前のチェックリスト」 『4ページ』 を参照してください。

- アラームの数 このアクションをトリガーしたアラームの数 『59ページ』。
- 接続先 モニターホストまたは特定のホスト。 特定のホストの場合、ホスト名を入力します
- ホスト名 ホスト名、またはIPアドレス。資産のアドレスを使用する場合は、空白にします。
- **OID** 関連する OID を入力します。
 - ➤ 名前付き OID を指定することも、数字のフォーマットで OID を指定することもできます。 名前付き OID を指定する場合、フィールドのフォーカスが外れると Network Monitor は自動的にその OID を数字のフォーマットに解決する処理を試行します。 Network Monitor は、現在コンパイルされている MIB を使用して、OID の数字フォーマットの検出を試行します

- ➤ OID フィールドの横にある[...]ボタンをクリックすると、MIB ブラウザのダイアログが表示され、リモート SNMP エージェントから資産識別子を選択できます。
- ▶ MIB ブラウザに OID 番号が@string 付きで表示された場合、この文字列を OID の一部として使用できます。たとえば、ネットワーク接続のインデックス番号を指定する代わりに、OID フィールドに OID .1.3.6.1.2.1.2.2.1.16@Intel(R) PRO/1000 MT Network Connection を入力できます。
- 値 設定する値。
- **構文の型** 値の型。値には整数または文字列を使用できます。
- **資格情報** モニターの資格情報、または保存済みの資格情報。
- **資格情報の継承** 保存済みの資格情報を選択した場合、[**資格情報の継承**]オプションが表示されます。チェックした場合、資産から資格情報を継承します。チェックしない場合は、アクション固有の資格情報を入力します。
- **ドメインまたはコンピュータ/ユーザー名/パスワード** このアクションのアクセス認証に使用する資格情報です。

チケットのアクション

チケットのアクションは、Network Monitor が監視している資産のアラームカウントによってトリガーされたときにチケットを作成します。デフォルトでは、**チケット**のアクションは KNM グループノードのすべての資産に継承されます。アラームカウントは1に設定されます。

注: チケットの作成は、Service Desk が VSA 内で**アクティブ** 『 http://help.kaseya.com/webhelp/JA/KSD/9010000/index.asp#5478.htm を見て 』になっていたかどうかに応じて、チケット発行モジュールまたは Service Desk で行われます。

パラメータ

- **アラームの数** このアクションをトリガーした**アラームの数** 『59ページ』。
- ユーザー・チケットのアクションに対するデフォルトのVSAユーザーを選択します。これは、 他のVSAユーザーが割り当てられていない場合に、作成されたチケットに割り当てられるVSA ユーザーです。

Windows サービスコントロールアクション

Windows サービスコントロールアクションを使用して、Windows サービスの開始、停止、一時停止、続行、および再起動ができます。すべてのサービスアクションで同じパラメータセットが使用されす。

- **アラームの数** このアクションをトリガーした**アラームの数** 『59ページ』。
- 接続先 モニターホストまたは特定のホスト。 特定のホストの場合、ホスト名を入力します
- ホスト名 ホスト名、またはIPアドレス。資産のアドレスを使用する場合は、空白にします。

- **サービス名** サービスの名前。モニターからサービス名を取得するには、このフィールドを空白にします。サービス名を取得するには、このアクションを実行するモニターは、チェックするサービスが 1 つのみの Windows サービスステータスモニター 『157 ページ 』である必要があります。
- タイプ 実行する動作の種類を選択します。

Continue service Pause service Start service Stop service Restart service

- **資格情報** モニターの資格情報、または保存済みの資格情報。
- 資格情報の継承 保存済みの資格情報を選択した場合、[資格情報の継承]オプションが表示されます。チェックした場合、資産から資格情報を継承します。チェックしない場合は、アクション固有の資格情報を入力します。
- **ドメインまたはコンピュータ/ユーザー名/パスワード** このアクションのアクセス認証に使用する資格情報です。

関連項目:

- Windows サービスコントロール 『177 ページ 』 (スケジュールイベント)
- Windows サービスリスト 『100 ページ 』 *(直接コントロール)*
- Windows サービスのステータス 『157 ページ 』 *(モニター)*

スケジュール済みイベントの リファレンス

この章では、利用可能なすべてのスケジュール済みイベント 『37 ページ 』およびその各設定について説明します。

イベントログのクリアイベント

イベントログのクリアイベントは、リモート Windows ホスト上にあるイベントログをクリアします

注: イベントのスケジューリングの概要については、「[スケジュール]タブ」 『37ページ 』のトピックを 参照してください。

イベントの設定

- ホスト名 リモートホストのホスト名。DNS 名または IP アドレスを指定できます。
- **ログ名** クリアするイベントログの名前を指定します。

- **資格情報の継承** チェックした場合、現在選択しているサブグループまたはゲートウェイのノードから資格情報を継承します。チェックしない場合は、イベント固有の資格情報を入力します。
- **ドメインまたはコンピュータ/ユーザー名/パスワード** このイベントのアクセス認証に使用する資格情報です。

SSH2/Telnet 経由のコマンド実行イベント

SSH2/Telnet 経由のコマンド実行イベントは、SSH2 または Telnet を使用してリモートサーバーに接続し、コマンドを実行します。

注: イベントのスケジューリングの概要については、「[スケジュール]タブ」 『37ページ 』のトピックを参照してください。

イベントの設定

- ホスト名 リモートホストのホスト名。DNS 名または IP アドレスを指定できます。
- **コマンド** リモートホストで実行するコマンドを指定します。
- **ポート** 接続するポート番号を指定します。SSH2 のデフォルトポートは 22、Telnet のデフォルトポートは 23 です。
- Telnet を使用する チェックした場合、Network Monitor は Telnet プロトコルを使用してリモートホストに接続します。このオプションをチェックすると、ポートが自動的に 23 に変更されます。
- **資格情報の継承** チェックした場合、現在選択しているグループまたはゲートウェイのノードから資格情報を継承します。チェックしない場合は、イベント固有の資格情報を入力します。
- ユーザー名/パスワード このイベントへのアクセス認証に使用する資格情報。

Windows コマンドの実行イベント

Windows コマンドの実行イベントは、Network Monitor のホストマシンで指定コマンドを実行します。このイベントを使用して、Network Monitor のホストに保存されたスクリプトまたはバッチファイルをトリガーできます。コマンドはシステムユーザープロセスとして実行され、ユーザーの操作は不要です。

注: イベントのスケジューリングの概要については、「[スケジュール]タブ」 『37ページ 』のトピックを参照してください。

イベントの設定

- **コマンド** 実行するコマンドを入力します。
- **パラメータ** コマンドと共に送信するパラメータを追加します。スペースを含むパラメータを 1 つのパラメータとして指定するには、引用符を使用します。
- **資格情報の継承** チェックした場合、現在選択しているサブグループまたはゲートウェイのノードから資格情報を継承します。チェックしない場合は、イベント固有の資格情報を入力します。

■ **ドメインまたはコンピュータ/ユーザー名/パスワード** - このイベントのアクセス認証に使用する資格情報です。

統計のエクスポートイベント

統計のエクスポートイベントは、所定期間に収集した統計データをエクスポートします。データは CSV ファイル (コンマ区切りのテキストファイル) にエクスポートでき、スプレッドシートアプリケーションや、ODBC 経由で別のデータベースに直接インポートできます。別のデータベースにエクスポートする場合、ターゲットデータベースマシンに 32 ビットのシステム DSN ODBC ドライバーを構成する必要があります。

注: イベントのスケジューリングの概要については、「[スケジュール]タブ」 『37ページ 』のトピックを 参照してください。

イベント統計

このイベントの設定は2つのセクションに分かれています。最初のセクションでは、エクスポート するデータの種類とソースを定義します。

- データタイプ/選択したデータタイプ エクスポートする特定のデータタイプを選択します。 データタイプはカテゴリーに分類されています。データタイプをエクスポートリストに追加するには、データタイプを選択して[選択]ボタンをクリックします。選択したデータタイプが選択したリストに追加されます。データタイプを削除するには、データタイプを選択して[削除] ボタンをクリックします。
- 期間 エクスポートするデータの期間を指定します。
- **資産/選択した資産** データをエクスポートする資産を選択するには、資産が存在する関連ネットワークを選択し、リストから資産を1つ以上選択して、[**選択**]ボタンをクリックします。選択した資産が、選択した資産リストに追加されます。資産をデータエクスポートから削除するには、資産を選択して[**削除**]ボタンをクリックします。

エクスポートオプション

このセクションでは、CSV ファイルまたはデータベースのエクスポートの詳細を定義します。

- **ファイルにエクスポート** 統計データを CSV ファイルにエクスポートするには、このチェックボックスをチェックします。
 - ➤ ファイル名 エクスポートするデータファイルのファイル名。ファイルは KNM\reports\export ディレクトリにエクスポートされます。ファイル名を指定するとき に、次のフォーマット変数を含めることができます。
 - ✓ %[system.date] 現在の日付
 - ✓ %[system.time] 現在の時刻
- **データベースにエクスポート** 統計データを ODBC 経由でデータベースにエクスポートするには、このチェックボックスをチェックします。
 - ▶ データソース名 定義済みの ODBC データソースの名前。
 - プータベース名 統計情報を保存するデータベースの名前。
- **エクスポート前にテーブルをクリア** データをエクスポートする前にデータベーステーブルを クリアします。
- **資格情報の継承** チェックした場合、現在選択しているグループまたはゲートウェイのノードから資格情報を継承します。チェックしない場合は、イベント固有の資格情報を入力します。

- **ユーザー名/パスワード** このイベントへのアクセス認証に使用する資格情報。
- マーカーデータを含める チェックした場合、リアルデータの提供で問題があるときにはプレースホルダー値-10000 が代わりに挿入されます。チェックしない場合、プレースホルダー値は挿入されません。

CSV ファイルへの統計のエクスポート

統計データをファイルにエクスポートすると、イベントが実行されるたびに **Network Monitor** で 2 つのファイルが生成されます。ファイルは KNM のホストマシンの KNM\reports\export フォルダに保存されます。

1つ目のファイルには、イベントのプロパティの[ファイル名]ボックスに指定した名前が付けられます。このファイルには Raw のエクスポートデータが含まれます。2つ目のファイルも名前は同じですが、名前の先頭に info_が付けられます。このファイルには、エクスポートされたデータの種類の説明が含まれます。

info ファイルの構造は次のとおりです。

Network name; asset name; monitor name; monitor-id; monitor-subid; datatype-id; unit; datatype description

例

Default network;Backup;Disk utilization (C:);84;0;3;%;Disk utilization データファイルの構造は次のとおりです。

monitor-id;datatype-id;monitor-subid;timestamp;raw data;comment

例

84;3;0;2009/08/05 09:42:57;13.669434;

Network Monitor によってレコードが無効とみなされると、固定値-10000.0 がエクスポートされます。

データベースへのエクスポート

統計データをデータベースにエクスポートするとき、**Network Monitor** によりデータベースにテーブルが 2 つ作成されます。1 つ目のテーブルの名前は inmDataExportInformation です。次の構造をもちます。

CREATE TABLE inmDataExportInformation (networkName char(128), assetName char(128), monitorName char(128), monitorID integer, atomID integer, dataType integer, unitNamechar(32), exportedDataType char(128));

このテーブルは、エクスポートされたデータに関する情報を含み、データをファイルにエクスポートする場合の情報と似ています。

2つ目のテーブルの名前は inmDataExport です。次の構造をもちます。

CREATE TABLE inmDataExport (monitorID integer, atomID integer, dataType integer,
dataTime DATETIME, dataRaw float);

このテーブルは、エクスポートしたすべての統計データを含みます。

警告: Network Monitor は、これら 2 つの名前のテーブルをドロップすることでデータのエクスポートを開始します。Network Monitor に構成されたデータベースユーザーには、該当するデータベースでの DROP、CREATE および INSERT 動作に対する適切なアクセス権が必要です。データベースユーザーの構成方法については、使用しているデータベースのマニュアルを参照してください。

レポートの生成イベント

レポートの生成イベントは、レポートの生成をスケジュールし、レポートを特定の受信者に対して 送信または公開を行うために使用します。

注: イベントのスケジューリングの概要については、「[スケジュール]タブ」 『37ページ 』のトピックを参照してください。

[イベント構成]タブ

レポートの生成

生成するレポートの種類を選択します。

- カスタマイズされたレポートの生成 選択した場合、既に Network Monitor の[レポート] > [レポートのカスタマイズ] 『82ページ』 を使用して設定した構成、および選択した資産とモニターを使用します。[カスタマイズされたレポート]ドロップダウンリストから、カスタマイズされたレポートの名前を選択するだけで済みます。
- レポートテンプレートの生成 選択した場合、使用するレポートテンプレート、期間、およびレポートに含める資産とモニターを選択する必要があります。
 - ▶ レポートテンプレート スケジュールするレポートテンプレートを選択します。レポートテンプレートの資産を選択する場合、後述の「選択」セクションを参照してください。
 - 期間 レポートテンプレートのレポート期間を選択します。
 - ▶ 実行するユーザー レポートを実行するユーザーを選択します。
 - ▶ 個別レポート 各資産の個別レポートを送信するには、このオプションを選択します。

選択

このセクションが表示されるのは、[レポートテンプレートの生成]を選択した場合のみです。レポートに含める資産を指定します。

- **資産の選択/選択した資産** [**資産の選択**]リストに表示する資産名のテキストを入力します。リストから資産を 1 つ以上選択し、[**追加**]ボタンをクリックして、[**選択した資産**]リストに資産を追加します。また、[**選択**]ボタンをクリックして、ターゲットの資産を参照することもできます。資産を削除するには、資産を選択し、[**削除**]ボタンをクリックします。
- モニターの選択/選択したモニター [モニターの選択]リストに表示するモニター名のテキストを入力します。リストからモニターを1つ以上選択し、[追加]ボタンをクリックして、[選択したモニター]リストにモニターを追加します。また、[選択]ボタンをクリックして、ターゲットのモニターを参照することもできます。モニターを削除するには、モニターを選択し、[削除]ボタンをクリックします。

[レポート受信者]タブ

このセクションを使用して、生成するレポートの受信者を選択します。

- ユーザーグループ・リストからユーザーグループを選択し、[選択]ボタンをクリックします。 複数のグループを含めることができます。選択したユーザーグループが、選択したグループリストに追加されます。ユーザーグループを削除するには、ユーザーグループを選択し、[削除] ボタンをクリックします。
- **ユーザー** リストからユーザーを選択し、[**選択**]ボタンをクリックします。複数のユーザーを含めることができます。選択したユーザーが、選択したユーザーリストに追加されます。ユーザーを削除するには、ユーザーを選択して[**削除**]ボタンをクリックします。

- **Eメール** 個別の Eメールアドレスを受信者として指定します。複数のエントリーはコンマで 区切ります。
- **タイトル** E メールで送信するレポートのタイトル行を指定します。空白のままにした場合、 Network Monitor の[設定] > [SMS] > [デフォルトのメッセージ] 『117 ページ 』 タブで指定した デフォルトのタイトル行のフォーマットが使用されます。
- ディレクトリ 生成されたレポートは、ネットワークフォルダで HTML ドキュメントとして公開できます。このフォルダのパスを指定します。パスを指定するときに、次のフォーマット変数を含めることができます。
 - ➤ %[system.date] 現在の日付 (フル)
 - ➤ %[system.date year] 現在の年
 - ➤ %[system.date month] 現在の月
 - ➤ %[system.date day of month] 月内の現在の日付
 - ▶ %[system.time] 現在の時刻(フル)
 - ➤ %[system.time hour] 現在の時
 - ➤ %[system.time minute] 現在の分
 - ➤ %[system.time_second] 現在の秒

FTP アップロードのオプション

生成されたレポートは、FTP サーバー上で HTML ドキュメントとして公開できます。

- FTP のホストおよびポート ホスト名とポート番号を指定します。デフォルト値は 21 です。
- **資格情報の継承** チェックした場合、現在選択しているグループまたはゲートウェイのノードから資格情報を継承します。チェックしない場合は、イベント固有の資格情報を入力します。
- ユーザー名/パスワード このイベントへのアクセス認証に使用する資格情報。

HTTP GET/POST リクエストイベント

HTTP GET/POST リクエストイベントは、リモートホストへの HTTP リクエストを実行します。GET および POST の両方のリクエスト方法がサポートされています。

注: イベントのスケジューリングの概要については、「[スケジュール]タブ」 『37 ページ 』のトピックを 参照してください。

イベントの設定

- URL リクエストのターゲット URL を指定します。
- SSL チェックした場合、リクエストで SSL (Secure Socket Layer) が使用されます。このチェックボックスをチェックすると、ポート番号が自動的に更新されます。
- ポート 使用するポート番号を指定します。デフォルトの HTTP ポートは 80 です。
- **パラメータ** Post リクエストのみ。name=value のフォーマットを使用して、1行に1つずつパラメータを入力します。1つのパラメータに次のフォーマット変数 『69ページ』 を含めることができます。
 - > %[system.time] 現在の時刻
 - ➢ %[asset.name] 資産名
 - ▶ %[asset.address] 資産のアドレス
 - ≫ %[monitor.name] モニター名

スケジュール済みイベントのリファレンス

- ➤ %[monitor.error] モニターエラーメッセージ
- ▶ %[monitor.error2] モニターエラーメッセージ (タイムスタンプなし)
- ➤ %[asset.description] 資産の説明
- ▶ %[group.name] グループ名
- »[group.contact] グループ連絡先
- 文字エンコード ISO-8859-1 または UTF-8。リクエストで使用されるエンコードです。
- HTTP 認証 チェックした場合は、リクエストの認証に使用する資格情報を入力します。
- **資格情報の継承** チェックした場合、現在選択しているグループまたはゲートウェイのノードから資格情報を継承します。チェックしない場合は、イベント固有の資格情報を入力します。
- ユーザー名/パスワード このイベントへのアクセス認証に使用する資格情報。
- プロキシの設定
 - プロキシサーバー プロキシサーバーのアドレス。
 - プロキシのポート プロキシサーバーのポート番号。

Luaスクリプトイベント

Lua スクリプトイベントは、Lua スクリプトを実行します。Lua は、**Network Monitor** がネイティブでサポートするスクリプト作成言語です。詳細については、**Lua** 『213 ページ 』を参照してください

注: イベントのスケジューリングの概要については、「[スケジュール]タブ」 『37ページ 』のトピックを参照してください。

イベントの設定

- **スクリプト** 実行するスクリプトを選択します。**Network Monitor** で使用する Lua スクリプトは、KNM ホストマシンの KNM\scripts フォルダに保存する必要があります。スクリプトを選択すると、スクリプトパラメータの個々のフィールドが表示されます。
- 証明書
 - ▶ 認証なし 資格情報は不要です。
 - ▶ 指定の資格情報を API で使用する [アカウントタイプ]を[Windows ドメインのアカウント]、[SSH/Telnet のアカウント]、または[VMware のアカウント]に設定します。このオプションを選択した場合、スクリプトを実行する前に Network Monitor は Windows 認証を実行しません。その代わり、指定したログオンアカウント情報がパラメータとしてスクリプトに渡されます。これは、SSH2 などのカスタムログオンを実行するスクリプトの場合に便利です。
 - ▶ Windows の権限を借用する スクリプトの実行前に、指定ホストで Windows 認証が実行されます。これは、実行前に認証を必要とするスクリプトで便利です。
- 資格情報の継承 [指定の資格情報を API で使用する]または[Windows の権限を借用する]を選択すると、[資格情報の継承]オプションが表示されます。チェックした場合、グループまたはゲートウェイノードから資格情報を継承します。チェックしない場合は、イベント固有の資格情報を入力します。
- **ドメインまたはコンピュータ/ユーザー名/パスワード** このイベントのアクセス認証に使用する資格情報です。

Eメール送信イベント

Eメール送信イベントは、指定した内容のEメールを1人以上のユーザーまたは1つ以上のユーザー グループに送信します。Eメール設定の構成方法については、「Eメールと SMS の設定」トピック を参照してください。

注: イベントのスケジューリングの概要については、「[スケジュール]タブ」 『37ページ 』のトピックを 参照してください。

イベントの設定

- **ユーザーグループ** メッセージの受信者に指定するユーザーグループを選択します。
- **ユーザー/選択したユーザー** 特定のユーザーをリストから選択して[**選択**]ボタンをクリックし、メッセージの受信者のユーザーを追加します。ユーザーを削除するには、リストからユーザーを選択し、[**削除**]ボタンをクリックします。
- **特定の受信者** 特定のEメールアドレスを入力します。複数のエントリーはコンマで区切ります。
- **タイトル** メッセージのタイトル行を指定します。
- **メッセージ** メッセージの本文を指定します。

PageGate 経由のメッセージ送信イベント

PageGate 経由のメッセージ送信イベントは、PageGate ページングサーバー経由でページングメッセージを 1 人以上のユーザーまたは 1 つ以上のユーザーグループに送信します。PageGate の構成方法については、「**その他のシステム設定**」 『113 ページ 』 セクションを参照してください。

注: イベントのスケジューリングの概要については、「[スケジュール]タブ」 『37ページ 』のトピックを参照してください。

イベントの設定

- **ユーザーグループ** メッセージの受信者に指定するユーザーグループを選択します。
- **ユーザー/選択したユーザー** 特定のユーザーをリストから選択して[**選択**]ボタンをクリックし、メッセージの受信者のユーザーを追加します。ユーザーを削除するには、リストからユーザーを選択し、[**削除**]ボタンをクリックします。
- **特定の受信者** 特定の PageGate ユーザーを入力します。複数のエントリーはコンマで区切ります。
- **タイトル** メッセージのタイトル行を指定します。
- メッセージ メッセージの本文を指定します。

SMS 送信イベント

SMS 送信イベントは、指定した内容の SMS メッセージを 1 人以上のユーザーまたは 1 つ以上のユーザーグループに送信します。 SMS 対応資産の構成方法については、「E メールと SMS の設定」トピ

ックを参照してください。

注: イベントのスケジューリングの概要については、「[スケジュール]タブ」 『37ページ 』のトピックを参照してください。

イベントの設定

- ユーザーグループ・メッセージの受信者に指定するユーザーグループを選択します。
- **ユーザー/選択したユーザー** 特定のユーザーをリストから選択して[**選択**]ボタンをクリックし、メッセージの受信者のユーザーを追加します。ユーザーを削除するには、リストからユーザーを選択し、[**削除**]ボタンをクリックします。
- **特定の受信者** 特定の電話番号を入力します。複数のエントリーはコンマで区切ります。
- **タイトル** メッセージのタイトル行を指定します。
- メッセージ メッセージの本文を指定します。

Wake-On-LAN パケット送信イベント

Wake-On-LAN パケット送信イベントは、Wake-On-LAN プロトコルを使用してリモートホストの電源をオンにすることができます。このイベントを使用するには、リモートホストが Wake-On-LAN 機能をサポートしている必要があります。

注: イベントのスケジューリングの概要については、「[スケジュール]タブ」 『37ページ 』のトピックを 参照してください。

イベントの設定

- MAC アドレス Wake-On-LAN リクエストを受信するリモートホストのネットワークカードの MAC アドレスを指定します。MAC アドレスのフォーマットは AA-BB-CC-DD-EE-FF です。
- **間隔** 各パケット送信の間の待機時間 (単位: 秒単位)。パケットカウントが5で間隔が5に設定されている場合、5つのパケットが25秒間で送信されます。
- **パケットカウント** パケットの送信回数。ホストが確実に受信できるようにするには、1より 大きい値を設定します。

SNMPセットイベント

SNMP セットイベントは、SNMP セットリクエストをリモート SNMP エージェントに送信します。

注: イベントのスケジューリングの概要については、「[スケジュール]タブ」 『37ページ 』のトピックを 参照してください。

注: Network Monitor が SNMP 資産への接続に使用するコミュニティ名、SNMP バージョン、およびポートは、資産ノードの[**認証** 『42 ページ 』]タブで設定します。資産ノードは、親ノードからこの設定を継承できます。「インストール前のチェックリスト」 『4 ページ 』を参照してください。

イベントの設定

- **ホスト名** リモート SNMP エージェントのホスト名。DNS 名または IP アドレスを指定できます。
- **OID** 関連する OID を入力します。

- ➤ 名前付き OID を指定することも、数字のフォーマットで OID を指定することもできます。 名前付き OID を指定する場合、フィールドのフォーカスが外れると Network Monitor は自動的にその OID を数字のフォーマットに解決する処理を試行します。 Network Monitor は、現在コンパイルされている MIB を使用して、OID の数字フォーマットの検出を試行します。
- ➤ OID フィールドの横にある[...]ボタンをクリックすると、MIB ブラウザのダイアログが表示され、リモート SNMP エージェントから資産識別子を選択できます。
- ▶ MIB ブラウザに OID 番号が@string 付きで表示された場合、この文字列を OID の一部として使用できます。たとえば、ネットワーク接続のインデックス番号を指定する代わりに、OID フィールドに OID .1.3.6.1.2.1.2.2.1.16@Intel(R) PRO/1000 MT Network Connection を入力できます。
- 値 設定する値。
- 構文 値の型。値には整数または文字列を使用できます。
- **資格情報の継承** チェックした場合、グループから資格情報を継承します。チェックしない場合は、イベント固有の資格情報を入力します。
- SNMP バージョン/リードコミュニティ/ライトコミュニティ アクセスを認証して SNMP セット イベントを実行するために使用する資格情報。

モニタートリガーイベント

モニタートリガーイベントを使用すると、指定時刻にモニターテストを実行できます。たとえば、ある期間内の厳密に指定した時刻にのみモニターをテストする必要がある場合に便利です。*モニターのテストをスケジュールした後は、通常のように定期的にテストが実行されることはありません。*

注: イベントのスケジューリングの概要については、「[スケジュール]タブ」 『37ページ 』のトピックを参照してください。

イベントの設定

■ **モニター** - トリガーするモニターを選択します。

Windows サービスコントロールイベント

Windows サービスコントロールイベントを使用すると、リモートホストの Windows サービスのステータスを変更できます。

注: イベントのスケジューリングの概要については、「[スケジュール]タブ」 『37ページ 』のトピックを 参照してください。

イベントの設定

- ホスト名 リモートホストのホスト名。DNS 名または IP アドレスを指定できます。
- **サービス名** サービスの名前を指定します。これはサービスの名前であって、表示名ではありません。

スケジュール済みイベントのリファレンス

- タイプ・実行する動作の種類を選択します。
 - サービスの続行
 - サービスの一時停止
 - サービスの開始
 - サービスの停止
 - サービスの再開
- **資格情報の継承** チェックした場合、現在選択しているサブグループまたはゲートウェイのノードから資格情報を継承します。チェックしない場合は、イベント固有の資格情報を入力します。
- **ドメインまたはコンピュータ/ユーザー名/パスワード** このイベントのアクセス認証に使用する資格情報です。

関連項目:

- Windows サービスコントロール 『167 ページ 』 *(アクション)*
- Windows サービスリスト 『100 ページ 』 (直接コントロール)
- Windows サービスのステータス 『157 ページ 』 *(モニター)*

チャプター 5

高度なトピック

この章で

Init.cfg のパラメータ	180
バックアップおよびリストア	
データ抽出のリファレンス	182
UNIX システムのサポートファイル	
ODBC ドライバーの有効化	191

Init.cfg のパラメータ

init.cfg ファイルは、構成付きのデータベースを読み込む前に必要な設定を行うため、Network Monitorによって使用されます。このファイルは、Network Monitorがウェブサーバーを起動するポート、および Network Monitor が起動するモード(標準、分散サーバーまたは分散ゲートウェイ)を制御します。init.cfg ファイルは KNM ルートディレクトリにあります。

ログ

■ LOG_LEVEL = 0 - ログレベル。ゼロ以外の値に設定すると、Network Monitor はデバッグ情報をテキストログに書き込みます。有効なログレベルは 0、1、2 です。ログレベルを 2(デフォルト値は 1) に設定すると、Network Monitor は詳細情報を

<Kaseya_Installation_Directory>\Logs\Services\KaseyaNetworkMonitor.log ファイルに記録し始めます。たとえば、メールや SMS の送信動作をデバッグするときに便利です。 Network Monitor の実行中に変更できます。

SSH₂

- SSH2_TIMEOUT=25000 SSH2 クライアントのタイムアウト時間(単位はミリ秒)。デフォルト値は 25000(25 秒)です。Network Monitor の実行中に変更できます。
- SSH2_TRACELEVEL=0 TRACELEVEL を使用して、SSH2 接続をデバッグできます。デフォルト 値は 0 です。有効な範囲は 0~4(最大出力)です。Network Monitor の実行中に変更できます。

スレッドプール構成のテスト

- TP INIT SIZE スレッドの初期サイズ。デフォルト値は 20 です。
- TP_MAX_AGE スレッドを未使用状態にできる最大期間(単位は秒)。その期間を過ぎるとプールから削除されます。デフォルト値は 3600 (1 時間) です。このパラメータの目的は、スレッドプールを構成に最適なサイズに調整することです。
- TP MAX SIZE スレッドプールの最大サイズ。デフォルト値は 125 です。

その他

- OBJECT_IP_CACHE=1 Network Monitor がすべての資産のホスト名を IP アドレスに解決します。 ローカル DNS に問題がある場合は、この機能を無効にできます。デフォルト値は 1(有効)です。オプションは 0(無効)です。Network Monitor の実行中に変更できます。
- DELAY_TEST_START=0 このパラメータを使用すると、Network Monitor の起動時にモニターテストの開始を遅らせることができます。デフォルト値は 0 秒です。Network Monitor のモニターテストの開始を遅らせることで、マシンの起動時間を短縮できるので便利です。Network Monitor の実行中に変更することはできません。
- OPERATOR_SESSION_TIMEOUT=20 ユーザーセッションのタイムアウト値を設定します (単位は分)。タイムアウトが不要の場合は、値を-1 に設定します。Network Monitor の実行中に変更できます。
- SNMP_TIMEOUT=10000 すべての SNMP 機能(モニター、アクションなど)によって使用されるタイムアウトを設定します(単位はミリ秒)。デフォルト値は 10 秒です。Network Monitorの実行中に変更できます。
- ENABLE_CRASHFILE=true 有効にした場合、Network Monitor がデッドロック状態でハングすると、crash.now という名前のクラッシュダンプファイルが KNM のルートディレクトリに

出力されます。このファイルは、Network Monitor 開発者がデッドロック発生の原因を分析するために使用されます。Network Monitor の実行中に変更できます。

- DISTTEST_UPDATE_INTERVAL=60 ゲートウェイとサーバーとで情報を交換するイベント間の時間。ゲートウェイとサーバーのinit.cfg ファイルで、それぞれ異なる値に設定できます。 推奨値はデフォルト値の60秒です。
- DISABLE_RTS この変数が存在し、起動時に init.cfg ファイルで 1 に設定されている場合、リアルタイム統計はモニターに読み込まれません。これによって、Network Monitor の起動時間が大幅に短縮されます。
- NO_TESTING この変数が存在し、起動時に init.cfg ファイルで 1 に設定されている場合、ユーザーがテストを再び有効にするまでテストは実行されません。
- HOSTNAME_OVERRIDE=myhost.domain.local 通知をユーザーに送信するときに、モニター/ 資産へのリンクが通知 E メールに記載されます。リンクは Network Monitor のホストマシンの ホスト名から始まります。このパラメータを使用して、ホスト名をオーバーライドできます。 Network Monitor の実行中に変更できます。
- DISTTEST_MODE=server このパラメータは、Network Monitor に分散サブシステムを「サーバー」モードまたは「ゲートウェイ」モードで起動するように指示します。このパラメータは、DISTTEST_ENABLE パラメータに依存します。Network Monitor の実行中に変更できます。
- DISTTEST_ENABLE=1 このパラメータは、Network Monitor に分散サブシステムを起動するように指示します。このパラメータは、DISTTEST_MODE パラメータに依存します。パラメータを1に設定すると有効になり、0に設定すると無効になります。Network Monitor の実行中に変更できます。

バックアップおよびリストア

このセクションでは、Network Monitor の完全なバックアップの作成方法、および構成の復元方法について説明します。

Network Monitor のバックアップ

Network Monitor は、メイン構成データベース(settings.rds)、およびその関連構成ファイル(server.nxd)のバックアップを定期的に作成します。これらのバックアップファイルは、KNM のホストマシンの KNM\backup フォルダに保存されます。

注: これらのファイルや、**Network Monitor** インストール環境全体を構成するその他のファイルのバックアップの作成は、お客様の責任です。

バックアップには、次のファイルとディレクトリを含める必要があります。

- \backup
- \rmstorage デフォルトのディレクトリは\rmstorage ディレクトリです。別のコンピュータに Kaseya Record Manager をインストール済みか、KRM で別のディレクトリを使用するように構成済みの場合は、代わりにそのバックアップを作成します。
- \dashboard
- \script
- \gateways
- \system
- settings.rds
- toplist.rds

高度なトピック

- server.nxd
- init.cfg

構成の復元

Network Monitor によって定期的にデータベースのバックアップが自動的に作成されます。バックアップファイルは、server.nxdファイルと共に、KNMのホストマシンのKNM\backupフォルダに保存されます。復元コマンドラインユーティリティを使用すると、現在の構成をバックアップに置き換えることができます。

警告: 前のバージョンの構成を復元すると、現在の構成が上書きされます。

- 1. Network Monitor をシャットダウンします。
- 2. 現在の settings.rds ファイルと server.nxd ファイルのバックアップを作成します。
- 3. settings.rds ファイルと server.nxd ファイルを KNM ディレクトリから削除します。
- 4. server-YYYY-MM-DD.bak ファイルを\backup ディレクトリからコピーし、名前を server.nxd に変更します。
- 5. コマンドラインプロンプトを開き、KNMのディレクトリに移動します。
- 6. コマンドプロンプトに次のコマンドを入力し、Enter キーを押します。

nmservice.exe -restore backup\settings-YYYY-MM-DD.bak

Network Monitor が settings.rds データベースを settings-YYYY-MM-DD.bak ファイルから復元します。

注:この操作を実行するときは、*同じ日付*の settings-YYYY-MM-DD.bak ファイルと server-YYYY-MM-DD.bak ファイルを使用することが非常に重要です。

データ抽出のリファレンス

データ抽出インターフェースは、HTTP の Get コマンドを使用してデータを **Network Monitor** から抽出できます。

必要条件

Network Monitor に送信する各 Get リクエストには、ユーザー名を含める必要があります。ユーザーがシステム管理者である場合、そのユーザーはシステム全体のアクセス権をもちます。ユーザーがシステム管理者でない場合、情報は、ユーザーが属するユーザーグループによって制御されるデータに制限されます。ユーザーに情報へのアクセス権がいない場合、Network Monitor から HTTP 404 エラーコードが返されます。

URL 構文

Network Monitor に送信する URL のフォーマットには、一部の必須パラメータが含まれます。

モニターからグラフを抽出する場合のURLサンプル

http://localhost/knm/extract.xsi?cmd=monitor graph&user=Admin&id=8¶m1=2

cmd 実行するコマンド

user	Network Monitor ユーザーのユーザー名
id	モニターまたはユーザーの ID
param1	カスタムパラメータ

dir

dir コマンドは、利用可能なモニターとユーザー、およびその名前と ID のリストを返します。このコマンドは、その他すべてのコマンドの抽出 URL を設計するときに役立ちます。

構文

http://localhost/knm/extract.xsi?cmd=dir&user=Admin

cmd	dir
user	Network Monitor ユーザーのユーザー名

返されるデータ

モニターとユーザー、およびその ID のリスト。

monitor graph

monitor_graph コマンドは、選択したリアルタイムグラフの PNG イメージファイルを返します。このグラフは、[モニター情報]ページに表示されるグラフと同じです。グラフを抽出するには、[モニター情報]ページでグラフを有効にしておく必要があります。

構文

http://localhost/knm/extract.xsi?cmd=monitor_graph&user=Admin&id=8¶m1=2&devic eid=2

cmd	monitor_graph
user	KNM ユーザーのユーザー名
id	モニターの ID 番号
param1	取得するグラフの 0 から始まるインデックス。インデックスは有効なグラフに基づきます。
deviceid	資産の ID

返されるデータ

デフォルトのサイズが 747 x 120 ピクセルで、ピクセルあたりの色の深度が 3 バイトの PNG イメージファイル。

monitor_status_list

monitor_status_list コマンドは、モニターのステータス文字列を返します。ステータス文字列は、「モニター情報 ページに表示されるステータスと同じです。

構文

http://localhost/knm/extract.xsi?cmd=monitor status list&user=Admin&deviceid=2

高度なトピック

cmd	monitor_status_list
user	KNM ユーザーのユーザー名
deviceid	資産の ID

返されるデータ

資産とモニターの名前を含む文字列、ステータス文字列、およびモニターのステータス(パイプ記号())で区切られる)。各行は CRLF で区切られます。

例

MyAsset	CPU load Monitor C	urrent CPU usage 11.00	9 % OK
MyAsset	Memory size Monitor	Free memory 256 MB	FAILED

monitor_statusstring

monitor_statusstring コマンドは、モニターのステータス文字列を返します。ステータス文字列は、[モニター情報]ページに表示される文字列と同じです。

構文

http://localhost/knm/extract.xsi?cmd=monitor_statusstring&user=Admin&id=8&devicei
d=2

cmd	monitor_statusstring
user	KNM ユーザーのユーザー名
id	モニターの ID 番号
deviceid	資産の ID

返されるデータ

モニターの名前を含む文字列、ステータス文字列、およびモニターのステータス (パイプ記号 (**|**) で区切られる)。

例

CPU load Monitor | Current CPU usage 11.00 % | OK

monitor_uptimestring

monitor_uptimestring コマンドは、モニターのアップタイム文字列を返します。アップタイム文字列には、時間、分、秒単位でモニターのアップタイムが記述されます。モニターが現在アラーム状態である場合は、モニターのダウンタイムを示すアスタリスク(*)が文字列の先頭に追加されます。

構文

 $\label{local-host-knm/extract.xsi?cmd=monitor_uptimestring&user=Admin&id=8\&deviceid=2$

cmd	monitor_uptimestring
user	KNM ユーザーのユーザー名
id	モニターの ID 番号
deviceid	資産の ID

返されるデータ

モニターの名前を含む文字列、およびアップタイム/ダウンタイム文字列(パイプ記号(I) で区切られる)。

例

CPU load Monitor | 0h 59m 35s

device xml

device_xml コマンドは、資産に関する情報を含む XML ドキュメントを返します。資産にアクセスするには、ユーザーは資産に割り当てられたユーザーグループに属している必要があります。

構文

http://localhost/knm/extract.xsi?cmd=device xml&user=Admin&id=2

cmd	device_xml
user	KNM ユーザーのユーザー名
id	資産の ID 番号

返されるデータ

XML ドキュメント。

XML フィールド

AIME 3 1 70 1	
DEVICE	ツリーのルート
NAME	実際の名前
DESC	資産の説明
IP_ADDRESS	資産の IP アドレスまたはホスト名
MAC_ADDRESS	資産の MAC アドレス(該当する場合)
ACTIVE	資産が有効の場合は YES、無効の場合は NO
MAINTENANCE	ユーザーがスケジュールされており、かつ勤 務中の場合は"Available"、ユーザーが勤務中 でないか、スケジュールされていない場合は "n/a"
MONITOR	資産の子
NAME	モニター名
TEST_INTERVAL	次のテストまでの間隔(単位: 秒)
ALARM_DELAY	モニターがアラーム状態のときの次のテスト までの間隔(単位: 秒)
ALARM_GENERATION	モニターがアラーム状態とみなされるための 、連続でテストが失敗する最小回数
LAST_TEST	直近のテスト時刻
LAST_OK_TEST	直近のテスト成功時刻
LAST_FAILED_TEST	直近のテスト失敗時刻
TEST_DONE	前回の再起動からのテスト回数

高度なトピック

ACTIVE	モニターが有効の場合は YES、無効の場合は NO
TYPE	モニターのタイプ
STATUS	モニターの状態(OK、FAILED、または ALARM)
STATUS_STRING	直近のステータス文字列
UPTIME	モニターが OK または ALARM の状態であった期間。ALARM 状態の場合は文字列の先頭に"*"記号が付きます
INM_ALARM_MESSAGE	モニターの子。最新の 5 つのステータス文字 列が表示されます。
MESSAGE	ステータスのテキスト
TIME	エントリーの時刻
STATUS	OK、FAILED、または ALARM
INM_GRAPH_LINK	モニターの子。[モニター情報]ページに表示 されるリアルタイムのグラフに関する情報が 含まれます。
LINK	グラフのデータ抽出リンク
DESC	グラフの説明
UNIT	グラフの Y 軸の単位
PERIOD	グラフの期間
STATUS_EX	SNMP、SSH2 スクリプト、ODBC、および WinPerf モニターの拡張ステータス
STATUS	モニターの状態(OK、FAILED、または ALARM)
UNIT	ユーザー定義の単位
COMPARE_VALUE	ユーザー定義の値。テストの戻り値と比較さ れ、テスト結果が評価されます。
COMPARE_OPERATION	テストの戻り値とユーザー定義の比較値を比 較する演算。
	次のいずれかを使用できます。 ● EQUAL
	NOT EQUAL
	• GREATER
	• LESS
	EQUAL OR GREATEREQUAL OR LESS

例

<DEVICE>

<NAME>DOMAINSERVER</NAME>

<DESC></DESC>

<IP_ADDRESS>192.168.1.1</IP_ADDRESS>
<MAC_ADDRESS>00-00-5A-A8-07-D8</MAC_ADDRESS>

<ACTIVE>YES</ACTIVE>

<MAINTENANCE>NO</MAINTENANCE>

devicelist xml

devicelist_xml コマンドは、ユーザーがアクセス可能なすべての資産とモニターのリストを含む XML ドキュメントを返します。

構文

http://localhost/KNM/extract.xsi?cmd=devicelist_xml&user=Admin

cmd	devicelist_xml
user	KNM ユーザーのユーザー名

返されるデータ

XML ドキュメント。

XML フィールド

DEVICELIST	ツリーのルート
DEVICE	資産のルート
NAME	資産の名前
DESC	資産の説明
ID	資産の ID 番号

MONITOR	資産のルート	
ID	モニターの ID 番号	
NAME	モニターの名前	

例

user_status

user status コマンドは、ユーザーのステータスと情報を返します。

構文

http://localhost/knm/extract.xsi?cmd=user_status&user=Admin&id=2

cmd	user_status
user	KNM ユーザーのユーザー名
id	ユーザーの ID 番号

返されるデータ

ユーザーのステータスと情報を含む文字列。各フィールドはパイプ記号(一)で区切られます。

返されるデータのフォーマット。

UserName | Name | Phone | Cell phone | Address 1 | Address 2 | Scheduled status | Online status

ユーザー名	KNM ユーザーのユーザー名
Name	実際の名前
Phone	電話番号
Cell phone	携帯電話番号
Address 1	住所フィールド
Address 2	住所フィールド
Scheduled status	ユーザーがスケジュールされており、かつ勤務中の場 合は"Available"、ユーザーが勤務中でないか、スケジ ュールされていない場合は"n/a"
Online status	ユーザーが KNM にログオンしている場合は"Online"

例

Admin | Robert | 0611-22334 | | Box 277 | 871 31 Härnösand Sweden | n/a | Online

test_status

test_status コマンドは、すべてのモニターの全体的なステータスを返します。

構文

http://localhost/knm/extract.xsi?cmd=test_status&user=Admin

cmd	test_status
user	KNM ユーザーのユーザー名

返されるデータ

現在のテストステータスを含む文字列。このステータスは、少なくとも 1 つ以上のモニターが失敗 またはアラーム状態であるかどうかを示します。

例

ALARM

version

version コマンドは、現在の Network Monitor のバージョン番号を返します。

構文

http://localhost/knm/extract.xsi?cmd=version&user=Admin

cmd	バージョン
user	KNM ユーザーのユーザー名

返されるデータ

Network Monitor のバージョン番号を含む文字列。

例

7.0

UNIX システムのサポートファイル

システムタイプによって、資産に対して利用可能なモニター、およびそのモニターによるテストの 実行方法が決まります。

Network Monitor は、組み込みの Windows システムタイプをすべてサポートします。新しい システムタイプを作成するには、KNM のホストマシンの KNM\system フォルダにある構成ファイルセットを使用します。

注: このトピックでは、主に UNIX について説明しますが、その手順は SSH または Telnet 経由でシェル アクセスを行ういずれのシステムでも使用できます。

システムの仕様

ディスク、CPU、スワップなどのモニタリングをサポートするために、SSH または Telnet を使用した Network Monitor のログインでは、UNIX ホストでコマンドが実行され、結果が解析されます。使用するコマンドおよび結果の解析方法は、KNM\system フォルダにある構成ファイルに記述されています。

すべてのシステム仕様は、Generic UNIX ラベルの仕様を継承します。そのため、記述する必要があるのは、Generic UNIX システムタイプで指定されるコマンドとは異なるコマンドの解析情報のみです。

一般的な UNIX システム定義ファイル

```
<enumList startLine="2">
        <value id="diskVolume" field="1" />
      </enumList>
    </auerv>
    <result id="volumeID">diskVolume</result>
  </enumeration>
  <!-- monitoring disk volumes-->
  <monitoring>
    <!-- free and used disk space -->
    <diskSpace>
      <query>
        <command>df -k $volume</command>
        <value id="freeSpace" line="-1" field="-3"/>
        <value id="usedSpace" line="-1" field="-4"/>
      <result id="freeSpace" unit="MB">freeSpace / 1024</result>
      <result id="usedSpace" unit="MB">usedSpace / 1024</result>
    </diskSpace>
  </monitoring>
</disk>
<!-- cpu -->
<cpu>
  <!-- enumeration of CPU's -->
  <enumeration>
    <query>
      <command>mpstat -P ALL</command>
      <enumList startLine="5">
        <value id="cpuNumber" field="3" />
      </enumList>
    </query>
    <result id="cpuID">cpuNumber</result>
  </enumeration>
  <monitoring>
    <!-- utilization of given CPU-->
    <cpuUtilization>
      <query>
        <command>mpstat -P $cpu 2 2</command>
        <value id="userLoad" line="-1" field="-9"/>
        <value id="systemLoad" line="-1" field="-7"/>
      <result id="cpuAverageLoad" unit="%">userLoad + systemLoad</result>
    </cpuUtilization>
    <!-- overall system CPU load, used if a CPU is not specified -->
    <cpuAverageLoad>
      <query>
        <command>vmstat 2 2</command>
        <value id="userLoad" line="-1" field="-5"/>
        <value id="systemLoad" line="-1" field="-4"/>
      <result id="cpuAverageLoad" unit="%">userLoad + systemLoad</result>
    </cpuAverageLoad>
  </monitoring>
</cpu>
<!-- processes -->
cess>
  <!-- process enumeration -->
  <enumeration>
      <command>ps -awxu</command>
      <enumList startLine="2">
        <value id="processName" field="11" />
      </enumList>
    </query>
    <result id="processName">processName</result>
  </enumeration>
  <monitoring>
    <!-- checks if a given process is running -->
    cprocessRunning>
      <query>
```

```
<command>ps -awxu</command>
            <value id="processName">
              <match type="line">$process</match>
            </value>
          </query>
          <result id="processName">processName</result>
        </processRunning>
      </monitoring>
    </process>
    <!-- swap -->
    <swap>
      <monitoring>
        <swapUtilization>
          <query>
            <command>free -m</command>
            <value id="swapUsed" line="-1" field="-3"/>
            <value id="swapFree" line="-1" field="-2"/>
          <result id="swapFree" unit="MB">swapFree</result>
          <result id="swapUsed" unit="MB">swapUsed</result>
        </swapUtilization>
      </monitoring>
    </swap>
    <!-- memory usage -->
    <memory>
      <monitoring>
        <!-- free and used memory -->
        <freeMemory>
          <query>
            <command>free -m</command>
            <value id="freeMem" line="3" field="-1"/>
            <value id="usedMem" line="3" field="-2"/>
          <result id="freeMemory" unit="MB">freeMem</result>
          <result id="usedMemory" unit="MB">usedMem</result>
        </freeMemory>
      </monitoring>
    </memory>
   <!-- file change -->
    <file>
      <monitoring>
        <fileChange>
          <query>
            <command>ls -1 --full-time $filename</command>
            <value id="fileSize" line="1" field="5"/>
            <value id="fileDate" line="1" field="6"/>
<value id="fileTime" line="1" field="7"/>
          </auerv>
          <result id="fileSize" unit="B">fileSize</result>
          <result id="fileDate">fileDate</result>
          <result id="fileTime">fileTime</result>
        </fileChange>
      </monitoring>
    </file>
 </parsing>
</system>
```

ODBC ドライバーの有効化

スタンドアロンエディションの **Network Monitor** で ODBC ドライバーを有効にすると、**Network Monitor** データに対して SQL クエリーを実行できます。

必要条件

■ KNM のホストマシンに"Microsoft Visual C++ 2010 Redistributable Package (x86)"と"Microsoft Visual C++ 2010 Redistributable Package (x64)"のいずれか、または両方がインストールされている必要があります。

インストール

VSA/Network Monitor サーバーマシンでの操作

- 1. cmd.exe を管理者モードで開きます。
- 2. ディレクトリを knm ルートディレクトリに変更します。
- 3. ディレクトリを knm ルートディレクトリ内の dsii driver ディレクトリに変更します。
- 4. 次のコマンドを実行し、KNM ODBC ドライバーをインストールします。 dsii driver.exe -Install
- 5. サービスコントロールマネージャを開き、"KNM5DSIIService"が開始されており、"自動"起動に設定されていることを確認します。
- 6. *任意の* **Network Monitor** ユーザーに関連付けられた **API キー**を作成するか、特定します。このフィールドは、Network Monitor > [ユーザー] > [マイ設定] > **[基本プロパティ]タブ** 『109 ページ』タブにあります。

注: Network Monitor サーバーへの ODBC 接続確立時の認証に使用するユーザー名として、API キーを入力します。認証パスワードは任意の文字列にできます。

ローカルマシンでの操作

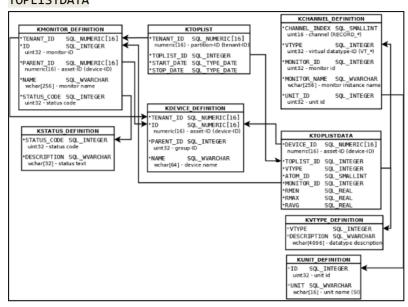
- 7. knmsetup.exe インストーラファイルを<KaseyalnstallDirectory>\KNM\Install ディレクトリからローカルマシンにコピーします。
- 8. ローカルマシンで knmsetup.exe を実行し、[ODBC ドライバーのインストール]オプションを選択します。
- 9. インストール時に、[KNM ホスト]フィールドに KNM のホストマシンの IP 番号を入力し、ポート番号はデフォルトの 12345 のままにします。



10.インストールが完了したら、次のテーブルのクエリーを実行できるはずです。

CHANNEL_DEFINITION
ASSET_DEFINITION
GROUP DEFINITION

MONITOR_DEFINITION STATUS_DEFINITION UNIT_DEFINITION VTYPE_DEFINITION TOPLIST TOPLISTDATA

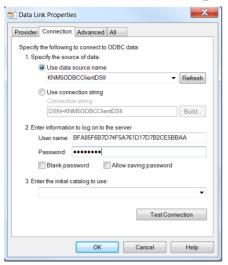


例: Excel 2010 を使用した Network Monitor への照会

- 1. Excel 2010 で空のワークシートを表示します。
- 2. [データ] > [その他のデータソース] > [データ接続ウィザード]オプションを選択します。
- 3. [ODBC DSN]オプションを選択します。
- 4. [接続する ODBC データソース]として Network Monitor を選択します。デフォルト名は KNM50DBCClientDSII です。
- 5. 次のデータソースプロパティを選択します。
 - ▶ データソース名を使用する -KNM50DBCClientDSII
 - → ユーザー名 Network Monitor サーバー内の任意のユーザーの API キーを入力します。API キーの作成または特定を行うには、[ユーザー]および[ユーザーグループ] > [ユーザーの新規作成] > [基本プロパティ]タブ 『109ページ』を使用します。

高度なトピック

▶ パスワード - 任意の文字列を入力します。



- 6. データ接続を作成する対象の Network Monitor テーブルを選択します。
- 7. データ接続ファイルを保存します。これにより、後でデータ接続を再使用できます。
- 8. ワークブックでデータを表示する方法と開始セルを選択します。
- 9. スプレッドシートに Network Monitor が表示されていることを確認します。
- 10.今後、[**更新**] (Alt+F5) をクリックすると、スプレッドシートに表示されている Network Monitor データが更新されます。

チャプター 6

Windows のトラブルシューティングとパフォーマンスモニタリング

この章で

Windows のモニタリングおよび認証のトラブルシューティング	196
Windows パフォーマンスレジストリ	200
Windows Management Instrumentation (WMI)	202

Windows のモニタリングおよび認証 のトラブルシューティング

Network Monitor は、リモートの Windows ワークステーションおよび Windows サービスを x ントなしでモニタリングできます。リモート資産のモニタリングを行うには、モニタリング対象資産上にある多数の各種リソースにアクセスできる Windows アカウントを使用して、認証に成功する必要があります。

多数の異なる問題が発生する可能性があります。このセクションでは、最も一般的な問題について 説明します。

警告: このセクションはトラブルシューティングのリファレンスとして提供しており、記載されている各問題の解決を保証するものではありません。レジストリの変更をはじめとするシステムに対する変更はすべて、お客様の責任になります。

Network Monitor サービスアカウントおよび権限の割り当て

Kaseya Network Monitor サービスが LocalSystem 以外のユーザーアカウントで実行されている場合、そのサービスアカウントについて次のローカルセキュリティポリシーが有効になっていることを確認してください。

- サービスとしてログオンする
- オペレーティングシステム (Windows 2000) の一部として動作する
- スキャンチェックをバイパスする
- KNMのホストマシンの KNM フォルダに対する読み取り、書き込み、および実行の権限 組み込みのアカウントマネージャを最大限に活用するには、基本サービスアカウント以外のアカウントをすべての資産に割り当てる必要があります。

モニタリングアカウント

Network Monitor では、デフォルトのアカウントを各資産に割り当てることができます。このアカウントは、モニタリング対象資産へのアクセス認証に使用されます。

以降のドキュメントでは、このアカウントを*モニタリングアカウント*と呼びます。[**資産の編集** 『49ページ』]ページでは、デフォルトアカウントと表示されます。[モニターの編集]ページでは、アカウント選択オプションを[**資産のデフォルトアカウントを使用する**]に設定する必要があります。

モニタリングアカウントは、モニタリング対象資産の管理者グループに属していなければなりません。多くの場合、このアカウントはドメイン管理者グループに属します。

アカウントのユーザー名のフォーマット

Network Monitor では、モニタリングアカウントの場所に応じて、次のルールに従ってユーザー名のフォーマットを設定する必要があります。通常、Windows では次のルールも適用されます。

- .\username アカウントはローカルマシンで Network Monitor によって検出されます。
- username アカウントはローカルマシンで Network Monitor によって検出されます。
- domain\username アカウントはドメイン名を使用して **Network Monitor** によって検出されます。

■ username@domain.com - 上記と同じですが、XP、2003 および Vista で有効です。

Windows 認証を使用するモニター

次のモニターには、すべて Windows 認証が必要です。

- CPU 使用率
- ディスク使用率
- メモリ使用率
- スワップファイル使用率
- プロセス
- Windows パフォーマンス
- WMI

上記のモニターは、リモートレジストリサービスを使用して、モニタリング対象資産を照会します。モニタリング対象資産と Network Monitor ホストの両方で、リモートレジストリサービスが実行されていることを確認してください。

デフォルトでは、リモートレジストリにアクセスできるのは管理者のみです。これはレジストリキーで制御されます。

HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\SecurePipeServers\Winreg

このレジストリキーの権限を編集することで、リモートレジストリへのアクセスの制限や許可を行
うことができます。キーが存在しない場合、アクセス権はすべてのユーザーに付与されます。

互換モードでは、ディスク使用率モニターについて特殊な場合があります。この場合、モニタリング対象ディスクを表すデフォルト共有を指定する必要があります。たとえば、C:を指定する代わりに C\$を指定し、このデフォルト共有が存在すること、およびモニタリングアカウントからアクセス可能であることを確認する必要があります。

イベントログモニター

デフォルトでは、すべてのユーザーがセキュリティイベントログを除くイベントログを読み取ることができます。セキュリティイベントログを読み取るには、ユーザーは管理者グループに属する必要があります。異なるイベントログへのアクセスは、次のレジストリキーで制御されます。

HKEY LOCAL MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\EventLog

このレジストリキーの権限を編集することで、リモートイベントログへのアクセスの制限や許可を 行うことができます。

サービスモニター

このモニターは、モニタリング対象マシンで実行中のサービスのステータスを照会するために、リモートプロシージャコール (RPC)サービスを使用します。モニタリング対象資産と Network Monitorホストの両方で、リモートプロシージャコール (RPC) サービスが実行されていることを確認してください。サービスマネージャにアクセスするには、モニターアカウントがモニタリング対象ホストの管理者でなければなりません。

外部リソース

警告: 次のリンクは、参考情報としてのみ提供されています。レジストリの変更をはじめとするシステムに対する変更はすべて、お客様の責任になります。

- レジストリに対するリモートコンピュータからのアクセスを制限する方法 『http://support.microsoft.com/kb/153183/en-us を見て 』
- リモートレジストリサービスのグループポリシーから全員グループを削除すると、すべてのアクセス権が完全に削除される 『http://support.microsoft.com/kb/281641/en-us を見て 』
- RegConnectRegistry 関数を使用するカスタムプログラムは、Windows Server 2003 *(SPI 付き)* 、または x64 ベースパージョンの Windows Server 2003 を使用するリモートコンピュータのレジストリにアクセスできない 『http://support.microsoft.com/kb/906570 を見て 』
- Windows NT サーバーへのパフォーマンスモニターのリモートアクセスの制御 『http://support.microsoft.com/kb/164018/en-us を見て 』
- パフォーマンスモニターのカウンターに関する問題のトラブルシューティング 『 http://support.microsoft.com/kb/152513/en-us を見て 』
- Windows Server 2003 ベースのコンピュータにログオンしようとすると、"<イベントログ>で処理を完了できません。アクセスは拒否されました"というエラーメッセージが表示される 『http://support.microsoft.com/kb/888189/en-us を見て 』
- Windows Server 2003 SP1 ベースのコンピュータから Windows ベースのコンピュータのレジストリにリモート接続を試行すると、"アクセスは拒否されました"というエラーメッセージが表示される 『http://support.microsoft.com/kb/913327/en-us を見て 』

トラブルシューティング

このセクションでは、Windows 認証に関してよくある問題のトラブルシューティング方法について 説明します。

アクセス拒否

資産のモニター中に、突発的エラーまたは恒久的エラーとして発生します。

Access denied.

原因

モニタリング対象資産へのアクセスが拒否されました。この原因として、認証エラー、または新しいリクエストが集中したためにモニタリング対象資産がビジー状態になっていることがあります。

解決方法/対応策

- モニタリングアカウントにモニタリング対象資産へのアクセス権が設定されていることを確認してください。多くの場合、このエラーの原因は、Network Monitorのモニタリングアカウントがモニタリング対象資産の管理者でないことです。
- モニターのテスト間隔を長くします。
- モニターで**アラームのフィルター処理**機能を使用して、閾値に達していないエラーを除外します。
- ファイアウォールの制限によって、Network Monitor がモニタリング対象資産にアクセスできません。このエラーは、ポート 445 でのモニタリング対象資産へのブロックを解除すると解決します。

ネットワークパスが見つからない

資産のモニター中に、突発的エラーまたは恒久的エラーとして発生します。

The network path was not found.

原因

ネットワークパスが見つからなかった、またはアクセスできなかった原因として、ファイアウォールの制限、名前解決エラー、またはネットワークエラーがあります。

解決方法/対応策

- DNSサーバーが過負荷状態のため、資産アドレスを変換できません。資産アドレスとしてIP番号を入力してみます。
- ファイアウォール制限によって、Network Monitor がモニタリング対象資産にアクセスできません。このエラーは、ポート 445 でのモニタリング対象資産へのブロックを解除すると解決します。
- モニターがディスク使用率モニターで、Win32 互換モードで実行中の場合は、共有が利用可能であることを確認してください。共有ではなくディスクを直接モニターする場合は、ボリューム名 (C:など)ではなく、ディスクのデフォルト共有名(C\$など)を使用します。

モニタリング対象資産のパフォーマンスに関する

問題

特定の時刻に突発的にエラーが発生します。また、モニタリング対象資産でのバックアップの開始時や、その資産上にあるデータベースで大量のクエリーが実行されるときなどに、その他のパターンが発生します。

原因

モニタリング対象資産が他のタスクの実行中でビジー状態のため、Network Monitor からのリクエストを完了できないことがあります。この問題は、ネットワーク帯域に関連する場合もあります。たとえば、VPN 接続経由のモニタリング対象資産では、ネットワークパフォーマンスと待機時間が大幅に低下することがあります。エラーメッセージはさまざまに異なりますが、一般的に RPC 障害にすべて関連します。

解決方法/対応策

- テスト頻度を300秒に減少します。
- 誤検出を除外するために、[アラーム生成]値を5以上に設定します。
- モニターで**アラームのフィルター処理**機能を使用して、閾値に達していないエラーを除外します。
- 原因がネットワーク帯域が低いこと、またはネットワーク遅延が大きいことである場合は、ゲートウェイをモニタリング対象資産に近い場所に配置できます。ゲートウェイが使用するネットワーク帯域は、通常テストで使用されるネットワーク帯域に対してごくわずかな割合です。

RPC サーバーが利用不能

ランダムまたは常にエラーが発生し、次のエラーテキストが表示されます。

The RPC server is unavailable

原因

この問題の最もよくある原因は、モニタリング対象マシンのリモートレジストリが停止しているか、または新しい接続の受け入れで問題が発生していることです。

解決方法/対応策

- モニタリング対象資産のリモートレジストリサービスを再起動します。
- 資産の全体的なパフォーマンスを確認します。資産がビジー状態で、これ以上接続を受け入れられない可能性があります。
- モニターでアラームのフィルター処理機能を使用して、閾値に達していないエラーを除外します。
- モニタリング対象資産の DNS エントリーを確認し、転送/逆引きの両方のゾーンエントリーが存在することを確認します。

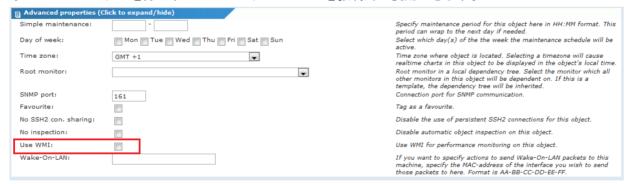
Windows パフォーマンスレジストリ

Windows パフォーマンスレジストリは、多数のインストール済みプロバイダーのパフォーマンス測定基準を格納する仮想レジストリハイブです。パフォーマンスレジストリとの通信はすべて、リモートレジストリサービス経由で行われます。

次の各モニターが、Windows パフォーマンスレジストリを使用できます。

- Windows パフォーマンスモニター
- CPU モニター
- メモリモニター
- スワップサイズモニター
- 帯域モニター
- ディスクモニター

[資産プロパティ]ページの[WMI を使用する]チェックボックスをチェックすることで、Windows パフォーマンスモニターを除くすべてのモニターで WMI を強制的に使用できます。



サブトピック

- KNM にリモートレジストリサービスへのアクセス権があることを確認する方法 『200 ページ 』
- モニタリング対象マシンのリモートレジストリサービスでのメモリリーク 『201ページ』
- カウンターのキャッシュ保存 『201 ページ 』

KNM にリモートレジストリサービスへのアクセス権があることを確認する方法

1. モニタリングに使用する Windows アカウントによる KNM のホストマシンへのログオン

- 2. 32 ビットバージョンの perfmon.exe アプリケーションを起動します。このファイルは、64 ビットホストマシンの SysWOW64 ディレクトリにあります。
- 3. モニタリング対象マシンに接続し、カウンターを追加します。

このテストに失敗した場合、Network Monitor はモニタリング対象マシンでのカウンターの列挙とサンプリングができません。

- 1. 正しいプロファイルで、ファイアウォールがリモート管理に対して開いていることをチェックします。
- 2. リモートレジストリサービスがモニタリング対象マシンで実行中であることを確認します。
- 3. パフォーマンスカウンターハイブへのアクセスがアカウントに許可されていることを確認します。http://support.microsoft.com/kb/300702/en-us 『http://support.microsoft.com/kb/300702/en-us を見て 』を参照してください。
- 4. スダンドアロンの Vista/7 マシン *(ドメイン内にはない)* の場合、フィルター処理により資格情報 が除外されないように UAC を無効にする必要があります。http://support.microsoft.com/kb/951016 『http://support.microsoft.com/kb/951016 を見て 』を参照してください。
- 5. カウンターが見つからず、かつ performon.exe ツールに同じカウンターが見つからないことを確認済みの場合、パフォーマンスカウンターライブラリの再構築が必要なことがあります。 http://support.microsoft.com/kb/300956 『http://support.microsoft.com/kb/300956 を見て 』を参照してください。
- 6. それでもカウンターが見つからない場合、カウンターは64ビットDLLによって公開されている可能性があります。Network Monitor は32ビットアプリケーションであり、64ビットのカウンター値を読み取ることができません。32ビットバージョンのDLLをインストールするか、WMIを使用してカウンターを照会する必要があります。

モニタリング対象マシンのリモートレジスト リサービスでのメモリリーク

パフォーマンスレジストリハイブは、パフォーマンスデータを使用側 (Network Monitor など) に公開するために外部実行可能コードを読み込むため、読み込み可能なモジュールでメモリリークやロックアップなどの問題が発生する可能性があります。

これによって、モニタリング対象マシンのメモリが低下することがあります。

新しいバージョンのプログラムを検索する以外、問題のある DLL を修正することはできないため、24 時間ごとにモニタリング対象マシンでリモートレジストリサービスを再起動するスケジュール済みイベントを作成することが推奨されます。

カウンターのキャッシュ保存

資産のモニターが再起動後、その最初のテストを実行するときにすべてのカウンターと[Winperf]資産名のキャッシュが保存され、資産に対して実行するすべてのテストで帯域使用率が向上します。

これは、**Network Monitor** が Windows パフォーマンスモニターをテストした後、追加パフォーマンスカウンターを公開するモニタリング対象マシンに新しいソフトウェアをインストールする場合に、問題になることがあります。これは、**Network Monitor** がカウンターを列挙するときに"カウンターが見つからない"にもかかわらず、カウンターが perfmon.exe ツールには表示される問題です。

キャッシュをリセットするには、Network Monitor の[システム管理者]コンソールを[ツール]メニューから開く必要があります。メニュー項目を表示するには、ユーザーがシステム管理者である必要があります。次のコマンドを実行します。

clear-counter-cache <asset>

OBJECT NAME は、キャッシュをリセットする資産の正確な名前です。

Windows Management Instrumentation (WMI)

WMI は、資産を新規作成するときにすべての Windows パフォーマンスモニターによってデフォルトで使用されます。WMI プロトコルは、古いバージョンの Windows パフォーマンスレジストリ呼び出しよりも帯域の効率が高い点で優れています。ただし、Windows Vista や Windows 2008(サービスパックなし)などの一部のプラットフォームでは、WMI はパフォーマンスの影響が高いため、これら2つのプラットフォームをモニターするときに Winperf が推奨されることがあります。

経験が浅いシステム管理者にとって、リモートモニタリング向けに WMI を構成するのは難しいという歴史があります。

WMI のトラブルシューティング

この記事では、Windows パフォーマンスモニタリングでよくある問題と、その解決方法について説明します。

状況

次のエラーメッセージが表示されます。

Access denied. User may lack remote launch and remote activation permission.

資産の[WMI を使用する]をチェックすると、次のモニタータイプは WMI を使用します。

- WMI クエリモニター (*)
- Active Directory モニター (*)
- 帯域モニター
- CPU モニター
- ディスクモニター
- メモリモニター
- スワップモニター
- * 常に WMI を使用

このエラーメッセージは、次の場合に表示されます。

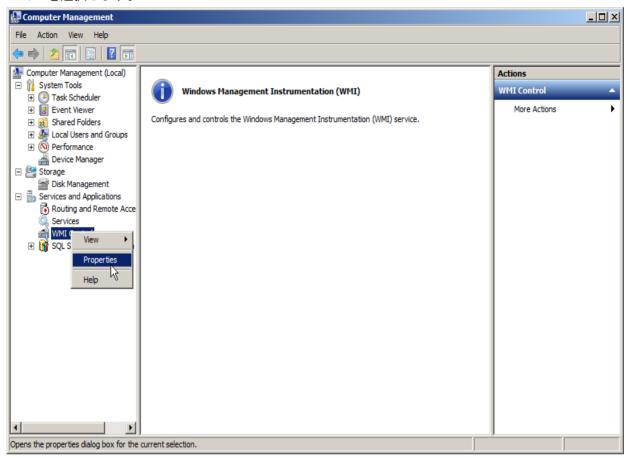
- 使用しているユーザーアカウントが、ドメインまたはモニタリング対象マシンで WMI を使用できるように設定されていない。
- ファイアウォールが閉じている。
- ユーザーがモニタリング対象マシンの管理者ではない。

サブトピック

- WMI がアカウントで有効であることの検証 『203 ページ 』
- ファイアウォール設定の調整 『205ページ』
- 管理者以外のユーザーの追加 『205ページ』
- WMI が機能していることの確認 『205 ページ 』
- パフォーマンスカウンターから WMI が読み取って返したデータの問題
- Microsoft WMI のトラブルシューティング記事のリスト 『207 ページ 』

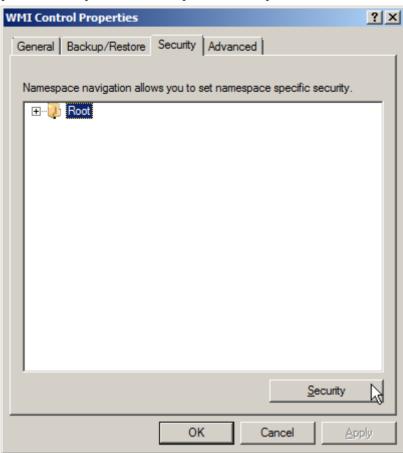
WMI がアカウントで有効であることの検証

[管理ツール] > [コンピュータの管理]を開き、[WMI コントロール]を右クリックして[プロパティ]オプションを選択します。



Windows のトラブルシューティングとパフォーマンスモニタリング

[セキュリティ]タブを選択し、[セキュリティ]をクリックします。



Security for Root Security Group or user names: Authenticated Users LOCAL SERVICE NETWORK SERVICE Add... Remove Permissions for Authenticated Deny Users Allow Enable Account \square П Remote Enable П Read Security Edit Security П Special permissions For special permissions or advanced settings, Advanced click Advanced. Learn about access control and permissions OK Cancel Apply

使用する予定のグループ/ユーザーの[リモートの有効化]をチェックします。

[適用]をクリックしてダイアログを閉じます。

ファイアウォール設定の調整

コマンドプロンプトを開き、管理者として次のコマンドを実行して、WMI の受信ルールを有効にします。

netsh advfirewall firewall set rule group="windows management instrumentation (wmi)" new enable=yes

管理者以外のユーザーの追加

次の MSDN 記事に記載された簡単な手順に従って、管理者以外のユーザーが DCOM を操作できるようにします。

■ http://msdn2.microsoft.com/en-us/library/Aa393266.aspx 『 http://msdn.microsoft.com/en-us/library/aa393266.aspx を見て』

記事の手順に従って、次の操作を行います。

- DCOMのリモート起動およびアクティブ化の権限をユーザーまたはサブグループに付与する。
- DCOM リモートアクセス権限を付与する。

WMIが機能していることの確認

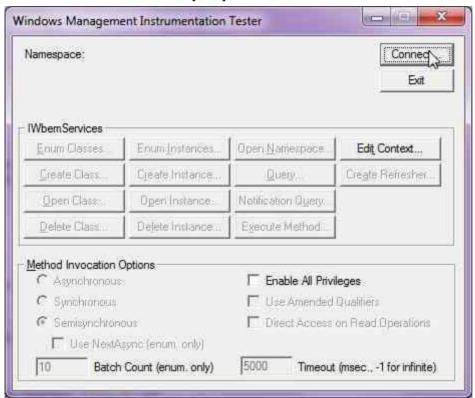
wbemtest.exe ユーティリティを使用すると、KNM のホストマシンからモニタリング対象マシンに

Windows のトラブルシューティングとパフォーマンスモニタリング

WMI 呼び出しを実行可能であることを確認できます。ユーティリティを起動するには、KNM のホストマシンのデスクトップにログオンします。スタートメニューを開き、[ファイル名を指定して実行]フィールドに次のファイル名を入力して Enter キーを押します。

wbemtest.exe

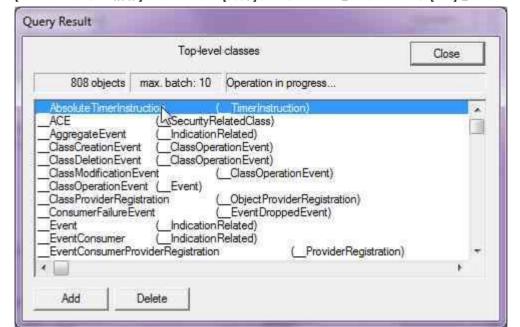
ユーティリティが起動したら、[接続]ボタンをクリックします。



次のアドレスを入力し、"my_ip"をモニタリング対象の IP 番号で置き換えます。

\\my_ip\root\cimv2

KNM で使用するユーザー名とパスワードを入力します。[機関]フィールドにユーザーのドメイン名を入力します。[接続]、[クラスの列挙]の順にクリックします。



[スーパークラス情報]ダイアログの[再帰]ラジオボタンをクリックし、[OK]をクリックします。

[クエリ結果]ウィンドウに、モニタリング対象マシンからの情報が表示されます。表示されない場合は、Microsoft サポートウェブサイトで次のトラブルシューティング情報を参照してください。

パフォーマンスカウンターから WMI が読み取って返したデータの問題

パフォーマンスレジストリと WMI が非同期になったり、WMI 用のパフォーマンスデータを収集するプロセスがロックされたリソースでハングしたりすることがあります。

最後の手段として、モニタリング対象マシンを再起動したら、次の記事に記載された手順を使用して WMI にパフォーマンスカウンターを再同期してください。

■ http://support.microsoft.com/kb/266416 『http://support.microsoft.com/kb/266416 を見て』

Microsoft WMI のトラブルシューティング記事の リスト

- http://msdn.microsoft.com/en-us/library/msaspx 『http://msdn.microsoft.com/en-us/library/ms735120.aspx を見て 』
- http://msdn.microsoft.com/en-us/library/aa394603.aspx 『 http://msdn.microsoft.com/en-us/library/aa394603.aspx を見て』
- http://msdn.microsoft.com/en-us/libraryAa393266.aspx 『
 http://msdn.microsoft.com/en-us/library/aa393266.aspx を見て 』
- http://support.microsoft.com/kb/266416 『http://support.microsoft.com/kb/266416 を見て』
- http://support.microsoft.com/kb/300956 『http://support.microsoft.com/kb/300956 を見て』
- http://support.microsoft.com/kb/300702/en-us 『http://support.microsoft.com/kb/300702/en-us を見て 』
- https://social.technet.microsoft.com/Forums/windows/en-US/8ed26d46-9994-4052-a307-5b071805aea8/wmi-corrupt-how-to-reinstallrepair 『
 https://social.technet.microsoft.com/Forums/windows/en-US/8ed26d46-9994-4052-a307-5b071805aea8/wmi-corrupt-how-to-reinstallrepair を見て』
- http://support.microsoft.com/kb/951016 『http://support.microsoft.com/kb/951016 を見て 』

Agreement

The purchase and use of all Software and Services is subject to the Agreement as defined in Kaseya's "Click-Accept" EULATOS as updated from time to time by Kaseya at

http://www.kaseya.com/legal.aspx. If Customer does not agree with the Agreement, please do not install, use or purchase any Software and Services from Kaseya as continued use of the Software or Services indicates Customer's acceptance of the Agreement."

チャプター 7

ユーティリティの参考情報

この章で

ユーティリティの概要	212
カスタム MIB ファイルのコンパイル	212
Lua	213
Gizmo	215
ダッシュボードマップエディタ	216

ユーティリティの概要

Network Monitor をインストールすると、4つの追加ユーティリティもインストールされます。これらのユーティリティは、**Network Monitor** を使用するために必須ではありません。これらのユーティリティは、Network Monitor > [ツール] > [ユーティリティのダウンロード]]ページにあります。

- DME ダッシュボードマップエディタ 『216ページ』。
- Gizmo Gizmo 『215 ページ』 システムトレイアプリケーション。
- MIB コンパイラ MIB コンパイラ 『102 ページ 』 ユーティリティ。
- Lua IDE Lua 『213 ページ 』 開発環境。

カスタム MIB ファイルのコンパイル

MIB コンパイラを使用すると、テキスト MIB ファイルを **Network Monitor** が読み取り可能なバイナリフォーマットにコンパイルできます。MIB ファイルをコンパイルするには、MIB ファイルの仕組みに関する知識だけでなく、SNMP および **MIB オブジェクト** 『101 ページ 』の一般知識が必要です。MIB ファイルのベースとなるその他すべての基礎事項については、各種の RFC ドキュメントを参照してください。

注: Network Monitor が SNMP 資産への接続に使用するコミュニティ名、SNMP バージョン、およびポートは、資産ノードの[認証 『42ページ 』]タブで設定します。資産ノードは、親ノードからこの設定を継承できます。「インストール前のチェックリスト」 『4ページ』 を参照してください。

たとえば、CISCO®製品のMIBコンパイル順序は次のとおりです。

- 1. SNMPv2-SMT.mib
- 2. SNMPv2-TC.mib
- 3. SNMPv2-MIB.mib
- 4. RFC1213-MIB.mib
- 5. IF-MIB.mib
- 6. CISCO-SMI.mib
- 7. CISCO-PRODUCTS-MIB.mib
- 8. CISCO-TC.mib

この例にある最初の5ファイルは、大半の製品のMIBファイルに共通で、デフォルトのバイナリMIBファイル knm.mib に含まれています。

警告: これらすべてのファイルは、同時にコンパイルする必要があります。そうしない場合、シンボルが解決しないため MIB コンパイラでエラーが発生します。

デフォルトの KNM MIB ファイルの内容

インストールに含まれるデフォルトの knm.mib ファイルには、次の基本 OID (オブジェクト識別子) が格納されています。

- iso.org.dod.internet.directory
- iso.org.dod.internet.mgmt

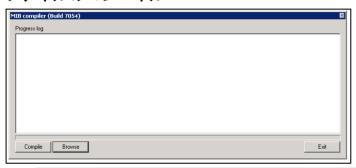
- iso.org.dod.internet.experimental
- iso.org.dod.internet.private
- iso.org.dod.internet.security

ファイルは、\<Kaseya インストールディレクトリ>\KNM\mibs ディレクトリにあります。

MIB コンパイラのダウンロードおよび実行

- 1. Network Monitor > [ツール] > [ユーティリティのダウンロード]ページに移動します。
- 2. [MIB **コンパイラ**]リンクをクリックし、ユーティリティをローカルマシンにダウンロードします
- 3. ユーティリティを実行します。

MIB ファイルのコンパイル



- 1. < Kaseya インストールディレクトリ> \knm\mibcompiler.exe を起動します。
- 2. [**ブラウズ**]ボタンをクリックし、*.mib ファイルを1つ以上選択します。
 - Network Monitor ホストマシンの KNM\mibs フォルダにあるデフォルトの knm.mib ファイルを見つけ、ダブルクリックして選択します。
 - ▶ コンパイルに含める追加の*.mib ファイルを選択します。
- 3. [コンパイル]ボタンをクリックします。
- 4. コンパイルした*.dat ファイルの保存先を指定します。
- 5. [**ブラウズ**]ボタンをクリックし、コンパイルした*.dat ファイルを選択します。メインウィンドウにインタラクティブ MIB ツリーが表示されます。そのツリーを使用して異なる OID 間を移動できます。
- 6. コンパイルした*.dat ファイルを KNM\mibs フォルダに移動するか、コピーします。

Lua

Lua は、アプリケーションを拡張するために設計された、強力で非常に高速なプログラミング言語です。また、Lua は汎用独立型言語としてもよく使用されています。Lua は無償のソフトウェアです。Lua は、簡単な手続き型構文を、連想配列と拡張可能なセマンティクスに基づく強力なデータ記述構造体と組み合わせるものです。Lua はバイトコードから動的に入力と変換が行われます。また、ガベージコレクションによる自動メモリ管理機能があるため、構成、スクリプト作成、ラピッドプロトタイピングに最適です。

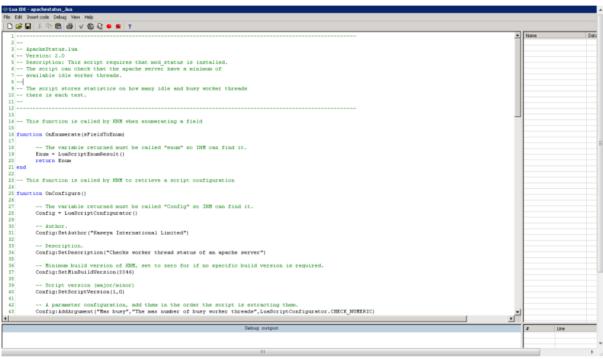
Network Monitor および Lua

Network Monitor には、Lua スクリプト作成言語(www.lua.org)のサポートが含まれています。

ユーティリティの参考情報

- 顧客は、カスタムモニターを作成し、現在のモニタリングソリューションではサポートされていないシステムや機器をテストできます。
- Kaseyaが提供する開発環境で、新しいモニター、アクション、およびイベントの作成とテストを行ってから、Network Monitor にエクスポートして使用できます。
- FTP クライアント、HTTP クライアント、ファイル管理などの作成済みのクラスをもつ総合ライブラリが利用可能です。さまざまな作成済みのクラスの詳細については、「KNM API のドキュメント」 『http://help.kaseya.com/webhelp/JA/knm/9010000/api/index.asp#home.htm を見て 』を参照してください。

開発環境には、デバッガ、キーワードハイライト、統合型ヘルプ、および最新の開発ツールで利用 可能なその他の機能が含まれています。



Lug IDE のダウンロードおよび実行

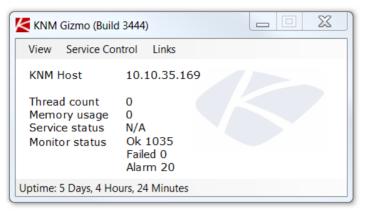
- 1. Network Monitor > [ツール] > [ユーティリティのダウンロード]ページに移動します。
- 2. [Lua IDE]リンクをクリックし、ユーティリティをローカルマシンにダウンロードします。
- 3. ユーティリティを実行します。

KNM に含まれる Lua モジュール

- Base
- Math
- String
- Table

Gizmo

Gizmo は、使用しているワークステーションにインストール可能な小型システムトレイアプリケーションです。



機能

- アラーム通知
- Network Monitor ログビューワ
- Network Monitor の起動/停止
- Network Monitor のメモリ使用率、CPU 使用率、アップタイムなどの統計

要件

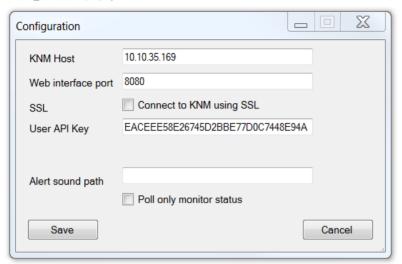
■ Net 2.0 Runtime がインストール済みであること

Gizmo のダウンロードおよび実行

- 1. Network Monitor > [ツール] > [ユーティリティのダウンロード]ページに移動します。
- 2. [Gizmo]リンクをクリックし、ユーティリティをローカルマシンにダウンロードします。
- 3. ユーティリティを実行します。

Gizmo の構成

Gizmo を使用するには、Gizmo を構成する必要があります。[ビュー] > [構成]を選択し、次のパラメータを入力します。



- KNM ホスト Network Monitor をホスティングしているコンピュータの DNS 名または IP 番号です。
- ウェブインターフェースポート Network Monitor 管理インターフェースのアクセス先のポート番号です。デフォルト値は 8080 です。
- SSL SSL を使用して Network Monitor に接続するオプションです。使用している Network Monitor インストール環境の管理インターフェースに SSL を使用する場合は、このオプションをチェックします。
- ユーザーAPI キー 自分のユーザーAPI キーを Network Monitor の[ユーザー] > [マイ設定] > [基本プロパティ]タブ > [API キー]フィールドからコピーして貼り付けます。API キー値がまだない場合は、[新規]をクリックし、[マイ設定の編集]ページを保存します。
- **警報音のパス** アラームまたはエラーが発生すると再生される音を含む.wav ファイルへのパス。
- モニターステータスのみをポーリングする Gizmo を実行しているユーザーが、Network Monitor ホストマシンのサービスデータベースとリモートレジストリにアクセスするための Windows アカウント管理権限をもたない場合、このオプションを有効にします。

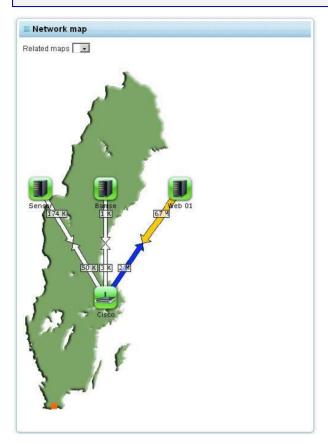
[保存]ボタンをクリックして設定を保存します。

注: *G*izmo の実行に使用する Windows アカウントには、Network Monitor ホストコンピュータのサービスコントロールマネージャへのアクセス権が必要です。この要件を解決するには、[モニターステータスのみをポーリングする]を使用してください。

ダッシュボードマップエディタ

Network Monitor の**ダッシュボード** 『95ページ 』の ネットワークマップウィジェットには、サブグループと資産のステータス、および帯域使用率データを表示できます。ネットワークマップの定義と編集は、個別の**ダッシュボードマップエディタ** (DME) アプリケーションで行います。

注: ダッシュボードマップエディタユーティリティを使用するには、**Microsoft** .**Net Framework 4.0** 以降が必要です。



マップエディタの起動

ダッシュボードマップエディタのダウンロードおよび実行

- 1. Network Monitor > [ツール] > [ユーティリティのダウンロード]ページに移動します。
- 2. [DME]リンクをクリックし、ユーティリティをローカルマシンにダウンロードします。
- 3. ユーティリティを実行します。

ダッシュボードマップエディタにログオンします。

ダッシュボードマップエディタにログオンするには、次の情報を入力します。

- **ユーザー名** 自分の VSA ユーザー名。
- **API キー** 自分の API キー。このキーの設定は、Network Monitor > [ユーザー] > [マイ設定] > [**基本プロパティ]タブ** 『109 ページ 』 タブで行います。
- KNM サーバー名 使用している Network Monitor サーバーのアドレス。

ユーティリティの参考情報

ポート - 使用するポート番号。デフォルト値は 443 です。



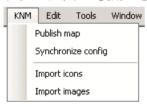
マップイメージのインポート

マップグラフィックスのインポート

多くのネットワークマップでは、背景イメージとして地域のイメージやサーバー設置場所の図面などを使用します。まず、エディタを使用してイメージをインポートします。

注:エディタでサポートされるイメージのフォーマットは、.png (Portable Network Graphics) のみです。使用するイメージのフォーマットが異なる場合は、最初に別のアプリケーションを使用して変換してください

イメージをインポートするには、KNM のメニューの[イメージのインポート]を選択します。次に、イメージファイルを選択して[OK]をクリックします。イメージが Network Monitor サーバーに送信され、エディタで使用できるようになります。



カスタムアイコンのインポート

Network Monitor には、ネットワークマップですぐに使用できるアイコンセットが付属しています。また、独自のカスタムアイコンをインポートして、ネットワークマップで各種エンティティの背景として使用することもできます。

注:エディタでサポートされるアイコンのフォーマットは、.png (Portable Network *Graphics*) のみです。使用するアイコンのフォーマットが異なる場合は、最初に別のアプリケーションを使用して変換してください。

カスタムアイコンをインポートするには、KNM のメニューの[\mathbf{r} **アイコンのインポート**]コマンドを選択します。次に、イメージファイルを選択して[OK]をクリックします。イメージが Network Monitor サーバーに送信され、エディタで使用できるようになります。

アイコンのサイズが大きすぎると、背景でステータスを表示するデフォルトの方法がうまく機能しない場合があります。この場合は、「マップの構成」トピックで説明されているステータスオーバーレイ方法を使用することが推奨されます。

注:透明度をもつアイコンについては、適切なアルファチャンネルをもつ **32** ビット **RGBA** フォーマットを使用することが推奨されます。

マップの構成

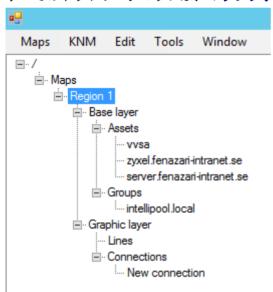
ネットワークマップの追加

ネットワークマップを新規作成するには、[マップ]メニューの[新規]コマンドを選択します。



ネットワークマップの編集

すべてのネットワークマップは、マップツリーのマップノードの子ノードとしてリストされます。



ネットワークマップのプロパティの設定

基本プロパティを設定するネットワークマップをクリックします。マッププロパティを変更した後、OK]ボタンをクリックすると、更新されたマップが表示されます。

- マップ名 マップツリーに表示されるネットワークマップの名前です。例: Region 1
- マップのイメージ マップで使用される背景のイメージ。イメージのインポート方法については、「マップグラフィックスのインポート」 『218 ページ 』のトピックを参照してください。
- 背景 ネットワークマップの幅と高さ (単位: ピクセル)、背景色を手動で設定します。
- **ステータスのレンダリング** Network Monitor でネットワークマップに資産とサブグループの ステータスをどのように表示するかを定義します。
 - ▶ ステータスを背景に表示 ステータスを背景として表示します。前面にはエンティティの アイコンが表示されます。
 - > ステータスをオーバーレイ表示 エンティティのアイコンの右上隅に小さいステータス記号を表示します。大型のカスタムアイコンを使用する場合は、この方法が推奨されます。

ネットワークマップの削除

ネットワークマップを Network Monitor から完全に削除するには、[マップ]メニューの[削除]コマンドを選択します。

マップノードの編集

マップノードの選択

ネットワークマップ上のコンテンツを選択するには、目的のエンティティを直接クリックするか、選択するコンテンツの周りに選択範囲を描きます。選択したコンテンツは長方形で囲まれ、現在選択されていることを示します。マップ上のコンテンツをすべて選択するには、[編集]メニューの[すべて選択]コマンドを選択するか、キーボードのショートカット Ctrl+A を使用します。

- 選択内容にコンテンツを追加したり削除したりするには、キーボードの Ctrl キーを押しながら 選択します。
- 選択内容をクリアするには、マップ上の何もない場所をクリックします。

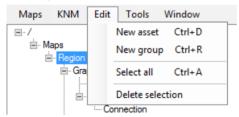
マップノードの編集

マップ上のコンテンツのプロパティを変更するには、まずコンテンツを選択してそのプロパティウィンドウを開きます。選択したコンテンツに応じて適切な変更を加え、[OK]ボタンをクリックして変更内容を確定します。

マップ内でコンテンツを移動するには、まずコンテンツを選択し、次に左マウスボタンを押しながらマップ上でドラッグします。

マップノードの削除

マップからコンテンツを削除するには、まずコンテンツを選択し、次に[編集]メニューの[選択項目の削除]を選択するか、キーボードの Delete キーを押します。



ノードの一括編集

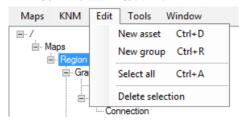
複数のエンティティに使用されるアイコンを一度に変更するには、まず関連するエンティティを選択します。次に、[プロパティ]セクションから目的のアイコンを選択します。続いて[OK]ボタンをクリックします。

マップノードの追加

Network Monitor のサブグループまたは資産をネットワークマップに追加するには、[**編集**]メニューの[**新規グループ**]または[**新規資産**]を選択します。

■ 新しいサブグループの場合は、キーボードショートカットの Ctrl+N も使用できます。

■ 新しい資産の場合は、キーボードショートカットの Ctrl+O も使用できます。



エディタでは、Network Monitor サブグループまたは資産がマップ上のデフォルトの位置に配置されます。*ヒント: キーボードショートカットを使用した場合、新しいサブグループは現在のマウスカーソルの位置に配置されます。*サブグループまたは資産のプロパティは、[プロパティ]セクションに表示されます。

選択したサブグループまたは資産について、次のプロパティを変更できます。

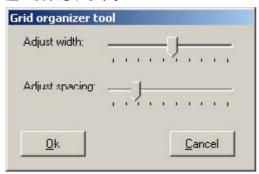
- **グループまたは資産** マップ上に表示する Network Monitor のサブグループまたは資産を選択します。
- アイコン サブグループまたは資産として表示するアイコンです。ストックアイコンまたはカスタムアイコンから選択できます。詳細については、「カスタムアイコンのインポート」を参照してください。
- 位置 手動で XY 座標を指定し、サブグループまたは資産の位置を設定します。
- **リンクのプロパティ** ユーザーが **Network Monitor** ダッシュボードでサブグループまたは資産をクリックしたときの動作を指定します。
 - ▶ リンクなし サブグループまたは資産をクリックしても何も起こりません。
 - ▶ **グループにリンク** Network Monitor で指定したサブグループまたは資産の[ビュー]タブを表示します。
 - ▶ マップにリンク 指定したマップを表示し、"ドリルダウン"マップが作成できるようになります。

オーガナイザツールの使用方法

グリッドオーガナイザツールと円形オーガナイザツールという2つのツールを使用すると、マップ内で選択したコンテンツを整理できます。ツールにアクセスするには、目的のコンテンツを選択してからマップウィンドウを右クリックし、[選択項目の整理]ポップアップメニューからいずれかのツールを選択します。

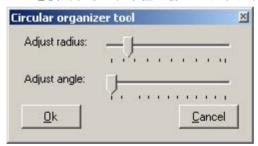
グリッドオーガナイザツール

このツールを使用すると、選択したノードをグリッド内に整列できます。2つのスライダーコントロールを使用すると、グリッドの幅やエンティティの間隔を変更できます。変更内容はマップ内に即座に反映されます。



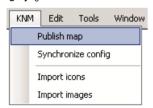
円形オーガナイザツール

このツールを使用すると、選択したエンティティを円形に整列できます。2つのスライダーコントロールを使用すると、半径や各エンティティの配置角度を変更できます。



マップの公開

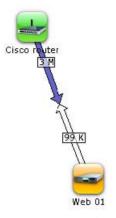
ネットワークマップの変更内容を Network Monitor に公開するには、KNM のメニューの[マップの公開]コマンドを選択します。現在のマップが Network Monitor サーバーに送信され、即座に更新されます。



帯域使用状況のビジュアル化

Network Monitor では、ネットワークマップ上で指定したネットワークインターフェースの帯域使用率をリアルタイムで直接表示できます。この機能は、ゲートウェイのモニターでも利用可能です。ネットワークマップ上で2つのノード間の接続を指定し、<mark>帯域幅</mark>モニターにリンクする必要があります。

ビジュアルフィードバックは、接続のインバウンド/アウトバウンドトラフィックを表す2つの矢印で構成されます。インバウンドトラフィックの矢印は資産を指し、アウトバウンドトラフィックの矢印は資産の外を指します。



帯域利用率のビジュアルフィードバック

使用率のレベルは矢印の太さと色で表されます。矢印が太くなるほど、帯域使用率は大きくなります。

矢印の色も使用率のレベルを示します。矢印の色は、白(使用率最小)、青、緑、オレンジ、赤(使 用率最大)まで段階別に示されます。

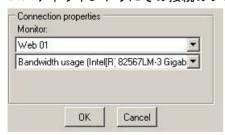
各方向のトラフィック量も、Kbps/Mbps/Gbps で接続の上に直接表示されます。

帯域接続の作成

ネットワークマップ上に帯域使用率を表示するには、まずマップ上の 2 つのエンティティ間に接続を作成します。少なくとも一方のエンティティが Network Monitor の資産でなければなりません。もう一方には、Network Monitor の別の資産またはサブグループを指定できます。次に、接続をNetwork Monitor の特定の帯域幅使用率モニターにリンクします。接続を作成するには、2 つの方法があります。

単一の接続の作成

ネットワークマップ上でノードを2つ選択します。一方は Network Monitor の資産にする必要があります。次に、マップウィンドウを右クリックし、[選択項目の変更]ポップアップウィンドウから[接続の作成]を選択します。接続が作成され、2つのエンティティを結ぶ線として表示されます。プロパティウィンドウにその接続のプロパティが表示されます。



接続を Network Monitor のモニターにリンクするには、まず資産を選択し、次に帯域使用状況モニターを選択して接続に関連付けます。選択した資産をモニターのドロップダウンリストに表示するには、その資産に対して帯域使用状況モニターを定義しておく必要があります。[OK]ボタンをクリックして選択内容を確定します。

Network Monitor の帯域使用率モニターにリンクせずに接続を作成することもできます。この場合、ダッシュボードでの接続はマップ上のエンティティを結ぶ線として表示され、現在の帯域使用率

ユーティリティの参考情報

に関するビジュアル情報は表示されません。

複数の接続の作成

複数の接続を一度に作成することができます。まず、マップ上で目的のノードを選択し、右クリックして[**選択項目の変更**]ポップアップウィンドウから[**複数の接続の作成**]を選択します。



複数の接続を作成する対象のノードを選択します。選択したすべてのエンティティに新しい接続が 作成され、選択したノードが複数の接続のそれぞれに対して共通エンドポイントになります。

接続の編集

既存の接続を編集するには、マップ表示内の接続を表す線を直接クリックします。選択した接続のプロパティがプロパティウィンドウに表示されます。接続に使用する帯域使用状況モニターを選択するには、まず関連する資産を選択し、帯域使用状況モニターを選択します。選択した資産をモニターのドロップダウンリストに表示するには、その資産に対して帯域使用状況モニターを定義しておく必要があります。プロパティウィンドウの[OK]ボタンをクリックし、選択内容を確定します。

接続の削除

マップから接続を削除するには、まずマップ表示内の接続を表す線をクリックして接続を選択します。選択した接続がツリーコントロールに表示され、プロパティがプロパティウィンドウに表示されます。接続を削除するには、キーボードの Delete キーを押します。

インデックス

[NOC]編集タブ - 43 [アクション]タブ - 59 [アラームのシミュレート]タブ - 62 [アラームのフィルター処理]編集タブ - モニター - 67 [インターフェースオプション]タブ - 109 [サマリー]タブ - 59 [スケジュール]タブ - 37 [タグ]編集タブ - 48 [トップリスト]タブ - 36 [ナレッジ]タブ - 39 [マップ]タブ - 34 [モニター]タブ - 34,50 [監査]タブ - 39 [基本プロパティ]タブ - 109 [基本プロパティ]編集タブ - ゲートウェイ - 40 [基本プロパティ]編集タブ - サブグループ - 47 [基本プロパティ]編集タブ - 資産 - 52 [資産]タブ - 33 [詳細]編集タブ - グループ - 47 [詳細]編集タブ - ゲートウェイ - 40 [詳細]編集タブ - モニター - 66 [詳細]編集タブ - 資産 - 52 [状態変化ログ]タブ - 51 [統計]編集タブ - モニター - 68 [認証]編集タブ - 42

Α

Active Directory モニター - 121

C

CIM モニター - 123 Citrix サーバーモニター - 125 CPU 使用率モニター - 125

D

ダッシュボード - 95 device_xml - 185 devicelist_xml - 187 DHCP クエリーモニター - 127 dir - 183 Discovery との統合 - 24 DNS ルックアップモニター - 130

Ε

Exchange サーバーモニター - 131 Eメール送信イベント - 175

F

FTP サーバーモニター - 133

G

Gizmo - 215

Н

HTTP Get/Post アクション - 161 HTTP GET/POST リクエストイベント - 173

I

IMAP4 サーバーモニター - 133 Init.cfg のパラメータ - 180

J

JVM パフォーマンスモニター - 134

K

KNM スタンドアロンの KNM 統合への移行 - 6 KNM にリモートレジストリサービスへのアクセス権 があることを確認する方法 - 200

L

LDAP クエリーモニター - 135 Lua - 213 Lua スクリプトアクション - 163 Lua スクリプトイベント - 174 Lua スクリプトモニター - 137

М

MIB Browser - 101
MIB オブジェクト - 101
Microsoft WMI のトラブルシューティング記事のリスト - 207
monitor_graph - 183
monitor_status_list - 183
monitor_statusstring - 184
monitor_uptimestring - 184
MySQL モニター - 139

N

Network Monitor R91 の新しいインスタンスのインストール - 5
Network Monitor VSA でのライセンス - 30
Network Monitor サービスアカウントおよび権限の割り当て - 196
Network Monitor 概要 - 1
Network Monitor のバックアップ - 181

インデックス

Network Monitor モジュールの要件 - 4 NNTP サーバーモニター - 140 NOC の設定 - 113

0

ODBC ドライバーの有効化 - 191 Oracle モニター - 140

Р

PageGate 経由のメッセージ送信アクション - 164 PageGate 経由のメッセージ送信イベント - 175 Ping モニター - 142 POP3 サーバーモニター - 143

R

Radius モニター - 143 RPC サーバーが利用不能 - 199

S

Salesforce クエリーモニター - 145 SMS の送信アクション - 165 SMS 設定 - 114 SMS 送信イベント - 175 SMTP サーバーモニター - 145 SNMP セットアクション - 166 SNMP セットイベント - 176 SNMP トラップモニター - 147 SNMP モニター - 146 SQL Server モニター - 148 SSH2/Telnet 経由のコマンド実行イベント - 169 SSH2 アクションによるコマンドの実行 - 160 SSH2 サーバーモニター - 150 SSH2 スクリプトモニター - 149 Syslog のメッセージ - 105 Syslog モニター - 151 システムログ - 108

Т

TCP ポートスキャンモニター - 152 Telnet サーバーモニター - 152 test_status - 188 TFTP サーバーモニター - 153

U

UNIX システムのサポートファイル - 189 user_status - 188

V

version - 189 VMware パフォーマンスモニター - 153 VSA の統合 - 22

W

Wake-On-LAN パケット送信アクション - 166 Wake-On-LAN パケット送信イベント - 176 Windows Management Instrumentation (WMI) - 202 Windows コマンドの実行アクション - 161 Windows コマンドの実行イベント - 169 Windows サービスコントロールアクション - 167 Windows サービスコントロールイベント - 177 Windows サービスステータスモニター - 157 Windows サービスリスト - 100 Windows のトラブルシューティングとパフォーマン スモニタリング - 195 Windows のモニタリングおよび認証のトラブルシュ ーティング - 196 Windows パフォーマンスモニター - 156 Windows パフォーマンスレジストリ - 200 Windows 認証を使用するモニター - 197 WMI がアカウントで有効であることの検証 - 203 WMI が機能していることの確認 - 205 WMI クエリーモニター - 157

あ

アクションのリファレンス - 159 アクセス拒否 - 198 アラームの確認 - 71 アラームメッセージ - 68 イベントログのクリアアクション - 160 イベントログのクリアイベント - 168 イベントログモニター - 131, 197 インストール・3 インストール前のチェックリスト - 4 ウェブサーバーモニター - 155 オーガナイザツールの使用方法 - 221

か

カウンターのキャッシュ保存 - 201 カスタマイズされたデータタイプ - 110 カスタマイズされたレポート - 82 カスタマイズされたレポートの表示 - 75 カスタム MIB ファイルのコンパイル - 102, 212 クイックレポートの表示 - 73 グラフ - 87 グループのコマンドとビュー - 46 ゲートウェイ - 31 ゲートウェイおよび資産の名前変更 - 28 ゲートウェイのインストール/アンインストール - 26 ゲートウェイノードとネットワーク検出 - 26 ゲートウェイのコマンドとビュー - 32 ゲートウェイの編集 - 39 コメント - 90

⇉

サーバーのサイズ決定 - 4

サービスモニター - 197 サブグループ - 44 サブグループの追加/編集 - 46 システム管理者コンソール - 106 スケジュールブロック - 99 スケジュールレポート - 77 スケジュール済みイベントのリファレンス - 168 スワップファイル使用率モニター - 150 その他のシステム設定 - 113

た

ターミナルサーバーモニター - 152 ダウンタイムレポート - 89 ダッシュボードマップエディタ - 216 チケットのアクション - 29, 167 ディスク使用率モニター - 129 ディレクトリプロパティモニター - 127 データストア使用率 - 127 データテーブル - 88 データビュー - 19 データベースサーバーモニター - 126 データ抽出のリファレンス - 182 デフォルトのメッセージ - 117 トップリスト - 91 トラップメッセージ - 108 トラブルシューティング - 198

な

ナビゲーションパネルのリファレンス - 79 ナビゲーションパネルの概要 - 22,81 ナレッジベースのカテゴリー - 94 ナレッジベース項目 - 92 ネットワークパスが見つからない - 198 ノードとユーザーの検索 - 16 ノードの移動 - 21

1+

バックアップおよびリストア - 181 ファイアウォール設定の調整 - 205 ファイル変更モニター - 132 フォーマット変数 - 69 プロセスステータスモニター - 143 プロパティおよびコマンド - 20

ま

マイ設定 - 109 マップイメージのインポート - 218 マップエディタの起動 - 217 マップノードの追加 - 220 マップノードの編集 - 220 マップの公開 - 222 マップの構成 - 219 メールサーバーQOS モニター - 137 メールの送信アクション - 163 メモリ使用率モニター - 138 モニター - 56 モニターツリー - 14 モニタートリガーイベント - 177 モニターのコマンドとビュー - 58 モニターのリファレンス - 119 モニターの追加 - 62 モニターの編集 - 64 モニターメンテナンス - 97 モニターメンテナンスの編集 - 98 モニタリングビュー - 13 モニタリング対象マシンのリモートレジストリサービスでのメモリリーク - 201 モニタリング対象資産のパフォーマンスに関する問題 - 199

ゃ

ユーザーグループの新規作成 - 110 ユーザー作業スケジュールの編集 - 99 ユーザー通知グループ - 109 ユーザー通知のスケジュール - 98 ユーザー統合 - 29 ユーティリティの概要 - 212 ユーティリティの参考情報 - 211

ら

リストのリセットアクション - 163 リストビュー - 16 リストビューのコントロール - 17 リストビューのフィルター処理 - 17 レコードマネージャログ - 104 レポート - 72 レポートスタイル - 84 レポートテンプレート - 83 レポートテンプレートの表示 - 72 レポートのEメール送信および公開 - 75 レポートのデータタイプ - 86 レポートのプロパティ - 84 レポートの生成イベント - 172 レポート情報 - 85 ログファイルモニター - 136 ログ設定 - 112

漢字

依存関係のテスト - 54 画像 - 91 開始する - 13 階層リンク行 - 15 外部リソース - 197 環境モニター - 130 管理インターフェース - 11 管理者以外のユーザーの追加 - 205 基本編集タブ - モニター - 66 継承 - 15

インデックス

構成のサマリー - 9 構成の復元 - 182 高度なトピック - 179 資産 - 49 資産テンプレート - 55, 111 資産テンプレートの編集 - 111 資産のコマンドとビュー - 50 資産の編集 - 51 資産メンテナンス - 96 資産メンテナンスの編集 - 96 事前構成モニターの追加 - 63 組織およびマシングループ - 27 帯域使用状況のビジュアル化 - 222 帯域使用率モニター - 122 帯域接続の作成 - 223 転送速度モニター - 153 統計のエクスポートイベント - 170 編集メニュー - 20